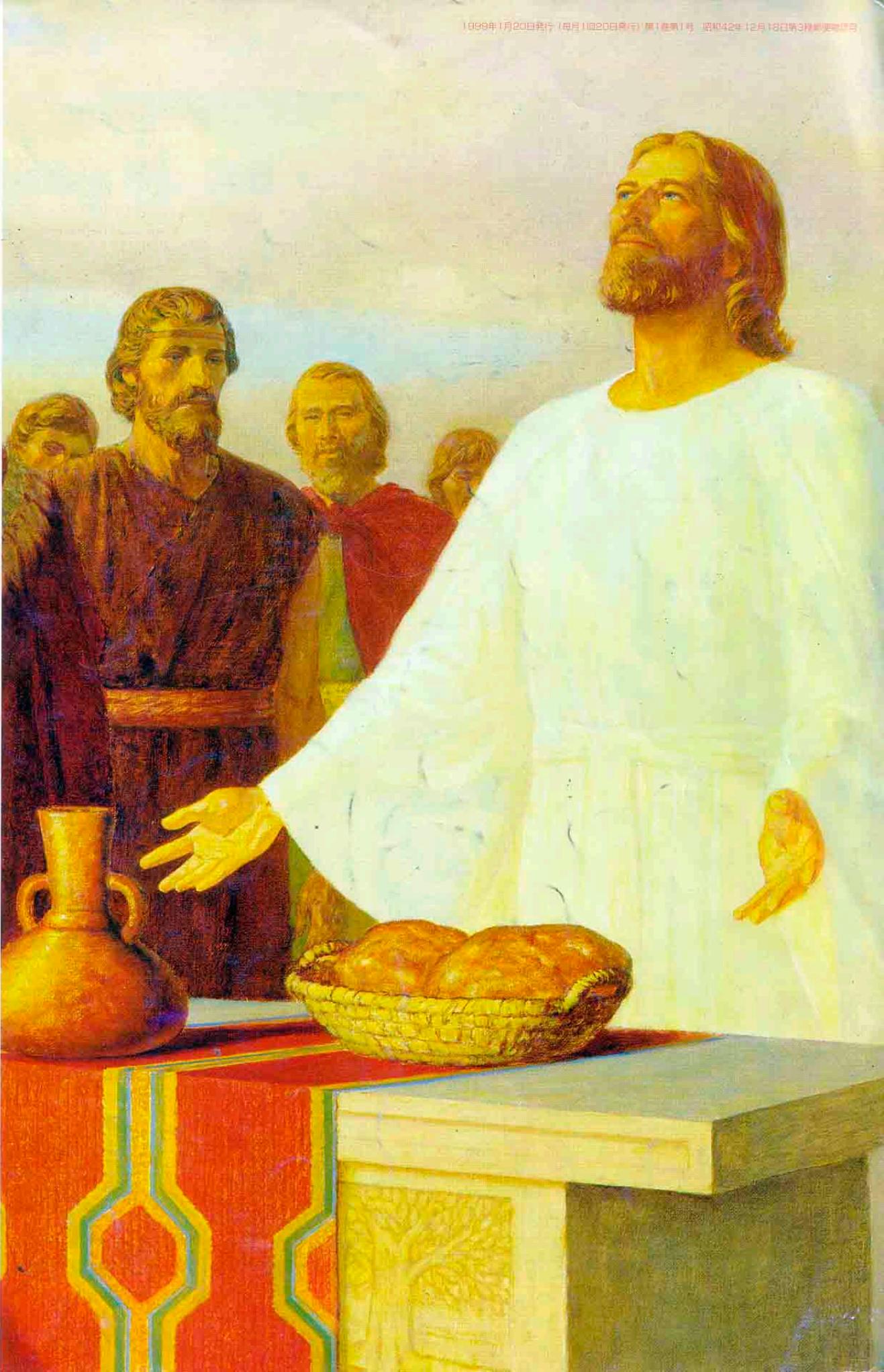


# リア村

末日聖徒イエス・キリスト教会・第168回半期総大会報告・1999年1月号





「ノーステンブルを流れるシティークリークの冬」アル・ラウンズ画

1900年代初頭のソルトレーク・シティ、ノーステンブル通りから見た西方の風景。市の北東の峡谷から流れ込むシティークリーク北側の支流が描かれている。  
左後方には、1893年に奉献されたソルトレーク神殿が見える。

# 末日聖徒イエス・キリスト教会 第168回半期総大会報告

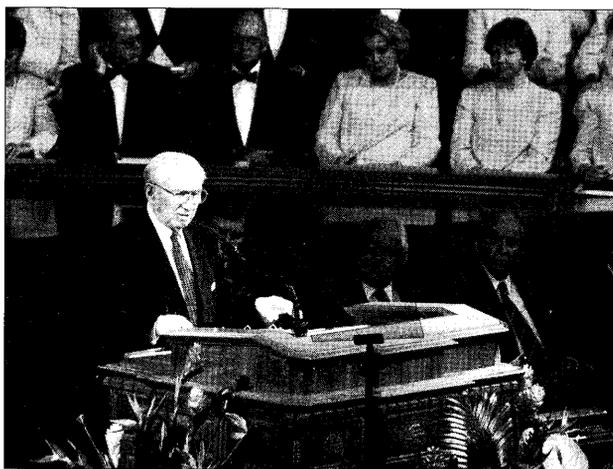
1998年10月3,4の両日,  
ユタ州ソルトレーク・シティー,  
templスクウェアのタバナクルにおいて開かれた  
半期総大会の説教とその模様

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、総大会土曜日午前の部会で次のように語り、大会のメッセージによく耳を傾けるよう全会員に勧めた。「住んでいる場所や環境を問わず、わたしたちはすべて忠実な末日聖徒となることができます。

わたしたちは自分の部屋で独りで祈りと礼拝を行うことができます。たとえ独りでも、全能者に賛美の歌をささげることができます。聖文を研究することができます。福音に従って生活することができます。たとえ少額でも、什分の一と献金をささげることができます。また信仰によって歩み、主が歩まれた道をたどりながら生活しようと努めることができます。」

またヒンクレー大管長は、土曜日の夜に開かれた神権部会でこう話した。「皆さんに申し上げたいのは、家を整える時期が来ているということです。教会員の中でぎりぎりの生活をしている人が多くいます。中には借金生活の人もいます。……これから経済面の嵐が予想されますから、注意する必要があります。」

負債に関するこの勧告の中でヒンクレー大管長はこう述べている。「借り入



総大会の部会でタバナクルの説教壇に立つゴードン・B・ヒンクレー大管長。

れをしなければ家を買えないことはもちろん分かります。でも、支払い可能な家を買きましょう。そして、長ければ30年の間容赦も猶予もなくやって来る支払いを楽にしましょう。……皆さんに強く申し上げたいのは、家計の状態をよく調べて支出を抑えることであり、購買欲を抑えて、借り入れをできるだけ避けるということです。負債はできるだけ早く返済して……ください。……この件について申し上げたかったのは以上ですが、わたしが何より強調したいと感じている事柄です。」

日曜日午前の部会の説教でヒンクレー大管長は、「マスコミやほかの教会の人々から決まって出される疑問」すなわち、「神についてモルモンはどのよう

な教義を持っているか」をはじめ、同性愛、墮胎、一夫多妻、教会の成長、伴侶や子供に対する虐待、教会の財政について答えた。

さらに、ヒンクレー大管長は日曜日午後の部会で、「西暦2000年には100以上の神殿を稼働させることができる」見込みであることを伝え、さらにこう語った。「それだけでは終わりません。神殿建設はさらに前進していきます。わたしたちは、教会の忠実な聖徒た

ちが自身の祝福を受けるために参入し、またその祝福を死の幕のかなたに行った人々にも及ぼすには、非常に多くの地で神殿が必要とされていることを承知しています。」

2日間にわたる総大会の各部会は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長が司会を務めた。

総大会土曜日午後の部会では、4人の七十人定員会会員が名誉幹部の称号を受けることが発表されるとともに、七十人会長会会員として新たに3人が支持された。また、中央日曜学校会長会と中央若い男性会長会の変更に対する支持が取られた。——編集部□

# 索引

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。  
月刊—イタリア語、英語、オランダ語、韓国語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語。隔月刊—インドネシア語、タイ語。季刊—アイスランド語、ウクライナ語、ギルバート語、セブアノ語、タガログ語、チェコ語、ハンガリー語、フィジー語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順)

**大管長会:** ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト  
**十二使徒定員会:** ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オクス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

**編集長:** ジャック・H・ゴーズリンド  
**顧問:** ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン  
**教科課程管理部責任者**

**実務部長:** ロナルド・L・ナイトン  
**企画・編集ディレクター:** プライアン・K・ケリー  
**グラフィックスディレクター:** アラン・R・ロイボーク

**国際機関誌スタッフ**  
**編集主幹:** マービン・K・ガードナー  
**編集主幹補佐:** R・バル・ジョンソン  
**編集副主幹:** デビッド・ミッチェル  
**編集補佐:** ジェニファー・グリーンウッド  
**工程管理:** ベス・デーリー  
**出版補佐:** コニー・シェークスピア

**デザインスタッフ**  
**機関誌グラフィックスマネージャー:** M・M・カワサキ  
**アートディレクター:** スコット・バン・カンペン  
**デザイナー主任:** シェリー・クック  
**制作主幹:** ジェーン・アン・ピーターズ  
**制作:** レジナルド・J・クリステンセン、トーマス・S・グローバーク、デニース・カービー、ジェーン・L・マンフォード、ディーナ・L・ソレンソン  
**デジタルプリプレス:** ジェフ・マーティン  
**予約購読スタッフ**  
**ディレクター:** ケイ・W・ブリッグス  
**配送部長:** クリス・クリステンセン  
**マーケティング部長:** ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「[リアホナ] 予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●[リアホナ]のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391  
**発行所** 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351  
**印刷所** 理工印刷株式会社  
**定価** 年間予約/海外予約2,400円(送料共)  
半年予約1,200円(送料共)  
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月  
原題—International Magazines January, 1999. Japanese. 99981 300

January 1999 no. 1. LIAHONA [ISSN 0385-7670] is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both old and new address are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

●以下のテーマによる説教が、それぞれ右側のページに掲載されています。このリストは話者が採り上げたテーマを、すべて網羅するものではありません。

あ 愛……………35  
証……………35, 71, 97  
アロン神権……………41  
安息日……………10  
イエス・キリスト……………52, 69  
癒し……………15  
教え……………23, 80  
か 改宗……………86  
家族関係……………102, 108, 13, 71, 80  
家族歴史……………69  
神……………76  
感謝……………18, 92  
義……………73  
犠牲……………63  
希望……………26, 66  
義務……………49  
虐待……………76  
教育……………80  
教会の財政……………76  
清さ……………83  
悔い改め……………15  
啓示……………105, 13, 38, 90  
権能……………49  
さ ささげ物……………63  
死……………18  
慈愛……………26  
支持……………18  
指導者を支持する……………38  
集会施設……………4  
従順……………32, 88  
什分の一……………63  
熟慮……………15  
純潔……………73, 83  
準備……………6, 47  
自立……………56  
神権……………44, 49  
信仰……………99, 102, 26  
神殿と神殿活動……………6, 10, 26, 69, 97  
信頼……………33  
聖餐……………41  
聖文研究……………15  
聖霊……………105, 41, 66  
世界に広がる教会……………4, 76, 88  
選択の自由……………73  
総大会……………4  
た 態度……………33, 92  
望胎……………76

知恵の言葉……………94  
チャレンジ……………10, 33  
定員会……………44  
伝道活動……………30, 35, 47, 56  
同性愛……………76  
な 肉体……………94  
忍耐……………66  
は 評議会……………6, 23  
フェローシップ……………10, 30  
負債……………56  
扶助協会……………99, 102, 108  
平安……………18, 86  
奉仕……………99, 32, 44, 52  
ま 御霊……………94  
模範……………35, 52  
や 預言者……………13, 38, 90  
喜び……………86, 92  
ら 両親の務め……………108, 23, 52

●今大会の話者(アイウエオ順)の説教が右側のページに掲載されています。

アイリング, ヘンリー・B……………35  
アモリム, アトス・M……………32  
オクス, ダリン・H……………41  
オクス, メリル・C……………90  
クリステンセン, バル・R……………33  
クリストファーソン, D・トッド……………44  
ジェンセン, バージニア・U……………13, 102  
スコット, リチャード・G……………73  
スムート, メアリー・エレン……………99  
ソレンセン, デビッド・E……………69  
デュー, シェリー・L……………105  
ネルソン, ラッセル・M……………94  
バートン, H・デビッド……………10  
バックナー, ボイド・K……………23  
バラード, M・ラッセル……………6  
ハルバーソン, ロナルド・T……………86  
ヒンクレー, ゴードン・B……………4, 56, 76, 97, 108  
ファウスト, ジェームズ・E……………49, 63  
ヘイト, デビッド・B……………38  
ベイトマン, E・レイ……………30  
ヘイルズ, ロバート・D……………15  
ペリー, L・トム……………80  
ホランド, ジェフリー・R……………83  
マックスウェル, ニール・A……………66  
モンソン, アル・M……………88  
モンソン, トーマス・S……………18, 22, 52  
リチャーズ, H・プライアン……………47  
ワースリン, ジョセフ・B……………26  
ワーナー, スーザン・L……………71  
ワッツ, ゴードン・T……………92

# 目次

末日聖徒イエス・キリスト教会第168回半期総大会報告 …1

## 1998年10月3日(土)午前の部会

ようこそ、総大会に ゴードン・B・ヒンクレー ……4  
歩調を合わせているだろうか

M・ラッセル・バラード ……6

機会が与えられる時代 H・デビッド・バートン ……10  
「来れ、預言者より御言葉聞け」

バージニア・U・ジェンセン ……13

霊と肉体の癒し ロバート・D・ヘイルズ ……15

常に感謝する トーマス・S・モンソン ……18

## 1998年10月3日(土)午後の部会

教会役員の支持 トーマス・S・モンソン ……22

シオンにおける親 ボイド・K・パッカー ……23

神聖な特質を養う ジョセフ・B・ワースリン ……26

砂粒からの真珠 E・レイ・ベイトマン ……30

律法に従い、隣人に仕える アトス・M・アモリム ……32

失意に打ち勝つ バル・R・クリステンセン ……33

警告の声 ヘンリー・B・アイリング ……35

預言者を支持する デビッド・B・ヘイト ……38

## 1998年10月3日(土)神権部会

アロン神権と聖餐<sup>せいさん</sup> ダリン・H・オークス ……41

神権定員会 D・トッド・クリストファーソン ……44

「わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」

H・ブライアン・リチャーズ ……47

「あなたがたは、いったい、なんの権威<sup>けんい</sup>……によって、このことをしたのか」

ジェームズ・E・ファウスト ……49

明日を決める今日 トーマス・S・モンソン ……52

若い兄弟たちに、そして成人の兄弟たちに

ゴードン・B・ヒンクレー ……56

## 1998年10月4日(日)午前の部会

天の窓を開く ジェームズ・E・ファウスト ……63

イエス・キリストの贖罪<sup>しよくざい</sup>を通して得られる希望

ニール・A・マックスウェル ……66

小規模神殿——大いなる祝福

デビッド・E・ソレンセン ……69

神を証する<sup>あかし</sup> スーザン・L・ワーナー ……71

義の力 リチャード・G・スコット ……73

人々がわたしたちについて尋ねること

ゴードン・B・ヒンクレー ……76

## 1998年10月4日(日)午後の部会

気高い生得権を持つ若者たち L・トム・ペリー ……80

個人の清さ ジェフリー・R・ホランド ……83

「あなたがたも……あかしをするのである」

ロナルド・T・ハルバーソン ……86

教会を打ち建てる アール・M・モンソン ……88

生ける預言者、純粋な教義の源

メルリ・C・オークス ……90

感謝 ゴードン・T・ワッツ ……92

わたしたちは神の子である ラッセル・M・ネルソン ……94

祝福の言葉 ゴードン・B・ヒンクレー ……97

## 1998年9月26日(土)中央扶助協会集会

われわれは主の光に歩もう

メアリー・エレン・スムート ……99

扶助協会へおいでください

バージニア・U・ジェンセン ……102

わたしたちは独りではない シェリー・L・デュー ……105

主の光の中を歩む ゴードン・B・ヒンクレー ……108

指導者の言葉 ……112

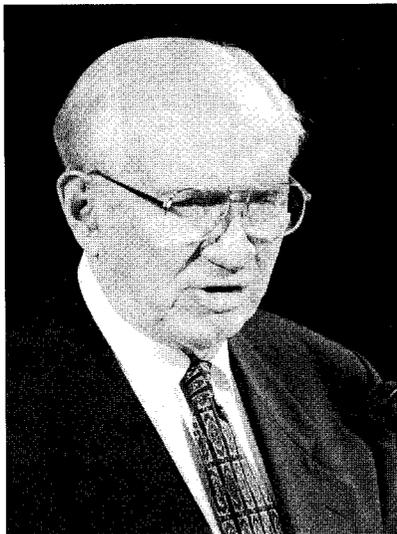
チャーチ・ニュース ……114

# ようこそ、総大会に

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

皆さんが……祈りと信仰と謙虚な心を込めて支持された方々の証が述べられます。わたしたちがともに靈感を受けられますように。贖い主への賛美によりわたしたちの心が高揚されますように。



兄弟姉妹の皆さん、心から皆さんを歓迎いたします。ようこそこの偉大な総大会においでくださいました。ここタバナクルには約6,000人の方々が集い、世界中の会場には数百万の方々が集っておられます。わたしたちは皆、一つの大きな家族です。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。わたしたちはペテロの言葉を成就する「選ばれた種族、王国の神権者、聖なる国民、神につける民」です。「それによって〔わたしたちは〕、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを……語り伝える」(欽定訳1ペテロ2:9)のです。

わたしたちの民のほとんどは幸福な生活を送っていますが、自然の災害や人為的な災害のために困難を経験している方々もおられます。わたしたちは

そうした方々を心に留め、常に祈りをささげています。しかしそのような中で、悲しみや苦しみに圧倒されそうになりながらも信仰を保ち、神が生きておられその子供である自分たちを見守っておられるとの確信を抱きながら前進を続けている方々もいらっしゃいます。

今朝のタバナクルは立錫の余地ありません。かつては非常に大きな広い会場との認識がありました。でも今は、教会の発展とともに手狭になりつつあります。わたしはつい2週間前にテキサス州ヒューストンにあるアストロドーム球場に行き、地区大会を開催しました。出席者は約2万人で、この建物の収容人員の約3倍でした。

このテンプルスクウェアの北隣のブロックにすばらしい建物を新築できることに心から感謝しています。その新しい建物は、規模の非常に大きなものです。わたしはその建物を建てるようにとの導きに従えたことを喜んでいます。主がわたしたちにそうしてほしいと望んでおられること、主がこの事業にあって御心を示してこられたことをわたしは信じています。

今、巨大なキングビーム(大きな梁)が取り付けられており、これが屋根部分の工事の始まりとなります。工事は予定どおり進行しています。現在このプロジェクトに従事している人の数は600人、今後この数は増えていくことでしょう。

この建物の収容人員は約2万1,000人、それに1,000人収容の劇場が併設されま

す。今後数世代にわたり、その新しい建物から預言者たちの声が響き渡ることでしょう。この建物の第一の機能は礼拝の家としてのものですが、芸術の家としても使用されます。コンサートをはじめ、人の心を高揚し霊的に高めてくれる健全な公共の行事も行われることとなります。不測の事態がなければ、2000年4月の総大会から新しい建物が使われます。それは、ちょうどその季節に誕生日をお迎えになる主へのささげ物となることでしょう。

これらのことについて思いをはせるとき、わたしたちは遠くの国に住んでおられる兄弟姉妹の皆さんのことを思い浮かべます。わたしたちはそうした大勢の方々と会い、お顔を拝見して、その霊性を感じてまいりました。皆さんはこの御業にあって非常に貴重な方々です。エレミヤが預言したように、主は皆さんを「町からひとり、氏族からふたり」と集められました。そして、御自身の心にかなう牧者たちを通して皆さんを教えてください(エレミヤ3:14-15参照)。わたしたちは皆さんのために祈っています。皆さんのもとを訪れます。皆さんに敬意と称賛をささげ、そして皆さんを愛しています。わたしたちは神の御子である主の足もとで心と声を一つにして礼拝をする、1,000万を超える偉大な家族の一員なのです。どのように離れた場所に住んでいようとも、皆さんにはこの大会に参加する機会が与えられます。多くの場所では衛星中継を通じて大会の様を受信することができます。衛星中継が不可能な場所では、ビデオテープによって大会の内容が伝えられます。また少数の遠隔地には、教会の機関誌により書面の形で伝えられます。

住んでいる場所や環境を問わず、わたしたちはすべて忠実な末日聖徒となることができます。わたしたちは自分の部屋で独りで祈りと礼拝を行うことができます。たとえ独りでも、全能者に賛美の歌をささげることができます。聖文を研究することができます。福音に従って生活することができます。たとえ少額でも、什分の一と献金をささげることができます。また信仰によ

て歩み、主が歩まれた道をたどりながら生活しようと努めることができるのです。

さて、兄弟姉妹の皆さん、これから皆さんが中央幹部として、また中央役員として祈りと信仰と謙虚な心を込めて支持された方々の証が述べられますので、よく耳を傾けてくださるようにお招きいたします。わたしたちがともに靈感を受けられますように。贖い主への賛美によりわたしたちの心が高揚されますように。へりくだり主イエス・キリストの聖なる御名によりお祈りいたします。アーメン。



デンプルスクウェア北側に建設中の教会の新しい集会施設の外壁。  
背景に教会本部ビル（左）、ジョセフ・スミス記念館、ソルトレーク神殿、タバナクルが見える。

総大会に出席するためタバナクルの東側で入場を待つ人々の列。



# 歩調を合わせて いるだろうか

十二使徒定員会会員  
M・ラッセル・バラード

会員が教会のすべての祝福、……神殿の祝福を受け〔ら〕れるよう、すべての評議会においてより効果的な方法を用い、一致して働かなければなりません。



**前**回の総大会でゴードン・B・ヒンクレー大管長により、世界中に小規模の神殿が30以上建設されるという歴史的な発表がありました。その中で最初の神殿が今年の夏、ユタ州モンティセロで奉献されました。御存じのようにヒンクレー大管長は、今世紀末までに稼働中の神殿を少なくとも100にするとの目標を掲げています。大管長のことはよく知っていますので、この目標の達成はもちろんのこと、それ以上の数に到達することは間違いないでしょう。

ヒンクレー大管長はこの特別な神殿建設事業を「すばらしい事業、……過去に例のない事業」と表現しました。

あまりに感動的なこの発表の後、わたしたちは主と預言者から何と大きな信頼を寄せられていることだろうかと考えました。この聖なる神殿の祝福にふさわしくあるよう備えるために、わたしたちすべてに与えられた責任は何と大きいことでしょうか。

中央幹部は、世界中の教会員の多くが、最も近い神殿からでもかなりの距離の所に住んでいることに大分前から気づいていました。そうした会員の皆さんの心は忠実で、教会の使命に対して大いなる信仰を持ち、主を愛し、主の御心を果たしたいと思っています。そのような献身的な聖徒にとって、美しい神殿は何と大きな祝福をもたらすことでしょうか。

再び、ヒンクレー大管長の言葉を引用したいと思います。「わたしは神殿の儀式が、回復された福音の重要な要素であることを証します。そうである以上、わたしたちには、それが成し遂げられるようにするための手段を講じる責任があります。……神殿の儀式は教会が提供すべき最高の祝福となっています。」<sup>2</sup>

この業は急を要する業です。そのことから、わたしたちは天の御父の子らが一人でも多く神殿の祝福を受けることができるように努力します。わたしはウィルフォード・ウッドラフ大管長のある経験に感動を覚えています。預言者ジョセフ・スミスが、殉教の少し

後でウィルフォード・ウッドラフ大管長のもとを訪れたのです。ウッドラフ大管長の言葉を直接引用しましょう。「〔ジョセフ・スミスは、〕わたしを訪れ、語りかけた。ジョセフは、とても急いでいるために立ち止まって話をすることはできないとわたしに告げた。次に会った人は、ジョセフの父だった。彼とも話ができなかった。とても急いでいたからだ。わたしは、この世で高い地位にあった兄弟たち6人に会ったが、立ち止まって話す人はだれもいなかった。皆、急いでいたのである。大きな驚きだった。やがて、預言者と再び会し次の質問をする特権を得た。

『一つお聞きしたいと思います。なぜ急いでいるのでしょうか。わたしは生涯を通じて急いできましたが、天の王国に戻ることができれば、もう急ぐ必要はないと思っていました。』

するとジョセフはこう語った。『ウッドラフ兄弟、あなたに伝えたいことがあります。地上に神権が存在し、日の栄えの王国に取り上げられた神権時代にはそれぞれ、ある特定の務めがあります。それは、将来救い主が地上を統治するために降臨される際、ともに地上に行く備えとして遂行すべき務めなのです。過去の神権時代の場合、務めを遂行するのに十分な時間がありました。しかし、わたしたちにはありません。わたしたちは最後の神権時代に属しており、果たすべき務めが山積んでいます。急いで達成しなければなりません。』

ウッドラフ大管長は最後にこう語りました。「『あなたの言うとおりです。よく分かりました。しかし、わたしはその教義を初めて学びました。』」<sup>3</sup>

末日のほかの預言者も同様の啓啓を受け、この最後のすばらしい神権時代においてわたしたちがさらに速度を上げて重要な務めを遂行するように促しています。デビッド・O・マッケイ大管長は、すべての会員が宣教師となるように励ましました。<sup>4</sup> スペンサー・W・キンボール大管長は、歩みを速めるように強く勧めました。<sup>5</sup> そしてハワード・W・ハンター大管長は次のように断言しました。「世界の歴史上のこ

の時期にあつて、また教会が成長を遂げる時期にあつて、わたしたちは聖なる事柄にいっそう思いをはせ、救い主が弟子たちに望んでおられるとおりに行動しなければなりません。』<sup>6</sup>

そして今、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はわたしたちに対し、より成長し、より多くの事柄を果たすために「前進する」よう求めています。大管長はこう語っています。「わたしたちにはすべきことがたくさんあります。腕まくりをし、新たな決意をもって、主を信頼して取りかかりましょう。…祈りを込めて忠実に行うならば、達成できます。』<sup>7</sup>

主の力は明らかに教会の指導者を啓発しています。そして彼らを促すのは、ウィルフォード・ウッドラフ大管長への示現の中で預言者ジョセフが抱いていたと思われるあの緊急性です。ヒンクレー大管長は御業を加速するために最善を尽くしています。かつてないほど精力的に世界を旅し、聖徒たちを強め、啓発し、向上させ、前進させるよう努めています。より広範な地域で、より多くの聴衆に回復のメッセージを分かち合うため、世界のメディアに応じています。そして、歴史上神殿建設が最も盛んに行われているこの時代を監督しています。神殿建設の増加は、この神権時代においてわたしたちに与えられた圧倒されるほどの量の務めを遂行するために、わたしたちの処理能力を増すためのものです。

大管長は精力的に前面に出て、わたしたちに道を示してくれています。わたしたちは皆、「大管長と歩調を合わせているだろうか」と自問すべきです。各自がこの問いに答えられるように備えなければなりません。これは確かに、十二使徒定員会で慎重に検討される事柄です。教会の各ステーク、ワードのすべての評議会と同様に話し合われるよう望んでいます。評議会は、休憩時間でも惰性で召しを行う時間でもありません。会員が教会のすべての祝福、とりわけ神殿の祝福を受けるにふさわしくなれるよう、すべての評議会においてより効果的な方法を用い、一致して働かなければなりません。



わたしたちは、儀式の執り行われている神殿の数が、わずか4年前と比較してその2倍に到達するという時を迎えようとしています。ステーク会長ならびに監督の皆さん、今こそ皆さんに尋ねる絶好の時期です。皆さんの管轄するステーク、ワードの評議会では、ふさわしい会員と献身的な儀式執行者で神殿を満たすよう、何を行っているのでしょうか。神権定員会は最大限に機能しているのでしょうか。ホームティーチャーと訪問教師は、割り当てを受けた家族に対し、熱心に仕えているのでしょうか。補助組織では、信仰と証が積極的に培われているのでしょうか。ステークやワードの活動は、家族と個人を強めることを目的としているでしょう

か。ステーク宣教師と専任宣教師の伝道活動を入念に調整することにより、彼らがより多くの人を見つけ、教え、バプテスマを施せるよう助けているのでしょうか。評議会では、新しい改宗者とあまり活発でない会員に対して十分なフェロウシップを行い、教会の教義に根ざした成長ができるように助けることに関心が注がれているのでしょうか。

兄弟姉妹の皆さん、主がこの神権時代に与えられた業の中で、わたしたちがなすべき業はまだたくさんあります。すべての会員が神殿の祝福にあずかれるように助けるという役割を果たしたいのであれば、わたしたちは自らの務めに焦点を当て、より賢明に働かなくてはなりません。教会の指導者が男

女を問わず自らの影響の及ぶ範囲を広げ、その力を増すことは可能であり、義務でもあります。まずは自分の家族を守り、教えるため賢明に行動しなくてはなりません。次に、靈感を受けた教会の評議会制度を最大限に活用することにより、天の御父から授けられた時間内において、天の御父から任された務めにより大きな成功を収めることができるように努力しなければなりません。

それではここで、すべての改宗者を温かく見守り、あまり活発でない会員に働きかけるというワード評議会の重要な役割を例にとってお話ししたいと思います。皆さんも御存じのように、大管長会と十二使徒定員会は新しく教会に入った人と教会にあまり活発にきていない会員の福利をととても気にかけています。いかなる支部やワードの評議会も、改宗者に、教会という新しい環境の中で不安な思いをさせておいてはいけません。会員から温かく歓迎されていないと感じている改宗者がいまだに多いのです。

最近ある新会員から次のような手紙を受け取りました。「時々わたしは…バプテスマを受けたことが誤りだったと感じます。わたしはこの教会が真実であると確信し、強い証もありますが、いまだに疑問に思っていることがあります。……わたしが求道者のとき、ワードの会員は皆、わたしのそばにいて話しかけてくれたり援助の手を差し伸べてくれたりしました。……しかし、バプテスマを受けてからは、彼らはわたしが教会にきているのかそうでないのかも知らないようで、わたしはだれからも声をかけられなくなりました。……なぜワードの人たちがわたしのことをそんなにすぐに忘れてしまうのか理解できません。とても寂しい気がして頭の中が混乱しています。……監督に相談したくても……全然親しい間柄ではないのでできません。わたしが教会に戻ったときも彼はわたしのことなんて覚えていませんでした。どうかわたしの力になってください。」

兄弟姉妹の皆さん、すばらしい成果を取めた状況の中で、いまやすべての改宗者を温かく見守り、さらに数多く

の天の御父の子供たちの生活に祝福をもたらすためにあらゆる手段を整える時が来ています。これらのことはワード評議会のメンバーの働きで達成できます。つまり、各組織がその機能をよく果たすことによって新会員が確実に友人を得、責任を受け、神の善い言葉で養われるよう取り計らうのです。人はそれぞれ天の御父にとって非常に尊い存在です。主イエス・キリストは贖罪を通して、わたしたち一人一人の罪を贖うために計り知れないほど大きな代価を払ってくださいました。そのことを決して忘れてはなりません。教会に活発に集おうとしている人々を養い育てず、また教えるのを怠ることによって、主が経験された苦しみを無にするようなことがあってはなりません。

姉妹たちもワードの女性の成人会員、若い女性、そして子供たちがすべて自分の証を持てるように助けることができます。わたしたちは皆さんの助けにどれほど感謝していることでしょうか。姉妹の皆さん、互いにどのように愛し援助すればよいのか、また福音がもたらすすばらしい祝福とわたしたちに約束されている事柄についてどのように教えたらよいのかを、評議会の中で一緒に話してください。世界中の女性が「若い女性のテーマ」の中で掲げられている女性の真の行く末を理解するならば、何とすばらしいことでしょうか。皆さんも御存じの言葉です。「わたしたちは天の御父の娘です。天の御父はわたしたちを愛し、わたしたちも天の御父を愛しています。わたしたちは若い女性の信条に従って生活するように努め、『いつでも、どのようなことについても、どのような所においても……神の証人になることを望』みます。若い女性の信条——信仰、神から受け継いだ特質、個人の価値、知識、選択と責任、良い行い、誠実。』この信条を学んで実行に移せば、女性の皆さんは年齢を問わず必ず祝福を受け、救いに至る道を見いだすことでしょう。

監督会および若い男性会長会の皆さん、すべての若い男性と良い関係を築き、神権の各々の職に聖任される年齢に達したときに彼らがふさわしい状態

にあるように助けてあげてください。このことは皆さんが担っている役割の中で重要な部分であり、ワード評議会に属するすべての会員たちが担っている役割でもあります。アロン神権の執事の職にある少年が長老の職に聖任されないことになったり、専任宣教師として働くように要請される機会を逸してしまうことになってはなりません。

メルキゼデク神権定員会はすべての成人男性とその家族が物心両面で満たされているかどうかに対して責任を担っています。家族に関する事柄で、現在監督会が担当している部分の多くは、評議会で適切な話し合いと調整をすれば、ほかのメルキゼデク神権者が十分に行うことができます。

ステーク会長および監督の皆さん、もしもあなたのユニットの評議会がこれほど高い霊性と目標を持たずに運営されているならば、人々を霊的に備えるために自分たちが持っている力をいかに結集したらよいか理解できるように、あらゆる手段を通して評議会に属する会員たちに教えていただきたいと思えます。

また、わたしたちは個人でも家族の中でもよく話し合い、個人としてまた家族としてイエス・キリストの福音にどれだけ忠実かを評価し合う必要があります。この評価は、主の宮で奉獻の律法と犠牲の律法の聖約を交わした人にとって特に必要不可欠なものです。わたしたちはこう自問する必要があります。「日ごろ、社会や家庭の中で、クリスチャンとしての徳と福音への忠実さを模範を通して示しているだろうか。教会に活発でない友人に対して、また教会員ではない友人や家族、隣人に真心から関心を示しているだろうか。自分の証を雄々しく伝えているだろうか。」

教会において家族や個人を強めるために、導きを受けながら協力して取り組む人々の力を、わたしはよく知っています。皆さんのワードの区域に住んでいるすべての人々(成人の男性、女性、10代の若人、児童、教会員、非教会員)の人生に祝福をもたらすことができるように、皆さんの力を結集し、それを

十分活用してください。兄弟姉妹の皆さん、個人間でも教会全体でもかつてなかったような結束を実現することにより、わたしたちの周りにいる人々が主の宮でしか受けることのできない祝福を受ける備えができるように自らの役割を果たさなくてはなりません。

兄弟姉妹、今こそわたしたちの時代です。世界が始まって以来、聖なる預言者たちはこの時代を予見してきました。この時代はまさしく世界の歴史の終幕が演じられる、時満ちる神権時代なのです。ジョセフ・スミスからゴードン・B・ヒンクレーに至る末日の預言者たちは、「主の大いなる恐るべき日」<sup>9</sup>に備えるという厳粛で神聖な義務があることをわたしたちに警告してきました。その日は刻々と迫ってきていますが、やり残していることはまだ多くあります。わたしたちは指導者と歩調を合わせられるように自分自身をよく備え、指導者の歩幅が広がったら自分の歩幅も広げなければなりません。最も重要な事柄に焦点を当てて力を注ぎ、ささいなことや取るに足りないことに対して時間を割かないようにする

ことが、かつてないほど必要でしょう。

預言者ジョセフ・スミスはこのように語りました。「兄弟たちよ、わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか。退かずに前に進んでください。兄弟たちよ、勇気を出してください。勝利に向かって進み、進んでください。心を喜び樂しませ、大いに喜んでください。……

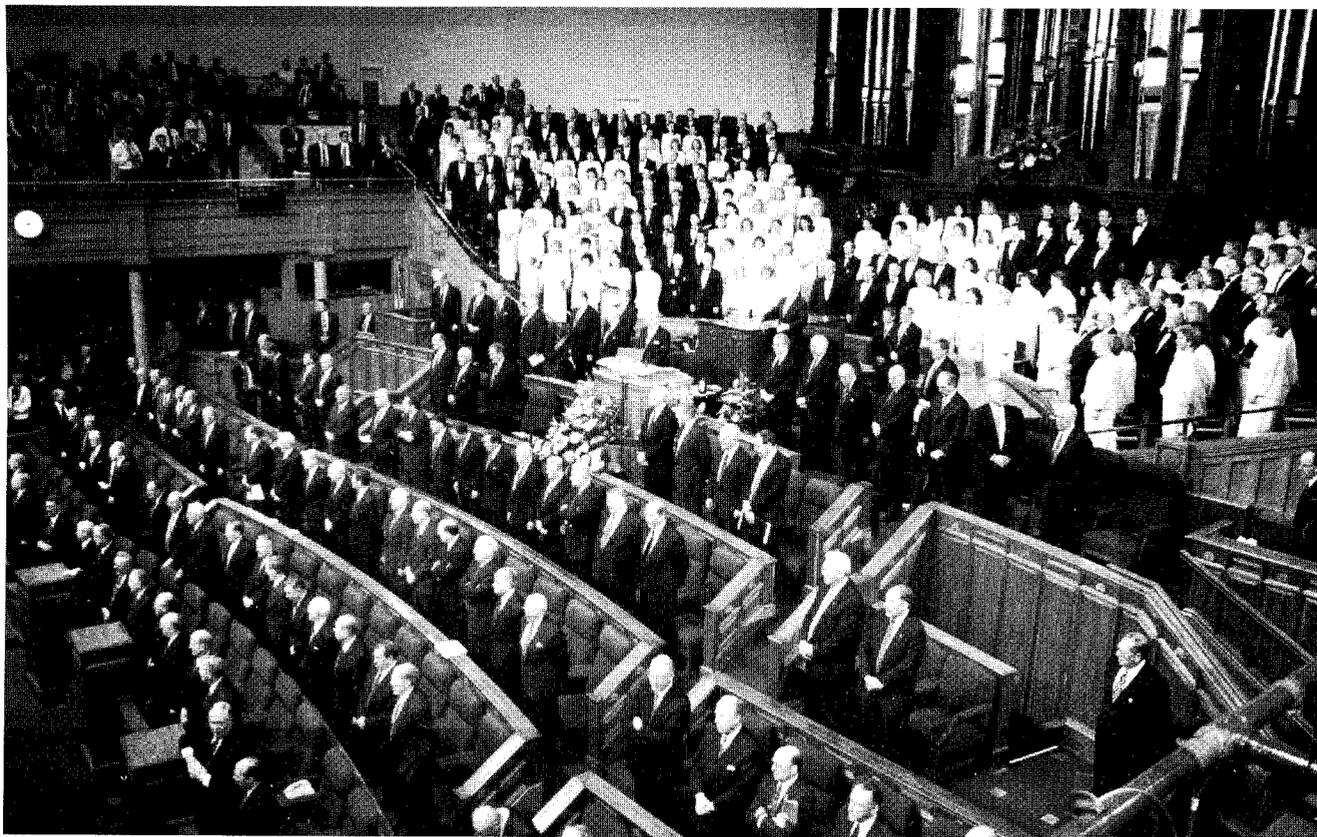
まことに、主の大いなる日は近づいています。……わたしたちは教会として、また民として、また末日聖徒として、義をもってささげ物を主にささげましょう。また、主の聖なる神殿〔に〕……わたしたちの死者の記録を載せた、そのまま受け入れるに値する書を主の聖なる神殿にささげましょう。」<sup>10</sup>

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちが力を合わせて自らの務めを果たすときに、あらゆる家族、成人、若人、子供が備えられて、福音を通してもたらされる神殿のすべての祝福を受けるにふさわしい状態になれるように祈っています。わたしは主イエス・キリストが生きておられることを証します。キリストにより、忠実な教会員は神殿において永

遠の儀式を受けることができるのです。皆さんが望みと知恵と決意を主から授かることにより、家庭と教会にあってこの業を熱心に推し進めることができますように。イエス・キリストの御名によってへりくだり祈ります。アーメン。

注

1. 「福音の『最高の祝福』をもたらす新しい神殿」『聖徒の道』1998年7月号, 96
2. 『聖徒の道』1998年7月号, 96
3. The Discourses of Wilford Woodruff (1946), 288-89
4. In Conference Report, Apr. 1959, 122
5. The Teachings of Spencer W. Kimball (1982), 174-75
6. Follow the Son of God, *ENSIGN*, Nov. 1994, 87
7. 「なすべき業あり」『聖徒の道』1995年5月号, 94
8. 『若い女性指導者手引き』(1993年), 4
9. マラキ 4:5
10. 教義と聖約 128:22, 24



タバナクル合唱団や会衆とともに立って賛美歌を歌う中央幹部たち

# 機会が与えられる時代

管理監督

H・デビッド・バートン

現代は……手を差し伸べて人々の生活に良い影響をもたらす時であり、安息日を神聖に守る決意をする時であり、神殿の御業を推し進める時です。



**先**日、<sup>せいさん</sup>聖餐会でかわいらしいある若い姉妹が、良い話をするにはちょっと気の利いたユーモアや見え透いたうそで始めるのがよいと提案しました。わたしにはユーモアの才能はまったくありませんが、心からの気持ちとして以下のように申し上げます。すばらしい秋の朝にこの壇上に立ち、わたしは心底快適で何の恐れも感じておりません。

昨年行われた150年記念祭の幕を閉じるに当たって、わたしたちの愛する預言者は再度注意を喚起してくれました。「これからは、向き直って将来へ目を向ける時です。あまたの機会が与えられる時代がやって来ました。それを受け止めて前進するのは、わたしたちの責任です。わたしたちがささやかながらもそれぞれの責任を果たして、

主の業を壮大な終局目標に向かって前進させることができるとしたら、何とすばらしい時代でしょうか。」(ゴードン・B・ヒンクレー「将来に目を向けて」『聖徒の道』1998年1月号, 75)

わたしたちは皆、日々の生活で試練に直面しています。しかし、その試練の中にまたとない機会が潜んでいることがあるのです。その機会に気づいて行動に移すとき、進歩と幸福と霊的な成長が結果としてついて来ます。わたしたちは主の御業の推進のために働く必要がなければなりません。そのために活用できる機会は無数に存在しますが、わずかながら提案をさせていただきます。

この壇上からの説教を通じ、わたしたちは再三にわたって安息日を完全に守るように言われてきました。もし安息日を聖く過ごしていない方がいれば、今日はすばらしい機会となります。聖く過ごすように決意する機会であり、安息日を尊ぶことによってもたらされる約束された祝福を受ける機会となるからです。

多くの人々は、「安息日」と「休日」を同義語と感じるようになってきています。末日聖徒が多数を占める地域で小規模の小売店を複数経営する友人は、日曜日の礼拝行事が何時に終わるのかを正確に当てることができると言います。その時間になると客の数が劇的に増えるのだそうです。このように、様々に姿を変えた娯楽が、安息日の王として君臨するようになってきているのです。

わたしと妻は結婚当初、ソルトレーク盆地の南東部に住んでいました。近所の小さな食料品店で買い物をしていると、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長夫妻が買い物をしている姿をよく見かけました。何度かその姿を見るうちに、わたしはなぜスミス大管長が町の中心部からわざわざ何軒もの食料品店を通り過ぎ、あえてこの店に来るのか不思議に思うようになりました。そしてついに勇気を奮い起こして尋ねました。すると大管長は眼鏡越しにわたしを見ると、力を込めてこう答えたのです。「兄弟！〔わたしは思わず姿勢を正しました。〕妻とわたしは、安息日を聖く保っている店をひいきにしているんですよ。」

安息日を尊ぶようにとの教えは新しいものではありません。わたしたちは、幾世代にもわたって預言者が当時の人々に強調してきた事柄を、現代の預言者の口を通して幾度となく聞いているにすぎません。末日の聖典には次の勧告が含まれています。

「また、あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならない。

まことに、この日は、あなたがたの労苦を解かれて休み、いと高き方に礼拝をささげるように定められた日だからである。」(教義と聖約59:9-10)

特に若い人々にとって、チームのレギュラーメンバーとしてプレーしたいと思っている自分のスポーツチームが日曜日に試合を予定しているときに、安息日を守る方を選択するのが難しいことは理解しています。また多くの人にとって、安息日にほんの数分コンビニエンスストアに立ち寄り、買い物を済ませるのはささいなことに思えるのも承知しています。しかし、安息日を聖く過ごすのは、わたしたちが御霊のささやきを感じられるように備えるための最も大切な戒めの一つに数えられることも、わたしは知っています。

今は家族にとってまたとない機会です。義になかった生活をするにより第4の偉大な戒めに従う忠実な人々に数えられるからです。

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。

6日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。

7日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。」(出エジプト20：8-10)

数年前、中央幹部として神殿の奉献や再奉献に携わってきたことについて尋ねられた大管長は、儀式が執り行われている神殿が少なくとも100に達するまで引き続き奉献に携わっていきたいとの意向を明らかにしました。大管長の言葉を聞いたわたしは単純に計算してみました。儀式が執り行われている神殿に加え、建設が発表されている神殿、そして現在建設中の神殿の数を合計しても、100には遠く及びませんでした。管理監督会は、建設が発表された神殿の監督の責任があるため、次のように話したのを覚えています。「大管長、さらに長生きできるよう主にお祈りいたします。」

当時のわたしには知る由もありませんでしたが、わたしたちの預言者は恐らくその当時からすでに天よりの導きを受け、さらに多くの末日聖徒が神殿での礼拝に伴う祝福にあずかれるよう、手段を講じていたのでしょう。去る4月の総大会で、ヒンクレイ大管長から次の言葉を聞いたとき、皆さん同様、わたしも喜びの涙を流しました。

「ここ数か月、わたしたちは非常に遠く離れた地の教会員たちの間を旅してまいりました。この世の富にあまり恵まれていない多くの方々とお会いしてきました。しかしその方々は、心の中に末日の業に対する非常に熱い思いを持っています。彼らは教会を愛しています。……そして、主を愛し、主の御心を果たしたいと望んでいます。わずかな額かもしれませんが、<sup>じゅうぶん</sup> 什分の一を納めています。この人々は神殿に行くために、大変な犠牲を払っています。安い料金のバスや古い船に乗り、何日も何日も旅を続けるのです。そのためには、生活を切り詰めてお金をためます。……

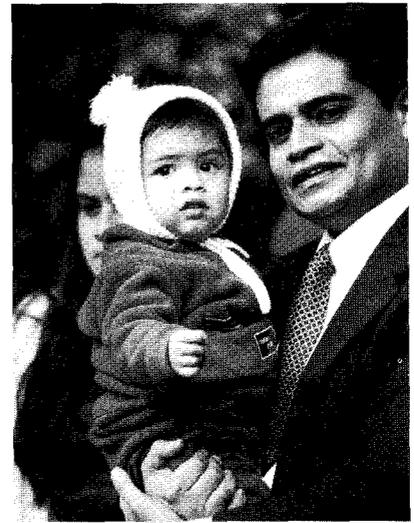
この人々には……神殿が近くに必要です。そこで、わたしはこの機会をとらえて30ほどの小さな神殿を早急に建

設するプログラムを、教会全体に発表いたします。これらの神殿は……現在建設中の17の建物に加えて、建設が進められています。これによって現在儀式が行われている51の神殿のほかに、合計47の新しい神殿ができることになります。……今世紀の最後までにさらに2つを加え、ちょうど100にできればと考えています。」(「福音の『最高の祝福』をもたらす新しい神殿」『聖徒の道』1998年7月号、95-96)

この神権時代の初期において、わたしたちの祖先は祝福されて、多大な犠牲をささげて神殿を建設する機会を与えられました。肉体的な労働力にとどまらず、乏しい財産をも惜しみなくささげたのです。そしてカートランド、後にノーブーに神殿が完成したときも、聖徒が払った犠牲は大変なものでした。しかし求めに応じたとき、聖徒は祝福されました。聖徒が山の頂に移住した後、西部の多くの地に神殿が姿を見せ始めました。神殿建設の計画はそのどれもが大いなる犠牲を表しています。しかし、神殿建設の機会に参画した人々には神からの約束された祝福が用意されていました。

神殿建設への奉仕について、今日のわたしたちに与えられている機会は昔と少し違います。わたしたちに求められているのは、<sup>くぎ</sup> 釘を打ちつけ、石を刻み、材木を切り、コンクリートを流し込むような肉体労働ではなく、神殿建設の御業が継続して進められるように忠実に什分の一を納め、すでに亡くなった方々のために神聖な救いの儀式を施すことができるよう、自分自身をふさわしく保つことです。ごく簡単に言えば、神殿に早朝から深夜まで明かりがつくようにするために末日聖徒の家族として機会をとらえて奉仕することです。すでに幾つかの神殿において行われているように、週末に一晚中神殿の儀式が執り行われるような状況を作り出すこともできるでしょう。

数年前、ある大手通信会社がこのような広告を打ちました。「今、手を差し伸べ、あの人と心の触れ合いを。」ヒンクレイ大管長はわたしたちに、援助の手を差し伸べ、心の触れ合いを図



る方法がたくさんあることを繰り返し述べてきました。まず、新たに教会員になった方々に対して愛をもって接し、温かく見守ってあげること。教会に活発に來られていない人に対して励ましの言葉をかけ、変わらぬ愛と、場合によっては救いの気持ちを抱くようにすること。異なる宗教を持つ隣人、会社の同僚、友人がわたしたちの語る言葉と行いを通して聖なる御霊の良い影響を受けられるように努力することです。

最近わたしが参加したあるステーキ大会のステーキ/ワード合同評議会訓練集会で、よく準備された発表がなされました。内容は、計画を立てるとき、新会員や教会に活発に來ていない会員、また会員ではない人たちを除外せず、むしろ彼らに参加してもらえるような計画を立てるということでした。発表では、このことを達成するために、ステーキ若い女性会長のローラ・チップマン姉妹が「5つのI」を提案しました。それは、(1) Introspection (自己吟味)。わたしたちは気づかないうちに排他的な態度で接していないでしょうか。(2) Identify (特定する)。皆さんの近所や同じ地区に最近バプテスマを受けた人や、教会に活発に來ていない人、あるいは教会員ではない人がいませんか。(3) Individualize (個別化する)。わたしたちは、働きかけようとしている相手の興味や才能、技能を知る努力をしているでしょうか。(4) Invite (招待する)。わたしたちは隣人や友人をふさわしい活動に誘っているでしょう

か。(5) Involve (参画させる)。教会に来てほしいと思っている人たちの技能や才能を発揮してもらえる方法はないでしょうか。

わたしは最近少年時代の友人、リンの葬儀に参列しました。彼には生まれつき障害がありました。物事の内容はよく理解できても読み書きはできませんでした。また、彼は自分で作った言葉以外ははっきり聞き取れる言葉はほんの少ししか話すことができませんでした。仲間の中には彼がしゃべった言葉をわずかながらも理解できる人がいましたが、たいていの場合、彼のしゃべる調子によって助けを求めているのか人に思いやりを示しているのか区別がつかない。リンが幼かったころ、彼は家を離れて特殊学校で生活していましたが、夏休みや祝日には家に帰って家族とともに過ごしました。彼は家族のそれよりも長生きし、この17年間、身の世話をほとんどしてもらえ介護施設に入っていました。

リンの死に際して、彼の親友の一人が音頭を取り、わたしたちが少年時代集っていた教会で葬儀を行うことになりました。葬儀には施設で親しくしていた友人と職員、何年も前から彼のことを知っているワードの会員、そして

少年時代の友人とその家族が集いました。長い間施設で寂しい思いをしていたリンのことを気にかけていた何人かの兄弟たちが心温まるお話をしてくれました。

葬儀のプログラムが進むにつれて、昔の記憶がよみがえってきました。一人の友人は、日曜学校の教師がわたしたちに証を述べるように言ったときのことを話しました。教師は一人一人順番に指名していきましたが、リンは飛ばしてしまいました。たぶんリンには無理だろうと思ったのでしょう。先生の態度に憤りを感じたリンは、自分の番が回って来るのを待っていたことを先生に示しました。証の中で彼が何を言ったのかよくは分かりませんでした。正常に機能しない肉体に閉じ込められた彼の愛と偉大な霊の深さをわたしたちは感じました。そのクラスには強い御霊の導きがあったのです。

わたしは施設の職員と友人たちから、リンに対して彼らの抱いていた無私の愛を感じ、さらにリンが自分なりの方法で手を差し伸べ、彼らの人生に良い影響を及ぼしていたことがはっきり分かりました。また葬儀を通じて、少なくとも3人の少年時代の友人とその家族が彼に援助の手を差し伸べていたこ

とも分かりました。彼らは、リンを定期的に訪れ、ドライブに連れて行き、誕生日やそのほか特別な日には夕食に招待していたのです。

リンにまつわる思い出話が尽きたところで、わたしたちは、障害があってもながらも天使のように優しいこの友が、彼自身が人から受けたものよりもさらに価値あるものを、わたしたちや彼のために尽くしてくれていた愛あるすばらしい家族に与えていたことに気づいたのです。

まさに現代は多くの機会が与えられている時代です。幾つか例を挙げると、それは、手を差し伸べて人々の生活に良い影響をもたらす時であり、安息日を神聖に守る決意をする時であり、神殿の御業を押し進める時です。わたしは天の御父とわたしたちの救い主であり贖い主である御子が生きておられること、また御二方がわたしたちを無条件に愛してくださり、わたしたちに与えられる様々な奉仕の機会を生かすよう期待されていると証します。また大義を勇敢にそして威厳をもって日々献身的に推し進めてくれる預言者に、わたしの感謝と愛をささげます。イエス・キリストの御名により、アーメン。



テンプルスクウェア東側からの眺め。訪問者センター北館(左)、タバナクル(右)、ソルトレーク神殿の尖塔が樹木越しに見える。

# 「来れ、預言者より 御言葉聞け」

中央扶助協会第一副会長  
バージニア・U・ジェンセン

生ける預言者を通して語られる主の御声に耳を傾け、その勧告に従えば、決して道を誤ることはないのです。



11歳のある夜のこと、窓の外で人が騒いでいました。見ると、通りには新聞配達少年が、ジョージ・アルバート・スミス第8代大管長の訃報を報じる号外の束を腕に抱えて配っているところでした。それまで、わたしにとって大管長とはスミス大管長だけでした。わたしが初めて証を得たのはスミス大管長の時代で、そのころから神の預言者がいかに大切であるかを理解していました。わたしは初等協会、また家庭で愛ある両親から、地上で天の御父と御子イエス・キリストとわたしたちの橋渡しを担う、つまり御父と御子はスミス大管長を通じわたしたちに語りかけてくださることを学びました。幼い少女にとり、それは何と力強

い教えだったことでしょう。当時11歳のわたしは御霊により、その教えが真実であるとの確信を心に得ました。そのため、大管長の訃報に接したとき、かけがえのない人を失ったと思いました。

しかし、スミス大管長の死からわずか5日後、デビッド・O・マッケイ大管長がこのタバナクルに立ち、詰めかけた聴衆に話をしました。それは聖徒たちの全会一致で、預言者、聖見者、啓示者として支持された直後のことでした。マッケイ大管長は涙をぬぐい、こう語りました。「教会の頭、わたしたちの主、救い主であるイエス・キリストと一致しなければ、だれもこの教会を管理することはできません。主はわたしたちの頭です。この教会は主の教会です。主の導きと靈感があれば、わたしたちは決して失敗することはありません。」

わたしはスミス大管長のときと同様、マッケイ大管長をも愛し尊敬するようになりました。壇上に立ち、白髪を輝かせて語るマッケイ大管長を見て、その姿が天使のように映ったことを今でも覚えています。こうして、マッケイ大管長が主の代弁者となったことは、すぐに理解できました。

古今の預言者は主に従う偉大な人々であり、地上に来る前に選ばれ、聖任されていました。わたしたちの預言者はそれぞれ特定の時期に教会を管理するために、主により特別にはぐくまれた人々なのです。主はこれまで同様今

日も、教会の指導者を通して御業を進めておられます。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は言いました。「神が人にこれまで授けてこられた啓示を積み上げると……途方もない高さに達する。しかし神の王国である教会はどの時代にあっても、神の生ける預言者なしには発展できないのである。」

兄弟姉妹、『教義と聖約』に書かれた次の指示と約束に耳を傾けてください。

「それゆえ、彼がわたしの前を完全に歩み、わたしの言葉と戒めを受けるとき、あなたがた教会員は、彼があなたがたに与えるそれらのすべてを心に留めなければならない。

あなたがたは忍耐と信仰を尽くして、あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。」(教義と聖約21:4-5)

アブラハムへの主の御心は、モーセの時代の民には不十分であり、モーセへの主の御心は、イザヤの時代の民の必要を満たすものではありませんでした。神権時代が異なると指示も異なってきます。これは今日も変わりません。わたしたちの神権時代は、過去のすべての神権時代の知識が一つにまとまる時です。完全な福音を得て人生に祝福をもたらすこの時代に生を受けたわたしたちは、何と祝福されていることでしょう。

わたしの声を聞いておられるすべての方々を、かつて賛美歌として書かれた言葉をもってお招きしたいと思います。「来れ、預言者より御言葉聞け。」(『賛美歌』13番)年齢や環境を問わず、あらゆる教会員は主の預言者の靈感に満ちた勧告に心を動かされ、祝福を受けるのです。

デビッド・O・マッケイ大管長がヨーロッパ旅行から帰国した際、ニューヨークでの出来事についてこう報じられています。「『ユナイテッドプレス紙』は大管長を空港で撮影することにしていましたが、カメラマンの都合がつかず、ニューヨークでは最もつらい仕事と言われる犯罪者担当のカメラマンを差し向けた。彼は空港に2時間とどまり、



何枚もの写真を撮り、その後暗室から出て来た。撮るべき枚数は2枚だったので、上司は『時間も材料も無駄にして何をしていたんだ』と怒った。

するとカメラマンはぶっきらぼうにこう答えた。『余分に使った材料代は支払います。必要以上にかかった時間の金額も頂かなくて結構です。』……それから数時間後、副社長がこのカメラマンをオフィスに呼んだ。事情を知りたかったのである。カメラマンは言った。『子供のころ母親がよく「旧約聖書」を読んでくれました。神の預言者はどんな人だろうとよく考えていました。それが今日、分かったんです。』<sup>3</sup>

自分たちの預言者を頂いていることがどれほど大きな祝福か、わたしたちは十分理解しているのでしょうか。預言者の声に耳を傾けることにより、生活に無数の変化が訪れます。自分が何者であり、天の御父にとってどのような存在であるか明確になります。主の戒めと勧告はわたしたちを導き、まっすぐに細い道にわたしたちをとどめ、主の励ましの御言葉は、落胆したときでもあきらめないように力づけてくれます。わたしたちは世の声に耳を傾けると道を誤ります。しかし、生ける預言者を通して語られる主の御声に耳を傾け、その勧告に従えば、決して道を誤ることはないのです。

最近の新聞にヒンクレー大管長に関する記事が掲載されています。「彼は時の人である。……握手をし、人をたたえ、ユーモアを交えながら時宜を得た言葉を語る。」<sup>4</sup> 兄弟姉妹、これは一般人からの視点にすぎません。しかしわたしたち教会員にはさらに多くのことが見えます。わたしたちは聖なる御霊のささやきにより、この教会の真

の頭である主イエス・キリストがヒンクレー大管長を通してわたしたちに語られることを知っています。1年半前、わたしはヒンクレー大管長の事務所に招かれて中央扶助協会会長会の召しを受けました。そのときに感じた御霊はわたしにとって特権であり、祝福でした。わたしは召しを告げられる前に大管長と握手をしましたが、神の預言者の前にいるという強い証を得ました。わたしはその証に心がへりくだる思いでした。ヒンクレー大管長、わたしが口を閉ざしていたのはそのためだったのです。

生ける預言者を頂いていることは大きな祝福です。これまでには得られなかった主とのつながりを可能にしてくれるからです。ジョセフ・スミスはカートランド神殿の奉獻の祈りの中でこう預言しました。「また、あなたの教会が暗黒の荒野から出て来て、月のように美しく、太陽のように輝き、旗を立てた軍勢のように恐ろしいものとなり……。」(教義と聖約109:73) ヒンクレー大管長は今日の情報時代のために備えられたのです。

世の中では正直や高潔さ、善意、義、それに伝統的な家庭までもが死んだと言う人が多くいます。末日聖徒として、主が生ける預言者を通して導きと指示と励ましを与えてくださることを知っているわたしたちは、何と祝福されていることでしょうか。主の真の教会が継続するように、わたしたち自身も主のみもとに戻る道を確認として歩むことができますからです。

この世には保証となるものはあまりありません。すべてに適應する保証書のついた車も、預金を完全に保証してくれる銀行もありません。品質を調査する雑誌で高く評価されている製品でさえ、免責条件が記されています。人の手によるもの、人が制御するものに完全な保証はないのです。しかし、ここに奇跡があります。主は免責条件のない幾つかのすばらしい保証を与えてくださいました。その一つが、民を決して誤り導くことのない預言者を召しただけだったことです。これがいかに大きな影響を及ぼすか考えてみてくだ

さい。純粹で、世に染まらぬ導きを求める場所があるのです。

わたしたち扶助協会の姉妹たちの務めは、神権者の指示の下で、家族が天の御父のみもとに戻り、地上に来る以前に皆がそうであったように、天の御父と再び生活できるように助けることです。神のメッセージを伝える預言者の声は、明瞭で確かな、かつ信頼できて率直なものです。

このような神のメッセージの特徴が最も顕著に表れたのは、1995年9月23日の中央扶助協会集会においてゴードン・B・ヒンクレー大管長がメッセージの一部として「家族——世界への宣言」<sup>5</sup>を読み上げたときでした。この宣言を通して神が混迷の世界に投げかけた教えの数々を見てみましょう。男女の間の結婚は神が定めたものです。わたしたちは神の形に創造されました。性別は永遠の特性としてわたしたちが地上に来る前から定められていました。わたしたちは地上に来る前に神とともに生活していました。神は子供をもうけるように命じられましたが、生殖の力は結婚の神聖なきずなの中でのみ用いなければなりません。神は預言者を通して、夫婦が互いに愛と関心を示し合い、子供たちを愛と義をもって育て、物質的にも靈的にも必要なものを与え、という厳粛な責任を負っていることを伝えておられます。家族は神によって定められたもので、父親は家族の管理と生活必需品の提供、そして家族を守るという責任を、母親は子供を養い育てるという責任をそれぞれ負います。加えて、この宣言には非常に重要な警告が含まれています。伴侶や子供を虐待する人、家族の責任を果たさない人々は神の御前に立って報告することになるということです。さらに、家庭の崩壊は個人や地域社会、国家に古今の預言者たちが預言した災いをもたらすのです。兄弟姉妹、これが今現実となっています。家族を守り強めるのはすべての人の義務なのです。

わたしは再度「来れ、預言者より御言葉聞け」と申し上げます。扶助協会は預言者ジョセフ・スミスが受けた啓示により設立されました。それは「知

識と英知がこれより後流れ出るように」行われました。ジョセフ・スミスは次のように約束しました。「あなたがたは神が定められた神権の位を通して指示を受けるでしょう。この最後の神権時代において教会の諸事に導きと指針と指示を与えるように召された人々を通してそれは行われるのです。』<sup>6</sup>

扶助協会でわたしたちは家族を守り強める方法を学びます。

ヒンクレー大管長はこのように述べています。「このまっすぐで細い道にとどまるなら、最善のものが待っています。今はすばらしいときです。この偉大な末日の御業の中で教会員として胸を張り、迷うことなく誇りをもって生活できるすばらしい時代なのです。』<sup>7</sup>

「来れ、預言者より御言葉聞け。」それは神の御心を知り、自分の歩む道を照らす光を得るためです。皆さんも、わたしと同じ証を得ようお祈りしています。それは、今日の生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えはわたしたちの霊を救うものであり、その教えに従えばわたしたちは皆安全に、世の汚れに染まることなく天の家に帰れるよう導かれるという証です。聖なるイエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

#### 注

1. In Leon R. Hartshorn, comp. *Classic Stories From the Lives of Our Prophets* (1971), 263.
2. "The Keys of the Kingdom", *Millennial Star*, 51:548.
3. "Memories of a Prophet", *Improvement Era*, Feb. 1970, 72.
4. "President Hinckley, 87. Charms World As He Leads Church", *Deseret News*, 23 May 1998, A1.
5. 『聖徒の道』1998年10月号, 24 参照
6. *History of the Church*, 4 : 607.
7. West High School seminary graduation, 14 May 1995; cited in *Church News*, 2 Sept. 1995, 2.

識と英知がこれより後流れ出るように」行われました。ジョセフ・スミスは次のように約束しました。「あなたがたは神が定められた神権の位を通して指示を受けるでしょう。この最後の神権時代において教会の諸事に導きと指針と指示を与えるように召された人々を通してそれは行われるのです。』<sup>6</sup>

扶助協会でわたしたちは家族を守り強める方法を学びます。

ヒンクレー大管長はこのように述べています。「このまっすぐで細い道にとどまるなら、最善のものが待っています。今はすばらしいときです。この偉大な末日の御業の中で教会員として胸を張り、迷うことなく誇りをもって生活できるすばらしい時代なのです。』<sup>7</sup>

「来れ、預言者より御言葉聞け。」それは神の御心を知り、自分の歩む道を照らす光を得るためです。皆さんも、わたしと同じ証を得るようお祈りしています。それは、今日の生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えはわたしたちの霊を救うものであり、その教えに従えばわたしたちは皆安全に、世の汚れに染まることなく天の家に帰れるよう導かれるという証です。聖なるイエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

注

1. In Leon R. Hartshorn, comp. *Classic Stories From the Lives of Our Prophets* (1971), 263.
2. "The Keys of the Kingdom", *Millennial Star*, 51:548.
3. "Memories of a Prophet", *Improvement Era*, Feb. 1970, 72.
4. "President Hinckley, 87, Charms World As He Leads Church", *Deseret News*, 23 May 1998, A1.
5. 『聖徒の道』1998年10月号, 24 参照
6. *History of the Church*, 4: 607.
7. West High School seminary graduation, 14 May 1995; cited in *Church News*, 2 Sept. 1995.2.

# 霊と肉体の癒し<sup>いや</sup>

十二使徒定員会会員

ロバート・D・ヘイルズ

真理を求め、主を信じる信仰をはぐくみ……心から悔い改めるならば、わたしたちは救い主のみからもたらされる心の霊的な変化を受けます。つまり、わたしたちの心は再び新しくなります。



による平安と喜びを得るよう計画されています。癒しの過程を経てわたしが深く考えたことをお話したいと思います。

入院中およびその後数週間の自宅での療養中、体は激しい痛みで衰弱しほとんど自由の利かない状態でした。しかしその間、わたしは人生と永遠の意味について思いを深める喜びを学びました。集会、責務、約束がすべて予定表から消えたため、数週間、自らの関心は様々な管理事項から離れ、永遠に関する事柄に向けることができました。主はこのように言われています。「永遠の厳粛さを心にとどめなさい。」(教義と聖約43:34) 痛みだけに思いが向けられていると、癒しの過程の妨げとなることに気づきました。そして、思いを深めることが心と体の癒しの過程において非常に重要な要素であると分かりました。痛みによって謙遜となり、思いを深められるようになります。耐え抜くことができたこの経験に感謝しています。

わたしは苦痛の目的について深く考え、この経験から何を学べるか思い巡らすと、苦痛について少し分かり始めました。肉体に痛みを感じ、大手術を受けた後に得る肉体への癒しは、霊に苦痛を覚え、悔い改めの過程を経て得る霊の癒しと酷似していると気づきました。「それゆえ、体も体の命も心に掛けてはならない。霊と霊の命とを心にかけなさい。」(教義と聖約101:37) 「なぜわたしに」「こうだったら」「でさえあれば」などについて考える

4月の総大会が終ってしばらくしてからのことでした。多くの方はすでに御存じでしょうが、わたしは3度目の心臓発作に襲われ、バイパス手術を受けました。優れた医師の方々、熟練した医療チームの努力、そして忍耐強く、愛にあふれ、絶えず看護に当たってくれた妻のメアリー、わたしのためにささげてくださった多くの方々の祈りによって、わたしは祝福され新たな健康と強さを得ました。皆さんのお心遣いとお祈りに感謝しています。

今日は、霊を癒す過程で助けを得る方法について、メッセージをお伝えします。それは、わたしたちを偉大な癒し手、主、救い主であるイエス・キリストに導く方法でもあります。これは、聖文を読み、祈り、瞑想し、必要があれば悔い改めることにより、主の御霊



ことがどれほど意味のないことなのかを理解するようになりました。なぜなら、この世でそれらの答えは与えられないからです。主の慰めを受けるには信仰を行使しなければなりません。「なぜわたしに、なぜわたしの家族が、なぜ今」という疑問は、通常答えにたどり着けない疑問です。これらの疑問はわたしたちの霊性を損ない、信仰を滅ぼすことがあります。むしろ、信仰を築くことに時間と勢力を注ぐ方がはるかに有意義です。わたしたちはそのために主に心を向け、この世の苦痛と試練に耐える強さと、いっそうの理解を目指して終わりまで堪え忍ぶことを願い求める必要があります。

箴言には、「いのちの道に心をとめ」るよう記されています(箴言5:6)。命の道について深く考えると、わたしたちは歩む道を義にかなったものとし、また御霊がわたしたちを導いてくれることに気づきます。「さて、わたしは、キリストの言葉をよく味わうようにあなたがたに言った。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」(2ニーファイ32:3)

キリストの御言葉をよく味わうには聖文を研究し、それらを深く考え、わたしたちのあらゆる思いと行いの一部とすることによって、主の御言葉を吸収しなければなりません。

キリストの御言葉を研究することと同様に、絶えず信仰を込めて祈り、御霊に耳を傾けることも深く考えるために必要な要素です。主はジョセフ・スミスを通して与えられた啓示の中で、わ

たしたちにこのように語られています。

「まことに、わたしは友であるあなたがたに言う。あなたがたの心の中で深く考えるように、わたしはこれらの言葉と、あなたがたに与えるこの戒めとを残す。わたしが近くにいる間に、あなたがたはわたしに呼び求めなければならない。

すなわち、わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。」(教義と聖約88:62-63)

深く考えることによって、わたしたちの思いはこの世のささいな事柄を離れることができます。そして聖霊の「静かな細い声」に聞き従うならば、造り主の優しく導いてくださる御手に近づくことができます(列王上19:12; 1ニーファイ17:45; 教義と聖約85:6参照)。『教義と聖約』の中で主はデビッド・ホイットマーに対してこのように言われました。「あなたの心は、あなたの造り主であるわたしにかかわる事柄……よりも、世の事柄のうえにあった。そして、あなたはわたしの御霊……を心に留め」なかった(教義と聖約30:2)。

主について深く考える、つまり主の御言葉、主の教え、主の戒め、主の生涯、主の愛、主が与えてくださった賜物、わたしたちに対する主の贖罪を考えることによって、救い主と、救い主が与えてくださった命と祝福に対して深い感謝の念に満たされます。

ここ数か月の間、安らかに息を引き取ろうとする家族の一員を前にした家族があらゆる苦痛を克服するという心温まる経験をしました。死を迎えようとする人がこの世に別れを告げる準備をしているときに、家族は平安を感じ、その愛する人を喜んで送り出そうという気持ちになりました。家族は離れ離れになる苦痛を感じていましたが、神権の祝福と家族の祈りを通して、確かにその愛する人と再び結ばれるという復活の知識が家族に平安を与え、それ

らが慰めとなっていました。彼らは信仰を持ち、主に信頼を寄せることによって、「なぜ」とか「だったなら」という答えのない疑問をそれぞれの思いから取り除いて、主の御霊の慰めを感じました。

救い主はわたしたち一人一人の心を御存じです。主はわたしたちの心の痛みを知っておられます。真理を求め、主を信じる信仰をはぐくみ、そして必要なときには心から悔い改めるならば、わたしたちは救い主のみからもたらされる心の霊的な変化を受けます。つまり、わたしたちの心は再び新しくなります。

悔い改めには罪を犯したことを認め、適切な神権指導者に罪を告白し、回復が可能なものをすべて回復し、主に従う決意をすることが含まれます。悔い改めは心に霊的な癒しをもたらします。ベニヤミン王は民に向かってこのように告げました。「そこで、その者がもしも悔い改めず、神の敵である状態で死ぬならば、神の正義の要求が、その者の不滅の霊に強烈な罪の意識を起こさせる。そして、その罪の意識のために、その者は主の御前からしりごみし、またその胸は罪悪感と心痛と苦しみで満たされる。その罪悪感と心痛と苦しみは、炎がとこしえにいつまでも立ち上る、消すことのできない火のようである。」(モーサヤ2:38)

わたしは肉体の苦しみに耐えていたときに、心に受ける痛みと苦しみはもっと大きいことだろうと考えました。そして、救い主イエス・キリストが経験された苦痛に思いをはせました。十字架にはりつけにされたときの鋭く激しい肉体的な苦痛のみならず、人類の不従順がもたらした、いつ果てるとも知れない苦悶を伴う苦痛を主は経験されました。

ベニヤミン王は救い主についてこのように預言しています。「見よ、この御方は数々の試練に耐え、肉体の苦痛や飢え、渇き、疲労に耐えられるが、それは、人にとっては死ぬ以外に耐えないものがないものである。見よ、御自分の民の悪事と忌まわしい行いのために

この御方が受けられる苦しみは非常に激しく、あらゆる毛穴から血が流れ出るほどだからである。」(モーサヤ3:7)

主が受けられた大きく非常に激しい苦しみは肉体上の苦しみではありませんでした。つまり、裁判やあざげり、殴られたりたたかれたりするという暴力、仲間からの裏切りや愛する人々からの拒絶、はりつけという肉体に加えられた行為によるものではありませんでした。確かにこれらすべては現実にあった事柄であり、それぞれに大きな苦痛を与える行為でしたが、救い主は罪を犯した者を癒すために、贖罪においてさらに大きな苦しみに耐えられたのです。

「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。」(教義と聖約19:16-18)

興味深いことに、聖典にはヨブ記とほかに数か所を除いて、肉体的あるいは死すべき体に生じる苦痛に言及した箇所がほとんどありません。聖典中にしばしば登場する苦痛は不従順な人々ゆえに主と主の預言者たちが味わった痛みと苦しみを指しています。

息子アルマは自分の改宗の過程でまさしくその経験をしています。アルマは反抗的でした。さらに激しく反抗したアルマとモーサヤの息子たちは「神の教会を滅ぼそうとして」歩き回っていました(アルマ36:6)。アルマの両親の苦しみと心痛を、もっと大切なことですが、天父とイエスの苦しみと心痛を想像できるでしょうか。そして御二方はついに、アルマに告げるために天使を遣わされました。「たとえあなた自身が滅ぼされようとも、これ以上、神の教会を滅ぼそうとしてはならない。」(アルマ36:9) アルマが不従順を選ん

だことは悲しいことですが、アルマはほかの人々までも引き込んで神の御言葉に逆らわせていました。

アルマは天使を見て、その御言葉を聞いたときの気持ちを述べています。アルマは神に逆らったことや自分のあらゆる罪と不義を思い出したとき、「地獄の苦しみを味わった」と語りました(アルマ36:13)。アルマが味わった苦痛は肉体的な苦痛を超えるものでした。彼は神に不従順であり、反抗したため「永遠の苦痛に責めさいなまれ」ました(アルマ36:12)。

自分の罪の重大さに気づき、それから神に従ったアルマはこのように言いました。「わたしはほかにあり得ないほど激しく、またつらい苦痛を味わった。……それとは反対に、わたしはほかにあり得ないほど美しく、また快い喜びを味わった。」(アルマ36:21)

アルマは悔恨の情をもって悔い改めたために、喜びを得ました。そのときから、アルマと、モーサヤの息子たちを含むアルマと一緒にいた者たちは皆、「自分たちがかつて教会に加えたすべての害悪の償いをしようと熱心に努め、自分たちのすべての罪を告白」し(モーサヤ27:35)、人々をキリストのみもとへ導くために出て行きました。

アルマが苦痛を逃れ、福音の喜びと光を受けるためには、悔い改めて主の赦しを求める以外に方法がありませんでした。主はニーファイ人に真理の知識と熱意あふれる信仰とまことの悔い改めが心の変化をもたらすとお教えになりました。アルマは心の中に大きな変化を経験しました。

この世においてわたしたちは皆、様々な形で苦痛を経験します。事故や痛みを伴う病気からの苦痛、愛する人を亡くしたり、愛する人からの愛情を失ったりしたときの悲嘆から来る苦しみ、孤独感や失意による苦痛を味わうことでしょうか。神の戒めに対する不従順よってもしばしば苦痛を味わいますが、救い主の模範に従って生活するために全力を尽くしている人々にも苦痛はもたらされます。

聖典は「すべての事物には反対のものがなければならぬ」と教えていま

す(2ニーファイ2:11)。すべての人に喜びと幸福の 때가訪れるように、苦痛も地上のあらゆる人に訪れます。わたしたちは肉体的苦痛や精神的苦痛を人生で経験するときに、それらをどのように理解したらよいのでしょうか。

スペンサー・W・キンボール長老はこのように述べています。「わたしたちは生まれる前から、肉体を得て経験するために地球へ来ること、喜びと悲しみ、苦痛と慰め、平穏と苦難、健康と病気、成功と落胆を経験することを知っていました。わたしたちはまた、死を味わうことも知っていました。わたしたちはこれらすべての出来事を喜んで受け入れ、好ましいことと好ましくないことをともに受け入れました。……わたしたちは喜んでここへ来て、あるがままの人生を受け入れていました。」(“Tragedy or Destiny” *Improvement Era*, Mar. 1996, 217)

オーソン・F・ホイットニー長老はこのように記しています。「わたしたちが味わう苦痛、わたしたちが経験する試練は無駄になることはありません。それにより、わたしたちは忍耐、信仰、不屈の精神、謙遜などの資質を伸ばすことを学びます。わたしたちが受けるすべての苦しみ、特に根気よく堪え忍ぶすべての事柄は、わたしたちの人格を築き上げ、心を清め、霊を大きくし、わたしたちを優しく慈愛に満ちた人物へと変え、神の子らと呼ばれるにふさわしくしてくれます。……わたしたちがここへ来て身に付ける教育は悲しみと苦しみ、苦勞と苦難を経験して得るのです。」(“Tragedy or Destiny” *Improvement Era*, Mar. 1996, 217)

苦痛を経験するときに、その回復の過程で介護に当たる人々は非常に大切な役割を果たします。親切な医師、看護婦、治療専門家、愛に満ちた伴侶、両親、子供たち、友人はわたしたちが病気にかかったときに慰めを与え、回復を早めてくれます。いかに自立しているように思えても、ほかの人々から助けを受けなくてはならない時が必ず来ます。わたしたちは彼らに身をゆだねなければなりません。彼らは癒しの過程を助けてくれる人々なのです。

主は究極の介護者であられます。わたしたちは主に身をゆだねなければなりません。そのためには苦痛をもたらすものを皆捨て、すべてを主にゆだねる必要があります。「あなたの荷を主にゆだねよ。主はあなたをささえられる。」(詩篇55:22)「そのときに、神があなたがたのために、神の御子の喜びによって重荷を軽くしてくださるように。」(アルマ33:23) 主を信じる信仰と信頼により、また主の勧告に従うことによって、わたしたちはいつの日か主の御前に戻るとともに住むためにイエス・キリストの贖罪にあずかることができます。

主に信仰と信頼を寄せるには、毎日、時には毎時間、あるいはあらゆる瞬間に、苦痛と闘わなければなりません。けれども最終的には預言者ジョセフ・スミスがリバティーの監獄において、自分が忘れられた孤独な存在であると感じ、その苦痛と闘っていたときに与えられたすばらしい勧告の意味を理解することになります。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間すぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう。」(教義と聖約121:7-8)

この世の試練に遭って苦痛を経験するとき、その経験から何を学べるかを考えようではありませんか。逆境に打ち勝つときに偉大な教訓を学ぶことができます。わたしたちの救い主は、聖文を研究し、深く考え、天父に祈ることにより、わたしたちが主のみもとへ来るよう待っておられます。わたしたちは、主から癒されて自らを高め人々を強めるため、主に近くあらなければならないのです。アルマのように、それらの教訓を自分のものとするならば、わたしたちは偉大な祝福を受け、人々の生活に祝福をもたらすために主の御手に使われる者となることでしょう。わたしたちがこのような人となれるよう、イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

# 常に感謝する

第一副管長

トーマス・S・モンソン

わたしたちは「<sup>たまもの</sup>言いつくせない賜物」〔2コリント9:15〕と豊かに注がれる祝福に対して神に感謝しているでしょうか。



その昔、遠く離れた地の記録にこうあります。「イエスはエルサレムへ行かれるとき、サマリヤとガリラヤとの間を通られた。

そして、ある村にはいられると、十人のらい病人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちとどまり、

声を張りあげて、『イエスさま、わたしたちをあわれんでください』と言った。

イエスは彼らをごらんになって、『祭司たちのところに行って、からだを見せなさい』と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。

そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰ってきて、

イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。

イエスは彼にむかって言われた、『き

よめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。

神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか。』

それから、その人に言われた、『立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ。』<sup>1</sup>

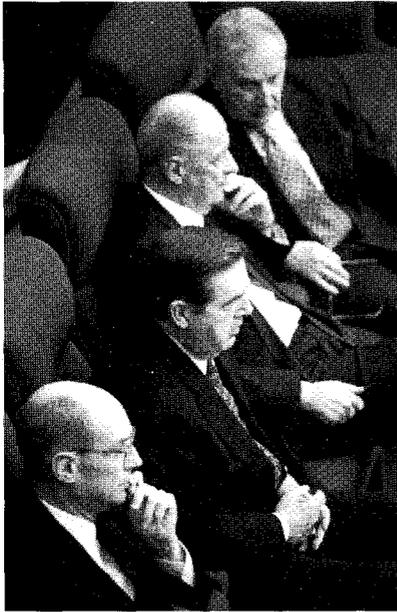
詩篇の第30篇で、ダビデは言いました。「わが神、主よ、わたしはとこしえにあなたに感謝します。」<sup>2</sup>

使徒パウロはコリント人への手紙の中で、「言いつくせない賜物のゆえに、神に感謝する」<sup>3</sup>と述べ、テサロニケの人には「すべての事について、感謝しなさい。これが……神があなたがたに求めておられることである」<sup>4</sup>と書き送りました。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは「言いつくせない賜物」と豊かに注がれる祝福に対して神に感謝しているでしょうか。

アルマの次の言葉について考えてください。「さて、兄弟たち、神は民がどの地に住んでいようと、すべての民を心にかけてくれることが分かる。まことに、神は御自分の民を数えておられ……る。これがわたしの喜びであり、わたしの深く感謝しているところである。わたしはとこしえに神に感謝をささげよう。」<sup>5</sup>

ロバート・W・ウッドラフは、一昔前のビジネス界の傑出したリーダーで、合衆国各地で「人間関係速修コース」と題するセミナーを開きました。彼はその中で、英語において最も大切な二つの単語は、「Thank you」(あり



十二使徒定員会会員。左から、ヘンリー・B・アイリング長老、ジェフリー・R・ホランド長老、ロバート・D・ヘイルズ長老、リチャード・G・スコット長老。

がとう)であると述べています。

グラシアス、ダンケ、メルシーなど、言語は違っても、「ありがとう」を頻繁に使えば、自分の霊は高まり、友情の輪が広がり、皆さんが完成に向かって旅するとき、より高い道を歩むことができます。「ありがとう」と言うとき、そこには気取りも偽りもありません。

美しく感銘的な感謝の発露が、数年前の新聞記事に載りました。

「コロンビア警察署で金曜日に、所有者不明の100台の自転車の競売が行われた。最初の競りが始まると、11歳の少年が『1ドル』と言った。しかし、もっと高い価格で競り落とされた。それから自転車が出てくる度に、少年は期待を込めて『1ドル』と叫んだ。

43年間、盗難車や放置された自転車を扱ってきた競売人は、競走用の自転車のときに限って少年の声が高まるのに気づいていた。

いよいよ最後の競走用自転車で、価格は8ドルまで上がった。『その坊やに9ドルで落札!』競売人はそう言うと、自分のポケットから8ドルを取り出し、少年に1ドルを求めた。少年は、1セントや5セント、10セント、25セントの硬貨を探し出して渡し、自転車に乗って帰りかけた。しかし、すぐに止まる

と、丁寧に自転車を置いて駆け戻り、感謝を込めて競売人の首にしがみついた泣きだしたのだった。』

この少年のように、深い感謝の気持ちを感じたのは、いつのことだったでしょうか。

自分のために人がしてくれたことは、たとえ感動的でなくても、感謝の言葉に値するものです。

青少年のころに日曜学校でよく歌った賛美歌は、わたしたちの心の奥底に感謝の精神を根づかせました。

この世の<sup>あらし</sup>嵐にもまれ  
希望の<sup>う</sup>失せしときには  
かつて受けし主の恵み  
数えてみなば驚かん<sup>6</sup>

宇宙飛行士のゴードン・クーバーは、30年以上前に地球の軌道を回ったとき、簡潔で美しい感謝の祈りをささげました。「父よ、この飛行に参加できたことを感謝します。

このすばらしい空間にいて、あなたが創造されたこれらもろもろの驚くべき業を見ることができの特権に感謝します。』<sup>7</sup>

わたしたちが感謝するものは、数え切れない祝福や計り知れない賜物、「書籍や音楽や芸術、これらの祝福を可能にしてくれた発明、……子供たちの笑い声、……人類の苦痛を和らげ、……人生の喜びを……増してくれる手段、……そしてすべての望ましいものと人を高めてくれるもの」<sup>8</sup>です。

預言者アルマは勧めています。「あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。

そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。まことに、夜寝るときは、眠っている間も主が見守ってくださるよう、主に身を託して寝なさい。そして、朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。これらのことを行うならば、終わりの日に高く上げられるであろう。』<sup>9</sup>

わたしは3つの例を挙げて、心からの感謝が悲しみに沈んだ人を元気づけ、正しい行いを促し、日々の問題に天の祝福をもたらすことを示したいと思

います。

【第1に、両親に感謝したいと思います。両親はわたしたちに命を与え、世話をし、犠牲を払い、天父の幸福の計画を教えようと努めてくれました。

シナイ山で与えられた言葉がわたしたちの心に鳴り響きます。「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。』<sup>10</sup>

救い主が十字架上で語られた言葉ほど、両親への優しい言葉をわたしは知りません。

聖文にこうあります。「イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、『婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です。』

それからこの弟子に言われた、『ごらんなさい。これはあなたの母です。』そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。』<sup>11</sup>

【第2に、学校や教会の教師に感謝する機会があったでしょうか。教師はわたしたちの学習意欲を高め、誉れある生活をする決意を徐々に植えつけてくれました。

ある人々が集まって、自分の生活に影響を及ぼし、今も感謝している人について話し合っていました。一人の男性は、英国の詩人テニソンを紹介してくれた高校の教師のことを考えました。そこで、彼女に感謝の手紙を書くことにしました。やがて、弱々しい筆跡で、その教師から返事が来ました。

「親愛なるウィリーへ

あなたの手紙がどんなにうれしかったか言葉に尽くせません。わたしは80代になり、狭い部屋で自炊をしながら、最後に残された1枚の葉のように一人寂しく暮らしています。興味深く思うでしょうが、50年間教師をしていて、感謝の手紙をもらったのは、あなたが初めてです。それは寒々とした憂うつな朝に届いて、何年も感じられなかったほど、わたしを元気づけてくれました。』

過去や現在において、わたしたちが祝福を得られるように多くを与えてくれたすべての人に対して、わたしたち



土曜日午前の部会で、トーマス・S・モンソン副管長はマレイ高校学園祭のクイーンに選ばれたシェリー・アイリーを紹介した。シェリーを祝福する友人やほかのクイーン候補者たち。  
写真/デゼルトニュース社、チャック・ウイング氏の厚意により掲載。

は感謝という面で永遠の負債を負っているのです。

〔第3に、仲間に対する感謝の言葉〕について話しましょう。10代というのは、親にとっても、まだ子供自身にとっても難しい時期になります。それは、少女少女の生活の中で試しの時です。少年たちはフットボールチームに入ることを願い、少女たちはビューティークイーンになることを夢見ます。しかし「招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない」<sup>10</sup>という原則が、ここでも適用されるのです。

1年ほど前に、ソルトレーク・シェリー近郊のマレイ高校で起こった現代の奇跡を紹介しましょう。そこでは、全員が勝利者で、敗者はいません。

その出来事を報じた新聞記事の見出しはこうです。「学園祭に表れる真の精神、二人の身障者の少女、マレイクイーン候補に選出」そして本文が続きます。「テッド・アイリー、ルース・アイリー夫妻は、両親であればだれでもすることを行った。娘のシェリーがマレイ高校学園祭のクイーン候補になったとき、優勝できなくても悪びれないように助言した。そして、10名の中

から1人だけがクイーンに選ばれることを説明した。……木曜の夜に学校の体育館で、生徒会役員が〔候補者の〕表彰をしたとき、シェリー・アイリーもその中にいた。そして、ダウン症をもって生まれた17歳の少女が、生徒たちの投票により、学園祭のクイーンに選ばれた。……候補者の名が呼ばれ、父親のテッドが娘をエスコートして行くと、体育館は割れんばかりの拍手と歓声に包まれた。二人は全員総立ちの中で、大喝さいをもって迎えられた。……」シェリーが受けた大喝さいは、別の候補者エイプリル・パーションにも送られました。

彼女はわずか10歳のときに脳いっ血を思い、心身に障害がありました。

喝さいが静まると、副校長のグロ・メルリが言いました。「『今晚……皆さんは心の美しさに投票しました。』……感極まった両親や学校の理事、生徒たちが、人目もはばからず泣いていた。』一人の生徒が言いました。「『とてもうれいす。彼女たちが出て来たとき、泣いてしまいました。マレイ高校は最高です。』」<sup>11</sup>

この夜の忘れられない思い出を作っ

てくれた一人一人の皆さんに、心から感謝します。スコットランドの詩人、ジェームズ・バリーの言葉が思い浮かびます。「神はわたしたちに記憶を与えてくださった。それは、人生のつらい冬の時期に、6月のばらを心の中に思い描けるようにするためだ。」

今年の8月に、ソルトレーク郡で悲劇が起きました。地元や全国の新聞で報道されました。まだ幼く、活発で、愛らしい5人の少女が、子供たちがよくかくれんぼをするときのように、両親の車のトランクの中に隠れていました。突然トランクが閉まって、出られなくなり、5人は高温のために亡くなったのです。

地域の人々はとても親切で、優しく、思いやりがあり、亡くなったアリシャ、アシュリー、マッケル、オードリー、ジェイシャの家族のために、花束や食事を届け、電話や弔問をし、祈りをささげました。

悲惨な出来事があった次の日曜日、悲しみに沈む人々を乗せた車の長い列が、事件のあったスミス家の前をゆっくりと通り過ぎて行きました。妻とわたしも、この方法で哀悼の意を表したいと思いました。その場所に近づくと、聖なる地にいるように感じました。道に沿って文字どおり這うようなスピードで進みました。「子供に注意、最徐行」という交通標識が思い浮かぶかのようでした。目から涙があふれ、心は哀れみの念に満たされました。

葬儀では、前の晩と同じように、数千人がひつぎに別れを告げ、悲しむ両親や祖父母に慰めの言葉をかけました。3家族のうち2家族は、すべての子供を亡くしてしまいました。

死はじゃま者として、度々やって来ます。また、人生の祝宴の最中に突然現れて、喜びを奪い去ります。死は、よろめきながら歩む老人のもとを訪れます。また、人生の旅路を半分も行っていない人々を連れ去り、しばしば幼い子供の笑い声を奪います。

5人のかわいい天使の葬儀で、わたしはこのように助言しました。「皆さんの考えや口に出す言葉から、消さなければならないフレーズが一つありま

す。それは、『もしこうしていたら』  
です。それは何の助けにもなりません  
し、心の癒しや平安をもたらすことも  
ありません。むしろ、箴言の言葉を思  
い出してください。『心をつくして主  
に信頼せよ、自分の知識にたよっては  
ならない。すべての道で主を認めよ、  
そうすれば、主はあなたの道をまっす  
ぐにされる。』<sup>14</sup>

ひつぎを閉じる前にふと見ると、そ  
れぞれの子供が大好きだったおもちゃ  
を抱いていました。わたしの心に、ユ  
ージン・フィールドの詩が浮かんでき  
ました。

おもちゃの小犬はちりに埋もれながら、  
でもしっかりとけなげに立っている。  
おもちゃの兵隊は赤くさび、  
両手の小銃は青さびをふいて。  
おもちゃの小犬が真新しかったあのころ、  
おもちゃの兵隊がピカピカだったころ、  
かわいいブルー坊やがおもちゃに唇を  
寄せて  
そこへ座わらせたあとき。

「ねえ、ぼくが来るまで行かないで。」  
「静かに、静かにしてね。」  
そう言って坊やはベッドに歩いて行き、  
かわいいおもちゃの夢を見た。  
かわいいブルー坊やは、夢を見ている  
うちに世を去り、  
天使の歌声で目を覚ました。  
ああ、多くの歳月は過ぎ去った。  
でも小さなおもちゃの友達は今も  
変わらず忠実に！

昔と同じその場所で  
小さな手が触れるのを待ち  
かわいい顔のほほえみを待っている。  
あの小さなすのほこりの中で、  
長い長い年月を待ちながら  
どうしたのかと不思議そう。  
かわいいブルー坊やはどうしたの、  
唇を寄せてそこに座らせてくれた、  
あときから。<sup>15</sup>

おもちゃの子犬や兵隊は不安がるか  
もしれません。しかし、憐れみに満ち  
た神は、悲しむ人々を不安のままには  
しておかれませぬ。真理を教えてください

さいます。主を求めるように靈感を与  
え、その御手を伸ばして優しく抱いて  
くださるでしょう。イエスは悲しむ人  
に約束されました。「わたしはあなた  
がたを捨てて孤児とはしない。あなた  
がたのところに帰って来る。」<sup>16</sup>

真の平安の源はただ一つです。すず  
めが落ちるのも御存じの主は、大切な  
子供たちから一時的にせよ引き離され  
た人々に憐れみを寄せておられます。  
癒しと平安の賜物がぜひとも必要であ  
り、イエスは贖いを通して、すべての  
人のためにそれを備えられたのです。

預言者ジョセフ・スミスは、啓示と  
慰めに満ちた言葉を語っています。

「責任を負う年齢に達する前に死ぬ  
子供たち〔は〕皆、天の日の栄えの王  
国に救われる……。」<sup>17</sup>

「幼子を亡くして、その子をこの世で  
成人になるまで育てる特権と喜びと満  
足を失った母親〔と父親〕は、復活した  
後に、この世でその子を霊の完全な大  
きさにまで成長させることにより得ら  
れる以上の喜びと満足と楽しみを得る  
であろう。」<sup>18</sup> これはギレアデの乳香の  
ように、悲しむ人々や、大切な子供を  
亡くした人々に慰めをもたらします。

詩篇の作者はこう約束しています。  
「夜はよもすがら泣きかなしんでも、  
朝と共に喜びが来る。」<sup>19</sup>

主は言われました。「わたしは平安  
をあなたがたに残して行く。わたしの  
平安をあなたがたに与える。わたしが  
与えるのは、世が与えるようなもの  
とは異なる。あなたがたは心を騒がせる  
な、またおじけるな。……わたしの父  
の家には、すまいがたくさんある。も  
しなかったならば、わたしはそう言っ  
ておいたであろう。あなたがたのため  
に、場所を用意しに行くのだから。…  
わたしのいる所にあなたがたもおら  
せるためである。」<sup>20</sup>

わたしは愛にあふれた天父に心から  
感謝しています。天父は、皆さんや、  
わたしや、熱心に求めるすべての人に、  
死が終わりではないことと、神の御子、  
救い主イエス・キリストがわたしたち  
を生かすために死なれたことを教えて  
くださいました。主の神殿が多くの  
国々に点在し、神聖な聖約が交わされ

ています。日の栄えの栄光が従順な人  
を待っています。家族は永遠に続くの  
です。

主はすべての人を招いておられます。

「すべて重荷を負うて苦勞している  
者は、わたしのもとにきなさい。あな  
たがたを休ませてあげよう。」

わたしは柔和で心のへりくだった者  
であるから、わたしのくびきを負うて、  
わたしに学びなさい。そうすれば、あ  
なたがたの魂に休みが与えられるであ  
らう。<sup>21</sup>

これらが実現するよう、へりくだり  
感謝を込めて、イエス・キリストの御  
名により祈ります。アーメン。

注

1. ルカ17:11-19
2. 詩篇30:12
3. 2コリント9:15
4. 1テサロニケ5:18
5. アルマ26:37
6. ジョンソン・オートマン・ジュニア  
(1856-1922), 「み恵み数えあげ」  
『賛美歌』153番
7. Congressional Record, 88th  
Cong. 1st sess. 1963, 109, pt.  
7:9156.
8. Three Centuries of Thanksgiving,  
Etude Music Magazine, Nov.  
1945, 614.
9. アルマ37:37
10. 出エジプト20:12
11. ヨハネ19:26, 27
12. マタイ22:14.
13. Marjorie Cortez, Deseret News,  
26 Sept. 1997, pp. A1, A7.
14. 箴言3:5, 6
15. Little Boy Blue, in Best-Loved  
Poems of the LDS People, ed.  
Jack Lyon and others (1996),  
50.
16. ヨハネ14:18
17. 教義と聖約137:10
18. 『福音の教義』433-434
19. 詩篇30:5
20. ヨハネ14:27, 2-3
21. マタイ11:28, 29

# 教会役員の支持

第一副管長

トーマス・S・モンソン



総大会土曜午後の部会で教会役員の支持を取る  
トーマス・S・モンソン第一副管長。

**兄** 弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長からの要請により、これから中央幹部、地域幹部七十人、ならびに教会の中央補助組織会長会の方々の名前を提議しますので、皆さんに賛意の表明をしていただきたいと思ひます。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持して下さるよう、また、大管長会第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第二副管長としてジェームズ・エストラス・ファウストを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいればその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、また十二使徒定員会

会員としてボイド・K・パッカー、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリングを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいれば、その意を表してください。

大管長会の副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいれば同じようにその意を表してください。

わたしたちは、ジャック・H・ゴーズリンド長老、W・ユージン・ハンセン長老、ジェームズ・M・パラモア長老、ロナルド・E・ポールマン長老を、感謝の挙手をもって七十人第一定員会の名誉会員として公式に任命したいと思います。賛成の方はその意を表してください。ありがとうございます。

モンティ・J・ブラフ長老、W・ユージン・ハンセン長老、ジャック・H・ゴーズリンド長老を七十人会長会会員の責任から感謝の挙手をもって解任するよう提議いたします。また、ジャック・H・ゴーズリンド長老、ロバート・

K・デレンバック長老、F・メルビン・ハモンド長老を中央若い男性会長会から、そして中央日曜学校会長会のグレン・L・ペイス第一副会長とニール・L・アンダーセン第二副会長を、感謝の挙手をもって解任するよう提議いたします。この感謝を表明して下さる方はその意を表してください。

わたしたちは、D・トッド・クリストファーソン、マーリン・K・ジェンセン、デビッド・E・ソレンセンの各長老を七十人会長会会員として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方は同じようにその意を表してください。

わたしたちは、中央日曜学校会長会の第一副会長としてニール・L・アンダーセン長老を、第二副会長としてジョン・H・グローバーク長老を支持するよう提議いたします。また、ロバート・K・デレンバック長老、F・メルビン・ハモンド長老、ジョン・M・マドセン長老を中央若い男性会長会の一員として支持するよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方は同様にその意を表してください。

わたしたちは、そのほかの中央幹部、地域幹部七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方は同じようにその意を表してください。

ヒンクレー大管長、提議は全員一致で賛意の表明が得られたようです。兄弟姉妹の皆さんの信仰と祈りに感謝いたします。



# シオンにおける親

十二使徒定員会会長代理  
ボイド・K・バッカー

指導者のみなさん、親や家族に不必要な負担がかかるような召しを行ったりスケジュールを立てたりすることのないよう、家族のことに注意してほしいと思います。



1831年、主は、シオンにおける親たちに啓示を与えられました。わたしは、親の責任についてお話ししたいと思います。

わたしはこれまで、十二使徒として28年、十二使徒会補助として9年間働いてきました。両方合わせると37年で、わたしの人生のちょうど半分にあたります。

しかし、わたしは、もう一つの召しをそれ以上の年月にわたり務めてきました。わたしは父親であり、祖父です。この祖父という呼ばれ方をされるようになるまで、何年もかかりました。あと20年たてば、曾祖父と呼ばれるようになります。父親、祖父、母親、祖母、などと呼ばれる人々には、それに応じた責任と権威が伴います。その一部は経験から生じるものです。経験は、人

を動かさずにはおかない教師のようなものです。

わたしの神権の召しは、教会におけるわたしの務めを明確に示しています。それと同じように、祖父という呼び方は、家族の中におけるわたしの務めを明らかにしています。この二つのことについてお話ししたいと思います。

親としての務めは、末日聖徒が専心する数々の事柄の中でも、最も重要なことです。

親としての責任を果たすことと、教会の活動を忠実に行うことのバランスをどのように保つべきかで思い悩んでいる会員が大勢います。

家族の幸せにとって欠かせないもので、教会に行くことによってしか得られないものがあります。一つは、神権です。神権は妻や子供を導いて祝福をもたらす力を男性に与えます。そしてもう一つは、家族を永遠に結び固める聖約です。

教会の会員たちは「しばしば集まる」ように命じられ「集まるとき……互いに教え合い、教化し合わなければならない」と教えられています。モーサヤとアルマは自分たちの民に、同じような指示を与えています。<sup>4</sup>

わたしたちは「父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる」ように命じられています。<sup>5</sup>

主は、ジョセフ・スミスの名を呼び、こう言われました。「あなたは戒めを守らなかったで、主の前に必ず責めを受けなければならない。」<sup>6</sup> ジョセフ

が子供たちに教えなかったからです。彼に対する叱責の中で「責め」という言葉が使われたのはこのときだけです。

彼の副管長であったフレデリック・G・ウィリアムズも同じようなとがめを受けました。「あなたは……あなたの子供たちに光と真理を教えてこなかった。」<sup>7</sup> シドニー・リグドン、またニューエル・K・ホイットニー監督<sup>8</sup>も同様のとがめを受けました。そして主は「わたしは一人に言うことをすべての者に言う」<sup>9</sup>と付け加えられました。

今日に至るまで、道德の標準は際限なく低下してきました。しかし、それと同時に、両親や家族に対して、靈感による指導が豊かに与えられています。

教会の教科課程や活動はすべてが再編成され、家庭との相互調整が図られるようになってきました。

- ワードティーチングがホームティーチングになりました。

- 家庭の夕べが再び行われるようになりました。

- 「系図」が、「家族歴史」に改称され、すべての家族の記録を集めるようになりました。

- 大管長会と十二使徒評議会によって家族に関する歴史的な意義を持つ宣言が発表されました。

- 「家族」は、集会、大会、評議会などの最も大切なテーマとなりました。それは今も変わることがありません。

- 以上の事柄は、すべて、かつて例のない神殿建設時代の前触れです。神殿では、家族を永遠に結び固める権能が行使されています。

靈感の霊が主の僕や両親に宿っていることがお分かりいただけるでしょうか。わたしたちは今家族に向けられているチャレンジや攻撃を理解しているでしょうか。

家族のために戸外で活動をしようとする場合、注意が必要です。そうしないと、家族のためなら何でも提供しようとしていたある父親のようになってしまうからです。その父親は、そのために自分の全力を尽くし、いろいろな成果を収めました。ところが、最も必要とされていたのは家族として一緒にいることだったのに、結局それを

おろそかにしてしまったのです。彼は喜びの代わりに悲しみを刈り取りました。

プログラムや活動を組むのに夢中になり、親としての責任や、家族として一緒に過ごす時間を持つ責任をなおざりにしてしまうのは容易なことです。

教会のプログラムや活動が、一部の家族の過度の負担となることのないように注意しましょう。福音の原則は、それが正しく理解され、応用される場合は、個人と家族を強め、守りとなります。家族への献身、教会への献身は、別個のものでも切り離して考えるべきものでもありません。

「あの人は赤ちゃんができてから、教会では何にもしていない」という話を耳にして、次のように自分の考えを述べた女性に最近会いました。赤ちゃんを抱いた彼女の姿が浮かぶようです。彼女は感情を込めて言いました。「あの人は教会で大切なことを**している**と思うわ。赤ちゃんを生み、育て教えているのよ。彼女は、自分が教会でできるいちばん大切なことをしているのよ。」

次のような質問に、皆さんはどう答えますか。「障害のある子供を抱えていて、彼女はいつも家にしぼられ、ご主人は、重なる出費を賄うために仕事を二つしています。あの人たちはめったに教会に来ません。彼らは活発会員と言えるでしょうか。」

「わたしの夫は、善い父親ですが、監督やステーク会長になったことがなく、教会で何か大切な責任を果たしたこともありません」と女性が言うのを聞いたことがあります。それに対して、ある父親は強い口調でこう言いました。「父親としての責任をよく果たすこと以上に、大切なことが何かあるのでしょうか」と。

教会にまじめに出席すること、家族が必要としていることに注意すること、この二つがそろえば、ほとんど完璧です。教会では、「偉大な幸福の計画」<sup>10</sup>が教えられています。家庭では、学んだことを応用します。教会での召しや働きは、家庭にも応用できる経験や物の見方を与えてくれます。

例えば、少しの間、子育てを教会の

召しとして見れば、もっと分かりやすくなるでしょうか。実際は、召し以上のものですが、しばらくそのような見方をすれば、家族との時間を計画するとき、もっとよくバランスを取ることができるでしょう。

わたしの言うことを言い訳にして、靈感による召しを断ることのないようにしてください。しかし、指導者の皆さん、親や家族に不必要な負担がかかるような召しを行ったりスケジュールを立てたりすることのないよう、家族のことに注意してほしいと思います。

わたしは最近若い夫婦からの手紙を読みました。教会の召しのために幼い子供たちの子守を雇わなければ集会に出席できないことが頻繁にあるということです。また、二人が同時に、子供たちと一緒に過ごすのが難しいとのことでした。どういう点でバランスが悪いのか、お分かりいただけるでしょうか。

小さな子供たちのための活動を計画すると、必ず家族、特に母親もその活動の影響を受けることになります。

自分自身の責任や夫の責任に加えて、子供たちの支度をして、一つの活動が済んだらまた別の活動へと連れて行かなければならない母親のことを考えてください。中には気持ちがあくじけ、意気消沈してしまう母親もいます。何もかもできないために「罪の意識を感じる」という言葉を使った手紙を読んだことがあります。

教会の活動への参加を通して、日常生活のプレッシャーからの休息が得られるようであればなりません。それは安らぎと喜びとならなければなりません。もしそれがプレッシャーとなり、落胆をもたらすならば、どこかバランスがおかしくなっているのです。

親の責任は教会だけではありません。家族に懸かってくるのはほかにもあります。学校、職場、地域社会、などすべての面でバランスを保つ必要があります。

最近、ある母親の話の聞ききました。その家族は、教会員が広い地域に散在している、田舎のワードから来ました。そのような状況だったために、そのワードでは教会の様々な活動は、週日の

一晩にまとめて行われていました。それは良いことでした。家族として過ごす時間がありました。一緒にテーブルを囲む姿が目に見えます。

その家族は、西部のもっと大きなワードに移りました。ワードの会員たちは、集会所の近くに住んでいました。彼女は、「今では、火曜の晩、水曜日の晩、木曜日の晩、金曜日の晩、土曜日の晩、日曜日の晩、と必ず何かあるので、家族が大変です」と書いています。

小さな子供たちのための活動を計画すると、必ず家族、特に母親がその活動の影響を受けるということをお忘れな

いでください。ほとんどの家族は一生懸命やります。しかし、健康面や経済的な問題で苦しくなってくると、何とか頑張ろうとは思いつつも疲れ果てて、不活発な状態になってしまう人々もいます。彼らは、光と真理の最良の源を離れ、また家族のための助けの源を離れて、危険と悲しみが待つ暗黒へと向かっていることに、気がついていないのです。

わたしは、最も解決の難しい問題に触れたいと思います。家庭の中で、あまり教えや支えを得られない子供たちがいます。そうしなければならないことは分かりきっています。しかし、そのような家庭でそれが行われていないのを補うために、教会で常にいろいろ活動を予定した場合、そうしようと心がけている親が自分自身で子供に教えたり、一緒に時を過ごしたりする時間が持たなくなってしまうことも考えられます。バランスの取り方の難しいこの問題については、祈りと靈感による導きに頼るしかありません。

「子供が不健全な場所に行かないようにするには、おもしろい活動を頻繁にしなければなりません」という言葉をよく耳にします。そのような所に行く若人は必ずいます。しかし、親たちに責任を果たすべきことを教え、十分な時間の余裕を与えるならば、やがて子供たちは家庭にとどまるようになるでしょう。

家庭では、教会や学校では効果的に教えられないことを、学ぶことができます。家庭では、働くことと、責任を

取ることを学ぶことができます。将来自分に子供ができたときに、どうしたらよいかについても学びます。

例えば、子供たちは教会で、<sup>じゅうぶん</sup> 什分の一の原則を学びます。しかし、原則が実践されるのは、家庭です。幼い子供でも、家庭において、什分の一の額をどのように計算し、どのようにして納めるのかを、見せてもらうことができます。

一度ハロルド・B・リー大管長と夫人を我が家にお迎えしたことがあります。リー姉妹は、我が家の幼い息子を前にして、一つかみほどの1セント玉をテーブルに置きました。リー姉妹は息子に、ピカピカ光る1セント玉を幾つか取り分けさせ、「これがあなたの払う什分の一。これは主のものよ。残りは、あなたのもの」と言いました。息子は、両方をじっくり見詰めてからこう言いました。「汚れた1セント玉はもったいないの。」我が子に教えなければならなかったのはこのときでした。

ワード評議会は、家庭と教会のバランスを保たせるための格好の場です。父親の立場にある神権者の方々と、母親である補助組織の姉妹たちが、靈感による導きを受けながら、組織間の調整をします。家族の各人はそれぞれにいずれかの組織に登録され、その組織の助けを受けることができます。

評議会では、それぞれの組織が各会員のためにどのような助けをしているか、またどのくらいの時間と費用がかかるのか、などを比較検討することができます。家族を分けてしまうのではなく一つに結び合わせることができるのです。ひとり親の家庭や、子供のいない夫婦、独身者、高齢者、障害を持つ人々などに注意深く関心に向け、単なる活動以上のものを子供や若人たちにも与えることができます。

ワード評議会は、人々に助けを与えるための源となる人材を見送ってしまうことがよくあります。例えば、年配の方がそうです。彼らは、教会の召しはなくても、自分たちがかつて歩んできたと同じ道を進んでいる若い家族に援助の手を差し伸べることができます。



主は子供を持つ人々に対してこう警告されました。「シオンにおいて……子供を持つ両親がいて、8歳のときに、悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと<sup>あんしん</sup> 按手による<sup>たまもの</sup> 聖霊の賜物の教義を理解するように彼らを教えなければ、罪はその両親の頭にある。」<sup>11</sup>

ワード評議会は、わたしたちが現在必要としていることを満たすための理想の場です。この評議会は、家庭と家族が適切なバランスを保って、落ち着けるように助けることができます。また教会は、親に取って代わるのではなく、親たちを支えることができます。そして父親と母親は、子供たちに教える義務を理解し、教会を通して得られる祝福を理解するでしょう。

世の中の荒廃が進むにつれ、天の力は親たちと家族にますます近づいています。

わたしは聖典の中から多くのことを学び、それを教えてきました。預言者や使徒たちの言葉からもたくさんのことを学ぶことができました。それらの教えを通して、わたしは一人の男性として、また父親として、多大な影響を受けてきました。

しかし、天の御父がわたしたち神の子供についてどのように感じておられるかについては、そのほとんどを、自分自身が、妻や子供、孫たちについてどのように感じているか、ということから学ぶことができました。このことをわたしは家庭で学びました。わたしはそれを、両親から、妻の両親から、愛する妻から、また子供たちから学びました。ですから、優しい天の御父、<sup>あか</sup> 贖いの主について証<sup>あかし</sup> することができます。イエス・キリストの御名<sup>みな</sup> によって、アーメン。

注

1. 教義と聖約68：25
2. 教義と聖約20：75
3. 教義と聖約43：8
4. モーサヤ18：25；アルマ6：6参照
5. マラキ4：6。3ニーファイ25：5-6；教義と聖約2：2-3も参照
6. 教義と聖約93：47
7. 教義と聖約93：41-42参照
8. 教義と聖約93：44, 50
9. 教義と聖約93：49
10. アルマ12：32参照
11. 教義と聖約68：25

# 神聖な特質を養う

十二使徒定員会会員  
ジョセフ・B・ワースリン

信仰、希望、慈愛が生活の中で絶対必要な構成要素となるのに応じて、新たな霊性のレベルに到達し、さらにイエス・キリストに近づいた生き方ができるようになります。



わたしたちは、祝日や誕生日などの重要な日付について、カレンダーに印を付けることがよくあります。毎年巡って来るそのような日付は、自分自身が日々の生活の中でどれほど成長したかを評価する助けとなります。そのような日の一つである、元日は反省と決意の日です。

霊的な再生を記念するバプテスマ記念日は、特別な関心を向ける価値のある日です。わたしたちは、神殿の結び固めを受けた日を、特別な記念日として思い起こします。なぜならその儀式はわたしたちを最も愛する人々と永遠に結びつけてくれるものだからです。ふさわしさを判断するための面接、特に年に1度行う、神殿推薦状を受けるための面接は、一人一人が天の御父から授けられたすばらしい管理の職を果

たしていく中で、どれほど成長しているかを見直すもう一つの機会を与えてくれます。確かにわたしたちは自分自身をよく見詰め、内面の成長を図らなければなりません。このような機会を通してわたしたちは聖約と決意を新たにし、永遠の目標をしっかりと心に刻むのです。

人の生涯の中でたった一度しか経験しない出来事が幾つかあります。例えば、あと15か月足らずで、正確に言えばあと454日たつと、新しい年の元日を迎えることとなります。そのときにはカレンダーの年数を表示する4つの文字がすべて変わります。幾つかの公的な世論調査によると、もうすぐやって来る暦上のこの特別な変化に対する人々の関心は日に日に高まりつつあるといえます。様々な調査結果は、人々がその時が来るのを「非常に明るい見通しをもって」楽しみに待っていることを示しています。ある人は次のように予想しています。その西暦2000年の暦上の変化は「人々の生活の中で重要な里程碑となるでしょう。またいつとき歩みを止めて、新たなスタートを切る機会となるでしょう。」<sup>1</sup>

## 現世における救い主の教導の業

この世への救い主の誕生は、約2000年前に起きた、非常に重要な意義を持つ出来事です。世界中の多くの国々で救い主の誕生を基準として暦が定められています。救い主は悔い改めの福音を教え、御自身の教会を組織し、全人

類の罪を贖い、十字架につけられました。しかし、救い主は復活され、すべての人々のために死を克服し、悔い改めを条件にわたしたちが罪の赦しを受けるための道を開いてくださいました。救い主の教えは、人間の取るべき行動の基準を明確にしました。そしてその基準は永遠に変わることがありません。

## 救い主の再臨

今の時代の数々の問題を免れたいという思いからなのでしょう。救い主の再臨が差し迫っていると盛んに言っている人々がいます。しかし主でさえ、御自身が勝利をもって地上にお戻りになる時のことについて語られたとき、「その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。」<sup>2</sup>と言われただけで、それ以上のことを明らかにされなかったのではないのでしょうか。救い主はこの真理をオリブ山においてお教えになりましたが、近代の啓示の中でも、預言者ジョセフ・スミスを通して「その時、その日は、だれも知らない」と繰り返して述べられました。

そうです。「キリストが自ら地上を統治される」<sup>3</sup>時がいずれやって来ます。1831年よりも今がその時に近づいているのは確かです。1831年に主は教会の長老たちに「あなたがたは働きなさい。……わたしのぶどう園で最後の働きをなさい。地に住む者に最後の呼びかけをなさい。……わたしが僕たちの口を通して語った、大いなる福千年が来る」<sup>4</sup>と勧告されました。

わたしたちは救い主の再臨の時がいづかの正確には知りません。しかし、自分たちが末日に生きていて、救い主が現世におられた時の中間よりもさらに再臨に近い時代にいるということは知っています。わたしたちは救い主の再臨に備えるために、決意を新たにさらに従順な生き方をしなければなりません。現世の生涯はつかの間です。わたしたちには主にまみえる備えとして、多くのなすべき事柄があります。末日聖徒として「わたしたちはすべてのことを信じ、すべてのことを望む。……

どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。』<sup>6</sup>わたしたちが信じているもので、さらなる前進を促しているのは一体何でしょうか。わたしたちは何を望んでいるのでしょうか。わたしたちが尋ね求めるべき徳高いこと、好ましいこと、称賛に値することとはどのようなものなのでしょうか。わたしたちは自分自身の中に救い主の属性をはぐくむように努力をすべきです。

## 信仰と希望と慈愛

使徒パウロの次の言葉が思い出されます。「このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この3つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。』<sup>7</sup>これらの神聖な特質が心と思いの中にしっかりと根付き、すべての行動の指針とならなければなりません。モロナイ書の中にはこう書かれています。「最も大いなるものである慈愛を固く守りなさい。……そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。』<sup>8</sup>信仰

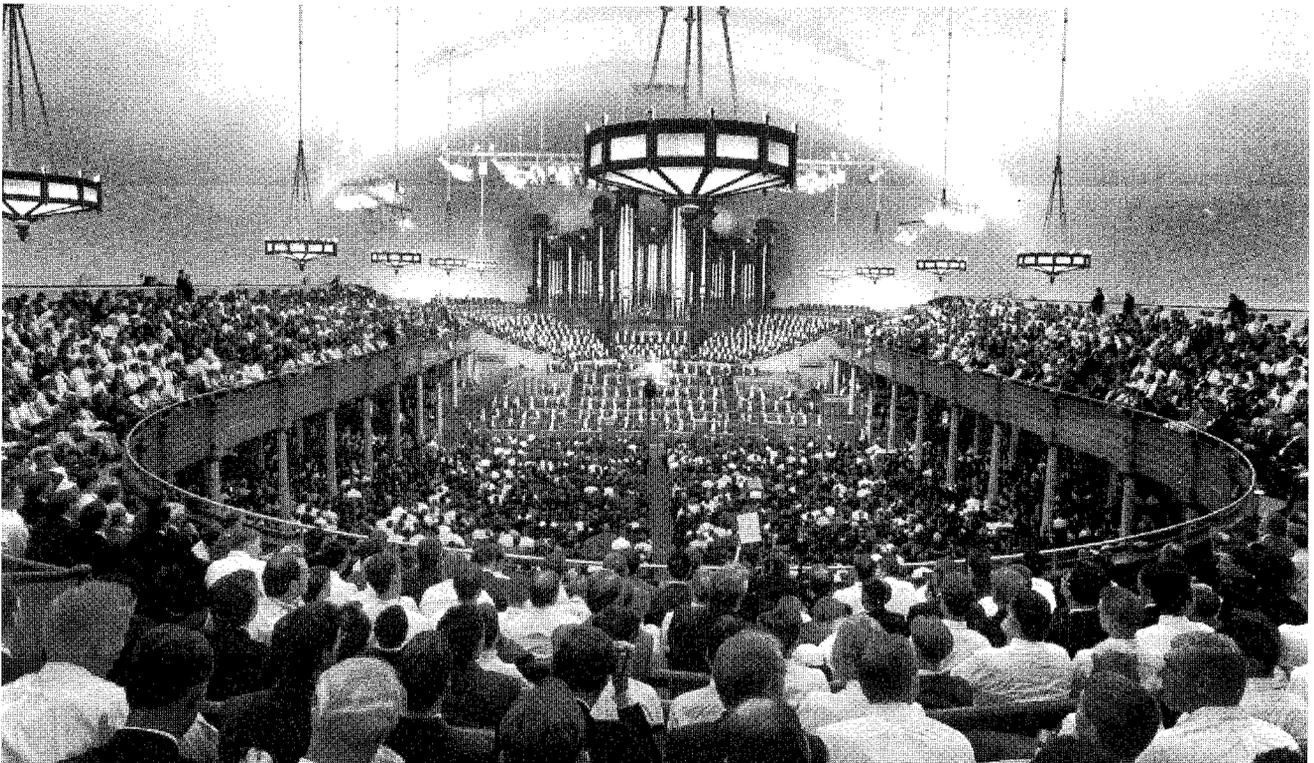
と希望が慈愛という形になって表れなければなりません。この3つの基本的な要素は日の栄えの特質であり、この世においても、また幕を越えた次の世においても、わたしたちから離れることがありません。「現世を去るときにあなたがたの肉体を所有しているその同じ霊が、あの永遠の世で、あなたがたの肉体を所有する力を持つ」<sup>9</sup>ことを忘れないでください。徳高く、また好ましく、称賛に値する特質を伸ばすための努力を一日も惜しんではなりません。

主の戒めを守るなら、信仰と希望と慈愛がわたしたちの内にとどまります。これらの徳は「天からの露のように〔わたしたち〕の心に滴」<sup>10</sup>り、わたしたちは、「きずも、しみもない」<sup>11</sup>状態で、主であり救い主であるイエス・キリストの御前に自信をもって立つ備えをするのです。

聖文を読み、その教えについて深く考えるにつれ、自分自身の内に信仰、希望、慈愛をはぐくんでいくのは、一步一步の積み重ねによるものだということが分かります。信仰から希望が生じ、その二つが相まって慈愛をはぐくんでいきます。モロナイ書にこう書かれています。「したがって、信仰がな

ければならない。もし信仰がなければならぬとすれば、希望もまたなければならぬ。そして、もし希望がなければならぬとすれば、慈愛もまたなければならぬ。』<sup>12</sup>この3つの徳は最初は順を追って生じてくるものかもしれませんが、いったん自分自身のものになると、それぞれが互いに補い合うようになります。何か一つが欠けると、それぞれが不完全になるのです。3つの徳が互いに支え合い、強め合うのです。モロナイはこう説いています。「あなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは決して神の王国に救われぬ。また、信仰がなければ神の王国に救われぬし、また希望がなければ救われぬ。』<sup>13</sup>

これが、わたしたちが尋ね求める徳高く、好ましく、称賛に値する特質です。わたしたちは皆「愛はいつまでも絶えることがない」<sup>14</sup>というパウロの教えをよく知っています。確かに、わたしたちは日々の生活の中で、尽きることのない霊的な力を必要としています。モロナイは「信仰と希望と慈愛が〔わたしたち〕を〔主〕のもとに、すなわち、あらゆる義の源に導く」という啓示の言葉を書き記しています。<sup>15</sup>



大会出席者で満席のタバナクル

今主の教会として地上に回復されている、この末日聖徒イエス・キリスト教会は、わたしたちを救い主のみもとへ導き、これらの神聖な特質を育て、養い、強める助けを与えてくれます。事実、救い主はその御業に働くために必要な資格を次のような言葉で明らかにされました。「人は謙遜であり、愛に満ち、信仰と希望と慈愛を持ち、また自分に任せられたすべてのことについて自制しなければ、だれもこの業を助けることはできない。」<sup>16</sup>

モルモンは「この慈愛はキリストの純粋な愛」であると教え、「御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で〔わたしたちが〕満たされるように、また神の子となれるように、熱意を込めて御父に祈りなさい」と<sup>17</sup>熱心に説きました。この慈愛は、それを尋ね求める人、また熱心に祈り求める人、そしてキリストの弟子である人々にしか与えられないということを中心に留めてください。この純粋な愛で満たされるには、まず福音の第一の原則から始めなければなりません。「第一に主イエス・キリストを信じる信仰」<sup>18</sup>を持つ必要があるのです。

## 信仰

「さて、**信仰**とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである。」<sup>19</sup> 「信仰とは物事を

完全に知ることでない。したがって、もし信仰があれば、〔わたしたち〕はまだ見ていない真実のことを待ち望むのである。」<sup>20</sup> 末日聖徒は信仰の力を受けることができます。完全な福音を持っているからです。熱心に学び、深く考え、祈るなら、神に関するまだ見ていない真実のことへの信仰が強められていきます。たとえ初めは「ごくわずかな信仰でも……たとえ信じようとする望みを持つだけでも」<sup>21</sup>よく注意を払うなら、小さな信仰の種が、生気にあふれた力強く実り多い証の木に育ちます。

主イエス・キリストへの信仰はわたしたちに悔い改めを促します。わたしたちは、主の贖いによって可能となった悔い改めを通して、自分自身の罪、弱さ、過ちに対する赦しがもたらす、静かな安らぎを感じることができます。わたしたちは霊的な再生への信仰をもってバプテスマを受け聖霊の賜物を授かるのです。

わたしたちは、従順は主のようになるための力をもたらしという信仰をもって、神の戒めを守る努力をしています。わたしたちは救い主の復活によって、死は命の終わりではないという信仰を持つことができます。また、いつか再び愛する人々に再会し、すでにこの世を去ったといひ人々と温かな抱擁を交わすことができるという信仰も持っています。

## 希望

モルモンは当時の聖徒たちにこう問いかけました。「また、あなたがたは何を望めばよいのであろうか。」そして自ら次のように答えています。「見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、キリストの贖罪とキリストの復活の力によって永遠の命にのみがえることを望まなければならない。あなたがたがキリストを信じることで、約束のとおりこれが果たされるのである。」<sup>22</sup> エテル書の中では、こう教えられています。「神を信じる者はだれであらうと、もっと良い世界を、まことに神の右に一つの場所を、確かに望むことができる。この望みは信仰から生じ、人々にとってその心をしっかりとした不動のものにする錨となる。」<sup>23</sup>

たとえ逆境の嵐が吹きすさぶときでも、御父はわたしたちが信仰に根差した生活ができるように助けてくださいます。主はこう約束してくださいました。「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない」<sup>24</sup> そして主は「〔わたしたち〕の苦難を聖別して、〔わたしたち〕の益としてくださる」のです。<sup>25</sup> 試練がどんなにひどいように思えるときでも、わたしたちは主の確かな約束から、力と望みを得ることができます。主はこう約束されました。「……恐れてはならない。おののいてはならない。これはあなたがたの戦いではなく、主の戦いだからである。」<sup>26</sup>

## 慈愛

一度、信仰が強くなって、堅固な証になり、天の御父の幸福の計画に対する希望を得、また信仰の目を通して、自分たちが、人を贖うために御子を与えてくださった愛に満ちた御父の子供であるということを理解すると、心の中に、大きな変化を経験します。<sup>27</sup> そして、「贖いをもたらす愛の歌を歌」<sup>28</sup> いたいと感じ、胸の中が慈愛で満たされるようになります。わたしたちは、神の愛は「どんなものよりも好ましいもの……それは人にとって最も喜ばしいもの」<sup>29</sup> ということを知っていて、そ



の喜びを人々と分かち合いたいと思っています。わたしたちは人々のために働き、祝福を伝えたいと望んでいます。

## 家族

「家族——世界への宣言」は、家族の神聖さと「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負って」<sup>30</sup>ということをはっきりと宣言しています。子供たちが何歳であっても、神殿の神聖さと、また、天の御父が彼らのために備えておられる祝福を受けるために、神殿に参入すべきであることを教える必要があります。これが人生最大の祝福であるということを理解する子供たちは、この神聖な目標のすべてを受けることができます。

## 神殿

信仰、希望、慈愛がどのようなものかは、神殿の中で最もよく理解することができます。神殿の中でわたしたちは人生の目的を理解し、主との聖約を交わすことによってキリストの弟子としての決意を強め、世代の違いを超えてすべての家族を一つに結び固めるのです。わたしたちは、神殿で自分自身のエンダウメントを受け、亡き親族のための神聖な儀式を受け、しばしば参入を繰り返すことによって、信仰を増し加え、希望を強め、慈愛を深めることができます。わたしたちは、主がその子供たちのために定められた計画を理解し、天の御父の子供としてその内に秘めている神聖な可能性を認識し、交わした聖約を最後まで忠実に守り通すことができるようにという信仰と希望をもって自分自身のエンダウメントを受けます。死者のために神殿の儀式を受けるのは、絶対に欠かすことのできない祝福を、現世でそれにあずかる機会のなかった先人たちに与えるための行為であり、慈愛の一つの表現です。わたしたちは、彼らが自分自身ではできないことを、彼らのために行う特権を与えられているのです。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は

今年の4月にかつてない多くの新しい神殿建設を発表したときに「神殿の儀式は教会が与える最高の祝福となります」<sup>31</sup>と宣言しました。大管長は、この最高の祝福が、これまでよりもっと多くの人々に及ぶようにしようとしているのです。主の家において、忠実な教会員は「高い所から力」<sup>32</sup>を受けられます。その力によってわたしたちは誘惑と戦い、また聖約を尊び、主の戒めに従い、家族、友人、隣人に対して、強くかつ恐れることなく福音を証することができます。

今年の7月にわたしたちはヒンクレー大管長とともに、ユタ州モンティセロ神殿の奉献式に参加する特権を得ました。モンティセロ神殿は、聖徒たちが距離的にもっと近い所で利用できるようにするために、主が預言者に建設を命じられた新しいタイプの神殿としては最初のもので、自分たちの町に神殿が建てられるなどは考えもしなかった忠実な聖徒たちと過ごしたその時間は、非常に霊的な体験でした。すばらしい信仰を持つ人々でした。その中には、ユタ州南東部の高原にシオンを確立するために長年にわたり苦闘し、努力と犠牲の生活を続けたホールインザロックの開拓者の子孫たちもいました。<sup>33</sup>

兄弟姉妹の皆さん、今教会にはすばらしいことが起きています。かつてない前進をしています。ヒンクレー大管長はその指導力をもって、この機に応じて奮起するよう、わたしたちにチャレンジしています。信仰、希望、慈愛が生活の中で絶対必要な構成要素となるのに応じて、新たな霊性のレベルに到達し、さらにイエス・キリストに近づいた生き方ができるようになります。この先にも苦しみや試練があることは確かです。しかし、さらなる平安と喜びが得られるという、かつてない強い確信もあります。主がそのように約束しておられるからです。<sup>34</sup>

## 証

わたしは特別な証人として、イエスがキリストであられること、また、救

い主が御自身の預言者、ヒンクレー大管長を通して、この教会を管理しておられることを証します。主の地上への再臨に備え、皆さんが主の神聖な特質をはぐくまれますように、イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

## 注

1. Outlook, NFO Research, Inc., summer 1998.
2. マタイ24:36
3. 教義と聖約49:7
4. 信仰箇条1:10
5. 教義と聖約43:28, 30
6. 信仰箇条1:13
7. 1コリント13:13
8. モロナイ7:46-47
9. アルマ34:34
10. 教義と聖約121:45
11. 1ペテロ1:19
12. モロナイ10:20
13. モロナイ10:21
14. 1コリント13:8
15. エテル12:28
16. 教義と聖約12:8
17. モロナイ7:47-48
18. 信仰箇条1:4
19. ヘブル11:1, 強調付加
20. アルマ32:21
21. アルマ32:27. 28-43節も参照
22. モロナイ7:41
23. エテル12:4
24. ヨハネ14:18
25. 2ニーファイ2:2
26. 歴代下20:15
27. アルマ5:14参照
28. アルマ5:26
29. 1ニーファイ11:22-23
30. 『聖徒の道』1998年10月号, 24
31. "New Temples to Provide 'Crowning Blessings' of the Gospel," *Ensign*, May 1998, 88.
32. 教義と聖約95:8
33. See *Church News*, 1 Aug. 1998, 4
34. ヨハネ14:27参照

# 砂粒からの真珠

七十人

E・レイ・ベイトマン

改宗、定着、活発化というバランスの取れた偉大な業に参加して……、天の御父の王国においてこれらの砂の粒が真珠となれるようにしましょう。



アブラハムは主から篤い恵みを受けました。主から命じられたことには何であれ従ったからです。アブラハムは主の指示に従って、息子のイサクを犠牲として主にささげようとした。この戒めに対する従順と深い愛のゆえに、主はイサクに手をかけようとするアブラハムを止めると、彼を祝福して告げられました。「わたしは……大いあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。……」（創世22：17）アブラハムの祝福は、今でも彼の子孫のうえにあって、交わされた聖約はアブラハムの子孫がキリストのみもとに来るときに、彼らに受け継がれるのです。使徒パウロはこう教えています。「もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相

続人なのである。」（ガラテヤ3：29）アブラハムの子孫を集めて、キリストのみもとに導くのは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちの責任です。

彼らを見つけるのは簡単なはずです。海辺の砂のように数が多いからです。わたしたちの周りにどこにでもいるということです。探しているでしょうか。尋ねていますか。教会員でない友達や仕事の同僚は、アブラハムの子孫ではないでしょうか。それを見分けるために、口を開いていますか。救い主はどのように勧告しておられます。「あなたがたはわたしの選民を集めるために召されている。わたしの選民はわたしの声を聴き、その心をかたくなにしないからである。」（教義と聖約29：7）救い主のこの勧告に従って、教会について話していますか。御霊の導きに耳を傾けていますか。アブラハムの子孫は、主の御声を聞き、心をかたくなにしないでしょ。キリストのみもとに来るよう招いていますか。主の御声を聞く機会を与えていますか。

聖文にこうあります。「また天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。高価な真珠一個を見いだと、行って持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買うのである。」（マタイ13：45-46）

わたしたちはイエス・キリストの福音が高価な真珠であることを知っています。その真珠のもとになる砂粒が、アブラハムの子孫です。彼らは真珠になるために養いが必要です。良い友人、

奉仕して成長する機会、慈愛による養いが必要です。それによって、彼らは教会に定着し、天の御父の王国において偉大な価値のある真珠になるのです。

ヒンクレイ大管長はこう述べました。「友達になりましょう。改宗者は友人から生まれます。友情は改宗に先立ち、教える機会をもたらします。」（Teachings of Gordon B. Hinckley [1997], 375）友人を教会に誘っているでしょうか。宣教師が友人に福音を教える際、一緒に参加していますか。自分の家で福音を教わるように勧めていますか。宣教師との約束の合間にその友達を訪問していますか。救い主が望んでおられることを行っていますか。口を開いていますか。

主はこう言われました。「しかし、ある人々については、わたしは心から喜んではいない。彼らは口を開こうとせず、人を恐れて、わたしが与えたタラントを隠しているからである。このような者は災いである。わたしの怒りは彼らに向かって燃えているからである。

そして、彼らはもっとわたしに忠実でなければ、持っているものまでも取り上げられるであろう。」（教義と聖約60：2-3）

セントチャールズワードで、ジム・ヒューストン兄弟がどのように友情と養いを受けたかお話ししましょう。ジムはほかの教会の会員でしたが、集会に行くための交通手段で困っていました。迎えに来る人もいないのです。わたしがジムに会えたのは幸運でした。『モルモン書』を渡すと、読んで祈ると約束してくれました。会員たちはジムのためにセントジョージワードまでの送り迎えをしました。宣教師は福音を教え、ジムは『モルモン書』を読んで祈りました。

ジムはバプテスマのとき、監督のわたしに「わたしは何をするよう望まれていますか」と聞きました。わたしはジムの監督室に案内し、教会について話し、神権について、また教会員として主から望まれていることについて教えました。ジムはアロン神権を受け、ホームティーチャーとして召されました。長老定員会の会長は、信仰の強い

忠実で献身的な兄弟を彼の同僚にしました。ヒューストン兄弟は、セントジョージワードの最も新しい会員でしたが、ホームティーチングを確実に行いました。それも最初の1か月だけでなく、20年間も毎月欠かさずに行ったのです。ジムはいろいろな召しを受けましたが、特に好きだったのはステーキ宣教師の責任でした。

ワードの会員たちは、ヒューストン兄弟を温かく包んで、彼が「聖徒たちと同じ国籍の者……神の家族」(エペソ2:19)になれるように助けました。ジムは運転を習い、車を購入し、自分でホームティーチングやその他の責任を果たしに行けるようになりました。会員がジムの「正しい道」(モロナイ6:4)にとどめたのか、それともジムが会員をとどめたのか、確かではありません。ヒンクレイ大管長が今行うよ

うに求めていることが、あの当時、ヒューストン兄弟に行われたのです。

この夏、わたしはヒューストン兄弟と話をしました。彼は、あまり活発でない姉妹が教会に戻れるように、ホームティーチングの同僚とどのように助けているか話してくれました。「彼女は神殿準備セミナーに出席して、神殿に参入するのを楽しみにしています。」

兄弟姉妹の皆さん、アブラハムの子孫を見つけられるように、御霊を求めるといふ決意を新たにしましょう。そして、口を開いて友達になり、キリストのみもとに来るように勧め、傍らで助けと養いを与えて、彼らを定着させましょう。また、可能な地域では、彼らが神殿に入るとき、一緒に参入しましょう。天の御父はアブラハムのすべての子孫がみもとに帰ることを願っておられます。改宗、定着、活発化とい

うバランスの取れた偉大な業に参加して御父と御子を助け、御父の王国においてこれらの砂の粒が真珠となるようにしましょう。

救い主は言われました。「わたしはあなたがたに戒めを与える。長老も、祭司も、教師も、また会員も、すべての人がわたしの命じたことを準備して成し遂げるために、勢力を尽くし、その手の労苦を尽くしなさい。

また、あなたがたの教えを説くことが警告の声となるように、各人がそれぞれ隣人に、穏やかに、かつ柔和に警告するようにしなさい。」(教義と聖約38:40-41)

主は生きておられ、預言者ゴードン・B・ヒンクレイ大管長を通してこの教会を導いておられます。イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

賛美歌を歌う十二使徒定員会会員。中列左からボイド・K・パッカー会長代理、L・トム・ベリー長老、デビッド・B・ヘイト長老、ニール・A・マックスウェル長老、ラッセル・M・ネルソン長老、ダリン・H・オークス長老、M・ラッセル・バラード長老、ジョセフ・B・ワースリン長老。前列は七十人会長会。左からアール・C・ティンギー長老、D・トッド・クリストファーソン長老、マーリン・K・ジェンセン長老。



# 律法に従い、隣人に仕える

七十人

アトス・M・アモリム

戒めに従うこと〔は〕奉仕の最大の準備にな〔ります。〕



**愛**する兄弟姉妹、友人の皆さん。  
この説教壇ではこれまで、主の僕たちにより神聖な言葉が語られてきました。初めてこの場所に立つわたしの心境をお察しいただけるのではないかと思います。

わたしの心は感謝でいっぱいです。これまでの半生を通じてたくさんの祝福を授けてくださった天の父なる神様に、わたしを愛し、わたしの罪を贖ってくださったイエス・キリストに、そして、常にわたしを愛し支えてくれた妻と子供たち、孫たちに心から感謝しています。

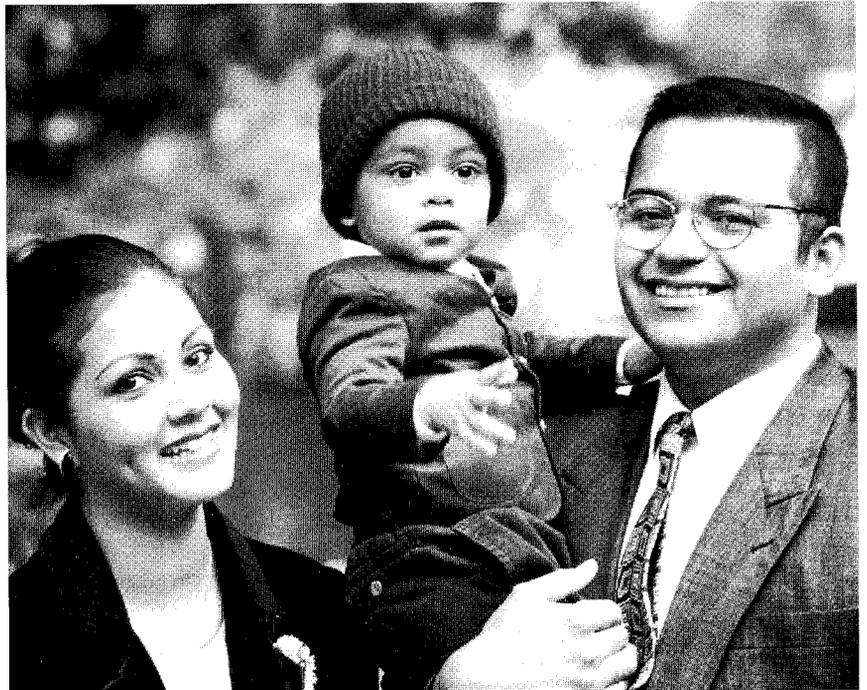
ブラジル陸軍士官学校の外壁には、士官候補生のために次の言葉が刻まれています。「君たちは命令を発する立場になる。だから従うことを学びなさい。」わたしは子供のころから、従順が偉大な徳であり、進歩に欠かせないものであることを学びました。わ

たしが申し上げている従順は盲従ではありません。選択の自由を使って主の御心を行い、より高い霊性のレベルに到達するための従順です。預言者ジョセフ・スミスはこう教えました。「すなわち、神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。」(教義と聖約130:21) 1982年、ヒンクレー大管長がその教えを再確認しています。「あらゆる祝福は律法への従順さを条件に与えられます。」(『モルモンとは』パンフレット、1982年、6) 従順の最も偉大な模範は主イエス・キリストが示してくださったものでした。主はこう言われました。「しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」(ルカ22:42)

もう一つわたしが陸軍で学んだのは、わたしの国の兵士は軍務を行うことを表現するのに「働く」という動詞ではなく「仕える」という動詞を用いることです。これは彼らに、国民と国家に仕えようとの決意を常に思い起こさせるためのものです。教会の奉仕に関してこの定義を拡大すると、主の教えに近い意味を含むこととなります。それは、主の子供たちには、住む場所を問わず仕えるべきであるという教えです。

今日約6万人の宣教師が多くの国で、しかもそのほとんどが自国とは非常に異なった環境の中で奉仕しています。サンパウロ神殿ではたくさんの兄弟姉妹が、主の宮で奉仕するためにどんな犠牲でも喜んで払おうとしています。それはほかの神殿でも同じです。

多くの場合、従順と奉仕の最も美しい模範はわたしたちの身近に住むごく普通の人々によって示されます。年配のアナ・リタ・デ・ヘスス姉妹はご主人に先立たれ、ブラジルのアナポリスに住んでいました。読み書きができなかった彼女のために、宣教師は毎週彼女の家を訪れて、聖文を読んであげました。彼女はとても愛の深い、思いやりに満ちた人でした。毎週日曜日、彼女は宣教師に献金票への記入を手伝ってもらっていました。時には什分の一



と献金の金額がほんの数セントだったこともありましたが、什分の一の律法を理解していた彼女は、それに従いたかったのです。彼女は什分の一を納めた後で、礼拝堂として借りていた家の一室に入り、<sup>せいさん</sup>聖餐会の開かれるその部屋の説教壇に花を飾りました。そのようにして兄弟姉妹に奉仕し、主を礼拝する場所を美しく飾っていたのでした。彼女はその小さな行いにより、わたしたちに従順と奉仕の大切さを彼女の信仰を通して教えてくれました。戒めに従うことが奉仕の最大の準備になると彼女は知っていたのです。モンソン副管長は今年の4月の総大会で「戒めを守り」「愛をもって仕える」ように勧告しました（『危険な道』『聖徒の道』1998年7月号、54）アナ・リタ姉妹はそれを生涯続けたのです。

わたしはファウスト副管長の面接を経て中央幹部に召されました。そのような召しにはふさわしくないと考えて不安になっていたわたしを察して、ファウスト副管長は優しくこう言ってくれました。「アトス、自分らしくやればいいんです。自分らしく。」その晩わたしはベッドの中で、新しい責任とファウスト副管長の言葉を思い起こしていました。そして祈りました。わたしは自分に問いかけました。わたしは何者なのかと。するとその答えが、真新しい一日の夜明けを告げるかのように、はっきりと輝きをもってやって来ました。皆さんと同じようにわたしは神の子であって、主に従い、御心のままにどこでも仕えたいと思っていること。そして、天の御父のよりよい子供となり、イエス・キリストの真実の教会の忠実な会員となることを願っている存在だということです。

わたしはイエス・キリストが生きておられ、この教会を導いておられることを知っています。イエス・キリストはわたしたちの救い主であり贖い主です。ジョセフ・スミスは回復の預言者であり、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は今日の教会を管理するために主から召された預言者です。これらをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

# 失意に打ち勝つ

七十人定員会

バル・R・クリステンセン

**わたしたちは問題に出会ったときにもう少し忍耐し、そして主を信じる信仰を強く持てば、そのチャレンジを克服する方法を見つけられます。**



**教**員が難しい責任に召されるとき、それまでの人生で自分を導いてくれた出来事や人々に思いをはせるのは、ごく自然なことです。七十人に召されたことにより、わたしはこうして、友人や家族、特に妻のルースアン、そしてアリゾナ州フェニックス伝道部の宣教師に感謝を伝える機会を得ています。わたしは皆さんを愛しています。また、フィリピンのすばらしい人々に仕える機会を心待ちにしています。

数年前、あるファイヤサイドに招かれ、人が失意に打ち勝つ方法を大まかに話したことがあります。話を始めるに当たり、出席者に、今直面している大きな試練について、匿名であればほかの出席者に公表しても差し支えない事柄をカードに書いてもらいました。カードに書かれた問題が続々と集まってきました。わたしはそれらを見たとき、

会員たちが深刻な問題に直面して、それらに対処する方法を模索していることを知って驚きました。彼らの問題には以下のようなものがありました。

1. わたしの所有する農場では、利益がまったく上がらない。
2. 息子が不治の病に冒されている。
3. 10代の子供と意見が合わない。
4. 長男がほとんど目が見えない状態にある。
5. 息子の死を受け入れる。
6. 夫は、否定的な面には目を向けるが、肯定的な面にはそれほど関心を払わない。

わたしたちの多くは重大な問題に直面しています。偉大な預言者エノクでさえ、世界の邪悪な有様<sup>ありさま</sup>を見て、悲しみを経験しました。「エノクはこれを見ると、心に苦しみを覚え、その兄弟たちのために泣いて、天に向かって、『わたしは慰められるのを拒みます』と言った。しかし、主はエノクに言われた。『心を高めて喜び、そして見なさい。』」（モーセ7：44）

失意に打ち勝つための努力には、少なくとも以下の3つの段階があります。

1. あなたは問題に対する自らの態度を変えるよう努力することができます。仕事や生活環境そのものは変えられませんが、あなたの姿勢は常に変えられます。
2. 家族、友人、ワードの会員といった、身近にいて、あなたを最も愛してくれる人から助けを受けられます。
3. 主イエス・キリストに対する信頼を、より力強く完全なものに高めることができます。

**自分の態度を改める。**問題に対する見方を変えることによって、落胆した心を和らげることができます。わたしは開拓者ジーナ・ヤングの話を読んで感銘を受けました。彼女は両親を亡くし、凶作に見舞われ、病に倒れたにもかかわらず、一つの霊的な経験によって元気づけられ、そして態度を一変させました。神の助けを求めようとしていたときに、彼女は母親が語りかける声を聞きました。「ジーナ、順風ときはだれでも難なく航海できるのよ。行く手に障害物が見えたら、よけて通ればいいのよ。」彼女は即座にこう祈りました。「天のお父様、荒波を乗り越えられるように助けてください。悲しみの岩にぶつかって心が押しつぶされないようにどうかわたしを強めてください。」(“Mother,” The Young Woman's Journal, January 1911, 45) 多くの場合に状況を変えることは困難ですが、積極的な態度で物事に対処すれば落胆から立ち直ることはできます。

**ほかの人に助けを求めよう。**次に重要な点は躊躇せずに周りの人々に助けを求めようことです。時には予期していないところから助けが与えられます。数年前に、わたしがシカゴの飛行場で荷物を預かってもらうために受付の前に並んでいたときのことで、わたしのすぐ後ろに一人の老人が並んでいま

た。しばらくして彼はわたしに「どちらへ行かれますか」と尋ねました。「ソルトレーク・シティーです」と答え、彼は「わたしもです。あなたはモルモンですか」と聞きました。そうですと答え、彼は自分が生涯ずっと末日聖徒で、やっと神殿に行く準備ができたと言いました。搭乗案内を待っている間、彼はスーツケースを開けてかつて彼が会ったすべての宣教師の写真を見せてくれました。間もなく、飛行機はユタに向かって飛び立ち、その間わたしたちは親しく話すことができました。飛行場に到着するとわたしたちは足早に飛行機を降りました。わたしは彼が行き先を知っていることを確かめてから、別れを告げました。

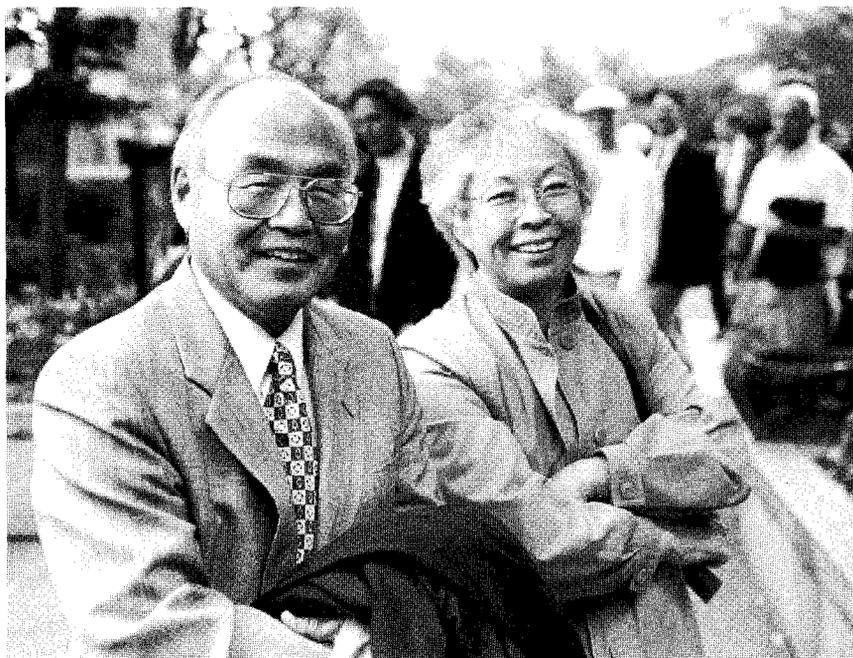
それから数週間たって、わたしのもとにこのカードが送られてきました。「親愛なるクリステンセン兄弟。一度は紛失したあなたの住所が見つかったので、ここにカードを書いています。あなたとシカゴで会ったとき、わたしの祈りは聞き届けられました。わたしは生まれてこのかた旅というものをしたことがありませんでした。だれか一緒にいてくれる人が欲しかったのです。あのとき以来あなたのことをよく考えます。ソルトレーク・シティーの神殿ではすばらしい経験をしました。いつかまたお会いできればと思います。あ

なたがご一緒してくださってほんとうに感謝しています。」あの日わたしは人の役に立てることができると思っていなかったが、必要な助けを求めたこの兄弟と、彼のそばにいてそれにこたえることができたことに感謝しています。

**主に頼る心を育てる。**これまで自分の態度を改めることと人から援助を受けることについて話してきました。これからわたしは、主に對してもっと信頼を寄せ、信仰を強める必要があることについてお話しします。以前わたしは、落胆していたときに励ましを受けた経験を持つ一人の女性とお話する機会がありました。彼女は神殿の儀式が始まるまでの間、『モルモン書』を手にとって少し読んでいました。すると、彼女の目はアルマ書第34章3節に釘づけになりました。「あなたがたは苦難に遭っているのです、どうしたらよいか教えてほしいとわたしの愛する兄弟に頼み、わたしの兄弟はあなたがたに心の備えをさせるために、多少のことを述べてきた。また彼は、信仰と忍耐をあなたがたに勧めた。」アルマ書のこの聖句は彼女の祈りの答えでした。そこに書かれてあることは実に簡潔です。すなわち、彼女が直面していた問題は長い時間をかけて解決されるということです。わたしたちは問題に出会ったときにもう少し忍耐し、そして主を信じる信仰を強く持てば、そのチャレンジを克服する方法を見つけられます。

『教義と聖約』にこのような勧告の言葉があります。「あなたは悲しければ、心が喜びに満ちるように、主なるあなたの神に呼び求めて嘆願しなさい。」(教義と聖約136:29)

わたしたちがそれぞれに抱えている試練をしっかりと見据えて、たとえ問題がすぐに解決しなくとも、それらを受け止める態度を培えるように祈っています。どうか友人や家族の援助を求めてください。イエス・キリストが生きておられ、落胆したときに主の愛をへりくだって願い求めるならば、わたしたちを助けてくださることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

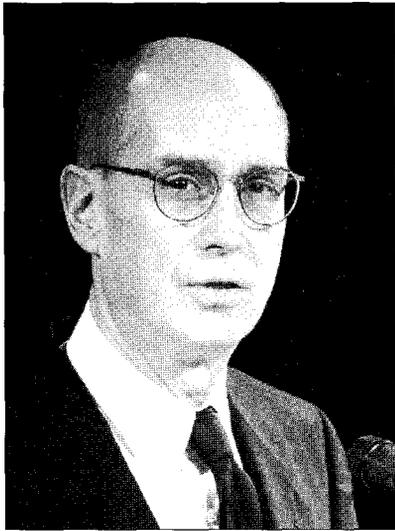


# 警告の声

十二使徒定員会会員

ヘンリー・B・アイリング

警告の声を人々に伝える能力は、聖約を交わしたすべてのイエス・キリストの弟子にとって重要なものです。



**主**は憐れみ深い御方なので、僕を通して民に危険を警告されます。この警告をする召しは、より困難であり、重要です。最も価値ある警告は、民がまだ現実になると考えていない危険に関するものだからです。ヨナについて考えてみましょう。彼は最初、罪によって盲目になっているニネベの民に警告するという主の召しから逃れようとしていました。長年にわたって邪悪な民は、預言者を拒んで殺すこともあるのを知っていたからです。それでも、ヨナは信仰をもって前進したとき、主に祝福されて安全と成功を得ました。

わたしたちは、親や子供としての経験からも学ぶことができます。親であればだれでも、子供が気づかない危険を察知して心配することがあります。子供を危険から遠ざける方法を知るために両親がささげる祈りは、どのよう

な祈りよりも熱烈です。両親の警告の声に聞き従ったときの祝福は、ほとんどの人が経験しています。

今でも覚えています。母はある土曜の午後、幼いわたしを優しく諭してくれました。わたしが正当だと考えて許可を求めた行為が、危険であることが母には分かったからです。母に授けられた力にはいまだに驚かされます。主からのものと思いますが、わずかな言葉でわたしの方向を正してくれます。例えば、このような言葉でした。「やればできると思うわ。でも、選ぶのは自分なのよ。」唯一の警告は、「できる」と「選ぶ」の単語が強調されたことでしたが、わたしにはそれで十分でした。

わずかな言葉で警告する母の力には、わたしの知るかぎり、3つの源があります。第1に、母がわたしを愛していることです。第2に、母はわたしに求めることをすでに行って祝福を得ていることです。そして第3に、母は確かな証を伝えたことです。すなわち、わたしのしなければならない選択は非常に大切なので、求めさえすれば、主がすべきことを告げてくださる、という証です。愛、模範、証、これらは当時の鍵であり、その後も、わたしが主の僕の警告に聞き従って祝福されたときには、いつでも鍵となってきました。

警告の声を人々に伝える能力は、聖約を交わしたすべてのイエス・キリストの弟子にとって重要なものです。次の責任は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員一人一人に与えられています。「見よ、わたしは、人々に証し警

告するためにあなたがたを遣わした。警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならない。」(教義と聖約 88:81)

この戒めと危険に対する警告は、回復の初期に宣教師に召された人々に与えられました。しかし、隣人を警告する責任は、バプテスマの聖約を受け入れたすべての人に課せられています。わたしたちは教会員でない友人や親戚の人に福音について話します。その目的は、教えるために召されて任命された専任宣教師から学ぶように、彼らに勧めることです。そして、相手が勧めを受け入れたときに、すばらしい約束の伴う「リフェロー」を作成し、バプテスマの水に入って忠実な会員になりそうな人として、宣教師に紹介します。

教会員の皆さんは、専任宣教師やステーク宣教師から、自宅を訪問する機会を求められることでしょう。宣教師は、福音を分かち合える人のリストを作れるように助けてくれます。親戚や隣人、知人について考えるように提案することでしょう。また、目標の日付を決めるように求めるかもしれません。その日までに、個人や家族が教えを受けられるように、宣教師を招待できるように備えるのです。わたしは実際に経験しました。わたしの家族が宣教師の勧めを受け入れたおかげで、姉妹宣教師からレッスンを受けた80代の未亡人に、バプテスマを施す機会に恵まれたのです。

わたしは彼女の頭に手を置いて、教会の会員に確認しました。わたしは御霊に感じて、バプテスマを受けるよう選んだことが彼女の先祖と子孫に祝福をもたらすと宣言しました。彼女はすでに亡くなりましたが、数週間後には、彼女の息子が親子の結び固めを受けるので、わたしと一緒に神殿に行くつもりです。

皆さんも、福音を学ぶように勧めた人と同じような経験をして、人生でめったにないような喜びを味わうでしょう。主の次の御言葉は、宣教師とわたしたち全員に当てはまります。「さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、

一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きければ、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:16)

わたしたちは宣教師から助けと励ましを受けますが、バプテスマや神殿参入の機会をもっと頻繁に持てるかどうかは、その大部分が、わたしたちがどう責任をとらえ、どのような選択をするかにかかってくるでしょう。もし何の危険もなければ、主は「警告」という言葉を使われなかったでしょう。しかし、それに気づく人は多くありません。人々は、増え続ける証拠を無視するようになりました。社会で明らかになっている徴候や、自分の生活や家族の中にかつてはあったと思っていた平安が欠けているという徴候です。危険のしるしを自ら無視すれば、このような考えに陥りやすいでしょう。「満足して生活しているような人になぜ福音を伝えるのだろうか。何も言わなくても、彼らや自分にどんな危険があるのだろうか。」

確かに、危険は見えにくいかもしれませんが、相手と自分の両方に実在します。例えば、いつの日か「来るべき世」で、皆さんがかつて会ったすべての人は、皆さんが今持っている知識を得るでしょう。そして、家族とともに天の御父と御子イエス・キリストのみもとで永遠に住む唯一の道は、神の権能を持つ人の施すバプテスマによって門をくぐるという選択にあったことを知るでしょう。また、家族が永遠に結ばれる唯一の方法は、この地上の神の神殿で授けられる神聖な聖約を受け入れ、守ることにあると知るでしょう。そして、すべてを皆さんが知っていたことも分かるでしょう。こうして、皆さんから何を聞いたか思い出します。かつて、皆さんもだれかから福音を聞いたのです。

「まだその時じゃない」と言うのは簡単ですが、引き延ばしには危険が伴います。何年も前に、わたしはカリフォルニアで働いていました。雇い主は親切で、わたしを高く評価しているようでした。彼の知り合いで、わたしは

ただ一人の末日聖徒だったかもしれませんが。なぜかは分かりませんが、わたしは福音について話すために、もっとよい機会を待っていました。ですから、あのときの悲しみは今でも忘れません。彼の退職やわたしの遠くへの引っ越しがあった後、彼と奥さんは、夜遅くカリフォルニア州カーメルの自宅に車で向かう途中、事故死したのです。彼は奥さんを愛し、子供たちを愛し、両親を愛していました。また、孫たちを愛し、その子供たちをも愛し、永遠に一緒にいたいと願ったことでしょう。

大勢の人々が来るべき世でどのように扱われるか分かりません。しかし、もし彼がわたしに会ったら、わたしをじっと見詰めて、その目がこう尋ねるでしょう。「ハル、君は知っていたね。なぜ話してくれなかったんだ?」

彼について考えるとき、またわたしがバプテスマを施したあの女性と間もなく結び固められる彼女の家族について考えるとき、もっと働かなければと思います。人々に教えを受けるように勧める力を強めたいと思うのです。そういう願いと、神が助けてくださるといふ信仰をもって、さらに進みましょう。方法は難しくはありません。

愛がいつも最初に来ます。一度だけの親切では、十分ではありません。主は、わたしたちが持たなければならない愛、招きを受ける人がわたしたちの中に感じなければならない愛について、述べておられます。「愛は寛容であり……すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。」(1コリント13:4,7)

わたしは「寛容」と「すべてを忍ぶ」ことの意味がよく理解できました。わたしの近所に家族が越して来ました。家が新しくしたので、ほかの教会員たちと一緒に幾晩にもわたって庭造りを手伝いました。作業が完成した最後の晩に、わたしはその家族の父親の隣に立っていました。彼はわたしたちの仕事を見渡して、言いました。「これでモルモンの人たちが庭を造ってくださったのは3度目ですが、今回がいちばん出来がいいですよ。」それからわたしに向かって静かに、しかしきっぱり

と「自分の通っている教会と、これまで何年かにわたって近隣の末日聖徒としばしば会話できたことにとても満足している」と言いました。

それから、彼と家族に対する親切な行為が、絶えることはありませんでした。近所の人がこの家族を愛するようになったからです。ある晩帰宅すると、彼の家の前にトラックが止まっていた。わたしは、彼らが別の州に引っ越すと聞いていたので、何か手伝えるかと思い、近づいて行きました。家具をトラックに積み込んでいるのがだれかは、分かりませんでした。彼は近づいて来るわたしに、静かにこう言いました。「こんにちは、アイリング兄弟。」わたしは、それがすっかり大きくなった息子さんと気づきませんでした。なぜなら彼は、以前そこに住んでいましたが、結婚して、引っ越していたからです。彼は多くの人から受けた愛により、今はバプテスマを受けて、教会員になっていました。この話の結末は知りません。終わりがありません。しかし、始まりは愛でした。

第2に、わたしたちは人に行うように勧めることを模範で示す必要があります。悪のはびこる世では、救い主のこの教えがさらに重要になるでしょう。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ5:16)

ほとんどの人は謙虚なので、自分の小さな模範の光は暗すぎて人の目に留まらなると考えます。しかし、皆さんや家族は、自分が思っている以上に見られています。わたしは今年の春に、300人近い他の教会の聖職者や指導者の会合に出席し、話をする機会がありました。そこで、できるだけ多くの人と会話をしました。そして、なぜわたしのメッセージにそんなに関心を持つのか尋ねました。それは教会の起源の物語であり、少年ジョセフ・スミスの最初の示現や、生ける預言者の話でした。どの場合も、返ってくる答えは、本質的に同じでした。彼らはある人か、家族か、皆さんのだれかを知っていると

いう話をするのです。よく聞いたのは、隣に住む末日聖徒の家族の話でした。「あんなにすてきな家族は初めてです。」教会員として参加している地域社会の活動や災害救援活動の話もよく聞きました。彼らには驚くべきことに映るようです。

こうした集会でわたしが会った人々は、まだ教義上の真理は理解していませんが、皆さんの生活の中の実をすでに見たので、話を聞く準備ができていたのです。回復された真理に耳を傾け、家族が永遠に結び固められることや、福音が人の性質を変えることを聞く備えができていました。皆さんの模範によって、備えられたのです。

第3は、もっと上手に行う必要がありますが、証をもって勧めることです。愛と模範は、道を開きます。しかし、それでもわたしたちは口を開いて証を述べなければなりません。簡単な事実が助けになります。真理と選択は、密接に関連しているのです。だれにでも、霊的な真理について証するには、その資格を得るためにすべき選択があります。そして、一度霊的な真理を知ったら、それに従って生活するかどうか選ばなければなりません。つまり、友人に選ぶことを勧める前に、自分で行わなければならないことがあるのです。

わたしたちは真理について証するとき、選択の機会を与える必要があります。彼らが真理を知ったときに、しなければならぬ選択です。これには、二つの大切な実例があります。『モルモン書』を読む勧めと、宣教師から教えるを受ける勧めです。

『モルモン書』が真実であることを知るには、実際に読んで、モロナイの勧めに従い、真実かどうか祈る必要があります。それを行ってれば、自分の経験から証を述べられるので、友人もその選択をして同じ真理を知ることができるでしょう。そして、『モルモン書』が神の御言葉であると分かったら、次の選択に直面します。すなわち、宣教師から学ぶとの勧めを受け入れるかどうか選ぶのです。そうするように証をもって勧めるには、宣教師が神の僕であることを皆さん自身が知る必要があります。

この証を得るための選択は、宣教師を自宅に招いて家族や友人を教えてもらうことです。宣教師はそのような機会を歓迎するでしょう。宣教師が教えるときにその場に座っていると、わたしが感じたように、彼らが年齢や教育を越えた力を受けていることが分かるでしょう。そして、宣教師から学ぶように勧めるとき、彼らが真理を教える

ことと、幸福に至る選択の機会を与えてくれることを証できるのです。

わたしたちの中には、自分の愛や生活態度、あるいは証の力が、隣人に勧めを受け入れさせるほど十分なものはとても思えない人がいるかもしれません。しかし、主はわたしたちの気持ちを御存じです。主の励ましの言葉に耳を傾けてください。『教義と聖約』の最初の章で、主はわたしたちに責任を与えておられます。「また、警告の声は、この終わりの時にわたしが選んだ弟子たちの口を通して、すべての民に及ぶ。」(教義と聖約1:4)

これらの弟子たちの特質に注意してください。「世の弱い者たちが出て来て、力ある強い者たちを打ち破る。」(教義と聖約1:19)

さらにこうあります。「わたしの完全な福音が弱い者や純朴な者によって世界の果てまで……宣べられる……。」(教義と聖約1:23)

そしてこうです。「謙遜であれば、強くされ、高い所から祝福を受け……る。」(教義と聖約1:28)

この約束は、教会の最初の宣教師や現在の宣教師に与えられたものですが、わたしたち全員にも当てはまります。信仰を持つ必要があります。十分な愛と福音の模範を示すことによって、わ



た私たちの選択の勧めが主御自身からの勧めとして受け入れられる、という信仰です。

主は、わたしたちがすべきことの完全な模範です。人々が福音の勧めにこたえないように、皆さんが主の呼びかけにこたえないときも、主は愛と思いやりを示してこられました。主は何度も、主の僕の教えに従うように勧めてこられたのです。皆さんは、ホームティーチャーや訪問教師のメッセージ、監督からの電話の中に、それがあるのが分からなかったかもしれません。しかしこれらは、助けや教えを受けるようにとの主の勧めです。主はいつも結果を明白にしてから、わたしたちに自分で選ぶことを許されます。

主の僕リーハイは息子たちに、すべての人に当てはまる真理を教えてください。「ところで、息子たちよ、わたしはあなたがたが偉大な仲保者に頼り、主の大いなる戒めに聞き従い、主の御言葉に忠実であって、主の聖なる御霊の御心に添って永遠の命を選んでほしいと思っている。」(2ニーファイ2:28)

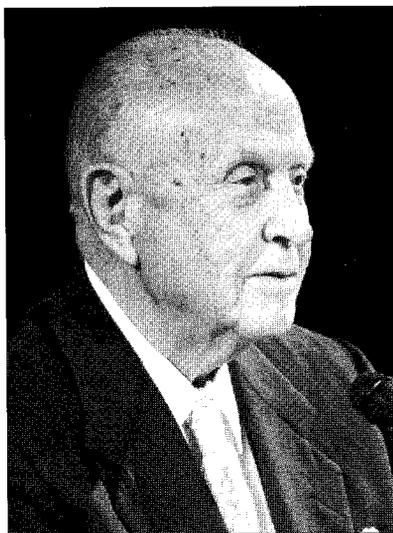
宣教師からレッスンを受けるという選択は、神の最大の賜物である永遠の命に至る道の入り口です。ヤコブの語った以下の聖句は皆さんに、このことを証するという必須の責任を果たすように促しています。「それゆえ、心を喜ばせなさい。そしてあなたがたは、自分の思うとおりに行動すること、すなわち永遠の死の道を選ぶことも、永遠の命の道を選ぶことも自由であることを覚えておきなさい。」(2ニーファイ10:23)

イエス・キリストの回復された福音を受け入れて生活するならば、この世では主が約束された平和を、来るべき世では永遠の命への希望がもたらされることを証します。これらの祝福を天の御父の子供たちに、わたしたちの兄弟姉妹にもたすために、真理と選択の機会を与えるのが、わたしたちの義務であり、特権であることを証します。イエスはキリストです。主は生きておられ、これは主の業です。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 預言者を支持する

十二使徒定員会会員  
デビッド・B・ヘイト

**福音は真実です。福音は世の希望であり、なすべきすべてのことを成し遂げるための力です。**



**最**近、ある友人がこのように尋ねました。「君とフォーティーナイナーズのクォーターバック、ステイブ・ヤングとの共通点は何だか知っているかい。」

わたしはこう答えました。「フットボールでもフットボール以外でもたくさんあると思うけど、言ってみてよ。」

すると友人は、「二人とも、来シーズンもいるかどうか分からないってことさ。」

天よりの祝福と、わたしの特別なかかりつけの看護婦であるルビーが世話をしてくれたこと、そして愛する家族のおかげで、わたしはきわめて順調です。

わたしの心臓に取り付けられているペースメーカーに感謝するとともに大切にしています。これは持ち運びがともにも便利です。

わたしには最新式の腰があり、修理

済みのひざがあります。おかげでダンディーになったと自分では思っています。

最新式の補聴器と特別の眼鏡は掘り出し物です。

けれども、心だけは取り替えたくありません。

わたしはしばらくの間ここに立って、皆さんに証を述べ、恵まれて一員に加えられているこの偉大な御業に携わる皆さんに励ましを与える機会を大変名誉に思っています。モンソン副管長が教会の中央幹部を支持するためにその名前を提示したとき、皆さんが手を挙げていた様子を拝見していました。特に預言者を支持するときの挙手には皆さんの熱意を感じました。わたしは「ここにわたしたちが受けているあらゆる祝福と慰めの源がある」と思いました。また、教会歴史の中でこのような出来事が起こった例を幾つか心に思い浮かべていました。

わたしは心の目で、アメリカ全土に散っているわたしの家族がそれぞれに集っている様子を見ていました。彼らはジョージア州、ノースカロライナ州チャペルヒル、ペンシルベニア州、テキサス州、カリフォルニア州、そしてここソルトレーク・シティに住んでいます。家庭であれ礼拝堂の中であれ、どのような場面おきなごに関係なく、それらの小さな家族で幼子に、皆一緒に手を挙げるよう教えている光景を目にしました。恐らくわたしたちが行ったように、両親が教えているのでしょう。わたしたちは挙手をするとき、それは皆がそうするからしているのではなく、ヒンクレイ大管長がわたしたちの預言者

であり、指導者であることを知っている証を立てているのです。わたしたちが手を挙げているのは預言者を支持することを明らかにするだけでなく、預言者の指示に従い、預言者の言葉に耳を傾け、その言葉について話し合い、祈り、預言者の語る言葉を心に留めることを表明するのです。

預言者ジョセフ・スミスは教会の組織について幾つかの指示を受けました。わたしたちは教義と聖約第20章に記された啓示としてそれらを手にしています。1830年4月6日ニューヨーク州フェイエットのピーター・ホイットマーの家を心に描いてみてください。恐らく6メートルと9メートル四方くらいの小さな丸太小屋の中で、教会は組織されました。その小さな家の中で、ジョセフがオリバーを祝福し、そしてオリバーがジョセフを祝福している光景を想像してください。彼らは受けた指示に従って、組織された教会をその小さな集まりに提示しました。

ジョセフとオリバー、ハイラムとサミュエル・スミス、そして二人のホイットマーはバプテスマを受け、ニューヨーク州の「法律にかなって」行動しました（教義と聖約20：1）。今日わたしたちが行ったように、預言者とオリバーを教会の第一の長老として支持し、教会を発足させる提議を提示したときの、その集まりの霊的な雰囲気と彼らを感じていたに違いない気持ちを心に思い浮かべてください。そのときの様子を記した幾つかの日記と記録によれば、その集会において人々は天使の臨在を感じたことが指摘されています。

ある人々はバプテスマを受け直しました。また預言者の両親を含む何人かは初めてのバプテスマを受けました。この様子を想像してみてください。今や組織された教会の公式の集会においてこの神権時代の最初の聖餐が配られました。救い主の裂かれた肉と流された血の象徴であるパンと水が配られているときの雰囲気を想像してください。

1844年に行われたもう一つの支持の場面、預言者とハイラムが殉教した後、ノーブーで開かれた集会の様子を想像してください。自分が「後見人



大会の部会前に語り合う十二使徒定員会の  
デビッド・B・ヘイト長老と  
ニールA・マックスウェル長老。

となり、教会の指導者となることを期待しながらペンシルベニア州ピッツバーグからやって来たシドニー・リグドンがいました。世界の各地に散っていた十二使徒の面々はノーブーに向かって急いでいました。預言者の不興を買っていたとは言え、第一副管長だったシドニー・リグドンは、道理からしても自分こそが召されるべきだとして動議を提出している光景と集会の様子を想像してください。そして、その場にいたブリガム・ヤングが、十二使徒会を代表して、説明している様子を想像してください。十二使徒について、また十二使徒に与えられた権能について、預言者から忠実な兄弟たちが教えを受けたことを説明したのです。

争点となっている事柄について両者からの主張を聞いた後に、投票が行われました。この集会に出席していた一部の聖徒たちは、ブリガム・ヤングが語っている間に様子が変わったことを目にし、また感じたと言っています。彼らは預言者ジョセフの声を聞いているのだと思いました。さらにブリガム・

ヤングが預言者ジョセフのような顔つきになっているのを見ました。わたしがこのことをお話ししているのは、歳月が過ぎ、多くを学び、この御業を動かしている霊的な力について感覚が研ぎ澄まされてくると、わたしたちは御業の中に主の御手があることに気づき、感じるようになるからです。教会が十二使徒の手にゆだねられることになった1844年のその支持の様子に思いをはせてください。

その後の1847年、聖徒たちがミズーリ川のアイオワ州河岸に集結していたときにそれは行われました。ブリガム・ヤングは聖徒たちの先発隊とともにここソルトレーク盆地に到着していました。けれども12月になると彼は聖徒たちに会うためにミズーリへ戻りました。そしてケネスビルに、9人の十二使徒が集まりました。二人はここソルトレークにとどまり、一人はテキサスに行っていました。したがって9人がその場にいました。このような状況の中で、大管長会は1847年12月5日、オーソン・ハイドの家で再組織されました。けれども彼らは聖徒たちの承認を必要としました。そこで予定されていた集会を3週間延期して、その間に丸太で小さなタバナクルを建てることになりました。その地にいた職人、またミズーリ川をわたって盆地を目指すために荷車を連ねてケネスビルにやって来た教会員は3週間で小さなタバナクルを建てました。

そのタバナクルで開かれた集会において、大管長会の再組織が提議されました。今日わたしたちが行ったと同じように、彼らは支持を受ける必要がありました。それは、わたしたちも行っているように手を挙げて預言者を支持する機会でした。こうして大管長会が再組織されました。ブリガム・ヤングはヒーバー・C・キンボールとウィラード・リチャーズを副管長として選びました。このようにして、主が啓示によって必要であると指摘しておられる権能を教会の指導者に与えるために民による支持が行われるのです。

御業が前進に前進を重ねている姿を目にしているこのときに当たって、わ

たしは90年以上生きてきた間に目撃し、感じ、見て、わたしの霊的な経験の一部となっていること、すなわちこれは主の御業であることを皆さんの前に立って証<sup>あかし</sup>したいと思います。これは啓示されてきたことです。わたしはそれを知覚し、感じているので、皆さんに宣言します。

わたしはマタイによる福音書に記されている救い主の教えについて皆さんの注意を喚起したいと思います。それは、だれでも「自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう」という教えです(マタイ10:39)。さて、一部の学者はこの聖句を次のように考えています。「この説は矛盾しているのです、恐らく誤訳だろう。大した意味のある言葉ではない。」わたしの心の中では非常にはっきりしています。皆さんもそうであることを願っています。わたしたちは物質偏重社会に生きています。つまり、今日わたしたちが生活し、経済記事であれ政治記事であれ世界中の様々な出来事を目に見ているバビロンにおいて、皆さんが強さを得て、チャレンジや問題の答えを見いだす先は、地上における神の預言

者の声に耳を傾けるところにあるということなのです。

わたしたちは救い主のこの言葉から、物質世界に生きていますと、生活の物質面だけに目が移りやすいことに気がつきます。わたしたちは自分自身のためにあらゆるものを蓄えています。わたしたちは他人がより高い水準の生活を営むことに思いを寄せているのではなく、またそれを助けるために生活しているのでもありません。主が模範として示された命を見いだすときに、あなたは自己中心的なあなたの命を捨てる、すなわち「わたしのために自分の命を失」うと主は言われたのです。

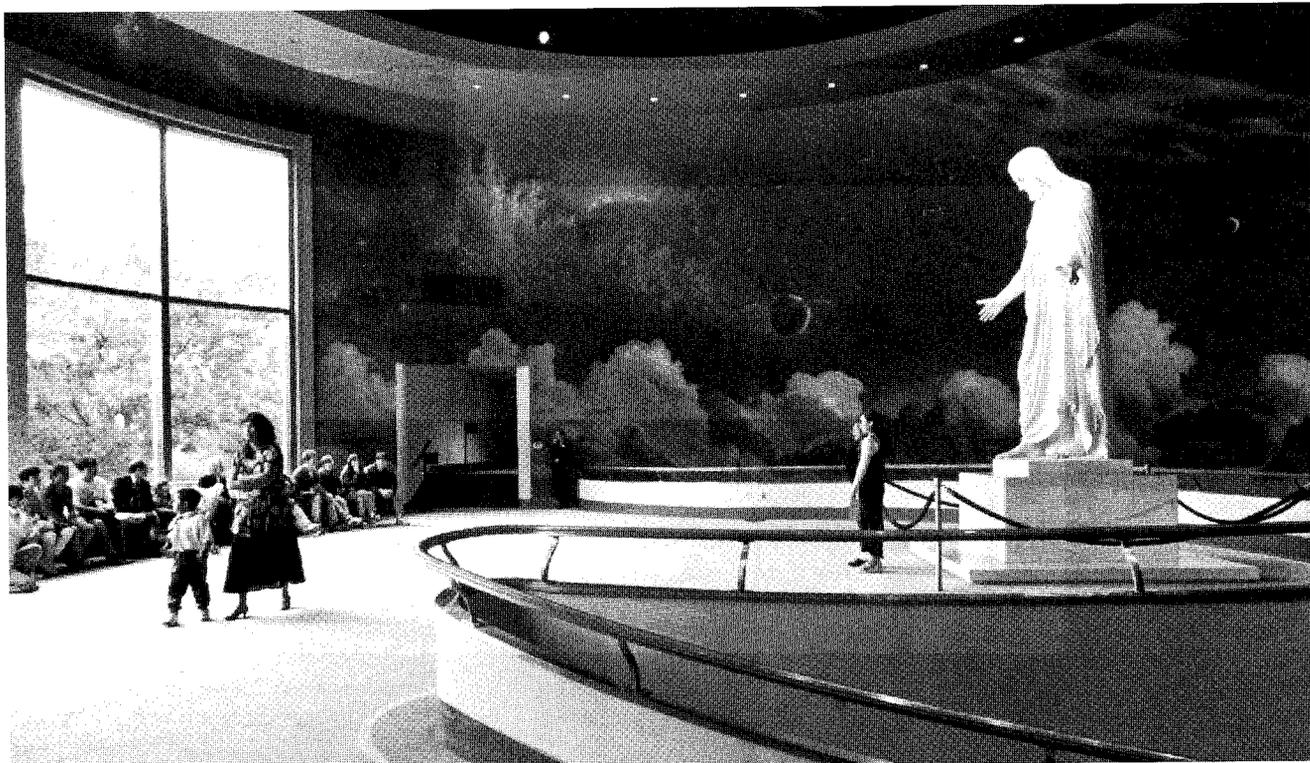
だれかのために何かをしたいと思うとき、福音を分かち合うことによってほかの人々を道徳的物質的により高い水準まで引き上げたいと考えるとき、ほかの人々のために何かを行い、分かち合うとき、わたしたちは彼らの助け手になり、救い手となります。そのようなときにこそ、救い主が言われた命、つまり永遠の祝福、天の祝福、神殿の祝福、愛する家族とともに分かち合うすべての祝福を見いだすことができます。

わたしはわたしの愛と証、知識、神が生きておられること、神はわたした

ちの御父であられ、わたしたちは神の子供であることについてわたし自身の証を残していきます。それは短い歌の中で歌われているとおりです。

神の子です、わたしやあなた  
あふれる恵みに感謝します  
わたしを助けて導いて  
いつかみもとへ行けるように  
(「神の子です」『賛美歌』189番)

この歌は実に簡潔で、純粹で、清らかです。わたしたちが知る必要のある事柄を教えてください。わたしは今日、ゴードン・ビトナー・ヒンクレー大管長を教会の大管長として、トーマス・S・モンソン長老とジェームズ・E・ファウスト長老を大管長会の副管長として支持し、また、十二使徒定員会とその他すべての中央幹部を支持する挙手ができたことに幸せと誇りを感じています。福音は真実です。福音は世の希望であり、なすべきすべてのことを成し遂げるための力です。わたしの愛と証をお伝えします。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

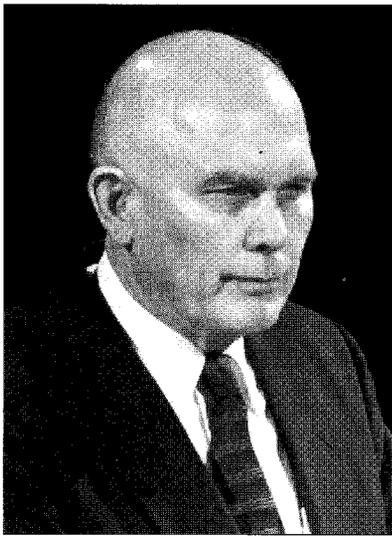


# アロン神権と聖餐

十二使徒定員会会員

ダリン・H・オークス

アロン神権者は、ふさわしい状態で聖餐を受けるすべての教会員に対して、主の御霊と天使の働きの導きを受けるための扉を開くのです。



兄弟の皆さん、今晚皆さんにお話しできる機会を感謝しています。アロン神権を持つ若い男性、また彼らを管理する監督と副監督の皆さんにお話ししたいと思います。主の晩餐の聖餐の準備と祝福、教会員へのパスなど、アロン神権者の神聖な活動についてお話しします。

## I.

1829年5月15日に、バプテスマのヨハネが地上にアロン神権を回復しました。バプテスマのヨハネは、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリの頭に手を置き、次のように言いました。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の

赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。また、レビの子らが再び義をもってささげ物を主にささげるまで、これは決して再び地上から取り去られることはないであろう。」(教義と聖約13:1)

後に主はさらに詳細に次の真理を明らかにされました。「この神権は、天使の働きと備えの福音の鍵を持つものである。

この福音は、悔い改めとバプテスマと罪の赦しの福音、また肉の戒めの律法であ[る。]」(教義と聖約84:26-27)

アロン神権が『天使の働き……の鍵』また『悔い改めとバプテスマと罪の赦し』の鍵を持つとはどういう意味でしょうか。その意味はバプテスマと聖餐の儀式の中に示されています。バプテスマは罪の赦しのための儀式です。そして、聖餐はバプテスマの聖約と祝福の更新です。どちらの儀式も、最初に求められるのが、罪の赦しです。これらの儀式の中で交わした聖約を守ると約束されています。天使の働きとは、この御霊の現れの一つです。

## II.

最初に、主から教えられたこの教義について、一緒に考えてみましょう。イエスは地上で教導の業に携わっておられたときに、バプテスマは救いに必要なものであるとお教えになりました。「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5) バプテスマは救いの儀

式の中でも、まず第一のものです。わたしたちはバプテスマを受けるときに、イエス・キリストの御名を受け、主に仕え、戒めを守ることを聖約します。

イエスは地上での働きの最後に、主の晩餐の聖餐を定められました。主はパンを裂き、祝福して、それを弟子たちに与えて言われました。「取って食べよ、これはわたしのからだである。」(マタイ26:26)「わたしを記念するため、このように行いなさい。」(ルカ22:19)主は杯を取り、感謝して彼らに与えて言われました。「これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。」(マタイ26:28)

救い主は聖餐を定めたときに、聖霊に関する教えと約束をお授けになりました。最後の晩餐として知られるその厳かなときに、イエスは慰め主すなわち聖霊の使命についてお説きになりました。慰め主は、主を証し、そのほかの真理を啓示してください。イエスはまた、聖霊が弟子たちのもとにおいてになるためには、御自分が去って行かなければならないということを説明なさいました。こう言われました。「わたしが……もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。」(ヨハネ16:7)主はよみがえった後に、「上から力を授けられるまでは」エルサレムにとどまっていなさいと弟子たちに言われました(ルカ24:49)。五旬節の日に「約束の聖霊」が弟子たちに「注がれた」とき、その力が授けられました(使徒2:33参照)。

同様に、救い主は新世界で聖餐を定めたときにも、約束をなさいました。「このパンを食べる者は、自分のためにわたしの体を食べるのであり、このぶどう酒を飲む者は、自分のためにわたしの血を飲むのである。その者は決して飢えることも渴くこともなく、満たされるであろう。」(3ニーファイ20:8)この約束の意味は明らかです。「さて、群衆は皆食べ終え、飲み終え、見よ、彼らは御霊に満たされた。」(3ニーファイ20:9)

聖餐を受けることと、聖霊の導きの密接な関係については、啓示を通して

与えられた祈りの中に説明されています。わたしたちはパンを頂くときに、進んでイエス・キリストの御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを証します。それをするときに、わたしたちはいつも御子の御霊を受けられるという約束を受けることができます(教義と聖約20:77参照)。

常に聖霊の導きを受けるということは、わたしたちが現世で持てる財産の中で、最も貴いものです。聖霊の賜物は、バプテスマの後にメルキゼデク神権の権能を持つ人によって授けられます。その賜物の祝福をほんとうに受けるためには、罪のない生活をしなければなりません。罪を犯すと、人は汚れた状態になり、主の御霊が遠ざかって行きます。主の御霊は「清くない宮」には住まわれないのです(モーサヤ2:36-37; アルマ34:35-36; ヒラマン4:24参照)。そして、いかなる汚れたものも主のみもとで住むことができません(エペソ5:5; 1ニーファイ10:21; アルマ7:21; モーセ6:57参照)。

2, 3週間前、わたしは裏庭でチェーンソーを使って1本の木を切りました。体が汚れる仕事でした。それが終わったときは、おがくずとオイルの混じった汚れが体中に付着していました。その状態では人には会えませんでした。落ち着いた気持ちでまた人に会えるように、水できれいにしたいと思いました。

若い男性にしても、その指導者たちにしても、バプテスマを受けた後、まったく罪のない生活をしてきたという人はだれもいません。だれであっても、バプテスマの後、さらに自分を清める備えをしなければ、霊的な事柄に関して死んでしまうのです。そして、聖霊の導きを受けることができず、最後の裁きの時には、「とこしえに捨てられるに違いない」のです(1ニーファイ10:21)。主がバプテスマを受けた教会員のために、罪の汚れから定期的に自分を清めるための方法を備えてくださったことに、心から感謝しています。聖餐はその方法の中で、欠かすことのできない部分なのです。

わたしたちは罪を悔い改め、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって主のみもとに来るように、また聖約に従って聖餐にあずかるよう命じられています。わたしたちがそのようにしてバプテスマの聖約を更新するなら、主はバプテスマの清めの効果を再新してください。そのようにして、わたしたちは清められ、常に主の御霊の導きを受けることができるのです。このことの大切さは、毎週聖餐を受けるようにという主の戒めの中に明らかにされています(教義と聖約59:8-9参照)。

この事柄におけるアロン神権の重要性は、幾ら強調しても足りないほどです。罪の赦しに関するこの重要なステップのすべては、バプテスマという救いの儀式とそれを更新する聖餐の儀式を通して行われます。この二つの儀式は、悔い改めの福音、またバプテスマと罪の赦しの鍵を行使する監督会の指示の下に、アロン神権者によって執り行われます。

### III.

密接なつながりがあるこれらのアロン神権の儀式は、天使の働きにとっても重要なものです。

「天使という言葉は、聖典の中で、神のメッセージを携えた天の存在に対して用いられている。」(George Q. Cannon, *Gospel Truth*, [29]sel. Jerreld L. Newquist [1987], 54) 聖文には、天使が親しく現れたことを示す数多くの事例が載せられています。ザカリヤとマリヤへの現れ(ルカ1章参照)、ベニヤミン王とヒラマンの息子ニーファイへの現れ(モーサヤ3:2; 3ニーファイ7:17-18参照)などは、そのごく一部です。わたしは若いときは、天使の働きにはそのような現れしかないと考えていました。アロン神権者だったころのわたしは、自分が天使を見るなどということは考えもしませんでした。そして、そのような現れがアロン神権とどのような関係があるのだろうかと思いました。

しかし天使の働きには、目には見えないものもあるのです。天使のメッセージは声、あるいは心に浮かぶ考えや



感じという形でも伝えられる場合があります。ジョン・テラー大管長はこう述べています。「天使、すなわち神の使者の働きがわたしたちの精神に働きかけ、それによって心の中に……永遠の世界からの啓示が浮かんでくることがある。」(*Gospel Kingdom*, [32]sel. G. Homer Durham [1987], 31)

ニーファイは反抗的な兄たちに語った言葉の中で、天使の働きの3つの現れを挙げています。(1) 一つは、彼らが「天使に会」ったこと(2) そして彼らが「その声を時々聞い」たこと(3) 天使が静かな細い声で「語りかけ」たが、彼らの「心が鈍っていた」ため「その言葉を感じ」られなかったことです(1ニーファイ17:45)。聖文には、福音を教え、人々をキリストに導くために天使が遣わされたことについて、ほかにも多くのことが書かれています(ヘブル1:14; アルマ39:19; モロナイ7:25, 29, 31-32; 教義と聖約20:35参照)。多くの場合、天使の働きかけは、視覚よりも感情や聴覚として伝えられます。

アロン神権はなぜ天使の働きの鍵を

持っているのでしょうか。その答えは、主の御霊に対する答えと同じです。

一般的に、霊的な導きと交わりという祝福は、清い人を通してしか受けることができません。前にも説明したように、わたしたちはバプテスマと聖餐というアロン神権の儀式を通して、自分自身の罪から清められ、戒めに従うなら常に主の御霊の導きを受けられるとの約束を授けられるのです。わたしは、その約束は聖霊だけでなく天使の働きのことも述べていると信じています。なぜなら「天使は聖霊の力で語る。したがって、天使はキリストの言葉を語る」からです(2ニーファイ32:3)。ですから、アロン神権者は、ふさわしい状態で聖餐を受けるすべての教会員に対して、主の御霊と天使の働きの導きを受けるための扉を開くのです。

#### IV.

わたしが今述べてきた教義は、聖典の中に記されているものです。またわたしたちは聖文を通して、神権を行使する人は、主に代わって働くのだということを知っています(教義と聖約1:38; 36:2参照)。ここで教師、祭司、執事が聖餐の準備、祝福、パスなどの神聖な責任を主に代わって果たすときに、どのようにすべきかを提案したいと思います。細かなルールを提案するつもりはありません。全世界の教会のワードや支部の状況はそれぞれに非常に異なり、ある状況に必要なと思われる具体的なルールを決めても、ほかの所にはそぐわないということがあり得るからです。わたしはそれよりも、教義に基づいた一つの原則を提案したいと思います。もしすべての人々がこの原則を理解し、それに従った行動をするなら、ルールはほとんど必要でなくなります。個々のケースについてルールや勧告が必要な場合は、地元の指導者が教義と関連の原則に一致した指導を与えることができます。

準備、祝福、パスなど、聖餐の儀式に携わる人々を適切に指導するために、わたしが提案する原則は、教会員の心を礼拝や聖約の更新からそらすような

ことを一切してはならないというものです。この原則に伴って、幾つか補足的な原則を提案します。

執事、教師、祭司は、厳粛で神聖な責任を果たすときには、常に清潔な身なりをし、敬虔でなければなりません。聖餐の準備という教師の特別な責任は、ほとんど人の目につかないものですが、厳粛に、また静かに、そして敬虔な態度で行うべきものです。教師は、自分たちが準備しているものは、主の肉体と血を象徴しているのだということを常に心に留めておく必要があります。

教会員の神聖な儀式に対する気持ちをそらすことがないようにするために、祭司は聖餐の祈りの言葉を、はっきりと分かりやすく話す必要があります。早口でそそくさと唱えたり、はっきりしない祈りは適切ではありません。主が一つ一つの言葉を定められたほど儀式と聖約が非常に重要なものであるということ、すべての出席者が理解できるようにしなければなりません。聖餐を受けて聖約を更新するすべての人が、神聖な言葉に集中できるようにしなければなりません。

この点について、わたしが若いころにした苦い経験の話したいと思います。16歳で祭司だったわたしが、地元のラジオ局でパートタイムのアナウンサーの仕事をしたころでした。ワードの聖餐のテーブルの前で祈りをした後で、出席していたある少女から、わたしの言い方がコマーシャルの文句を読み上げているようだと言われてしまいました。わたしがどのように思ったか、想像できるでしょうか。50年たった今でもその言葉が、心を苦しめます。兄弟の皆さん、聖餐の祈りの大切さを忘れないでください。皆さんはすべての出席者に代わって、主の僕として祈っているのです。はっきりと分かりやすく唱えてください。そして、心を込めて唱えてください。

執事は、人の注意を引くような不要な動作や表情がないようにして、敬虔で秩序立ったやり方で聖餐のパスをしなければなりません。すべての動きにおいて、教会員の心を礼拝や聖約の更新からそらすことがないようにしな

ればなりません。

聖餐の儀式の執行に携わる人は、それが準備であれ、祝福であれ、パスであれ、身なりを整え、つつましい服装をする必要があります。自分の外見が人々の目を引きつけるようなことのないようにしなければなりません。体の動きだけでなく外見においても、教会員の心を、この神聖な儀式の目的である礼拝や聖約の更新からそらすことがないようにしなければなりません。

人々の注意をそらしてはならないというこの原則は、目に見える事柄はもちろん、見えない事柄にも当てはまります。もしこの神聖な儀式に携わっている人がふさわしさに欠け、出席者の中にそれを知っている人がいた場合、その出席者は非常に集中をそがれることになります。若い男性の皆さんの中に、ふさわしくない人がいたら、その人はすぐ監督に話してください。そして、神権の義務をふさわしく適切に果たせるようになるために、どうすべきかについて監督の指示を受けてください。

最後の提案をしたいと思います。パンを裂く責任の祭司は除いて、アロン神権者も全員聖餐の賛美歌を歌うようにしてください。その賛美歌を通してわたしたちは礼拝し、聖餐にあずかる準備をします。儀式に携わる神権者以上に霊的な備えが必要な人はいません。若い兄弟たち、皆さんが聖餐の賛美歌を歌うのは大切なことです。ぜひそのようにしてください。

アロン神権には「悔い改めとバプテスマと罪の赦しの福音」の鍵があります(教義と聖約84:27)。聖餐を受けるとき、わたしたちは救い主の贖いの清め<sup>あがな</sup>の力を新たに受けることができます。「いつも御子の御霊を受けられる」という約束はわたしたちの霊性にとって非常に大切なものです(教義と聖約20:77)。アロン神権の儀式はこのすべてに重要なものです。それが真実であることを証します。また、アロン神権を持つ兄弟たちが、その神聖な責任の重要性を理解し、それにふさわしく行動するように祈っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 神権定員会

七十人会長会

D・トッド・クリストファーソン

今こそ神権定員会をその名にふさわしく、その使命を<sup>まっとう</sup>全うする組織とするために力の限りを尽くすと決意してください。



1988年、農夫だったジョージ・ゴーツ兄弟は、ユタ州リーハイでてんさいを栽培していました。その年は冬が早く訪れたため、土の中に植えられているてんさいはほとんど凍ってしまいました。ジョージと若い息子フランシスにとって、収穫は時間のかかる、またつらい作業となりました。ちょうどそのころ、インフルエンザが流行し始めました。その恐ろしい病により、ジョージの息子チャールズと、チャールズの幼い子供3人が命を落としました。二人は女の子、もう一人は男の子でした。悲嘆に暮れながらもジョージ・ゴーツはわずか6日間で、ユタ州オグデンまで3度も往復して、埋葬するために遺体を自宅に引き取りました。この恐ろしい出来事が過ぎ去ると、ジョージとフランシスはてんさい畑へ戻るために馬車に乗り込みました。

「〔途中で〕、近所の農夫たちが工場にてんさいの荷を運ぶ馬車の列に出会いました。通りすがりにみんなが声をかけてきました。『やあ、ジョージおじさん。』『大変だったなあ、ジョージ』『気の毒なことをしたね、ジョージ』『あなたには友達がいっぱいいるな、ジョージ。』

最後の馬車は……そばかすだらけのジャスパー・ロルフでした。彼は笑顔であいさつし、叫びました。『これで全部だよ、ジョージおじさん。』

〔ゴーツ兄弟は〕フランシスの方を向いて、『あれがわしらのものだったらなあ』と言いました。

農場の入り口に着くと、フランシスがてんさい運搬用の赤い大きな荷台から飛び降りて門を開けました。そして〔ジョージは〕馬車を中に引き入れてから、一息ついて、辺りを見回しました。……すると……てんさいが見当たりません。ジャスパー・ロルフの言った言葉の意味が分かったのはそのときでした。『これで全部だよ、ジョージおじさん！』

〔ジョージは〕馬車から降りました。心からの愛情を注いできた茶色の豊かな土を手やすく、……てんさいの葉を手に取り……労働の象徴である土と葉を我が目を疑うかのように見詰めていました。

そして〔彼は〕てんさいの葉の山に腰をかけました。わずか6日間で愛する者を4人も埋葬のために運び、ひつぎを造り、墓穴を掘り、埋葬衣作りまで手伝いながら決して動じなかったあの強いジョージ、苦しい目に遭いなが

ら動揺しなかった彼が、てんさいの葉の山に座って子供のようにすすり泣きました。

それから立ち上がった彼は、涙をぬぐい、……空を見上げて言いました。『父なる神よ、ワードの長老たちに感謝します。』<sup>1</sup>

わたしは今晚、このような長老についてお話ししたいと思います。神権を持つ兄弟、神権定員会についてお話ししたいと思います。

ボイド・K・パッカー長老は、次のように説明しています。「いにしえの時代では、指名を受けて特別な集団に加えられた人には、その人が果たす務めについて、必ずラテン語で書かれた記録が残されました。そこには、所属する組織の責任の概要と会員たるべき人の定義が明確にされ、必ず『わたしたちは、あなたがこの選ばれた集団に加えられることを望む』“quorum vos unum”という言葉が刻まれていました。<sup>2</sup>

「主は時満ちる神権時代に、神権者を定員会ごとに組織するよう指示を与えられました。定員会とは、主の用向きを行い、主の御業を進める権能を与えられた兄弟たちの、選ばれた集まりを意味します。

定員会は兄弟愛の組織です。……〔定員会の会員となることは〕神権の職に聖任された人の持つ権利となります。<sup>3</sup>

大管長会<sup>4</sup>、十二使徒定員会<sup>5</sup>、七十人定員会<sup>6</sup>を含む、今日のイエス・キリスト教会における神権定員会と、各々の義務は聖文により規定されています。大祭司、長老<sup>7</sup>は、アロン神権の3つの定員会を構成する祭司、教師、執事<sup>8</sup>と同様、シオンのステーキの「常任教導者」と見なされています。

60年前、当時十二使徒定員会会員を務めていたスティーブン・L・リチャーズ長老は神権定員会の機能について、長老独特の知的かつ簡潔な表現をもって、次のように説明しています。「定員会とは、次の3つを指します。第1にクラス、第2に兄弟愛、第3に奉仕を行う組織です。<sup>9</sup>それでは、これら神権定員会の3つの側面について、手短かに検討し

てみましょう。

1. 定員会はクラスである。神権定員会やグループがクラスに集うとき、会員はともに学び、「神の善い言葉で養われ」<sup>10</sup>、霊的に成長することができます。わたしたちは、さらに効果的に教えられるようになるために学びます。<sup>11</sup>今年から、神権者は、定員会が活性化し「預言者の塾」<sup>12</sup>となることを目指して、学習課程の一部を扶助協会と共有するプログラムを実施しています。月の第2、第3日曜日は、学習課程として、教会の歴代大管長の教えを学びます。1998年、1999年度はブリガム・ヤングの説教の抜粋を編集した書籍を用いています。このテキストには教義と実践がふんだんに盛り込まれています。続く第4日曜日の学習課程は『わたしたちの時代のための教え』を採り上げて、大管長会から承認された、福音に関して現在わたしたちが注目すべき事柄を研究する機会となっています。定員会とグループの指導者である兄弟の皆さんは、新しい学習課程に関して大管長会から与えられた指示を、完全に理解するまで研究するようお願いいたします。そして、この指示に厳密に従ってください。

アロン神権定員会もまた、現在こそ素晴らしい教授用資料に恵まれていますが、過去にはそうでない時期もありました。今世紀初頭、幾つかのステークでは、印刷され系統立ったアロン神権定員会のレッスンの概要が準備されていましたが、一方では若い男性が思い思いの方法でレッスンを実施するに任されているステークもありました。その結果、「我々の標準からして若干異常とも思える神権会が行われるようになった。例を挙げると、ある執事や教師の定員会ではクラスの時間を二つに分け、宗教のレッスンとともに『トム・ソーヤ』『ジャングル・ブック』『野生の呼び声』『ピグス・イズ・ピグス』『農場のフランク』といった冒険小説を読む時間も設けていた。」<sup>13</sup>現在、このような「文化的補足資料」の研究は、ほかの時間に行うことになっています。定員会がクラスに集うとき、その時間はより高い位に属する事柄を

学ぶために使われます。現在のアロン神権者は、ごく一部を挙げるだけでも、「行動の指針となる聖約」「母親とその神聖な使命を尊ぶ」「障害者を尊重し、励ます」「信仰を守り抜く勇氣」といったテーマを含む素晴らしい学習課程に基づいて学んでいます。アロン神権定員会は、神権者のクラスとしてふさわしい内容を持ち、充実した定員会を経験する機会の一つとなっています。

2. 定員会は兄弟愛である。1982年10月に行われた総大会で、ロバート・L・バックマン長老はマーク・ピーターソンという少年の経験について話しました。彼が執事に聖任されて間もなく、執事定員会の会長はマークと両親を自宅に訪問する約束を作りました。

「約束の時間になると、玄関のベルが鳴りました。玄関には、会長会の面々が背広に白いワイシャツ、ネクタイという姿で、聖典を持って立っていました。

彼らはマークや両親とともに座ると、まず祈りをささげ、それからアジェンダを手渡しました。

会長は聖典を開き、マークと父親に聖句を読むように言いました。それはアロン神権の権能、アロン神権とはどのようなものか、そして執事の義務に関する聖句でした。

続いて会長はマークの責任と義務について説明しました。服装や聖餐のバ

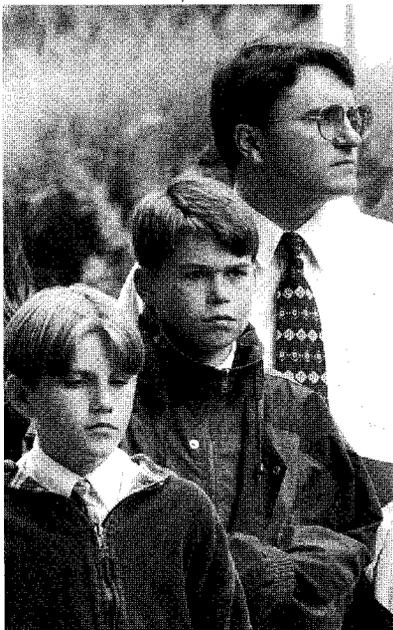
スの仕方、メッセンジャーとしての態度、断食献金の集め方などについて話しました。そして、何か質問がありますかと尋ねました。

最後に、マークを定員会に歓迎することを伝え、援助が必要ときには喜んで助けますと言いました。彼らが帰ると、マークは……目を皿のように大きく開いて父親に言いました。『すばらしい人たちだね。』<sup>14</sup>

神権定員会の中で感じる兄弟愛は実にすばらしいものです。わたしが七十人定員会の会員に召されたとき、定員会の兄弟たちと交わっていく中で自分のふさわしさを証明していく間に、いづれ彼らに受け入れてもらえるだろうと考えていました。いつかは自分が期待されていることを達成して彼らから認めてもらいたいと願っていました。ところが驚いたことに、わたしよりもずっと才能にたけ多くの成功を取めている彼らはわたしをすぐに歓迎してくれ、初めから自分の兄弟のように分け隔てなく受け入れてくれました。わたしは定員会の一員となったその日から、彼らに支えられ、励ましを受け、愛され、訓練を受けてきました。その結果、わたしも定員会のために貢献し、できるかぎり兄弟たちの助けになりたいと心から願っています。

デビッド・O・マッケイ大管長はこ





のように教えています。「神権が他人と区別したり、ほかの人々の上に立たせるようなものでしかなければ、グループや定員会は必要ありません。神が認められたグループが存在するということは、わたしたちが互いに依存しており、お互い助け合うことが必要不可欠であることを明らかにしています。」<sup>15</sup>

最近バプテスマを受けた兄弟たちやその家族ほど、定員会の兄弟愛を必要としている人々はいないということを覚えておく必要があります。定員会やグループの指導者たちはワードや支部の評議会が開かれる度に改宗者の教会定着について活発に意見を述べ、そのための働きを率先して行わなければならない。

**3. 定員会は奉仕を行う組織です。**先ほどわたしは新しいメルキゼデク神権の学習課程についてお話ししましたが、毎月第1日曜日の神権会の時間に何が行われるのかについては触れませんでした。その日の神権会はとても大切な集会です。第1日曜日には、神権者は各定員会やグループで彼らの役割について学び、それを実行に移す計画を立てます。その集会の検討事項には訓練と話し合い、報告と責任の割り当てなどが含まれます。また、神権の儀式や祝福を正確に執行する方法を学ぶ場であり、神権にかかわる業務を処理する時間でもあります。いわばこの集会は

神権を行使する時間です。わたしはまさしくこのことが80年前ユタ州リーハイで行われたと思います。長老定員会の兄弟たちは困り果てているジョージ・ゴータス兄弟の代わりにてんさいを収穫する計画を集会の中で立てたことで

メルキゼデク神権およびアロン神権定員会の真髄は奉仕することにあります。偉大な管理大祭司でありわたしたちの模範であるイエス・キリストはこのように宣言されました。

「あなたがたの間で偉くなりたと思う者は、仕える人となり、

あなたがたの間でかしらになりたと思う者は、すべての人の僕しもべとならねばならない。

人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである。」<sup>16</sup>

何年も前にゴードン・B・ヒンクレー大管長は理想的な神権定員会の在り方について次のように述べています。「兄弟の皆さん、神権定員会が所属するすべての会員にとって力の源となり、会員一人一人が次のように言うことができるのであれば、それは驚嘆すべき日の到来であり、主の目的の成就する日の到来である。『わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の神権定員会の一つに所属しています。わたしは兄弟たちが必要としていることなら何でも援助します。そしてわたし自身も必要であれば彼らの助けを受けることができると確信しています。兄弟たちとともに働くとき、わたしたちは神の聖約の息子として成長し、それが財政的なものであろうと、社会的、霊的なものであろうと、逆境に遭っても、戸惑いも恐れも覚えることなく、確固として立つことができるのです。』」<sup>17</sup>

わたしたちはこのことが成就する驚嘆すべき日の到来を遅れさせたり、手をこまねいて待ってはいりません。神権の聖任を受けた皆さん一人一人はそれぞれの定員会に属しています。定員会を構成するために必要な人数の神権者がいない所に住んでいても、その兄弟たちは神権グループに属し、や

がてそれは大きくなって定員会となります。今こそ神権定員会をその名にふさわしく、その使命を全うする組織とするために力の限りを尽くすと決意してください。定員会のレッスンで兄弟たちとともに福音を学んでください。定員会の中に兄弟愛をはぐくみ、そこで計画される奉仕の業と一緒にあな行ってください。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. ボーン・J・フェザーストーン「信仰、希望、愛があった」『聖徒の道』1973年11月号、517-518
2. A Royal Priesthood, Melchizedek Priesthood Study Guide (1975-76), 131.
3. 「すべての長老、そしてすべての女性が知っておくべきこと—神権政体の原則に関する手引」『聖徒の道』1994年11月号、19
4. 教義と聖約102:9-10; 107:9, 22, 78-81, 91-92
5. 教義と聖約18:26-27; 107:23-24, 33, 35, 58
6. 教義と聖約107:25-26, 34, 38, 93-97
7. 教義と聖約20:38-45; 43:15-16; 107:7, 10-12, 17, 89; 124:133-135, 137参照
8. 教義と聖約20:46-60; 107:60-63; 85-88参照
9. Conference Report, Oct. 1938, 118
10. モロナイ6:4
11. 教義と聖約50:13-14参照
12. 教義と聖約88:127参照
13. William Hartley, "The Priesthood Reform Movement, 1908-1922" *BYU Studies*, Winter 1973, 138
14. 「アロン神権者に新たな活力を吹き込む」『聖徒の道』1983年1月号、66-67
15. Conference Report, Oct. 1968, 84
16. マルコ10:43-45
17. 「福祉に関する神権定員会の責任」『聖徒の道』1978年2月号、132

# 「わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」

七十人

H・ブライアン・リチャーズ

若い兄弟たちにできることで、専任宣教師として伝道に出ること以上に大切なことはありません。彼らが主イエス・キリストの僕として行う立派な働きには永遠の価値があります。



「そしてヨシュアは〔イスラエルの〕すべての民に言った、『……あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。』」（ヨシュア 24：2、15）

ヨシュアの時代と同じように、それは今日のわたしたちにも求められています。両親に求められる選択の一つとして、わたしたちは自分の息子を伝道に備えさせるかどうかを決めなければなりません。

この決断がどれほど大切かをよく理解できるように、現代の預言者の言葉を引用したいと思います。

ハワード・W・ハンター大管長はこ

のように語りました。「これまでの預言者たちは、有能でふさわしいすべての若い男性は、専任宣教師として伝道に出るべきである、と教えてきました。わたしも今日、その必要性を強調したいと思います。」（「神の御子に従う」『聖徒の道』1995年1月号、98）

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように述べています。「前にも申し上げましたが、伝道活動は本質的に神権活動です。若い男性が主たる重荷を負わなければならないのはそのためです。伝道活動は彼らの義務であり、責任だからです。」（「神殿、改宗者の定着、伝道活動について」『聖徒の道』1998年1月号、61）

専任宣教師として伝道に出ようと決意をしている今日の若い男性に主は何と言われるのでしょうか。主は19歳のオーソン・ブラットに愛のあふれる言葉をかけておられます。「わたしの子オーソンよ、主なる神であるわたし……があなたに言うことに耳を傾け……なさい。

……あなたは信じたので、幸いである。

また、あなたはわたしの福音を宣べ伝えるためにわたしから召されているので、なおさら幸いである。」（教義と聖約34：1-5）奉仕の召しにこたえた若い男性に主はどれほどの愛を注いでおられるかを皆さんは感じる事ができるでしょう。

わたしたちは親として、息子が主に仕えるふさわしさと願いを持つように

備える責任があります。わたしたちには今の時代まで取っておかれたこれらの息子を見守る責任があります。主は息子をわたしたちに託されました。わたしたちはいつの日かこの責任について報告を求められるでしょう。息子を主に仕えるために準備させることは、この管理の職を与えられた人々が受ける祝福の一つです。

しばらくの間、教会の両親と息子である皆さんにお話したいと思います。『モルモン書』には両親が若い息子の生活に与え得る影響力について力強く伝えている物語があります。それは自分たちの国の自由を守るために戦うことを志願した2,060人の青年たちの話です。彼らはヒラマンに率いられて戦場に向かいました。「にもかかわらず、……だれ一人死なずに済んだ……。彼らの中には傷をたくさん負わなかった者は一人もいませんでした。」（アルマ 57：25）なぜでしょうか。「彼らはすべての号令に従ってそのとおりに行うように努めた」からでした。ヒラマンはこの偉大な奇跡をもたらした理由を説明しています。「そのことでわたしは；彼らが母親たちから教わったと言ったわたしに話してくれた言葉を思い出しました。」（アルマ57：21）母親は息子たちに何を教えたのでしょうか。「すなわち、公正な神がましますことと、疑わない者はだれでも神の驚くべき力によって守られるということを深く信じていたので、それが起こったのです。」（アルマ57：26）

両親の皆さん、自分が息子の生活にどれほど大きな影響を及ぼすか自覚しているでしょうか。公正な神がおられること、神は有能でふさわしいすべての若い男性が伝道に出よう望んでおられることを息子に教えるならば、息子は主の召しにこたえる信仰を持つでしょう。

監督の皆さん、皆さんには管理の職の一部として、若い男性を専任宣教師に備えさせるという大切な責任があります。早い時期にそのための行動を起こしてください。アルマが勧めている実験を理解できるように助けてください。それはまず彼らの心に伝道に出る

という種を植え付けることから始まります。そして彼らにこの種が良いものであるかどうかを主に尋ねさせてください。その種を育てよう彼らを助けると、やがてその種は生長して、若人を伝道に送り出すという奇跡をもたらすことでしょう。

わたしの息子たちを教え、伝道に出るよう備えてくれたりチャーズ姉妹、監督、そして神権指導者の方々にわたしはいつも感謝しています。

専任宣教師として働く青年の数を飛躍的に増大させるにはどうすればよいでしょうか。まず最初に、両親は自分たちの責任を理解しなければなりません。どうすれば息子を伝道に備えられるかを天の御父に尋ねなければなりません。これはアメリカ、イングランド、モンゴル、ブラジルの若人だけではありません。教会の有能でふさわしいすべての若い男性です。監督の皆さんも、同様のプロセスを踏まなければなりません。

ボイド・K・パッカー長老はこのように述べています。「まことの教えを理解すれば、人の態度や行動は変わります。」（「幼い子供たち」『聖徒の道』1987年1月号、18）伝道について若い男性の行動を変える教えとは、一人の人間がどれほど大きな価値を持つ存在

であるかを理解することです。イエス・キリストは無限の贖罪しよくざいをもたらすために至高の犠牲を払ってくださいました。この無限の贖罪なしに、わたしたちは天の御父のみもとへ帰り、天の御父とともに住むことはできません。両親、監督、若い男性がこのまことの教えを理解するならば、若い男性は奉仕するための備えができて、伝道に出たいと望むようになるでしょう。

ジョー・J・クリステンセン長老の言葉を引用したいと思います。『スケジュールに問題がなければ、気が向いたら、あるいは学業や進路、恋愛の妨げにならなければ、伝道に出なさい』とは、主は言われませんでした。福音を宣べ伝えるのは戒めであって、単なる提案ではありません。祝福であり、特権で〔す。〕忘れないください。……主とその預言者は皆さんを信頼しています。（「救い主はあなたを頼りにしています」『聖徒の道』1997年1月号、47）

若い兄弟たちにできることで、専任宣教師として伝道に出ること以上に大切なことはありません。彼らが主イエス・キリストの僕しもべとして行う立派な働きには永遠の価値があります。

現在、世界の歴史上最大の規模とな

った宣教師の軍勢が一丸となって働いています。あなたの息子がこの大いなる軍勢から取り残されることのないようにしてください。地上に来る前に主から信頼された折り紙付きの若人であり、普通の若者とは違うのです。彼らはこの時代に出て来るようにとどめておかれたえりすぐりの霊です。

全世界に福音を宣言するという主から与えられたこの大いなる戒めについて深く考えるとともに、今日の教会のすべての若い男性が専任宣教師として奉仕する望みを持ち、ふさわしく生活するよう皆さんの個人の祈りと家族の祈りの中で、天の御父に願い求めてくださるようお願いしたいと思います。

わたしたちが若い男性を奉仕の業に備えさせる決意を固めることができるよう、天の御父の祝福がありますように。今日の教会の若人がヒラマンの息子たちようになって、主の御言葉一つ一つにそのとおりに従えますように。彼らが山の上に置かれた光となって人々を照らし、いにしへのヨシュアのように、主に仕えるために選ばれた者であることを宣言できますように。これらの願いがかなえられるよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。



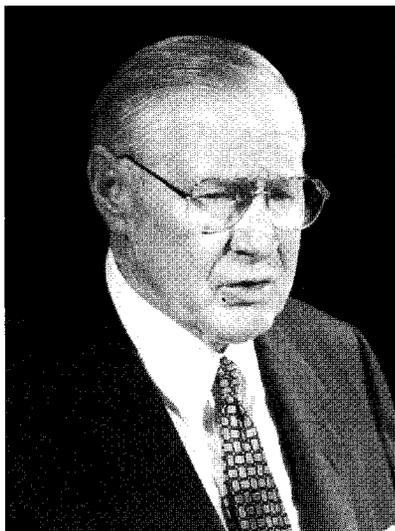
神権部会でタバナクル合唱団とモルモン・ユース・コーラスの兄弟たちを指揮するロバート・C・ボートン。

# 「あなたがたは、いったい、 なんの権威……によって、 このことをしたのか」

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

神の神権は世の中において、人々を善に向かわせる大きな力となっています。……この偉大な力を……〔わたしたちは〕託されています。自分たちの責任を怠り、託された力を弱めることがあってはいけません。



**愛**する兄弟の皆さん、神の神権者として献身し、忠実に働いておられる皆さんに愛と感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

今年の初めにわたしは息子3人とともに、アメリカ合衆国の陸軍兵だったわたしの父が第一次世界大戦中、戦闘に参加したフランスの各地を訪れました。この大戦に巻き込まれた人々は皆、大きな苦難と悲惨な結果を経験しました。何百万もの人命が失われました。父は命こそ落とさずでしたが、この世を去るまで癒えることのない傷を心と体に負いました。恐ろしい経験

したにもかかわらず、父はこのような書き出しで日記をつづっています。「再び召集令を受けたら、やはりわたしは応じるだろう。それがわたしの義務だからである。」わたしたちは80年の歳月が流れたその美しい田園地帯を通り、当時の戦場と両軍の兵士が眠る墓地を訪れました。パリから離れた軍人墓地で、わたしはスタンフォード・ヒンクレーの十字架に手を置き、携帯電話を通じその場で受けた気持ちをヒンクレー大管長に伝えました。

第一次世界大戦はとりわけわたしたちの家族に悲劇をもたらしました。父の戦場の数か所で、敵軍兵に父のいとこの子数人が含まれていたからです。わたしたちは最終的にこれらの親戚を探し当て、彼らが敬虔なクリスチャンであったことを知りました。彼らは国家の政策や戦争の原因とは無関係の人々でした。彼らも父と同様、義務として国家のために働きました。第一次世界大戦とその後起こった戦争は、罪のない無数の人々に多大な苦難をもたらし、彼らを死に至らしめました。端的に言えば、多くの場合、戦争は権力へのあくなき欲望が原因となって引き起こされています。

今晚、わたしは若い神権者に、力とそれを正しく行使する方法、そして力を得るために必要とされる義務の遂行

についてお話ししたいと思います。権力は非常に魅力的なものです。善悪双方にその姿を変えます。皆さんは幼いころ、力を持つ様々な人にあこがれたことと思います。スポーツの花形選手、芸能人、富豪、政治家などがその対象となったことでしょう。残念なことに一部の青少年、特に学業の成績が振るわない、チームで正選手になれない、聖歌隊の選抜メンバーに加われないといった人々は、自分が拒絶されていると感じ、適性にかかわらず受け入れてくれそうな集団に誘われます。彼らは、周囲の評価や権威への執着心から、あたかも火に飛び込む虫のように、街の不良グループや、肉体と霊を害する習慣に引きずり込む粗暴な人々との交際へと走ります。

神権を持つ青少年は世界で最も偉大な力の源を得られます。それは神の神権です。ほかの力の源とはまったく対称的に、聖なる神権は正しく行使することにより永続する霊的、肉体的強さを養い続けます。神権は「天の力と不可分のものとして結びついており」、「義の原則に従ってしか……運用すること」ができません。<sup>2</sup> 預言者ジョセフ・スミスは神権についてこのように述べています。「〔それは〕すべての知識、教義、救いの計画、そしてあらゆる重要な事柄が天より啓示される手段です。……それは全能者が……現在に至るまで人の子らに御自身を現してこられた手段であり、永遠にわたり御自身の目的を明らかにされる手段でもあります。」<sup>3</sup>

この力はわたしたちが義務を果たす忠実さに応じてもたらされます。預言者ジョセフが述べているように、「主はわたしたちに、なすべき業に応じた力を、遭遇する試練に応じた強さを、そして必要とするだけの慈悲と助けをお与えになりました。」<sup>4</sup> 一つの例として、預言者エリヤは神の力を示すために、神権を行使して天から火を降らせることができました。

ヒュー・B・ブラウン副管長がまだ中央幹部になる前のことです。当時、ブラウン長老はカナダ陸軍の将校であり、大きな権限がありました。部下は彼の前では直立不動の姿勢をとって敬

礼し、将校殿という敬称で呼びました。ある日のこと、ブラウン長老は、ある入院患者が自分に面会を求めているという伝言を受けました。病院に着いたブラウン長老は、小さな部屋に通されました。部屋には一人の若い男性が横たわっていました。ブラウン長老は、その若い男性が以前日曜学校で自分が教えた生徒だったことを思い出しました。その若い男性は、こう言いました。「ブラウン兄弟、わたしのためにあなたの持つ権能を使っただけではありません。医者からは、もう助からないと言われていています。わたしに癒しの儀式を施してくださいませんか。」自らの手を少年の頭の上に置き祝福を授けるときに、権威の象徴である制服を身に着け感じていたブラウン長老の誇りは消えてなくなりました。その少年が必要としていた援助は、国王の軍に属する将校としての権威によるのではなく、神権の権能によるものだったのです。

神権の力には大きな責任が伴います。実に、わたしたちは自らの義務を果たすときのみ神権の力を享受できるのです。この教会は、神権の義務に関連し、過去に苦い教訓を学ばさせられました。初期の教会の神権者は、まだ試しを受けていませんでした。預言者ジョセフ・スミスの指導の下、主は当時の神権者を教え、ふるいにかけてきました。自らの義務を果たすことを学ぶべく、彼らは迫害を受け、容赦なく追われました。数多くの神権者がつまづきました。初期の神権者の中には、最終的にこのソルトレーク盆地に安住の地を見いだすまでに、3度にもわたって、過酷な清めの試練に耐えた人々もいました。

最初の試練は、1834年の春と夏、シオンの陣営で起こりました。2度目の試練は、それからちょうど4年後、何千もの聖徒がミズーリ州からイリノイ州まで移動する際に生じました。それから12年後には、イリノイ州からウインタークォーターズへの大規模の脱出、そしてその翌年にはアメリカ西部盆地への大移動が続きました。

シオンの陣営は、ミズーリ州ジャクソン郡においてもう一度聖徒を備えさ

せるために組織されました。「シオンを贖うために」<sup>6</sup>約200人の兄弟たちが、預言者ジョセフ・スミスの個人的な指導の下、熾烈を極める状況の中で1,000マイル（1,600キロ）以上に及ぶ道程を行軍したのです。

当時16歳だったジョージ・A・スミスは、選ばれてこの陣営に参加し、兄弟たちが耐えた苦難、試練、困難を一部記録しました。1834年5月26日の記録にはこう記されています。「今日は非常に暑かった。のどの渇きに悩まされ、仕方なく生き物がひしめく沼地で水を飲んだ。この沼地でわたしはぼうふらを歯でこし取る方法を学んだ。」その翌日、疲れ切ったソロモン・ハンフリーは地面に横たわって眠りました。翌朝目覚めると、頭からわずか1フィート（約30センチ）以内の所ですながら蛇がとぐろを巻いていました。何とこの蛇は自分と、寝るとき手に持っていた帽子の間に横たわっていたのです。兄弟たちは彼の周囲に集まって言いました。「がらがら蛇だ、殺してしまおう。」ところがハンフリー兄弟はこう答えました。「とんでもない。殺させなんかしないぞ。絶対に傷つけたらだめだ。一緒に気持ちよく寝てたんだからね。」<sup>8</sup>わたし個人としては、がらがら蛇と一緒に眠ろうとは思いません。

ジョージ・A・スミス兄弟はこう記録しています。「預言者ジョセフも、旅の間中、ほかの人々と同様、疲れていた。必要物資の調達や陣営自体の管理に加え、行程の大半を徒歩で進み、水疱、足の皮膚の破れと出血が絶えなかった。それは暑い季節の中を、1日に約40から60数キロ歩いたことによる当然の結果であった。しかしその旅の間、陣営のほとんどの者たちが不十分な糧食、まずいパン……うじのわいたベーコンやチーズなどについて、ジョセフ・スミスに不平を並べ立てたのに比べ、彼自身は決してつぶやくことも、不平を漏らすこともなかった。……わたしたちはシオンの陣営に属していたにもかかわらず多くの者が、祈らず、思慮と注意に欠け、愚かで、手に負えない有様だった。……ジョセフはわたしたちに対し、子供に接するように忍耐し、

たしなめていかなければならなかった。しかし、陣営の中には決してつぶやかない人々も多くいた。彼らはずも指導者の望むとおりに行動するよう常に備え、実際喜んで実行したのである。」<sup>9</sup>

シオンの陣営は、聖徒たちをミズーリ州ジャクソン郡の所有地へ戻すという公の目的は達成できませんでしたが、過酷な厳しさの中で計り知れないほど貴重な教訓を得る場となったのです。彼らは、信仰は命そのものよりも大切であることを学びました。1835年2月14日に開かれた大会において、このシオンの陣営で働いた人々の中から、十二使徒定員会と七十人が選出されました。この雄々しい兄弟たちは、その後15年間、教会を指導しました。

主は教会歴史のこの時代に、神権のもう一つの偉大な義務を教えてくださいました。主は教義と聖約第104章において、貧しい人々に関して、教会の制度を規定されました。「それゆえ、わたしの造った豊かなものの中から取りながら、わたしの福音の律法に従って貧しい者や乏しい者に物を分け与えることをしない者は、悪人とともに、地獄で苦しみながら見上げるであろう。」<sup>10</sup>この先例として、1839年1月のミズーリ州から脱出する際に、兄弟たちの多くが「ミズーリ州からの退去を望む人がすべてそこを立ち去るまで……待ち、互いに助け合うことを誓ったのである。」<sup>11</sup>

ダニエル・スティルウェル・トーマスは、1839年の厳冬の2月を振り返り次のように述べています。「わたしたちは〔ミシシッピ川〕を渡る前に、幌馬車の荷を降ろしてから、貧しい人々の退去を助け、暴徒たちから執拗な脅迫を受けていた人々の命を救うために、その幌馬車を送り返した。」<sup>12</sup>ダニエル・トーマスには5人の子供がいましたが、子供全員で一足の靴を共有しているという状況でした。それでも彼は、貧しい聖徒たちを救うために、その幌馬車を送り返したのです。

後の1845年10月6日、神権者の一団がノーブー神殿に集い、厳粛な雰囲気の中で各々が誓約書に署名をしました。それは貧しい人々を西部へ移住する聖徒の本隊と一緒に連れて行くために、

によって、このことをしたのか」<sup>17</sup>と聞かれました。わたしたちはペテロと同じように、これはすべて神聖な神権の力と「ナザレ人イエス・キリストの御名」<sup>18</sup>によってなされるのであると世の人々に宣言するものです。

この厳肅な証を、イエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。

注

1. George A. Faust diary, in author's possession, 1.
2. 教義と聖約121:36
3. History of the Church, 4:207.
4. History of the Church, 1:176.
5. Adapted from Hugh B. Brown, "Be What You Will to Be" *Brigham Young University Speeches of the Year* (14 Feb. 1967), 8-9.
6. B. H. Roberts, introduction to *History of the Church*, 3:x1.
7. "History of George Albert Smith", typescript, Historical Department, Archives Division, The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 17.
8. "History of George Albert Smith", 18.
9. "History of George Albert Smith", 33.
10. 教義と聖約104:18
11. History of the Church, 3:251; see also 3:250, 252-255.
12. "To the Editor and Readers of the *Lehi Post*" (n.d.), Historical Department, Archives Division, The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 3.
13. See Brigham Young, *Manuscript History of Brigham Young, 1846-1847*, comp. Elden J. Watson (1971), 145.
14. 教義と聖約59:23
15. 教義と聖約84:26
16. 教義と聖約20:51
17. 使徒4:7
18. 使徒4:10

# 明日を決める今日

第一副管長

トーマス・S・モンソン

主に学び、主を信じ、主に頼り、主に従い、主に従順でありましょう。そうすれば、主のようになれるでしょう。



この場にいらっしゃる方々もそうでない方々も含め、このように大勢の神権者の前に立つのは、わたしにとって喜びであり特権です。教会の神権部会は、アロン神権者の時代から今に至るまで、いつも楽しみにしてきました。賛美歌に「来たれ、予言者よりみ言葉聞け」と歌われていますが、これはこの上ない祝福です。

わたしたちは現在ゴードン・B・ヒンクレーを末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、また教会の預言者、聖見者、啓示者として支持しています。わたしは、ある誇らしげな父親から手紙を受けました。そこには、当時5歳の息子さんの経験や大管長への愛、また大管長の模範に従いたいという願いが書かれていました。このような手紙です。

「クリストファーは5歳のとき、日曜

日に教会に行く支度をほとんど自分でしようとしていました。ある日曜日、自分でスーツを着てネクタイをしようと思いました。それまでしたことがなかったのです。まず自分でクロゼットを開けて、お下りのネクタイを探し、結ぶ必要のないクリップ式のタイを見つけました。クリストファーは白いシャツにそのネクタイを付け、その上から、兄のクロゼットに何年も下がっていた小さな紺色のジャケットを着ました。

次に一人で洗面所へ行き、ブロンドの髪を丹念にとかしました。そのころに、わたしも自分の支度を終えるために洗面所に入って行きました。クリストファーは鏡の中の自分にはほえんでいました。そして、鏡から目を離さずに、自慢げに言いました。「見て、パパ、クリストファー・B・ヒンクレーだよ。」この父親は自分の息子が主の預言者をよく観察していたことに気づいたのです。

子供たちは見えています。永遠の教えを吸収しています。将来を形作っています。わたしたちは子供にどのような模範を示しているのでしょうか。

何年も前に、末の息子のクラークが、ブリガム・ヤング大学で宗教のクラスに出席したとき、講義の最中に講師からこのように聞かれました。「あなたがいちばんよく覚えているお父さんの模範は何ですか。」

その講師は後でわたしに手紙を書いて、クラークの答えを教えてくださいました。彼はこう言ったそうです。「ぼくがアロン神権の執事のとき、父と一緒に

にアイダホ州マラダの近くにきじを撃ちに行きました。その日は月曜で、猟期の最後の日でした。野原を歩き回ってきじを探しましたが、見つけたのは2、3羽で、それも逃がしていました。父は言いました。『クラーク、銃を外してこの溝に置き、ひざまずいて祈ろう。』ぼくは、もったきじが撃てるように祈るのかと思いましたが、違いました。父は、リチャード・L・エバンズ長老が重い病氣なので、その月曜日の12時に、十二使徒定員会の会員はそれぞれの場所でひざまずき、心を一つにしてエバンズ長老のために信仰の祈りをささげることになっているのだ、と説明してくれたのです。わたしたちはそこで、帽子を取って祈りました。」わたしはそのときのことをよく覚えていますが、息子がそれを見て学び証を得ていたとは、夢にも思いませんでした。

アロン神権者の執事、教師、祭司の統計を分析すると、かなりの数の執事が活発でなくなり、適切な時期になっても教師への聖任を受けられないということが分かり、憂慮しています。同様に祭司に聖任されていない教師や、とりわけメルキゼデク神権を受けていない祭司についても、心配しています。兄弟たち、これはあってはならないことです。わたしたちは、これらの青少年が神権の昇進を受けられるように導きと靈感を与える責任があります。雪崩のごとく落ちかかる罪や過ちによって彼らの成長が妨げられたり、永遠の目標から引き離されたりしないように助けるのです。

監督や副監督の皆さんは、アロン神権を持つ若い男性一人一人の活発さの度合を把握し、各自の成長と活躍を確実にするための計画をしているのでしょうか。

新しく召されたある監督が、最初の監督会でこう宣言しました。「アロン神権はわたしたちの第一の責任です。」そして第二副監督に言いました。「あなたの責任は、すべての執事がふさわしく生活し、適切な年齢で教師に聖任されるようにしてください。」次に、第一副監督に言いました。「あなたも



同じように教師がふさわしく生活し、決められた時期に祭司に聖任されるようにしてください。」さらに監督は続けました。「わたしは祭司がメルキゼデク神権を受けて長老に聖任されるように責任を持ちます。力を合わせ、神の助けを受ければ、必ずできます。」そして彼らはそれを成し遂げたのです。

青少年に必要なのは、批判ではなく、従うべき模範です。アロン神権定員会のアドバイザーの皆さんは、青少年の教師であり模範です。福音を知っていますか。レッスンを準備していますか。一人一人の少年を知り、その思いと心に触れて将来の形成に影響を与える方法を、祈りによって決めていますか。

忘れないでください。皆さんが教えるとき、少年たちがあなたの言葉をただ聞いているだけでは十分とは言えません。例を挙げて説明しましょう。

教会執務ビルの西の会議室には、画家のハリー・アンダーソンによるすばらしい絵が飾ってあります。その絵には、小さな岩に座ったイエスが、主が自分たちを愛してくださっていると知っているたくさんの子供たちに取り囲まれておられる様子が描かれています。

わたしはこの絵を見る度に、次の聖句について考えます。「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。

止めてはならない。神の国はこのような者の国である。」<sup>2</sup>

あるとき、わたしはその部屋で、間もなく大きな手術を受ける男の子に神権の祝福を与えました。わたしはその子と両親の注意をイエスと子供たちの絵に向けさせました。そして、救い主とその限りない愛について少し話しました。わたしが少年に何か質問があるか尋ねると、その子は真剣な表情で「はい」と答えました。「モンソン兄弟、どうしたら絵の中のあの子のように、やぎにひもを付けて歩き回れるんですか。」

予期しなかった質問に、わたしはしばらく答えに詰まり、とっさに応答できなかった自分の力のなさに少しがっかりしたものの、わたしはこう言いました。「イエス様は、ひもで引いたやぎより大切な贈り物を下さるんだよ。それは、天国へ行くための道路地図なんだ。イエス様の教えや模範や愛は、この世のどんなものよりすばらしい贈り物なんだよ。」

主は「わたしに従ってきなさい」<sup>3</sup>と言われました。この勧めに従う人は賢明です。

アロン神権を持つすべての若い男性は、救い主の教えを学んで実践し、メルキゼデク神権を受ける備えをしましょう。

わたしが教師定員会会長のときに経験したことをご紹介しましょう。担当の副監督が定員会の会長と書記を自宅に招いて、指導者の訓練を行いました。彼は、新たに与えられた責任をどのように果たすか、アイデアを求めました。それについてわたしたちは、彼の奥さんのネティーを招待したうえで、彼女に評判のミートパイを作ってもらえるなら、と条件を出したのです。彼は承知しました。兄弟の皆さん、わたしたち男性がいかにか妻に義務を負わせるような約束をしばしば承もなしに作っているかお分かりですか。結果として、その集会は、これまでで最高のものとなりました。わたしたちは、定員会会員を助けることについて、深い理解と霊的導きを受けました。

グレービーのたっぷりかかったおいしいミートパイを食べた後、わたしたちは一緒にモノポリーをしましょうと言って、副監督と奥さんをゲームに誘いました。ほかにすることがあったと思いますが、二人は喜んで応じてくれました。

だれがゲームに勝ったか覚えていませんが、わたしがその晩教会の制度と神権定員会の管理において学んだことは決して忘れません。

第二次大戦初期の白熱した時代に、わたしたちの教師定員会の一人、フリッツは、自分の国を守りたいと思いました。軍隊に入る年齢になるまで、とても待てません。そこで、彼は年齢をごまかして、海軍に入隊しました。間もなく彼は、遠く太平洋の戦場に送られました。彼の乗った船は撃沈され、多くの命が失われました。生き残ったフリッツは後に、戦場に行ったことを示す勲章を付けた制服姿で、定員会の集会に現れました。わたしは彼に尋ねました。「ぼくたちに何かアドバイスがあるかい？」全員が徴兵を間近に控えていたのです。

フリッツは少し考えてから言いました。「年齢でも、ほかのことで、決してうそをつかないことだ。」この短い言葉は今でも忘れません。

12歳から17歳の若い男性は、霊的成長と準備の時期にあります。したがって、アロン神権の目的は、神権を受けた青少年が次のことを行えるように助けることです。

1. イエス・キリストの福音に帰依し、その教えに従った生活をする。
2. 神権の召しを尊んで大いなるものとし、神権の職の責任を果たす。
3. 有意義な奉仕を行う。

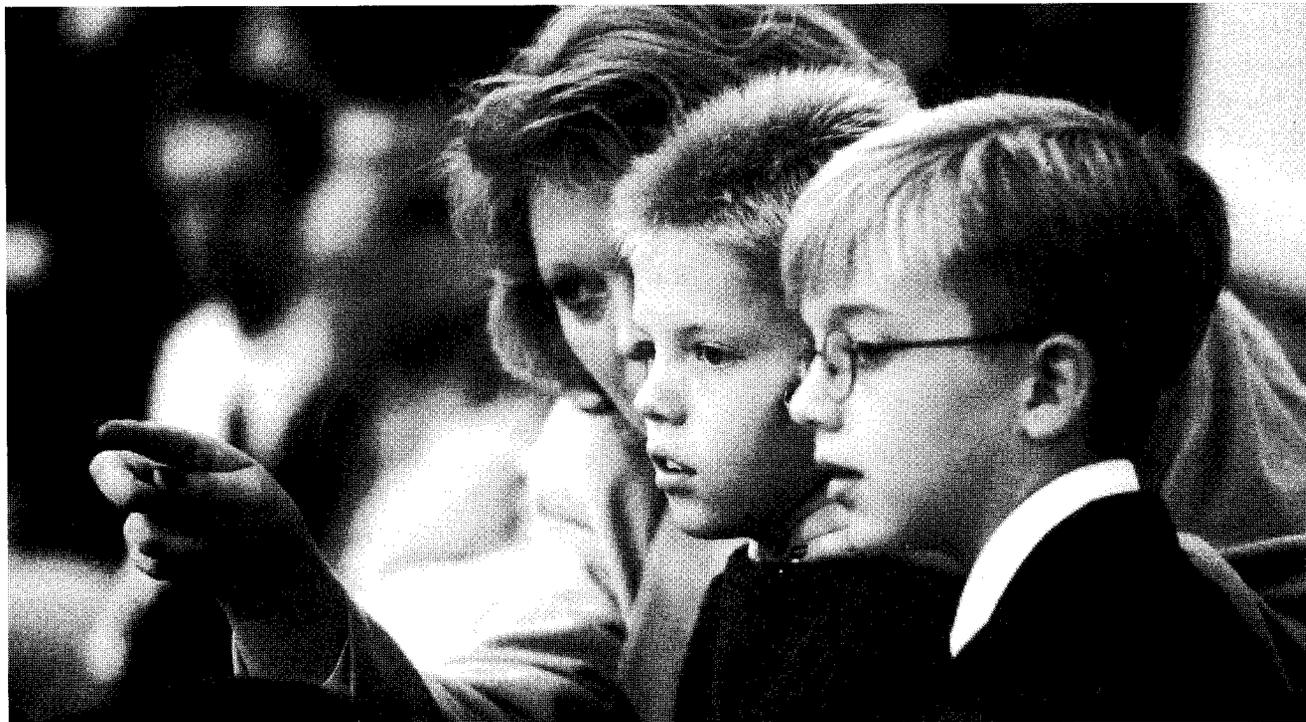
4. メルキゼデク神権と神殿の儀式を受ける備えをする。

5. 立派な専任宣教師として奉仕する決心をし、備え、伝道に出る。

6. 良い夫、父親となるために備える。<sup>4</sup>世界中で奉仕することは、救い主のなされたように、善き業を行う偉大な宣教師の力です。宣教師は真理を教え、疑いを取り除き、喜びを伝え、貴い魂をキリストに導くのです。

伝道の召しを受ける特別な日には、両親や兄弟姉妹、祖父母が集まり、緊張する本人が召しを伝える手紙を慎重に開封するのを見守ります。少しの間があり、それから彼は主の預言者から割り当てられた任地を発表します。胸はいっぱいで、涙があふれ、家族は愛のきずなと神の慈しみに喜ぶのです。

専任宣教師をはじめ主の業に携わるすべての人は、主の召しにこたえました。わたしたちは主の用向きを持つ者です。主の言葉を人々に宣べ伝えるという、モルモンが与えた神聖な責任を果たすのです。彼はこう記しました。「見よ、わたしは神の御子イエス・キリストの弟子である。わたしはイエス・キリストの民の中でイエス・キリストの言葉を告げ知らせ、彼らが永遠の命を得られるようにするために、イエ



ス・キリストから召された。』<sup>5</sup>

1926年、ドイツ・オーストリア伝道部のフレッド・タジェ部長は、8月にドイツのドレスデンで宣教師大会を開くことにしました。宣教師は浮浪者として逮捕されないように、わずかながらお金を携帯しなければなりませんでしたが、基本的には「財布も袋も」持たずに各自の伝道地から会場まで歩いて行くことになっていました。

アルフレッド・リポルド長老と同僚のパーカー・トーマス長老は、北のルートを取りました。途中二人は、奥さんと8人の子供がいる家に立ち寄りしました。彼女は長老たちに、夫が家族を置いて出て行ったので、今お金がないと話しました。彼女は二人を中に招いて言いました。「財布も袋も持たずに旅をするのでは、さぞおなかがすいたことでしょう。お座りなさい。」そして、厚切りのパンにスモモのジャムを塗って出してくれたのです。宣教師はその「朝食」を祝福し、祈りの中で、彼女に必要なものが与えられるように主に願いました。

その後彼らは出発しました。1マイルほど歩いたところで、トーマス長老が「わたしは戻らなければならない」と言って、何の説明もせずに引き返したのです。

彼を待っていたリポルド長老は、「なぜ戻ったのですか」と尋ねました。

トーマス長老は説明しました。「あの女性に必要なものが与えられるように祈ったけれど、わたしはそれを持っていたんだ。ポケットの中に20ドル札をね。だから彼女に渡してきた。そうしなければ、ポケットが焼け焦げていたろうね。」

30年前に、わたしは南太平洋諸島での働きに携わっていました。J・バーノン・モンソン兄弟は、姉妹と一緒にクック諸島のラロトンガへ行き、そこで地方部長として働く召しを受けました。

やがて彼から手紙で報告が届きました。「この地の発展に感謝しています。特に、政府やビジネス界の人々は、わたしたちや教会に対して好意的で、すばらしい関係を築いています。

社会的にこれほど受け入れられるよ

うになったのは、ある出来事のおかげです。それは、おいのオディーン・マニング博士夫妻がこのクック諸島で実に優れた奉仕を行ったことです。マニング博士は眼科医ですが、わたしは彼に、ラロトンガの人々のために彼が奉仕できるように提案の概要を書き送りました。わたしの提案は次のようなものでした。(1) 無報酬であること、(2) 自費で生活すること、(3) 3か月留守にする間、患者をほかの医師に診てもらうこと、(4) ラロトンガに滞在中、わたしたちが無料で食事と部屋を提供すること、そして(5) 地元では手に入らないので、手術用の器具を持参すること。」

バーノン・モンソン兄弟の手紙はさらに続きます。「マニング夫妻からの航空便による返事はただ一言『お受けします』でした。準備が始まり、クック諸島の政府は、マニング博士を補佐し、教えを受けるために、優秀な医師たちを派遣してきました。全部で284人が診察を受け、ほとんどは眼鏡を作ってもらいました。53人の患者は、白内障などの難しい手術を受けました。

3か月のプログラムはすばらしく、実に心温まるものでした。ほんとうにわたしたちは祝福されました。聖徒たちは勇気づけられ、島に医療奉仕をもたらした教会の会員であることに誇りを持つようになったのです。」手紙はここまでです。

数年後に、わたしと妻は、BYU主催の聖地旅行に招かれました。ある晩、船のデッキで座っていると、隣の男性がわたしに言いました。「モンソン長老、わたしはカリフォルニアのウッドランドヒルに住むオディーン・マニングです。眼科医ですが、叔父と叔母がラロトンガで奉仕していたとき、短期間、医療宣教師として働きました。」

わたしは、彼の犠牲と奉仕について聞いていますと言って、こう尋ねました。「この経験を振り返って、感じていることを話していただけませんか。」

彼は万感の思いを込めて答えてくれました。「それはわたしの人生で最も霊的な報いを受けた経験でした。」

わたしと妻が旅行に参加し、あの時

間に、デッキのあの場所で、面識のない男性の横に座ったのは、決して偶然ではないと思いました。天が近くに感じられ、わたしはマニング博士を抱き締め、彼の奉仕に感謝しました。それは、見えない目が見えるようになった人々に対してだけでなく、主なる救い主への奉仕でもありました。主は言われました。「海の島々にいる者たちに対する主の約束は偉大である。」<sup>6</sup>

果てしない死からわたしたちを解放してくださった御方、イエス・キリストについて証します。主は真理の教師ですが、教師以上の御方です。完全な生活の模範ですが、模範以上の御方です。偉大な医師ですが、医師以上の御方です。人類という「取り残された部隊」を救出する御方は、文字どおり世の救い主、神の御子、平和の君、イスラエルの聖者、復活された主であり、こう宣言されました。「わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。」<sup>7</sup>

愛する兄弟の皆さん、次のことを行いましょう。

- 主に学び、
- 主を信じ、
- 主に頼り、
- 主に従い、
- 主に従順でありましょう。

そうすれば、主のようになれるでしょう。これらが真理であることをイエス・キリストの御名により厳粛に証します。アーメン。

注

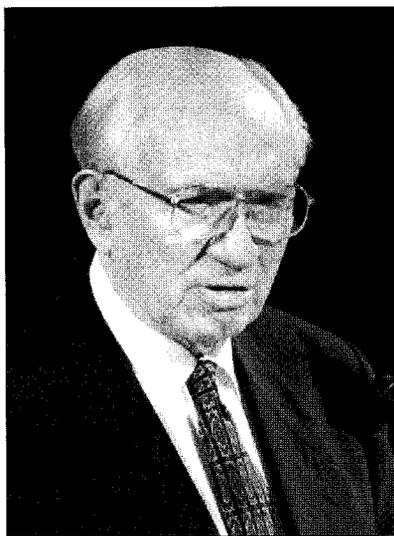
1. ジョセフ・S・マードック (1822—1899)、『賛美歌』13番「来たれ、予言者よ」
2. マルコ10:14
3. ルカ18:22
4. 『アロン神権指導者手引き』(34571 300) 1995年、6参照
5. 3ニーファイ5:13
6. 2ニーファイ10:21
7. 教義と聖約110:4

# 若い兄弟たちに、そして 成人の兄弟たちに

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

皆さんに申し上げたいのは、家を整える時期が来ているということです。



**兄**弟の皆さん、皆さんにお話をするのはすばらしい機会であると同時に途方もない責任でもあります。

まず今宵ここに集っている若い男性の皆さんに話したいと思います。いろいろな場所でこの会に集っていただき、ありがとうございます。セミナーや日曜日の集会に参加していただき、ありがとうございます。福音を学び、主の御言葉を研究して知識を深めたいと思っておられる皆さんに、敬意を表します。宣教師として奉仕しようとの望みを抱いておられることに感謝しています。神殿で結婚してすばらしい家族を育てようとしておられることをうれしく思っています。

皆さんは「行き場のない」人々では

ありません。当てもなくぶらぶらして時間を無駄にすることはしません。皆さんには目的があります。計画があります。成長し強くなるための計画です。

皆さんのエネルギーが有効に使われ、夢に焦点が絞られると、驚くべきことが起こります。最近、カリフォルニア州北部の末日聖徒の若い男性のグループからある宣言を頂きました。19のステークから集った彼らは、山岳地帯に足を踏み入れ、開拓者の悲劇の場所を訪れました。そこで見たものや自分たちに受け継がれた遺産について深く考えた彼らは、「モルモン・トレール・スカウト野営宣言」に署名することになりました。その誓いをご紹介します。

「ボーイスカウト……に所属する我々は、神のアロン神権者である。我々はモルモン大隊や末日聖徒の開拓者を導いた価値観や原則への忠誠を誓う。末日聖徒の開拓者はこのカリフォルニアの建設に貢献した。彼らの子孫として、我々はその奉仕の伝統を享受する。

1998年7月18日をもって、我々はイエス・キリストの福音に改心することを誓う。我々は聖文を研究し、従う強さを求めて祈り、働き、全力でイエス・キリストの模範に従う。

我々は人々への奉仕を通して、与えられた神権を尊ぶ。そして主の聖餐を執行するにふさわしくあり、助けの必要なときはいつも、先祖がそうしたように、手を差し伸べる。

我々はより高いメルキゼデク神権を受けるにふさわしいことを証明する。そして主の軍勢に加わり、専任宣教師となってすべての人をキリストのもとに招く。

我々は聖約の若人であり、永遠の結婚の聖約を受けるために自らを備える。そして命をかけて守り、敬う義になかった妻と子のために祈る。

いかなる危険や誘惑に遭っても、また状況がどうであろうとも、我々は先祖と同じように忠実であり続ける。先人と同様我々も、神が統治される平和な社会を築くためには名誉欲や利己主義を捨てる。

我々はいついかなるときも、この誓いに忠実であることを誓う。」

この誓いに署名したすべての少年たちに拍手を送りたいと思います。一人たりとも自分や教会、そして主と交わした約束を反故にすることのないように祈ります。

このような約束にすべての若い男性が署名できたら、この世はどれほど変わることでしょう。薬物で命を落とす若者はなく、互いに殺し合い、行き着くところは刑務所か死しかないギャング集団もなくなります。教育は価値ある目標となり、教会での奉仕はまたとない機会となります。そして家庭には平安と愛が増すことでしょう。ポルノグラフィやいかがわしい雑誌を見ることもなくなります。皆さんはつきあっている姉妹を大切にするので、彼女はどんな状況にあっても皆さんに対して恐れを抱く必要はありません。あたかもヒラマンの勇士が同じ生き方をする若人を募っているかのようです。

皆さんの人生のプログラムには、もちろん伝道があります。皆さんは召しに応じてどこにでも喜んで行き、すべての時間を力と勢力と愛を込めて主の御業を行います。

現在伝道しているある若い男性からの手紙の一部を読ませてください。これは家族にあてた手紙なので、皆さんに紹介するに当たってプライバシーを尊重するため、差出人の名前およびその伝道部は伏せておきます。

「これまでの1年はすばらしいもので

した。わたしは本部を出てこの小さな支部に転任になりました。それ以来、生活が大きく変わりました。ほんとうに何が大切かをこの数か月で学んだように感じます。自分を捨てること、効果的に働くこと、人を愛すること、そして神がわたしを愛しておられ、わたしが神を愛していることを学びました。つまり、信じるとおりの生き方をすることを学んだのです。……

わたしは人と事物について学びました。自分が神の子であることを知らなかった人々の流す涙を見ました。悔い改めた人々の祈りがこたえられるのを見ました。イエス・キリストの福音を受け入れて生まれ変わろうとする人々です。……

わたしはよく救いの計画の夢を見ます。これまで経験した驚くべき不思議な業のこと、そしてわたしたちを支えてくれた天使の力のことを思います。決して理解できなかった言語<sup>あかし</sup>で証をするわたしを、一体どれだけの数の天使が助けてくれたんだろうと考えます。

わたしはエノクが見た『不死不滅の栄光の平和なること』に思いをはせることがあります。……そして自分の存在を神に感謝します。わたしは最大の祝福を今、神に仕えている今頂いています。そのことに大きな平安と喜びを感じます。」

愛する若き友人の皆さん、わたしは皆さん全員が伝道を目指すように望んでいます。楽しいとは約束できません。簡単で快適だとは約束できません。失意や恐れ、惨めな境遇から逃れられるとも約束できません。でも約束できるのは、皆さんの生涯の中で同じ期間内にこれだけの成長を遂げられる時はないということです。こうして得た幸福はほかでは得られないすばらしいもので、永続することを約束します。皆さんは生活を見直し、優先順位を改め、主に近づきます。祈りが真実のすばらしい体験となります。そして善行への報いを信じて歩むのです。

神がこの偉大な教会の若い男性の皆さんを祝福されますように。皆さん一人一人がより高い決心をもって文字どおりの末日聖徒として歩めますように。

そしてその報いとして、前途に待ち受ける魅力的で輝かしい生活にあってたくさん<sup>さん</sup>の事柄を達成し、奉仕の業を行うことができますように。

では兄弟たち、次に成人の方へですが、若い方々にも教訓としていただければと思います。

実務的な事柄についてです。

まずは話の背景として創世紀の第41章から読ませていただきます。

エジプトの支配者であるパロは、自分が見た夢で心を悩ませていました。宮殿の知者は解き明かすことができません。そこでヨセフが呼ばれました。「パロはヨセフに言った、『夢にわたしは川の岸に立っていた。

その川から肥え太った、美しい7頭の雌牛が上<sup>あ</sup>がってきて草を食っていた。

その後、弱く、非常に醜い、やせ細った他の7頭の雌牛がまた上<sup>あ</sup>がってきた。……

そのやせた醜い雌牛が、初めの7頭の肥えた雌牛を食いつくしたが、……

わたしはまた夢をみた。1本の茎に7つの実った良い穂が出てきた。

その後、やせ衰えて、東風に焼けた7つの穂が出てきたが、

そのやせた穂が、あの7つの良い穂のみをつくした。……」

ヨセフはパロに言った、『……神がこれからしようとすることをパロに示されたのです。

7頭の良い雌牛は7年です。7つの良い穂も7年で、夢は一つです。……

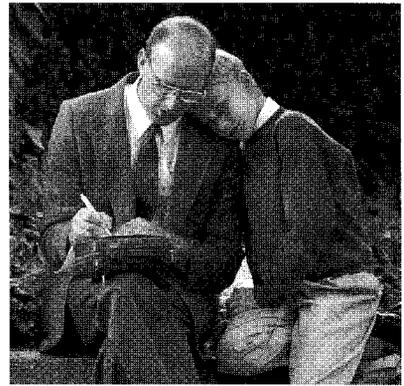
……神がこれからしようとすることをパロに示されたのです。

エジプト全国に7年の大豊作があり、その後7年のききんが起り、

……神がすみやかにこれをさされるからです。』(創世41:17-20, 22-26, 28-30, 32)

さて、兄弟の皆さん、はっきりさせておきたいことですが、わたしはこれから何年間にも及ぶ数年先に<sup>ききん</sup>飢饉が起ると預言しているわけではありません。皆さんに申し上げたいのは、家を整える時期が来ているということです。

教会員の中でぎりぎりの生活をしている人が多くいます。中には借金生活の人もあります。



最近数週間にわたしたちを<sup>しんかん</sup>震撼させるような世界市場の変動がありました。経済はもろいものです。ジャカルタやモスクワでの<sup>はたん</sup>破綻が直ちに全世界に飛び火します。そして、やがてはわたしたち個人にも及ぶことでしょう。これから経済面の嵐が予想されますから、注意する必要があります。

わたしは経済が恐慌に陥らないことを願っています。子供のときに大恐慌を経験したからです。大学を卒業したのが1932年で、この地域の失業率は33パーセントを超えていました。

当時わたしの父は、この盆地にある教会最大のステーキの会長の任にありました。現在の福祉プログラムが始まる前のことです。父はステーキの会員たちのことで憂慮しました。そしてほかのステーキ役員たちとともに、暖炉による冬季の暖房を確保するために大規模な薪割りプロジェクトを行いました。人々は石炭を買うお金がなかったのです。当時裕福だったのは、薪割りをしていた人でした。

繰り返し申し上げますが、わたしは恐慌の再来がないよう、心から望んでいます。わたしが懸念しているのは、教会員も含めて国中に広がっている消費者割賦購入による負債のことで、1997年3月の統計では、こうした負債の合計は1兆2,000億ドルで、年間で7パーセントの増加となっています。

1997年12月の統計では、アメリカ合衆国の5,500万から6,000万世帯がクレジットカードに負債があり、その平均は7,000ドル以上、利子による年間の経費は1,000ドルを超えています。可処分所得に占める消費者負債の割合は1993年の16.3パーセントから1996年には19.3

パーセントに上昇しました。

お金を借りれば利子がつくことはだれでも知っています。返済できなければ破産します。昨年アメリカでは135万118件の破産や倒産がありました。1992年と比較すると、50パーセントの増加です。今年の第2四半期の自己破産件数は36万2,000件で、四半期単位では新記録です。

わたしたちは宣伝の誘惑にだまされています。テレビでは持ち家の資産価値の125パーセントまで借金ができると言って誘いの手を伸べています。でも、利子については触れていません。

1938年、総大会の神権部会で、J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長はこの説教壇からこう語りました。「一度借金をすれば、利子は昼夜を問わずあなたに付きまとうのです。あなたはそれを阻むことも、逃れることも、また忘れることもできません。利子は、懇願にも、威嚇にも、命令にも応じません。そして、やり方に口を挟んだり、反したり、要求に応じなかったりしようものなら、たちまちあなたを押しつぶしてしまうのです。」(Conference Report 1938年4月, 103)

借り入れをしなれば家を買えないことはもちろん分かります。でも、支払い可能な家を買きましょう。そして、長ければ30年の間容赦も猶予もなくやって来る支払いを楽にしましょう。

緊急事態がいつ来るかはだれにも分かりません。仕事でかなり成功していたある人のケースですが、大きな家で快適な生活をしていました。ところがある日突然、ひどい事故に遭って瀕死の重傷を負い、体が不自由になってしまいました。収入はなくなり、高額の治療費に直面しました。ほかにも支払いの必要が生じました。債権者に囲まれた彼にはなすすべがありませんでした。裕福だった彼が、一瞬にして破産したのです。

教会の初期の時代から、主は負債について語ってこられました。マーティン・ハリスへの啓示にはこうあります。「印刷業者との契約によって生じた負債を支払いなさい。束縛から自らを解放しなさい。」(教義と聖約19:35)

ヒーバー・J・グラント大管長はこの説教壇から、繰り返しこう語りました。「人の心と家族に平安と満足を与えるものを一つ挙げるとすれば、それはわたしたちが収入の範囲内で生活することです。わたしたちを虐げ、落胆させ、希望を失わせるものを一つ挙げるとすれば、それは返済できない借金を負い、果たせない義務を負うことです。」(ヒーバー・J・グラント, *Gospel Standards comp. G. Homer Durham* [1941], 111)

わたしたちは教会全体に向けて自立を呼びかけます。家族に深刻な負債があつては、自立はできません。人に負い目があつては、自立も自由もありません。

わたしたちは教会の運営において模範を示すように努力しています。方針として、緊急時のために毎年、献金や収益の特定の割合を蓄えています。

この場で、教会は管理運営から各事業、各部門に至るまで、借り入れをせずに機能していると申し上げられることをうれしく思います。維持できなければ、プログラムを中止します。支出を抑えて収入の範囲内にとどめます。借り入れはしません。

ジョセフ・F・スミス大管長にとって最高に幸福だったのは、教会が最後の負債を返済した時でした。

借金がなく、しかもいざというときのために少しずつ蓄えたお金があつて使うことができるというのは何とすば

らしいことでしょうか。

ファウスト副管長はこのことを自分からはおっしゃらないと思いますので、後でしかられるかもしれませんが、わたしから話します。彼はかつて4パーセントの金利で家のローンを支払っていました。多くの人は、せっかく金利が低いのだから、一度に全額返済するのは愚かなことだと言ったものです。でも彼と奥さんは、お金ができたところで一括返済してしまいました。以来彼は、借金とは無縁の生活です。いつもにこにこして口笛を吹きながら働いているのは、そのためです。

兄弟の皆さんに強く申し上げたいのは、家計の状態をよく調べて支出を抑えることであり、購買欲を抑えて、借り入れをできるだけ避けるということです。負債はできるだけ早く返済して束縛から逃れてください。

わたしたちが信じているこの福音には実務面が含まれています。神の祝福を受けて皆さんの家が秩序の家となりますように。借金を返済し、少しでも貯金をすれば、嵐が襲っても奥さんやお子さんを守る家があり、心には平安が訪れます。この件について申し上げたかったのは以上ですが、わたしが何より強調したいと感じている事柄です。

この業が神の御業であることを、皆さん一人一人を愛していることをお伝えします。贖い主である主イエスキリストの御名によって、アーメン。



# 天の窓を開く

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

じゅうぶん  
什分の一は貧富を問わず、世界中に住む各教会員の幸福と豊かさの土台となる基本原則です。



わたしはこの説教壇に立つと、いつも責任の重大さを感じます。今またへりくだる気持ちになっています。皆さんがわたしの言葉を御霊を通して理解していただけたら幸いです。

わたしはこの場で天の窓を開くということについてお話ししたいと思います。わたしが信仰と犠牲について学んだのは、祖父の農場で働いていた子供のころで、1930年代に起こった経済恐慌の時期でした。農場の固定資産税の支払いが遅れ、ほかの多くの人と同様祖父にはお金がありませんでした。また日照りのために牧草が育たず、牛や馬が死んでいきました。ほんのわずか生育した牧草の刈り取りをしていたある日のこと、祖父は荷車を牧場の角の牧草がいちばんよく伸びている所に着け、積めるだけ積んで什分の一として納めるように言いました。

わたしは生活の支えとなっている牛が死にそうなのに、なぜ牧草を什分

一として納められるのだらうと思いました。まさか主はそんな犠牲を求められるはずがないと思ったのです。しかし、主が何とかしてくださるといふ祖父の信仰には驚きました。祖父が子や孫に伝えたこの信仰の遺産はお金よりはるかに貴重なものです。世のいかなるものよりも主と主の神聖な御業を愛していることを示してくれたからです。祖父は裕福にはなりませんでした、主と自分に正直に世を去りました。

わたしが什分の一を納める精神についての理解を深めたのは、ヘンリー・D・モイル副管長を通してです。彼は若年のわたしが監督をしていたワードに住んでいました。彼は年末面接のときにこう言いました。「監督、これは完全な什分の一に少し加えたものです。わたしたちの受ける祝福もそうですからね。」

什分の一は貧富を問わず、世界中に住む各教会員の幸福と豊かさの土台となる基本原則です。什分の一は犠牲の原則であり、天の窓を開く鍵です。わたしは初等協会でこのような詩を覚えました。「什分の一ってなあに。いつでも教えてあげるよ。100円なら10円、10円なら1円。」しかし、祖父やヘンリー・D・モイル副管長から教わるまで、その意味について完全には分かりませんでした。

什分の一の律法は簡潔です。毎年個人の得る全利益の10分の1を支払います。大管長会によれば、利益とは年取のことで、収入の10パーセントが幾らかは、主と個人が決めるべきものです。そこには法的な規則はありません。

韓国で改宗した人がこう語っています。「什分の一に関して言えば、貧富の差は関係ありません。収入の10パーセントさえ納めれば、少額でも恥じる必要はありません。高い収入の場合でもその10パーセントを納めるのです。そうすれば、天父は喜んでくださいます。胸を張って誇りに思っているのです。」

世界には日々の糧さえもままならない教会員が大勢いますが、なぜ彼らも主の律法である什分の一を守るように勧められるのでしょうか。このことについてヒンクレー大管長はフィリピンのセブ島でこう話しました。「貧しく惨めな状況にあっても……福音を受け入れて生活し、たとえわずかでも什分の一とささげ物を納めてください。……そうすれば茶碗には御飯が、背中には服が、頭の上には屋根が与えられることでしょう。これ以外の解決法があるのでしょうか。」

什分の一を納めるだけのゆとりがないと言う人もいるかもしれませんが、主はわたしたちがすべての戒めを守る道を備えてくださいます。什分の一を納めるには最初の段階で大きな信仰が必要ですが、イエスはこう言われました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも……この教が……わかるであろう。」什分の一は納めてみて理解できる律法です。事実、少額でも主の分をお返しする信仰があれば、きっと貧しさを克服できるとわたしは信じています。

什分の一を納めなくても会員資格は失いませんが、それにかかわる祝福は失います。主はマラキを通してこう呼びかけておられます。「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。」主を信頼して主が求められる10分の1をお返しすれば、主は「天の窓」を開けてくださいます。主の約束は確かです。なぜなら主は「わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさい」と約束されているからです。什分の一

には物心両面にわたる祝福が伴いますが、忠実な人々への絶対的な約束は、「あなたがたは永遠の富を持つ」<sup>9</sup>というものです。

ヒーバー・J・グラント大管長はこう説明しています。「繁栄は什分の一を守る人にもたらされる。わたしの言う繁栄とは金銭面だけではない。……わたしが考える真の繁栄……とは、つまり神についての知識や証<sup>あかし</sup>が増し、家族とともに福音の教えに従って生活する力が強まることである。これこそが真の繁栄である。」<sup>10</sup>

関八重子姉妹はこの祝福の一端を経験して、このように記しています。

「わたしたち家族が北アルプスの山並みを一望できる公園で1日を過ごしていたときのことです。……4人目の子供がおなかにいたわたしは、幾らか疲れを感じ木陰に身を横たえました。そして……我が家の家計について思いをはせていました。すると、胸がいっぱいになり、涙があふれてきました。『主よ、什分の一は完全に納めております。いろいろな面で犠牲も払ってきました。一体いつかの窓が開かれ、苦難が軽くなるのですか。』

心からそう祈りました。ふと目を転じると、夫と子供たちが笑い声を上げながら遊び回っています。……突然、あふれんばかりの祝福は、今まさに目の前にあり、この家族こそが天父が与えてくださる最も素晴らしい祝福なのだ、御霊がささやきました。」<sup>11</sup>

このように、天の窓は多くの人に開かれています。したがって什分の一を犠牲としてではなく祝福や特権として考えましょう。

教会員に与えられた大いなる祝福の一つに、毎年1度監督と会い、什分の一の献金を納めたことを報告する機会が挙げられます。これは監督にとっても素晴らしい経験です。わたしが監督をしていたワードには大勢の子供を全員、什分の一の年末面接に連れて来る人がいました。その人は、いちばん小さな子供から始めて年の順に、監督であるわたしに什分の一の報告をさせました。全員終わると、彼が妻と家族を代表して報告をしました。忠実なこの家族は

大きな祝福を受けました。

この教会の什分の一は1838年に預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示において指示されたとおりに管理されているので安心してください。教義と聖約第120章で指定されている18人の教会指導者が集まってこれらの神聖な基金を管理します。この評議会に出席しているわたしたちはこの神聖な責任が「彼らへの〔主御〕自身の声」<sup>12</sup>に従って果たされていることを知っています。

ヒンクレー大管長は歴史上かつてなかったほど多くの神殿を建設することを発表しました。神殿を必要とする状況は全世界で高まっています。これは神殿が霊的に聖い場所だからです。神殿に参入する人々は自分たちがサタンの攻撃から守られ、自分たちや家族を滅ぼそうと渴望するサタンが阻止されていることに気がつきます。周辺に教会員が住んでいない孤立した地域に住む教会員は、自分たちの間にも神殿が欲しいと思っているならば、まず什分の一を納めることによってあなたがたの信仰を表し、神殿の祝福を受けるにふさわしいことを示すよう提案します。主はカートランドにおいて教会の長老たちに次のような啓示を与えられました。「今、人の子の来臨までは今日と呼ばれる。まことに、今日は犠牲の日であり、わたしの民が什分の一を納める日である。」<sup>13</sup>

主がささげ物について語られるとき、この言葉には複数の意味があります。主はわたしたちに忠実であることを示す状態の一つとして、什分の一を納め、貧しい者、乏しい者を助けるために断食献金を納めることを望んでおられます。それと同時に、わたしたちには割り当てられた献金やすでに負担額の決まった献金、あるいは教会指導者からの指示という形を取らない別の献金を納める特権があります。中央宣教師基金、人道的救援活動基金、モルモン書基金などです。さらに、ヒンクレー大管長が発表された新しい神殿建設のために自発的な献金をすることもわたしたちの特権です。

最近わたしは、教会の中央神殿基金に献金するために大きな犠牲を払った

一人の方から匿名の手紙を頂きました。その手紙には次のように書かれていました。「自分のためにお金を使いたいと思ったときに、それを思いとどまって、その分のお金を神殿基金に入れることを決めました。それは目標を達成するまで、新しい服や靴、本、美容院の予約、ネックレス、そのほか自分の物を一切買わないということです。わたしはそれが犠牲だと思っていましたが、むしろ喜びをもたらしてくれることに気づきました。とても価値があり、満足感を与えてくれる経験です。」

預言者ジョセフ・スミスはかつてこのように述べました。「あらゆるものを犠牲とすることを求めない宗教は、命と救いを得るために必要な信仰を人々に持たせることはできない。」預言者はさらに続けてこのように述べています。「犠牲をささげない人々はこの信仰を持つことができない。なぜならば、人々がこの信仰を得るのはこの犠牲をささげるかどうかにかかっているからである。」<sup>14</sup>

わたしたちの献金は信仰によって聖なるものに変えられます。最近、わたしが自分のワードの聖餐会<sup>せいさん</sup>に出席したときのことです。聖餐会が始まる前に、何人かの人たちが監督会の兄弟たちに献金用の封筒を手渡していました。彼らは笑みを浮かべ、幸せな顔をしていました。これらの封筒には、主の祝福に対する心からの感謝を表すために、喜んで納める彼らの什分の一とそのほかの献金が入っていました。それは彼らの信仰の証でした。

かつては目にすることができなかった規模で、神の御業は世界の多くの地域で前進しています。特に、経済水準がそれほど高くなく、新しい会員たちが信仰の原則を学び、それをどのようにして祝福と結びつけたらよいかを学んでいる国々で発展しています。この教会において忠実な会員であるためには犠牲と奉獻が求められます。そのためにはこの世の喜びと富の追求を優先させる生活を改めなければなりません。なぜならば、永遠の命の賜物<sup>たまもの</sup>を得るにはわたしたちが持っているすべてを犠牲にして、この賜物を受けるにふさわしくならなければならないからです。



旧約の時代に主は疫病をイスラエルに下され、その結果、多くの人々が亡くなりました。主はダビデにエブス人アラウナの打ち場で犠牲をささげるように命じられました。ダビデはアラウナのもとを訪れました。アラウナはダビデが訪れた訳を知ると、犠牲をささげるために必要な物を何でも提供すると言いました。ダビデの答えには彼の深い洞察力が表れています。「代価を支払ってそれをあなたから買い取ります。わたしは費用をかけずに燔祭をわたしの神、主にささげることはしません。」<sup>15</sup>ダビデが打ち場を買い取って犠牲をささげると疫病は治まりました。

現在の社会には、様々な形をした暴力、悪、邪悪という疫病があふれています。聖約を守り、什分の一とささげ物を納めている人々は、そうでない人々よりも、これらの猛毒を持つ現代特有の邪悪に対していっそう多くの守りを与えられることでしょう。しかし、何の代価も支払わずに済むような犠牲によってこの守りを受けることはできません。

わたしがこのことをお話しするのは世界の宗教があまりにもばらばらな方向を向いているからです。もし努力も犠牲もなしに安易に手に入るものがあつたとしたら、人々はそれを少しくらい手に入るのはかまわないと考えるでしょう。それと対照的に、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として祝福を手にするには、努力と犠牲の両方を

要求されます。祝福を受けるには什分の一とささげ物を納める必要があります。わたしたちの宗教は日曜日だけの宗教ではありません。1週のうち7日とも、模範的な行いと努力を求められます。召しを受け入れて、召しを忠実に果たすことも含まれます。主と隣人に対して、清廉、高潔、正直でなければなりません。家庭を聖さと愛のある場所にする必要があります。世の邪悪の攻撃に対して果敢に戦うことが求められます。時には人々の反感に耐え、世の標準と相いれない生活を求められるという意味です。

わたしは微力ながらこの聖なる御業の一端を担っていることを誇りで、特権であると感じています。今や全世界に対して幅広く霊の手が差し伸べられるという偉大な時代を迎えています。それは驚嘆に値する光景です。これは神の御業です。この御業はこの教会の頭、すなわちわたしたちの主であり、救い主であるイエス・キリストによって導かれています。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は主の預言者、聖見者、啓示者です。わたしはヒンクレー大管長の靈感あふれる指導によって全人類に祝福がもたらされていると信じています。

究極のささげ物は、命をささげられた救い主御自身によるささげ物です。わたしたちはそれぞれに、このような思いを抱きます。「主はわたしのためにどれほど多くの血を流されたのでしょ

うか。」わたしはイエスがキリストであり、神の聖なる御子であり、わたしたちの霊の癒し手であり、わたしたちの救い主であり、人類の贖い主であることを証します。これをイエス・キリストの聖なる御名によって証します。アーメン。

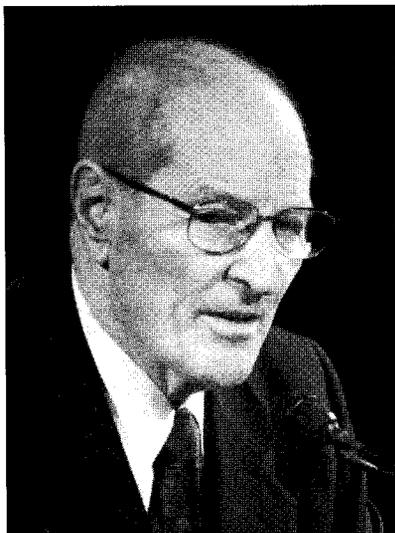
注

1. 教義と聖約119：4参照
2. See *Church Handbook of Instructions, Book 1: Stake Presidencies and Bishoprics* (1998), 134.
3. Letter from D. Brent Clement, president, Korea Seoul Mission, 1981.
4. "Inspirational Thoughts" *Ensign*, Aug. 1997, 7.
5. 1ニーファイ3：7参照
6. ヨハネ7：17
7. マラキ3：8
8. マラキ3：10
9. 教義と聖約38：39
10. *Gospel Standards*, comp. G. Homer Durham (1941), 59.
11. 『聖徒の道』1992年3月号, 17
12. 教義と聖約120章
13. 教義と聖約64：23
14. *Lectures on Faith* (1985), 69-70.
15. サムエル下24：24

# イエス・キリストの贖罪しょくざいを通して得られる希望

十二使徒定員会会員  
ニール・A・マックスウェル

真の希望は、心の中の願い以上のものです。それは靈的な力を強めるものであり、決して弱めることはありません。



兄弟姉妹の皆さん、今日この場にともに集えることを感謝します。わたしの頭が光っているのは、友人の理容師が一生懸命に仕事をしたからではありません。これはさらに治療を受けていて、それが効果を発揮しているためで、大会の度にヘアスタイルを変えているわけではありません。

わたしは感謝の気持ちでいっぱいです。第一に主に対して、次に愛する妻と家族に、また有能で親切な医師と看護婦の皆さんに、そしてわたしのために祈ってくださる多くの友人と会員の皆さんに、感謝しています。

様々な理由により、現代社会は希望に満ちた状態を求めて苦悩しています。その原因と結果はともにとらえにくい

ものです。

毎日使われる「希望」という言葉の中には、特定の事柄を特定の時期に達成することへの「希望」が含まれています。わたしたちは、世界経済の回復を「希望」するでしょうし、愛する人の訪問を「希望」します。それらは真心からの、しかし一時的な希望と言えます。

失望はしばしば、この一時的な希望が実現されないために起こります。しかし今日わたしがお話ししたいのは、永遠の希望の必要性についてです。

永遠の希望はほかと性質を異にし、イエスとその偉大な贖いに結びついていきます。また、その結果として与えられる万人の復活と貴重な機会、すなわち自由をもたらす悔い改めを実践し、聖文にある「完全な希望の輝き」を得ることと関連しています(2ニーファイ31:20)。

モロナイは確認して言いました。「あなたがたは何を望めばよいのであろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、キリストの贖罪……を望まなければならない。」(モロナイ7:40-41。アルマ27:28も参照)このように真の希望は、移り変わるものではなく、永続する不滅のものと結びつくのです。

当然のことながら、希望は福音のほかの教義、特に信仰や忍耐とも絡み合っています。

疑いや失望、心の鈍化が一緒に来る

ように、信仰、希望、慈愛、忍耐も連れ立って来ます。しかし、後者が注意深く絶えず育てる必要があるのに対し、疑いや失望は、たんぼほのように、ほとんど何もなくても、芽が出て広がっていきます。ああ、失望は何とたやすく「生まれながらの人」のもとを訪れることでしょうか。

例えば、忍耐があれば、人生経験のでこぼこをもっと平らにすることができます。

信仰と希望は絶えず互いに作用し合うので、いつも簡単に、あるいは正確に区別できるわけではありません。それでも、永遠の希望が待ち望むものは、確かな真理です(エテル12:4。ローマ8:24;ヘブル11:1;アルマ32:21も参照)。回復された真理を幾何学的に見てみると、希望は信仰と相似の関係にあります。一方、「信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認すること」でもあります(ヘブル11:1。エテル12:6;ジョセフ・スミス訳ヘブル11:1も参照)。このように希望は時々、信仰の現在の領域を超えることがあります。必ずイエスのもとから発せられるのです。

確かに人々の心は、ほかの音楽ではなく、真の希望の「起床らっぱ」によって奮い起こされます。たとえ数少ない同志が眠りに落ちたり戦列を離脱したりしても、「明るい希望」がまだわたしたちの前でほほえみを見せています。この希望により、意気消沈した弟子たちは期待を抱きながら、空の墓へと大急ぎで走りました(マルコ16:1-8;ルカ24:8-12参照)。この希望により、ある預言者は遠くの、人の手ほどしかない小さな雲に救いの雨を見ました(列王上18:41-46参照)。

そのような永遠の希望は「たましい[の]錨」となり、キリストを信じる信仰と聖霊の賜物を通して保たれます(ヘブル6:19。アルマ25:16;エテル12:9も参照)。それに対して、不死不滅の展望を持たずに人生を眺めると、希望ばかりでなく、個人の責任感までが半減してしまいます(1コリント5:19;アルマ30:18参照)。

人間社会では、多くの人が深い宗教心に触れることなく、あるいはそれを表すことなく、日常の仕事をきちんとこなしています。しかしそれでも、すべての人に幾分か与えられる「キリストの光」に知らず知らずのうちに導かれているのです(教義と聖約84:46; モロナイ7:16, 18; ヨハネ1:9参照)。しかし中には、称賛すべきことに、自分を支える霊的な気持ちが存在することを公に認めている人もいます。

それでも、身近なものに対して抱く一時的な希望は、皮肉な結果や意外な出来事によって失われやすいので、世の中には深い絶望感が広がっていくのです。現代の人々は政治に対して皮肉で否定的な態度を執ります。多くの人が社会不安の増大を憂慮しています。

霊的に安定している人でさえ、社会に広がる絶望感を抱いています。冷え切った世俗主義がそのような絶望をもたらし、多くの人がパトリック・マイニハン上院議員が「不道徳行為の正当化」と名付けたものに屈服しています(“Defining Deviancy Down,” *The American Scholar*, winter 1993, 17)。確かに絶望の多くは罪悪のために生じます。その罪悪は神が定義しておられる罪悪です(モロナイ10:22参照)。

罪悪のあるところには実にたくさん不満と不和分裂があります。希望が失われた結果、必然的に利己心が高まり、多くの人が自分を満足させることに心を向けるのも、無理からぬことです。

希望がはぎ取られると、パウロが記した性癖が現れます。すなわち、「人が死ねばそれで終わり」という誤った結論に追い詰められ、「あすもわからぬいのちなのだ」と考えて「飲み食い」するようになるのです(1コリント15:32; アルマ30:18)。

わたしは嵐が迫り来ることを嘆き悲しみますが、中には役立つこともあるでしょう。様々な出来事が人々の注意を再び神のより高い道、神の王国に向けるからです。神の道、神の王国は「太陽のように美しく、月のように明るくな……」のです(教義と聖約105:31)。

個人と国家はこれからも、望むものを選ぶでしょう。しかし、その選択の



最終の結果を変えることはできません。

ですから、急速に実が熟するこの時期に、毒麦がますます毒麦らしさを増しても、驚かないようにしましょう。「諸国民が悩み……おじ惑」う(ルカ21:25)この時代に、救いに役立つ問題が必ずあるでしょう。「悪魔の王国は必ず揺れ動く。また、それに属する者は、必ず悔い改めるように促される」からです(2ニーファイ28:19)。

この「促し」は、現実のものになるでしょう。わたしたちにできるのは、それがどのように起こるのか推測することだけです。

それまでに、永遠の希望を持つ人は、次の簡潔な聖句の真理を受け入れるでしょう。「しかし、すべてのことは時節にかなって起こる。」(教義と聖約64:32)

したがって、多くの人が神の戒めを大切に思わないときは、現在の社会において希望がどのような状態にあるか考えるとよいでしょう。確かに、「民の声が正しいことに反する事柄を望むのはまれ」です(モーサヤ29:26)。しかし、もし万一それが起きたら、世界の社会情勢に大規模な変化がもたらされ、それから神の裁きが下るでしょう(モーサヤ29:26, 27参照)。神の啓示を受け入れることによってのみ、必要な指示や修正が授けられ、「希望の輝き」がもたらされるのです(2ニーファイ31:20)。

真の希望があれば、世の人から見て勝ち目のない試合であっても、わたしたちは「熱心に善いことに携わり」ます(教義と聖約58:27参照)。同様に、真

の希望は、心の中の願い以上のものです。それは霊的な力を強めるものであり、決して弱めることはありません。希望に満ちた人は、落ち着いていて軽薄でなく、熱心ですが世間知らずでなく、快活で堅実ですが自己満足には陥りません。希望は、決意の形を取る現実的な見通しです。すなわち、逆境に打ち勝つだけでなく、終わりまで「よく堪え忍ぶ」ことを決意するのです(教義と聖約121:8)。

「生ける望み」という形ではありませんが、葬儀の席にも希望は物言わずたたずんでいます。わたしたちが流す涙は、絶望のためではありません。むしろ、つらい別れが呼び起こした高尚な感謝の涙です。この別れの涙は、間もなく、輝かしい希望の涙に変わるのです。

真の希望は、人前での一時的な狂信的行為でなく、人目につかないクリスチャンとしての奉仕を促します。ファイニー・ピーター・ダンはいたずらっぽく言いました。「狂信家とは、もし主が知っておられれば行われるであろうと自分で思うことを、自分で行う人である。」(quoted in *The Third - And Possibly The Best - 637 Best Things Anybody Ever Said*, comp. by Robert Byrne, [1986], no.549.)

確かに、全知全能の神が定められた時を待ち切れない人は、自分が最善の方法を知っていると断言しているようなものです。おかしなことに、腕時計をしている人間が、宇宙の時と暦を管理しておられる主に忠告しようとするの



です。

神はわたしたちに、御自身や御子のようになってみもとに帰るように願っておられます。そこでその成長の過程で欠かせないのが、わたしたちの弱さを明らかにすることです。したがって、もし永遠の希望を抱いていれば、わたしたちは従順になるでしょう。主の助けによって、弱さを強さに変えることができるからです(エテル12:27参照)。

しかし、自分の弱さを指摘されるのは、たやすいことではありません。生活の中で繰り返しそれが現れてくるからです。しかし、これは「キリストのもとに」来るための一段階であり、もし苦痛を感じれば、それは神の幸福の計画の欠かすことのできない部分なのです。また、ヘンリー・B・アイリング長老は、賢明にもこう述べています。「もし指示よりも称賛を望むなら、両方とも得られないでしょう(“To Choose and Keep a Mentor,” *Address Delivered at the 1993 Annual University Conference, Brigham Young University* [1993], 42)

希望をもって前進することにより、わたしたちは、何度でも喜んで、昨日は地平線のかなたにあったことに今日挑戦し、それによって自分自身の経験

から、さらに希望を引き寄せることができるのです。パウロはこう言いました。「患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出す。」(ローマ5:3-4)ですから、神にこう歌うのは当然のことです。「過ぎ去りし日々にて、主に証せん。」(“We Thank Thee, O God, for a Prophet” *Hymns*, 1985, no. 19より和訳)

確かに、真の希望を抱く人は、どんなに時が変化しても、自分の置かれた状況を見詰めることができます。「信仰の目」により、変化するこの世の状況の中に、神の御心を見いだすのです(アルマ5:15参照)。

例えば、真の希望を抱く人は、腐敗した環境の中でも、堅固で幸福な家庭を築くために努力します。彼らの答えはぐらつきません。ヨシュアは言いました。「わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」(ヨシュア24:15)

わたしたちは全世界を正すことはできなくても、自分の家族の悪い点を直すために努力することはできます。トールキンはこう言いました。「わたしたちの責任は、世の中のすべてを制することではなく、この地上にいる間に人を助けるために手を差し伸べることである。自分の住む地域から悪を根絶すれば、わたしたちに続く世代はまともな環境の中で生活できる。そのときの天気については、わたしたちに責任はない。」(*The Return of the King* [1965], 190)

兄弟姉妹、このようにわたしたちは家族の中で、「耕すためのきれいな大地」を後の世代に残すことができます。家庭からは慈愛だけでなく、希望も始まるのです。

わたしたちの責任が何であれ、わたしたちはパウロの言葉にあるように、過去を振り返らず、昨日の自分に縛られずに、「望みをもって耕す」ことができます(1コリント9:10)。

純粋な永遠の希望は、「多くの人の愛が冷える」(マタイ24:12)ときでも、さらに深い愛を持てるように助けられます。わたしたちは、罪悪が熟す世にあって聖さを増し加え、冷淡ですさんだ世にあって、さらに親切で忍耐強

くなり、人々が気落ちするときに、心に勇気と希望を持つのです(モロナイ10:22参照)。

希望は伝染していきます。「[わたしたち]のうちにある望みについて説明を求める人に……いつでも弁明のできる用意をして」いる場合は、特にそうです(1ペテロ3:15)。ブリガム・ヤング大管長によれば、もし知識を人に伝えず、善を行わなければ、「[わたしたちの]見方は狭まり、感情は鈍くなっていきます。」(*Deseret News Weekly*, 9 May 1855, 68)

もしわたしたちが自分にできる具体的な事柄を探し求めるならば、聖霊から導きを受けて、行うべき「すべてのこと」が示されるでしょう(2ニーファイ32:5参照)。これは聖霊の役割の一つです。希望を失った人を助ける機会は、自分の家族や親族、落胆した隣人、あるいはすぐ近くに住む人々の中にあるかもしれません。子供に読み方を教える、老人ホームで入居者の世話をする、あるいは忙しさに戸惑う両親の使い走りをするなどです。こうした行為により、多くのものを人に伝えることができます。同様に、簡単な会話が希望を伝えるのです。そうしている間に、世の中は、世俗的で規制に寛大な人々と、霊的な価値観を大切にす人々に二分されていきますが、心配は要りません。

したがって、わたしたちは希望の恵みを受けている弟子として、自らを狭めるのでなく何らかの理由で「福音の望みから移り行く」者を含め、人々に手を差し伸ばしましょう(コロサイ1:23)。

ジョン・ウェスレー作詞の賛美歌「来たれ、旅を共に続けん」にあるように、わたしたちの人生と時間、過ぎ行く道は様々ですが、いずれもつかの間です。しかし、「希望と愛の業により」勝利を取める人々は、栄えある言葉を聞くことでしょう。「よき僕よ、わが喜び、わがみ座に入りて来たり、ここに座せ」(『賛美歌』135番)

この輝かしい瞬間が、希望の福音を通して、いつの日かわたしたちのものとなるよう、主なる救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

# 小規模神殿 大いなる祝福

七十人会長会  
デビッド・E・ソレンセン

神殿の存在は、わたしたちが交わした聖約、高潔さの必要性、そして神は決して遠くにおられないという事実を思い起こさせるものであるべきです。



マックスウェル長老、あなたは教会にとって偉大な宝であり、全世界にとっても祝福です。神の祝福と守りがございますように。

兄弟姉妹、こうして皆さんの前に立つのは、足のすくむような思いです。わたしが育ったころ、家族はユタ州中南部で牛の放牧をして生計を立てていました。わたしは馬にまたがって牛を集めたり、牛の世話をしたりして多くの時間を過ごしました。ですから、実を言うと、今日ここでお話しするよりも突進して来る雄牛をかかわす方が気が楽なのです。しかし、皆さんは親しい友であることも分かっていますし、わたしたちが行っている御業の重要性も、

心から信じています。

会員がまだわずかだった教会初期の時代、預言者ジョセフ・スミスは兄弟たちに向かってこう語りました。「この教会と王国の行く末に関するあなたがたの知識と理解は、母親のひざに抱かれた幼子程度にすぎません。……あなたがたが今晚目にしているのは、ほんの一握りの神権者にすぎませんが、この教会は南北両アメリカ、そして世界に満ちるでしょう。」(as quoted by Wilford Woodruff in Conference Report, April 1898, 57) わたしたちは今、その預言の一部が成就するのを目にし始めています。

全世界で会員数が増加するにつれ、神殿の必要性も増してきました。ヒンクレー大管長は13年前こう語りました。「神殿の中で行われる神聖で重要な業はさらに推し進められなければなりません。そしてそのためには、〔神殿を〕会員の住んでいる近くにて建て、会員が遠く旅する必要のないようにしなければなりません。」(「神殿は主の宮」『聖徒の道』1986年1月、55)

神殿を人々の近くにもたすために、これまで教会が尽力してきた軌跡を数値で紹介しましょう。

1900年、儀式が執行されている神殿はわずか4つで、場所はいずれもユタ州でした。

その後、1900年から1950年までの50年間でさらに4つの神殿が奉獻され、

全部で8つになりました。教会設立以来最初の100年間に、10年に1つの割合で神殿が建てられたことになりました。

1951年から1980年までの30年間で、さらに11の神殿が建てられ全部で19になりました。増加の速度は大幅増したものの、神殿訪問はまだまだ多くの会員にとって何年もの貯蓄と長旅を意味していました。

1980年代になると、教会は神殿建設にさらに力を入れ始めました。1997年までに32の神殿が奉獻されました。1年に2つの割合で建設されたことになりました。

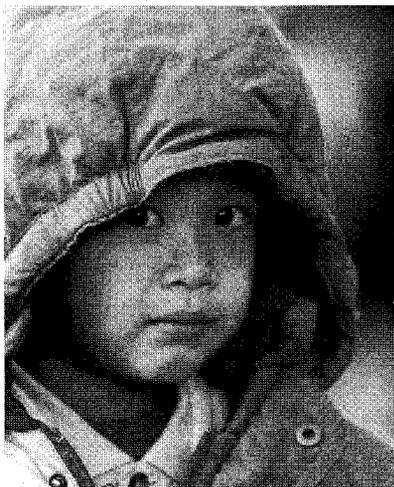
そして今、教会史上最も神殿建設に力を注ぐ時代に入り、毎年少なくとも15の神殿を完成する計画で進められています。この1998年は、2つの神殿が奉獻され、15の神殿が建設中、そして26の神殿用地が納入式に備えています。これら43の神殿に、すでに儀式が執行されている神殿数を加えると計94になります。

これはわたしたち教会員にとってたぐいまれなる祝福です。『旧約聖書』には、聖なる宮を建てた人々からもたらされた喜びについて次のように記されています。「彼らは互に歌いあって主をほめ、かつ感謝し…た。そして民はみな主をさんびするとき、大声をあげて叫んだ。主の宮の基礎がすえられたからである。」(エズラ3:11、10、12、13も参照)

これらの新しい神殿が建設されるのを目にして、わたしたちもきっと主を賛美し、喜びに涙することでしょう。

ヒンクレー大管長やほかの人々の新しい神殿建設に向けてのさらなる決意を目にして、わたしたちも立ち止まり、なぜ神殿がそれほど大切なのだろうかと自問する気持ちがわいてくるのではないのでしょうか。実際、教会外の人々には、わたしたちが定期的に利用する非常に多くの集会所と、神殿と呼ばれるきわめて特別な建物との違いは理解されないでしょう。

ヒンクレー大管長はその違いについて次のように説明しています。「これらのすばらしく、かつたぐいまれな建物、そして、そこで執行される儀式は、わた



したちの礼拝の究極の姿を表しています。これらの儀式は、わたしたちの神学の最も深遠な表現となっています。」「(伝道と神殿、そして管理の職)『聖徒の道』1996年1月号, 60) 言い換えれば、神殿がわたしたちにとって価値がある理由は、キリストに來れというわたしたちの神学の中心となる教えを表している場所だからです。

神殿は二つの方法でそれを示しています。第1に、神殿は象徴的にまた文字どおりに、わたしたちにキリストと御父を思い起こさせ、教えています。わたしたちはキリストがエルサレムの神殿で、伝道期間の主要な時期を過ごされたことを知っています(ヨハネ7—8章; マタイ21—23章; マルコ11—12章; ルカ20章参照)。またキリストは、光と水のように神殿で用いられる象徴を御自分にしばしば対比させながら、教えの中で神殿の象徴を度々使われました(例として、ヨハネ7:38; 8:12参照)。今日の神殿での礼拝には、キリストを示す多くの象徴が含まれています。天にわたしたちの思いを向ける外観の尖塔から、神殿内で着用する白い衣装に至るまで数多く存在します。白い衣装が象徴しているものは黙示録に記され、わたしたちが「大きな患難をとおってきた人たちであって、[わたしたちの]衣を小羊の血で洗い、それを白くした」ことを表しています(黙示7:14)。

神殿は御父の恵みと善良さを絶えず、そして物理的に思い起こさせるものとして存在します。それにより聖徒の共同体そのものが強められます。ジョー

ジ・Q・キャノン副管長は次のように述べました。「神殿の礎石や完成された神殿はどれも、……地上でのサタンの力を弱め、神の力と神性を増します。」(Logan Temple cornerstone ceremony, 19 Sept. 1877; quoted in Nolan Porter Olsen, *Logan Temple: The First 100 years* [1978], 34)。

神殿は常に主の御前にいることを象徴してきました。主は次のように述べておられます。「また、彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである。……その所でわたしはあなたに会い、……あなたに語るであろう。」(出エジプト25:8, 22) 定期的に主の宮で礼拝すれば、神に近づくことができます。そして、主の宮において神を知り、自分が温かく迎えられていると感じ、安らぎを覚えるようになるでしょう。

世界中で非常に多くの場所に神殿が建ち、より多くの会員にとって神殿が近くなりました。神殿のおかげで、キリストとキリスト御自身がわたしたちのために払われた犠牲について思い起こすことができます。神殿の存在は、わたしたちが交わした聖約、高潔さの必要性、そして神は決して遠くにおられないという事実を思い起こさせるものであるべきです。

神殿は、その物質的存在と表面上の象徴以上に、第2の方法、すなわち神殿での儀式によってキリストに來るようわたしたちを啓発します。神殿のすべての儀式はキリストとその神聖な召しを中心となっていて、メルキゼデク神権の権能により執り行われます。教義と聖約第84章にはこのように記されています。「また、神権の儀式と権能がなくては、肉体を持つ人間に神性の力は現れない。」(教義と聖約84:21) それぞれの儀式はキリストに関する、またわたしたちと神の関係に関する事柄を明らかにするためのものです。

神殿の儀式には永遠の結婚のように理解しやすい儀式がある一方、全影響力を理解するために入念で周到な霊的準備が要求されるものもあります。コリント人への第一の手紙でパウロは、神に関する事柄を理解するために神の

御霊を持つ必要があると述べています。「ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。」(1コリント2:12。11, 14節も参照) 神の御霊は、神のわたしたちに対する計画を知るのを助けるので、より大きな知識を見いだすだけでなく、より大きな平安と憐れみを見いだすことでしょう。

また神殿の儀式は、今日大いに必要とされている、家族を強める機会を与えてくれます。先祖のための身代わりの儀式を受けることで強さが得られ、したがって先祖と子孫の間の「固いつながり」が形成されるのです(教義と聖約128:18)。例えば、地上に生きている間福音を聞く機会のなかった先祖の身代わりに、神殿でバプテスマの儀式を行うことができます(1コリント15:29参照)。

日本で21歳の青年が福音を受け入れていく様子を見ました。バプテスマを受けて、家族の中で唯一の教会員となりました。亡くなった祖父のための身代わりの儀式を行えるよう、祖父のための家族歴史の作業を完成しました。それは文字どおり、祖父がすでに自身では果たせない事柄を、代理として行うことです。この青年はバプテスマフォントから出てくるとき、涙を浮かべていました。そしてこのように言いました。「今わたしはあると感じ、分かりました。一つの証ができました。それは、家族で教会員はもうわたし一人ではないということです。」これらの儀式は彼と家族との関係を強め、人生に新たな一致をもたらしました。

マンタイ神殿の奉獻式で、ロレンゾ・スノー大管長は次のように祈りました。「この神聖な神殿が天の門となり、終わりなき命と永遠の統治へ続く真っ直ぐで狭い道への門戸が開かれますように。」(Manti Temple dedication, 21 May 1888)

兄弟姉妹の皆さん、天の門はわたしたちに開かれています。そして主イエス・キリストはみもとに來るよう招いておられます。イエス・キリストの御名により、へりくだって証いたします。アーメン。

# あかし 神を証する

中央初等協会第二副会長  
スーザン・L・ワーナー

変動する価値観と混乱する意見であふれる社会にあって、親が子供たちに与える証は彼らの信仰をつなぎ止める錨となります。



天の御父は、わたしたちが御父について知り、御父の愛を感じられるように、御自身と御子イエス・キリストを証するすばらしい創造物で地を満たすよう計画されました。皆さんは救い主を証するものをすべて数え上げたことがあるでしょうか。夕焼け、貝殻、ライラックの花、湖、昆虫、動物、不思議な朝の光景や星がきらめく夜空など、数多くあります。

主御自身は、モーセに次のように言われました「すべてのものにはそれに似たものがある。すべてのものは、現世にかかわるものも霊にかかわるものも、わたしのことを証するために創造され、造られている。すなわち、上の天にあるもの、地の上にあるもの、地の中にあるもの、地の下にあるもの、上のものも下のものも、すべてのものがわたしのことを証するのである。」

(モーセ6：63，強調付加)

わたしたちは世界のどこに住んでいても、輝かしい朝日を見ることが出来ます。それは、わたしたちの心を満たし、思いを啓発するキリストの光を証しています。大きな川と曲がりくねった小川はキリストが生ける水の源であり、霊的な事柄に対するわたしたちの渴きをいやしてくださることを証します。また、野のゆりや小さなすずめさえ、主があふれるばかりの関心を寄せておられることへの証となっています。

けれども、神の驚嘆すべきすべての創造物の中で、神の子供であるわたしたちだけが、神の形にかたどって創造されました。わたしたちだけが霊的な確信を深めていく力を授かり、そして神に対する自分の証を述べる手段を授かっています。神の子供であるわたしたちは、天の御父と御子イエス・キリストを証するという特権と神聖な義務を与えられていることを喜びとしています。

少し前のことですが、孫娘のスージーは自分用の聖典をもらいました。彼女が通っている学校のクラスには、先生も含めて教会員がほかにいません。そこで彼女は、自分の真新しい聖典に記されている「信仰簡条」をクラスの皆に分かち合いたいと思いました。学校で、興味深い事柄を発表する時間があるので、そのときに分かち合うのがよいと判断しました。その時間がやって来ました。8歳のスージーはクラスの皆の前に立って、発表を始めました。「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊と

を信じる。」その後も朗読を続けましたが、第7節を読むと、一人の子が大声でこのように不平を漏らしました「今はそんなことは起こらないだよ。」すると、その生徒と同様教会員ではない先生はすぐにこう答えたのです「先生もそんな話を聞いたことがないから、すばらしいニュースよ。」

わたしたちは皆、福音のよきおとずれを分かち合い、確信していることをほかの人々に伝えられます。聖霊のささやきに敏感であれば、わたしたちの信条をへりくだって伝える機会を見いだすことができます。内気な8歳の子供でさえ、「信仰簡条」を分かち合いたいという気持ちを抱いたのです。

福音のよきおとずれについて証するとき、わたしたちは証を口にするによってそのメッセージが真実であると証してくださる聖霊をお招きしているのです。わたしたちの言葉に力があるのではなく、わたしたちの言葉に伴い、聞く人々の心に確信を与える神の御霊が力を与えてくれるのです。『モルモン書』で、ニーファイは次のように説明しています。「人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝えるからである。」(2ニーファイ33：1)

わたしたちが自分たちの主張を明確に述べ、信条と考へについてへりくだって証するとき、御霊は、語った事柄が真実であるという証を、わたしたちの霊に伝えてくれます。このことについて、ボイド・K・パッカー会長代理は、簡潔にこう述べています。「証は実際に証をしていく中で見いだすもの



なのです。』(「主のともしび」『聖徒の道』1988年12月号、36)

変動する価値観と混乱する意見であふれる社会にあって、親が子供たちに与える証は彼らの信仰をつなぎ止める錨となります。それは、家族の中でイエス・キリストとその福音について、言葉と行いによって証することです。また、ともに祈り、聖文を研究し、定期的に家庭の夕べを開くことです。それは、夕食時に食卓を囲み、親と子供が、教会の集会や活動から学んだ事柄や、福音の原則を実践した日々の経験を分かち合うことです。家族という神聖な輪の中で、子供は天の御父と御子イエス・キリストに対して、またこの麗しい地球上で家族としてともに暮らせることに対して、愛と感謝の気持ちを示すことを学びます。

子供はそれぞれ靈的な感受性を持っており、天の御父の創造物を自分で観察しています。水たまりを這う虫に対して自然に興味を示し、貝殻から聞こえる海の音に魅了され、空に漂う雲の不思議な模様を心を奪われます。子供の手を取り、子供がそのすばらしい世界を発見する様子を傍らで見守るのはわたしたちにとってすばらしい特権で

す。しかし、子供にこの世界の創造主について教え、創造主が子供たち全員に抱いておられる愛について証することは、もっと偉大で神聖な特権です。

わたしたちが子供に対して抱いている気持ちを子供と分かち合い、神について証することによって、子供たちが自分の経験を分かち合い、靈的な事柄について理解していることや感じていることを言葉に表現させる扉を開きます。その気持ちが神から与えられたものであることに気づくと、子供たちは、教訓に教訓、規則に規則を加えられるように、救い主を理解し、愛することを学んでいきます。

子供たちは幼いころから聖文の言葉を耳もとで聞きながら成長し、やがて自分で聖文を読める年代になると、すでに彼らは心に感じている靈的な気持ちを表現する言葉に慣れ親しんでいるのです。本を読めるようになるはるか以前の幼い子供たちでも聖文が伝えようとしていることを肌で感じる事ができ、また神の愛について理解し始めます。

まだ2歳にしかならないブラッドリーは家族で聖文を読む時間になると、うきうきしながら一緒に参加していま

した。聖文を読む番が回ってくると、彼は聖典を手にとって「天のお父様はぼくのことを愛しておられます。天のお父様はぼくのことを愛しておられます」と言いながら慎重にページをめくります。天の御父とイエス・キリストの変わらぬ愛を感じるによってわたしたちの証の土台が築かれるのです。

最近ある家族が親族の交流を図るために山に集まりました。おじいさんは孫たちを散歩に連れて行きました。辺りに樹木が植わっていない場所まで来ると、彼は子供たちを丸太に座らせ、心を悩ませていた問題について天の御父に尋ねたいと思った一人の少年について話しました。その14歳の少年ジョセフ・スミスは神が自分の祈りにこたえてくださるという信仰をもって家の近くの森へ入って行きました。子供たちは静かに話を聞いていましたが、4歳のジョニーは日ごろからだまって座っていることが苦手な子でした。そのときも出し抜けにこう言いました。「その話、前に聞いたことがあるよ。」

それでもおじいさんは、ジョセフが誠心誠意祈ったこと、そして栄光に包まれた天の御父と御子イエス・キリストがジョセフを訪れて、祈りがこたえられたことを話しました。話が終わると、幼いジョニーはおじいさんの手を取って言いました。「おじいちゃん、とってもいい証だったよ。」ジョニーはその話をまた聞いてほんとうにうれしかったのです。

彼はそれまでの生涯で、この神聖な出来事について幾度となく話してきましたが、「自分の孫たちにジョセフ・スミスの経験について証したときほど、主の御霊を強く感じましたことはありませんでした」と語ってくれました。彼とお孫さんたちは聖霊による証を感じることができたのです。わたしたちの子供たちもジョニーと同じように聖文からの話を聞かされているかもしれませんが、彼らはその話と、そこで教えられている原則が真実であるという証をわたしたちから聞いているのでしょうか。

簡潔ながらも敬虔な証が人に与える影響力についてだれが押し量れるのでしょうか。またその証を確認する御霊の



力がどれほどの力を持っているかを判断できる人がいるでしょうか。子供たちが幼いときに心にまかれた証の種は、彼らを慈しむ人々が述べる真理の証を聞くことによって、生涯を通じてはぐくまれるのです。

両親は神聖な責任を担っています。しかし、彼らは幼い子供たちや若人と証を分かち合ってくれるおじ、おば、友人、指導者、教師たちの助けが必要です。聖文には「二人または三人の証人の口によって、すべての言葉が確定される」と書かれた箇所が幾つもあります（教義と聖約6：28）。

成長した子供たちから落胆を覚えるときに、彼らが小さかったときにもっと熱心に証をしておけばよかったと思うことがあるかもしれません。しかし、今からでも決して遅くはありません。昨年亡くなったわたしの父は生涯、証を通してわたしを導いてくれました。さらに父は子供たちや孫たちだけではなく、これから将来生まれてくる子孫のことを考えて個人の記録を書き残しました。父が残してくれたものの中で、証と愛にあふれた記録ほど貴重なものはありません。

わたしは父が自らの手で次のように証を書いて教えてくれたことをよく覚えていています。

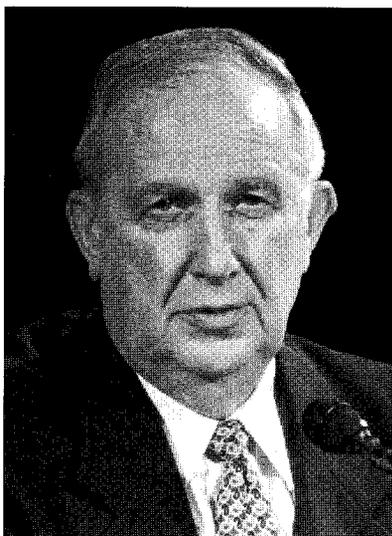
1. 神は天におられる心優しいわたしたちの霊の御父です。
2. 御子イエス・キリストはわたしたちの救い主であり、贖い主です。
3. ジョセフ・スミスは神から召された預言者で、地上にイエス・キリストの福音を回復し、『モルモン書』を翻訳しました。
4. 末日聖徒イエス・キリスト教会は今日地上に存在する主の教会です。
5. この教会は生ける預言者によって導かれています。預言者は神から啓示を受けています。

兄弟姉妹の皆さん、これがわたしの証です。これらのことはすべて真実です。わたしたち一人一人が、神が創造された万物によって、神が生きておられることを証できますように祈っています。イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。

# 義の力

十二使徒定員会会員  
リチャード・G・スコット

**主が正しいとされたことを選んでいると、最終的には必ず最良の結果に結びつきます。**



あらゆる口実を持ち出します。しかし実際のところ、それらは単に人が神の戒めに背いたために、神が重大な背きに発展すると警告しておられたとおりの悲惨な結果をもたらしたにすぎないのです。

わたし個人としては、大いなる希望をもって将来を待ち焦がれており、皆さんもそのようにできます。皆さんは歴史上最も感動的な時代に生きています。このように楽観視する理由がある中で、皆さんが希望と自信を持てる最大の根拠は、完全な主の教えを手にしているということです。主の教えは豊かな生活を送るための方法を明らかにしています。皆さんが義にかなう生活をするならば、まことの幸福を得て、大きな業を成し遂げられることを約束する儀式と聖約を交わすことができます。

## 人生はすばらしい

人生は、人生に秘められている麗しさを見つめる努力をするならばすばらしいものとなります。わたしは世界中で物質文明から最も取り残された地を訪れたときに、すべての雄大さを備えた日の出を目にし、新しい一日を喜びをもって歓迎する鳥たちのさえずりを耳にしたことがあります。わたしは粗末な家を訪れて、小さな花瓶に生けられた花が放つ麗しさ、周りの世界から新しいものを発見しようと夢中で遊んでいる子供が恥ずかしそうに見せた笑顔の麗しさを見てきました。

皆さんが、世界中で起きている非常に厄介な出来事を詳細にわたりあから

**わ**たしはこのメッセージがあらゆる人にとって益となることを希望していますが、特に若人に向けてお話したいと思います。一部の若人は将来を悲観しています。彼らは自分の周囲や世界で起きている事柄を見て、このように誤った見解を取っているのです。離婚率の増加、次第にエスカレートする犯罪、薬物、テロリスト活動、そのほか生活を傷つけ、破壊する残虐行為によって、自分たちの将来が脅かされていると彼らは考えています。皆さんはこれまでの人生で、選択を間違えたために自分の人生と、時には他人の人生をも傷つけてしまうという恐ろしい結果を何度も目にしてきたと思います。このような結果になったとき、人は単に、間違っていたとか、判断力が足りなかったとか、人間の持つ弱点のせいだったなどと言い逃れるために

さまに報じるメディアだけに目を向け  
ていれば、意気消沈するのは当然です。  
天の御父が皆さんにお与えになった世界に敬虔な感謝の思いをもって目を向けるならば多くのことを見いだせるはずです。まず、皆さんは神聖な可能性を持つ神の息子であり、娘であるということを思い起こすところから始めてください。神は皆さんが喜びと満足をもたらす人生を歩めるように助けてくださいます。

## 決断を下す

人生において皆さんが決めた目標に到達するためには正しい決断を下すことが必要です。どうすれば正しい決断を下せるかを考えてみましょう。決断には二つのパターンがあります。第1を状況に左右される決断と呼び、第2を永遠の真理に基づいた決断と呼ぶことにしましょう。では、それぞれのパターンを詳しく調べてみましょう。

状況に左右される決断パターンの中心となる原則は、善悪ではなく、望んでいる結果を最優先させて選ぶということです。したがって、これらの決断に一貫性を持たせるために基準を設けるなどということはまったく意味を持ちません。最も望ましい結果が今手に入るとされるものを選びます。この方法を取る人は自分の力と能力、それに自分の気に入るような行動を取ってくれる人々の支援以外に頼るものはありません。サタンは人がこの方法で選択することを奨励しています。この方法は、決断するときには非常に魅力的であるかのように見えるため、サタンは人々を誘惑するために好んでこの機会を利用していますが、実は危険をはらんでいます。

状況に応じた決断を下す人は最終的に必ずと言っていいほど重大な背きを犯します。その人を正しい道にとどめる真理という鉄の棒が存在しないのです。彼は戒めから離れさせようとする多くの巧みな誘惑に絶えずさらされることでしょう。これらの選択は、それほど悪いものではないとか、社会的に広く受け入れられているし、友達

の人も広がるとかいう主張を並べ立てることによって正当化されています。基本原則を持たなくとも才能のある人は一時的に見事な結果を出すことがあります。しかしその成果は砂上の楼閣のようなものです。人格が試される時が来ると、それは粉々に崩れ、他人を巻き添えにすることも多々あります。

第2のパターン、すなわち**永遠の真理に基づいた決断**は主の方法です。それは、主がお立てになった幸福の計画に添って決断を下すよう常にあなたを導いてくれます。これらの決断は、望んでいる結果を得ることを最初に決めるのではなく、正しいことを行うことが優先されます。主が正しいとされたことを選んでいると、最終的には必ず最良の結果に結びつきます。しかしこのパターンは、将来良い結果を得るために、現在あなたが熱望している事柄を捨てるよう要求します。

## 義の力

義を行うときに得られる力によって絶えずあなたの生活に祝福をもたらしてください。義は自信を築く力をもたらし、信頼を養います。また義は永続し、価値のある業を成し遂げる基となります。義にかなうためには神の戒めを積極的に守ろうとする姿勢が必要です。思いと行いを清くする必要があります。正直、公正でなければなりません。義は言葉よりも行いに表されるものです。義にかなう生活をするには自制が必要です。自制とは人生最大の望みを達成する代わりに今あなたが望んでいるものを選択しないよう抑制力が働く個人の資質です。自制は厳しい監督者から命令された結果人生を惨めなものにするのではなく、友達のようにいつも自分のことを考えてくれるようなものです。自制心は、イエス・キリストと永遠の御父を信じる信仰を基とし、幸福の計画と主の教えを理解することによって、たやすく身に付けることができます。

義にかなった生活を送り、今この上なく魅力的に見える事柄ではなく、常に永遠の真理に基づいて決断を下して

いる選ばれた若い男性と女性の皆さんに賛辞を贈りたいと思います。正しいことを行っていれば、皆さんは神の助けを受けて勝利を得ることができます。将来を恐れる必要はありません。神の律法に従い続けるならば、輝く未来があなたを待っています。皆さんがふさわしい状態を維持することによって個人に祝福がもたらされるだけではなく、将来人生とともに歩むであろう永遠の伴侶と子供たちも祝福を受けるでしょう。この世には、間違った選択をしたために悲しく落胆した気持ちになり、失意に満ちた生活を送っている人々が大勢います。皆さんの模範はそういった人々に勇気を与えます。

常に永遠の真理に基づいた選択をすることにより、義にかなった特質を伸ばし誘惑を退ける強さを増し加えることができます。皆さんは必ず神の助けを得て、正しい選択を行えます。また、御霊の導きを受ける資格を与えられる備えもできます。御霊の導きは皆さんが正しい道を選ぶように助けてくれるだけではなく、それ以外の方法では気づくことのない誘惑に出遭うときにそのことを警告してくれます。皆さんは今、正しい決断を下すことによって、神殿においてふさわしい伴侶と結ばれ、自分自身の永遠の家族を築き育てるための準備をすることができます。これらの祝福を受けるにふさわしい人は皆、主が定められたときに、現世あるいは次の世においてその祝福にあずかることができます。これに対してサタンはあなたを誘惑して誤った決断をするように全力を尽くして来ることでしょう。皆さんがこの地上にいる最大の目的は自分自身の家族を築くことです。永遠の伴侶を探し求めるときに、御霊に逆らうような方法を取ってはなりません。サタンは弱い人に照準を定めて誘惑し、二人が愛し合っていれば、性的な関係を持つことが認められると理由づけ、それらの行為を正当化させようとします。しかし、そのようなことは決して正しくありません。神は適切な行動の境界線を定めておられます。

わたしたちの体の一部で、神聖かつ個人的な部分に関連して起こる強い感

情は、結婚という聖約の下で、夫婦にとって適切で容認できる方法で用いるように意図されています。これらの感情は夫婦を結び合わせ、家族を築く責任に備えさせるための愛と信頼を形作る大切な要素となっています。またこれによって子供をもうけるという祝福をもたらしてくれます。こういった強い感情は結婚の聖約に基づいていないところで自己満足を得るために刺激したり、用いたりしてはなりません。またこれらの感情をあおるために、他人の体の神聖かつ個人的な部分に触れたり、あるいは衣服を身に付けていてもいなくとも、皆さんの体をほかの人に触れさせたりしてもなりません。自分の体の一部を刺激してそのような感情をかき立ててはなりません。それは悪いことです。決してしないでください。それは、皆さんが自分の将来について非常に大切な決断を下さなければならぬときに、聖霊の導きを受ける力を弱めてしまいます。このような行為は容易に抜け出せない中毒症状と化し、重大な背きへと発展します。

サタンは皆さんが見たり、聞いたり、触れたりするものによってこれらの強い感情がかき立てられることを知っています。このような感情がかき立てられると、人は破壊へと導かれるかっこうの実験台となり、次いで重大な背きへと走ることとなります。サタンはポルノグラフィを、ビデオテープ、映画、雑誌、コンピューター画像、あるいは汚れた音楽などの手段を通し、人を墮落させることを目的として使っています。そのようなものから皆さんの目と耳と思いと心を閉じてください。あるがまま受け入れると、最初は興味本位で見たり聞いたりしていたものもやがては太刀打ちできない怒り狂う怪物へと確実に成長します。この悪魔と化した思いは健全な望みやふさわしい関係にある仲を台なしにし、高貴な思いや行いを破壊して、ついには皆さんを滅ぼしてしまいます。どのような形にしる、みだらなものを覆っている包みを解いてはなりません。そうすれば皆さんはそのようなものとりこになることはありません。このような破壊

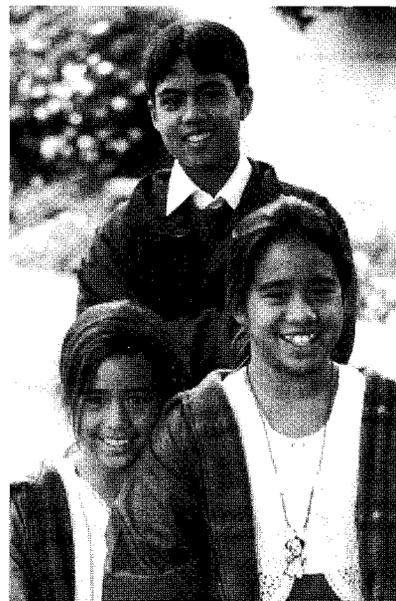
力を持つもの巣に捕らえられたら、すぐにその行いをやめて、助けを求めてください。助けが得られるように、またこの中毒性のある習慣を克服する力を与えられるように、主に願い求めてください。

ここで大きな誘惑に負けてしまった方々に少しお話ししたいと思います。どうか悪い癖を今すぐやめてください。理解ある両親、監督、あるいはステーキ会長の助けを借りてやめることができます。不道徳な行為などの重大な背きを犯した人が完全かつ適切に悔い改めの過程をだれに知れることもなく着実に全うするには、監督やステーキ会長など適切な権能の鍵を持つ人の助けが必要です。重大な背きについて告白してしまえば悔い改めが終わったと考えるような間違いを犯さないでください。告白は大切な段階ではありますが、悔い改めに必要なことのすべてではありません。また監督やステーキ会長があなたの背きについて詳しいことを尋ねなかったからといって、皆さんはそれらのことを話す必要はないと考えないでください。皆さんの務めは、監督やステーキ会長が完全に罪の赦しを得るために備えられた悔い改めの道を皆さんが正しく歩む助けができるようにするために、自分が犯した罪の内容を彼らに十分理解できるように伝えることです。救い主はこのように約束しておられます。

「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。

人が罪を悔い改めたかどうかは、これによって分かる。すなわち、見よ、彼はそれを告白し、そしてそれを捨てる。」(教義と聖約58:42-43)

さて、わたしは時々経験することですが、自分がある集団の中にいて、その場の雰囲気や溶け込んでいないゆえに孤独感を覚えたり、仲間から誤解されていると感じたりすることが皆さんもあることでしょう。そういった場合、皆さんが義にかなった生活を送ることによって自分自身が変化していることに感謝してみてください。その変化ゆえ、皆さんは周りにいる人と溶け込み



にくく、集団の中にあって居心地が悪いと感じるのです。現世は皆さんが訓練を受け、成長を遂げるために備えられた一時期にすぎません。この時期が過ぎるとわたしたちは真の友達を得、大きな幸せを手にすることができるのです。

世の中は光を必要としています。皆さんがその光になってください。皆さんが義を行うことによって、ほかの人々は永遠の真理に基づいた生活がどれほど素晴らしいものかを確認することができます。若い男性の皆さんのうちで、まだ伝道に出ていない人がいましたら、ぜひ宣教師になる準備をしてください。皆さんは多くの人々に祝福をもたらし、また自分自身の頭に偉大で不滅の報いという冠を受けることでしょう。若い女性である皆さんは、姉妹宣教師についてヒンクレイ大管長が1997年10月の総大会で語った靈感あふれる勧告に従ってください (see "Some Thoughts on Temples, Retention of Converts, and Missionary Service," *ENSIGN*, Nov. 1997, 52)。

わたしは救い主が生きておられることを証します。救い主は皆さんを愛しておられます。わたしは皆さんが常に正しいことを選択するならば、主が聖霊を通して将来夢にも勝る輝かしい栄光に向かって皆さんを導いてくださることを確信しています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 人々がわたしたちについて 尋ねること

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

わたしが……願うことは、人々がわたしたちに抱いている疑問に対して、できるかぎり簡潔に、わたしの答えを提供したいということです。



**愛**する兄弟姉妹の皆さん、皆さんにお話できることは、実に光栄なことです。

最近、わたしたちは度々マスコミのインタビューを受けています。多くの皆さんが御存じのように、最近、わたしは「ラリー・キング・ライブ」というテレビ番組に出演しました。わたしが出演に同意したのは、出演することで逆効果を招く可能性があるとは思いつつも、同時に、わたしたちの目の前にある様々な問題について世の人々に語りかける良い機会になるかもしれないと感じたからです。

その番組の中で、キング氏は単刀直入にこう尋ねてきました。「あなたの役割は何でしょうか。あなたは巨大宗教

の指導者であるわけですが、そのあなたの役割は何ですか。」

それに対して、わたしはこう答えました。「わたしの役割は教義を宣言することです。わたしの役割は人々の前に立って模範を示すことです。わたしの役割は真理を守るために語ることです。わたしの役割は、わたしたちの文明や社会において、重要で価値あることを守護する者として、堅く立つことです。わたしの役割は、導くことです。」

この答えはあらかじめ用意されたものではありませんでした。そのようなことを尋ねられるとはまったく予想していなかったからです。さて、今日は、そのときに答えた気持ちを思い起こしながら、マスコミやほかの教会の人々から決まって出される疑問を6つから7つほど採り上げて、答えてみたいと思います。このような機会ですから、わたしの答えは必然的に短くならざるを得ません。これからその疑問を幾つか採り上げますが、一つ一つがそれぞれ独立した説教ができるほど、重要な問題です。

わたしはそのような質問を幾つか選び出しましたが、特別な意図があって順番を決めたわけではありません。ただ、最初の質問だけは別です。わたしはだれかと議論をしようというのではありません。わたしはあらゆる人々の宗教を尊敬し、その教えに従って生きようとする人々の望みに敬意を払っています。わたしがひたすら願うことは、

人々がわたしたちに抱いている疑問に対して、できるかぎり簡潔に、わたしの答えを提供したいということです。

質問1. 神についてモルモンはどのような教義を持っているか。

最初の示現の時代以来、人々はこれまでずっと同じ質問を投げかけてきましたし、今でも同じ状態が続いています。そして、その状態は、人々が言い伝えられてきたままの神を信じ、一方、わたしたちが現代の啓示に基づいた神についての証を持ち続けているかぎり、将来も続いていくでしょう。

預言者ジョセフは、次のように宣言しました。「神の属性について確実に知ること、そして、人が人と話ができるように、わたしたちも神と話ができる可能性があることを知ること、それが福音の第一の原則である。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, Sel. Joseph Fielding Smith, 345)

「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」(信仰簡条1:1) この信仰簡条第1節は、わたしたちの教義を明確に表しています。わたしたちはアタナシウス信条を受け入れていませんし、ニケーア信条も受け入れていません。また、人の言い伝えや結論に基づかない信条も受け入れていません。

わたしたちがわたしたちの教義の土台として真心から受け入れているのは、預言者ジョセフ・スミスの言葉です。ジョセフが知恵を求めて森の中で祈ったときのことでした。「光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」(ジョセフ・スミス—歴史1:17)

実体を持つ二人の御方がジョセフの前に御姿を現されました。ジョセフはその御二人にまみえたのです。御二人は人と同じ形をしておられました。唯一の違いは、その外観がはるかに栄光に満ちていたということです。ジョセフは御二人に語りかけ、御二人もジョ

セフに語りかけられました。御二人は、実体のない霊のような存在ではありませんでした。御二人はそれぞれ独立した御方で、骨肉の体をお持ちの存在でした。そして、この点については、後に預言者ジョセフに与えられた啓示の中で、再確認されています。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員としてのあらゆる信条は、この栄光に満ちた最初の示現が真実であるという事実に立脚しています。それは、時満ちる神権時代を開始するに当たって、天と地の間のとばりが裂けた瞬間でした。わたしたちの教義のよりどころとして、そして、わたしたちの教えのよりどころとして、また、わたしたちの生きるよりどころとして、この最初の宣言以上に重要なものほかにありません。わたしは、もしジョセフ・スミスが父なる神やその愛する御子と話をしたというならば、ジョセフの語ったそれ以外のこともすべて真実であると申し上げておきます。救いと永遠の命に至る数々の真理の土台となっているのが、この教義なのです。

わたしたちはクリスチャンでしょうか。もちろん、クリスチャンです。わたしたちはキリストを信じ、キリストを礼拝しています。わたしたちはまた、神聖な聖約の下に、キリストの聖なる御名を自分の身に受けています。わたしたちの所属する教会は、キリストの御名を頂いています。キリストは、わたしたちの主であり、わたしたちの救い主であり、わたしたちの贖い主です。その贖いによって、救いや永遠の命とともに、贖罪がもたらされたのです。

## 質問2. 同性愛について、教会はどのような立場を取っているか。

まず第1に、わたしたちは、男女の結婚は神によって定められたものであると信じています。わたしたちは、結婚というものは、主の宮において永遠の神権の権能を行使することによって永遠のものになり得ると信じています。

人々は、自分のことをいわゆるゲイやレスビアン、すなわち同性愛者だと考えている人たちについて、わたしたちの教会がどのような見解を持っているか、尋ねます。それに対するわたし

の答えはこうです。わたしたちはそうした人たちを神の息子娘として愛しているということです。そういう人たちは、強力で、恐らくは抑制し難い性癖のようなものを持っているのかもしれませんが。大部分の人々は、折に触れて、何らかの性癖を持っていることに気づきます。そうした性癖に従って行動を起ささないかぎり、その人は、ほかのあらゆる教会員と同様に、前進を続けることができます。しかし、貞潔の律法や道徳の標準を犯すようなことがあれば、ほかの違背行為と同様に、教会にあって宗紀の対象となります。

わたしたちはそのような問題を抱えている人々を助け、強め、援助の手を差し伸べたいと考えています。しかし、そのような人たちが、不道徳な行為にふけるようになったり、あるいは、いわゆる同性結婚を唱導し、擁護し、また実際にその趣旨に従って生活するようになれば、わたしたちとしてはそれを見過ごししておくわけにはいきません。そのようなことを許容することは、神が定められた重大で神聖な結婚の基盤やその真の目的、すなわち家族を養育するという目的を軽視することにもなりかねないからです。

## 質問3. 墮胎に関して教会はどのような立場を取っているか。

疾病管理予防センターによると、1995年には合衆国だけで120万件以上の中絶手術が行われたとのこと。人間の生命の尊厳に対するわたしたちの考えに何か変化があったのでしょうか。人はどうやって、偉大でかけがえのない命という賜物を否定することができるのでしょうか。命とはその起源も成り立ちも神聖なものであるはずです。

子供とは何とすばらしい存在でしょうか。生まれただけの赤ちゃんの何と美しいことでしょうか。人の生命の創造以上に偉大な奇跡がほかにあるのでしょうか。

墮胎は醜悪な行為であり、人の価値を下落させる行為です。最終的には、後悔と悲しみと失望をもたらすものなのです。

わたしたちは墮胎に公然と反対してはいますが、場合によっては、それが

許される状況もあることは認めます。例えば、近親相姦や暴行による妊娠の場合、母体の生命や健康が重大な危機にさらされていると資格ある医療機関によって判断された場合、あるいは胎児に重大な障害があつて誕生後も生き延びる可能性がないと資格ある医療機関によって確認された場合などです。

しかし、そのようなケースはまれで、そのようなことが起きる可能性はごくわずかです。

それでも、そうした事態に直面した場合には、地元の教会指導者と相談して、真心から祈り、手術を実施する前に祈りを通して確認を受けておくことが求められています。

しかし、そんなことよりもはるかに良い解決法があります。

もし関係した男性と結婚する見通しがなく、母親が遺棄されている場合には、赤ちゃんを愛し世話をしてくれる親たちにその子を養子として託すという非常に喜ばしい選択肢が残されています。立派な家庭の中には、子供の誕生を望みながらその希望がかなえられずにいる夫婦が数多く存在しているからです。

## 質問4. 一夫多妻について教会はどのような見解を持っているか。

この件に関しては、最近、数多くの新聞記事が書かれています。これは多妻結婚を実行している人々の一部に子供への虐待の事実があると断定されたことが発端になっています。

わたしは、この教会はいかなる意味でも一夫多妻を実行している人々とは関係がないことを、断言しておきたいと思っています。そのようなことをしている人々は、この教会の会員ではありません。その大部分の人々は教会員であったこともありません。彼らは法律に違反しています。彼らは、自分でも法律に違反していることを知っています。彼らは法律に従って罰を受けるはずですが、もちろん、この教会はその点に関して、いかなる意味でも、法を執行する権限は保持していません。

もしわたしたちの教会員の中に多妻結婚を実行している者が見つかった場合、その人は教会で課すことのできる

罰則の中でも最も重い罰である破門の処分を受けることとなります。そのようなことを実行している人々は、法律に直接背いているだけでなく、この教会の律法にも違反しています。わたしたちの信仰簡条の一つにより、わたしたちはある拘束の下にあります。そこにはこう述べられています。「わたしたちは、王、大統領、統治者、長官に従うべきこと、法律を守り、尊び、支えるべきことを信じる。」(信仰簡条1:12)人は法律を守りつつ、同時にそれを破るなどということはできないのです。

「モルモン原理主義者」のようなものは存在しません。「モルモン」と「原理主義者」を一続きの語として使うこと自体、大きな矛盾なのです。

さらに、1世紀以上も前に、神は、多妻結婚の実施を中止するようにとその預言者ウィルフォード・ウッドラフに明確に示されました。これはつまり、現在、多妻結婚は神の律法に反するということです。法的にも宗教的にも多妻結婚が認められている国々においてさえ、教会は、結婚は一夫一妻でなければならないと教えており、多妻結婚を実行している人々を教会員として受け入れることもしていません。

**質問5. 教会の成長の原因はどこにあるか。**

わたしたちは成長しています。すばらしく成長を続けています。自然増とも言える子供のバプテスマと改宗者のバプテスマを加えると、毎年40万人ずつ会員の数を増やしています。1千万人を基準に計算すると、4パーセントの増加率ということになり、一教会としては例外と言ってもいいほど、すばらしい数字です。

人々は価値観の絶えず変化するこの世の中であって、確固とした錨となるものを求めています。自分たちを取り巻く世界がますます混乱の様相を深めているため、しっかりとつかむことのできるものを必要としているのです。

彼らは、新しい改宗者として温かい歓迎を受け、教会を家庭の延長のように思います。また、聖徒たちのフェローシップにぬくもりを感じます。

新会員は奉仕の業に励む割り当てを

受け、責任が与えられます。そして、大いなる前進を続けるこの神の業に、自分もかかわっているという気持ちになります。

そして、当然のことですが、真理を探し求める人々のために、わたしたちの教会には宣教師がいます。

新会員たちはすぐに、自分たちが末日聖徒として多くの期待を担っていることに気づきます。しかし、それを重荷と感じることはありません。新会員にはそれだけの力があり、何事も喜んで行います。新会員は、自分たちの宗教は改宗した人の生活に変化を求めるような強い宗教であってほしいと願っています。そして、彼らはその求めによくこたえています。新会員たちは、自分たちの受け入れた大いなる善について証をします。また、非常に熱心で忠実です。

**質問6. 伴侶や子供に対する虐待についてはどうか。**

わたしたちはいかなる形であれ、虐待やそれに類する行為については、強く非難します。伴侶や子供に対する身体的、性的な虐待はおろか、言葉のうえでも情緒的な面でも、虐待はあってはならないとわたしたちは考えています。わたしたちの「家族の宣言」では、こううたっています。「夫婦は、互に関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。……両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え〔る〕……という神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの義務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。」(「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1996年6月号、10)

わたしたちは、この忌まわしい悪事を追放するために、知っている限りのあらゆる手立てを講じているところです。夫と妻が平等であることを認識し、この世に生まれ出る子供は皆神の子供であると認めるとき、そこには当然、わたしたちに責任が託された人々を忍耐強い愛をもって養い、助け、愛するという大きな意味での責任が伴ってきます。

妻や子供たちを虐待する男性は、神の神権を保持する資格がありません。妻や子供たちを虐待する男性は、この教会で教会員として良い評価を得る資格もありません。伴侶や子供たちを虐待するという事は、神の御前に大きな罪を犯すことであり、また、そのような生活から抜け出せない場合には、教会の宗紀上の処置の対象となるでしょう。

**質問7. 教会の財政はどのように運営されているか。**

今朝、ファウスト長老がこの件についてとても明瞭に話してくれました。外部の人々は、わたしたちがこれだけの規模のものをどのようにして動かしているのか、不思議に思っています。教会のことについて発言したり、書いたりするときには、教会には大きな富と多額の資産があると説明します。

確かにわたしたちには資産があります。わたしたちには全地に点在する礼拝の家があります。そして、毎年かなりの数の新しい建物を建築しています。高等教育やセミナー、インスティテュートといった偉大なプログラムを運営しています。わたしたちには、比類のない家族歴史の施設もあります。また、伝道組織という一大事業の運営もあります。宣教師自身やその家族によって支えられる宣教師の活動の維持費に加えて、伝道本部やそのほかの伝道関連施設を維持するための費用がかかります。わたしたちはそのほかにも様々なプログラムを運営していますが、どれも皆、多額の経費を伴うものばかりです。

しかしながら、今紹介した事業も、そのほかの事業も、皆、資産を消費するものであって、決して資産を生み出すようなものではありません。この教会を維持運営していくためには多額の経費がかかります。この世界的な教会を維持する経費は、忠実な教会員のささげる什分の一によって賄われています。この什分の一の律法は、何と麗しく、また栄光に満ちた原則でしょうか。この律法は非常に簡潔なものであるため、だれでも理解でき従うことができます。これが、財政にかかわる主の律法なのです。

わたしは、正直に什分の一を納める

人々の信仰について、心の底から主に感謝しています。彼らは、什分の一を納めるがゆえに、貧しくなっているのでしょうか。わたしたちは証します。主の神聖な計らいにより、何らかの形で主はそれに報いてくださり、それも惜しみなく報いてくださることを。これは税金ではありません。人知れず納められる、自発的な献金です。すばらしい約束を伴う原則なのです。神は、「天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさい」(マラキ 3:10)と述べておられます。これが神の約束です。神はその約束を実現する力をお持ちの御方です。そして、わたしも、確かに主がその約束を果たしてくださると証します。

さて、この部会で時間の許すかぎり話してまいりました。ほかにもお話することは多くあるかと思えます。今日紹介したことは、世の人々が好奇心をもってわたしたちに尋ねてくる問いのほんの一例でしかありません。

わたしたちは、皆さんもわたしも、この教会の教義に帰依している者として、次のことを知っておく必要があります。すなわち、この業が神の業であり、主イエス・キリストが導いておられること、そして、御二方の計画と御二方の定められた方式によって運営されていること、さらに、その業には御二方の祝福を伴うことです。

なぜわたしたちはこれほどまでに幸福な民なのでしょうか。それは、わたしたちの信仰のゆえです。つまり、わたしたちの天父が、あらゆることを管理しつつ、愛と感謝と従順の心を抱いて御前を歩む息子娘たちの面倒を見てくださるといふ静かな確信が、わたしたちの心の中に宿っているからです。わたしたちが、自分の生活をそのような方向に進めることができれば、これからずっと幸福な民であり続けることでしょう。罪は決して幸福を生じたことはありません。背きも決して幸福を生じたことはありません。偽りの言

葉や行いも幸福を生じたことはありません。幸福というものは、永遠の父なる神とその愛する御子である主イエス・キリストの教えと戒めに従順に従うことの中に存在するのです。

兄弟姉妹、この壇上から以前申し上げたように、わたしたちは皆さんを愛しています。皆さんの信仰と立派な行いのゆえに、皆さんを愛しています。わたしたちは、求められることは何でも喜んで行おうとする皆さんの心のゆえに、皆さんを愛しています。また、主の御心みこころに従う従順さのゆえに、皆さんを愛しています。

この業が真実であるということを知ったうえで、わたしたちは、そしてわたしたち一人一人は、前進を続けます。わたしたちが、神の武具で身を固め、神に頼るといふ努力を新たに重ねていくことができますように、へりくだって、わたしたちの贖い主である主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

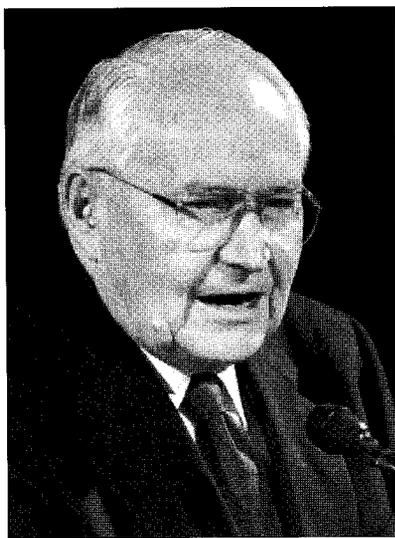
大会部会の中継放送を見る人々で満席となったジョセフ・スミス記念館のエンパイアルーム。



# 気高い生得権を持つ 若者たち

十二使徒定員会会員  
L・トム・ペリー

この地上で得られる永続する喜びや幸福は、救い主に従うときにのみ得られます。



毎年、わたしたちの家族はユタ州北部にあるベア湖の湖畔で休暇を取ります。孫たちと仲良くなれるということで、実に心踊る1週間です。ここ数年間、与えられた機会や抱えている問題について、孫たちの話に耳を傾けてきました。彼らは、世にありながら世のものとはならないようにするときに、様々なプレッシャーが増加していると話してくれます。映画、テレビ、インターネット、デザイナーブランドの高価な服、過激なファッション、そして安息日の精神に反する活動といったものから受ける誘惑が格段に増加しているのです。その上、同世代の仲間からの圧力が、大多数の意向に従うのか、それとも孤立してでも、改宗し決意を

固めた両親や教会の教える原則に従って生きるのかという難しい決断を迫っています。

今年、わたしは孫たちに与える勧告について、いつもの年よりも少しはっきりとしたものにしようと決心しました。わたしは孫たちに、誘惑に対抗し、今日の複雑な世界を生き抜くための基本原則のようなものを伝えたいと考えました。わたしたちの湖畔での休暇は4日間続きます。そこで、わたしは、孫たち一人一人のために、ルーズリーフ式のバインダーを買ってあげることにしました。そして、そこには毎日の話し合いのテーマが書かれたものを挟んでおきました。それぞれのバインダーには、参照聖句や引用文が書かれたページがあり、世代を超えた実りある話し合いが始められるように考えられていました。

初日は、話し合いに興味を示す者はあまりいませんでしたが、日を追うにつれ、話し合いへの興味もわいてきたようでした。その実験は十分な成功を収めましたので、わたしは今日わたしの話に耳を傾けてくれている若い人々一人一人のために、おじいさんの役割を演じてみたいと思います。そして、それによって、皆さんがそれぞれの家庭にあってご両親と一緒に深い話し合いができるのかどうか、見てみたいと考えています。

一つ目のテーマは、自分たちの住む国に対する感謝の念です。1831年1月2

日、初期の教会において大会が開催され、その期間中に主は預言者ジョセフ・スミスに一つの啓示を与え、主がその子供たちのために創造された地を御自身がどのように評価されているかについて示現をお授けになりました。教義と聖約第38章17から20節には次のように書かれています。

「わたしは地を豊かに造った。見よ、それはわたしの足台である。それゆえ、わたしは再びその上に立とう。

わたしはさらに大いなる富、すなわち、主が来るときにまったくのろいのない一つの約束の地、乳と蜜の流れる一つの地をあなたがたに差し出して授けよう。

あなたがたが一心に求めるならば、わたしはあなたがたの受け継ぎの地としてそれを与えよう。

これがあなたがたと交わすわたしの聖約である。すなわち、大地のあるかぎり、あなたがたはその地をあなたがたの受け継ぎの地として、またあなたがたの子孫の受け継ぎとしていつまでも所有するであろう。また、あなたがたは再び永遠にそれを所有し、それはもう過ぎ去ることはないであろう。」

主は、わたしたちが現世における試しの時期にあって楽しむことができるように約束の地を祝福として与えてくださいました。地球上の国々は、主の方法に従っていくならば、主の子供たちにとって祝福であり続けます。主の特別な若い息子娘である皆さんが、これまで主から頂いてきた豊かな祝福を特に心にとどめておくよう主は皆さんに望んでおられます。

もちろん、祝福には責任が伴います。わたしたちは、「王、大統領、統治者、長官に従[い]、法律を守り、尊び、支える」よう求められています(信仰簡条1:12参照)。「守り、尊び、支える」ために、わたしたちは法律を知り、それに従って生活する必要があります。また教会でも、学校でも、地域社会でも、わたしたちは善い市民となる必要があります。それと同時に、人に奉仕をすることによって何らかの貢献をする備えをする必要もあります。

わたしの知っているかぎり、わたし

たちの住む地に貢献をする最善の方法とは未来のために備えることです。主は、備えていけば恐れることはない、わたしたちに約束してくださいました。わたしたちが可能なかぎり最高の教育を受けようと努力をするならば、自立という点でもより良い状況に立ち、また、わたしたちの住む社会にとって重荷となることもありません。

数週間前のことですが、わたしは新聞で教育のレベルが上がるにつれて見込み収入額がどう変化するかということについて書いた記事を目にしました。高校卒業の資格がない人と、高校卒業の資格を持つ人の間では、平均収入額で38%の開きがあります。高校卒業者と短大卒業者の間では20%の開きがあり、高校卒業者と大学卒業者を比べると、収入は56%増加します。教育は確実な投資です。皆さんが自分の将来について備えようとするとき、どのような方向に進むかを決めるのに早すぎるといことは決してありません。何を勉強したいのか決めるとき、大学に入学するまでその決定を待つようなことは決してしないでください。明確な目標を持たないまま教育を受けようとするのは、時間とお金の無駄だと言わざるを得ません。

二つ目のテーマは自尊心です。詩篇の第8篇で主はわたしたちに自分が何者であり、どのような永遠の機会に浴しているかについてのビジョンを示され、こう言われました。

「主、われらの主よ、あなたの名は地にあまねく、いかに尊いことでしょう。あなたの栄光は天の上にあります……」

わたしは、あなたの指のわざなる天を見、あなたが設けられた月と星とを見て思います。

人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか。

ただ少しく人を神よりも低く造って、栄えと誉れをこうむらせ、

これにみ手のわざを治めさせ、よろずの物をその足の下におかれました。……

主、われらの主よ、あなたの名は地にあまねく、いかに尊いことでしょう。」

(詩篇8:1, 3-6, 9)

皆さんは自分自身を、栄えと誉れを与えられた天使の子供のような存在として考えたことがあるでしょうか。天の御父の子供たちの価値は、神の目に大いなるものです。主が皆さんを大いなるものとして御覧になっているとしたら、皆さんは自分自身をどのように見るべきでしょうか。わたしたちはだれでも、多くの才能や能力を授けられています。ある人は歌う能力を、またある人は絵を描く能力を与えられています。人前で話す能力を与えられている人、ダンスの才能を与えられている人、手を使って美しいものを創造する力を与えられている人、あるいは愛の奉仕を行う力を与えられている人もいます。そして、多くの才能を持っている人もいれば、少しだけの才能の人もいます。その才能がどれほどの程度かは問題ではありません。大切なのは、自分に与えられている才能や能力を伸ばすために努力することです。皆さんはほかの人と競争しているわけではありません。自分に与えられているものを使って最善を尽くすために、自分自身と競争するだけです。皆さんが伸ばす才能は、将来大いに必要とされ、人生の中で非常に大きな充足感と喜びを与えることでしょう。

だれもが共通して伸ばすことのできる賜物に、人から好まれる気質、すなわち穏やかな性質があります。それはわたしが考えつくいかなる性格よりも、皆さんのために多くの扉を開き多くの機会を与えてくれることでしょう。

また、肉体の管理について与えられた主の約束を忘れないでください。肉体を清潔に保ち、適切な栄養と休息を取るなら、「知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだす」ことができるのです。また「走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない」と言われています(教義と聖約89:19-20)。

特にわたしたちは希望をもって生きなければなりません。『モルモン書』の中のエテル書において、モロナイはわたしたちに次のように教えています。「わたしはまた、あなたの言われたこと

を覚えています。あなたは御父の住まいの中に、人のために住む所を用意したと言われました。人がもっと大きな希望を持てるようにするためでした。ですから、人は希望を持たなければなりません。さもなければ、あなたの用意して下さった場所に受け継ぎを得ることができません。」(エテル12:32)

天の御父から授かった偉大な賜物を伸ばし、達成し、やり遂げられるという希望、いつの日か御父の住まいの中に「受け継ぎを得ること」ができるという希望をもって生活しましょう。

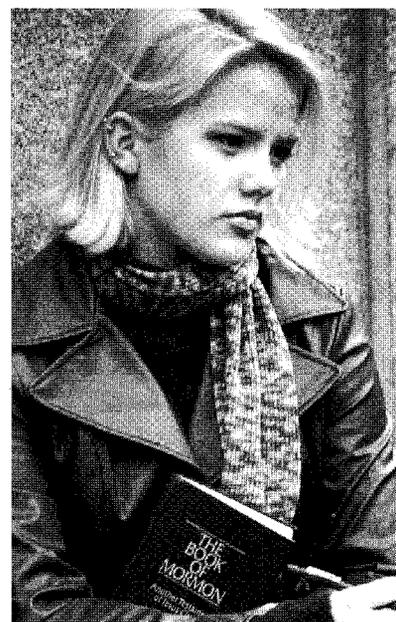
三つ目のテーマは、家族の愛です。預言者ジョセフ・スミスが1823年9月21日の夜に経験した天使モロナイのすばらしい訪れについて記した言葉は、家族になされた特別な約束を含んでいます。

「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう。

彼は先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。

そうでなければ、主の来臨の時に、全地はことごとく荒廃するであろう。」(教義と聖約2:1-3)

預言者ジョセフ・スミスへのこの偉大な示現は、永遠の家族という教義を改めて明らかにしました。永遠の家族は、救い主の福音の中心となるものです。天の御父の子供たちのために永遠の家





族という単位が築かれなかったら、主は何のために地上に戻って主の王国を管理し統治されるのでしょうか。わたしたちが家族の持つ永遠の役割への理解を深めるにつれ、堅固な家族のきずなを築いていくことはよりいっそう重要性を帯びてくるでしょう。

わたしはかつて、孫娘の誕生が家族にもたらす影響について大きな関心を持ったことがあります。兄弟姉妹のきずながたちまちにして結ばれたのです。家族みんなが彼女を優しく抱き、愛情を込めて世話をしました。

わたしたちにとって永遠の家族に属することがどういう意義を持つのかについて認識するのは非常に重要です。自分が永遠の家族の一員であり、いつも、最善の努力をする必要があることを心に留めてください。自分の永遠の家族に思いやりと親切、理解、そして絶えることのない愛を示すよう努めてください。

バインダーの中にわたしが収めた最後のテーマには、「神への愛」という見出しを付けました。1831年、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示にはこう書かれています。

「それゆえ、わたしは彼らに戒めを与えて、このように言う。あなたは心を尽くし、勢力と思いと力を尽くして、主なるあなたの神を愛さなければなら

ない。また、イエス・キリストの名によって、神に仕えなければならない。」(教義と聖約59:5)

主は人の本質を表すために「心」という言葉をよく用いられます。聖文には「心の清い人」「心からあふれること」「喜びの心」など心に関連した聖句がたくさんあります。サムエル記上にはこう記されています。「わたしが見る場所は人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」(サムエル上16:7)

わたしたちは心で感謝の気持ち、つまり天の御父への献身的な愛を感じているのでしょうか。わたしたちがすべてをゆだねている天の御父と心をつにしているのでしょうか。主への献身の度合いは、主にどのように仕えるかで測られるように思われます。

わたしたちは自由でありたいと、心から願ってきました。主はそのことを理解してくださり、この世での試しの場を与えてくださいました。しかしその自由には責任が伴います。わたしたちが時間を無駄に過ごしたり、また才能を隠したり、使わなかったりすることがないように指示されています。そして自発的に努力することで、自らの生活をより良いものにするよう期待されています。わたしたちは永遠の御父と自分自身の関係を見いださなくて

はなりません。また自分自身の証を得、自らの生活を主の標準に合わせるかどうかは決めなくてはなりません。さらにヨシュアと同じように選ばなくてはならないのです。ヨシュアは次のように語りました。

「もしあなたが主が主に仕えることを、こころよしとしないのなら、あなたがたの先祖が、川の向こうで仕えた神々でも、または、いまあなたがたの住む地のアモリびとの神々でも、あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」(ヨシュア24:15)。

先日読んだ記事にはこのように書かれていました。もし雇用者が、テクノロジーに対する高度の知識と感性を持った今日の聡明な16歳の青年を雇わないならば、その企業は10年以内に時代遅れとなる、といった内容でした。皆さんは何とすばらしい時代に生きているのでしょうか。活躍する機会が増す一方で、主から離れないことや主の律法に従順であることが試されます。しかし皆さんがそのようにすれば、きっと力強い状態を保ち、世の多くの圧力に耐えられるようになります。

孫たちにプレゼントしたバインダーの最後の部分には、救い主と主の福音が真実であることへのわたし個人の証を記しました。すばらしい若い皆さん一人一人にわたしの証を述べたいと思います。神は生きておられ、地上の神の子らが行う御業を導いておられます。神は御子をこの世に送ってくださいました。それは人類の贖いのためであり、また福音を受け入れ主に従う者が、神からその子らへの最大の贈り物である永遠の命を受けられるようになるためです。主は預言者ジョセフ・スミスの働きを通してこの地上に再び福音が回復されるよう指示されました。わたしは、この地上で得られる永続する喜びや幸福は、救い主に従い、律法に従順で、戒めを守るときのみ得られることを知っています。これが偉大なる若人の皆さんに対するわたしの証です。この証を主であり救い主であるイエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。

# 個人の清さ

十二使徒定員会会員

ジェフリー・R・ホランド

わたしたちは次のように主張しています。神が授けられたほかの人の肉体を……不当に扱う人は、まさしくその人の霊を傷つけ、人生の中心的な目的と過程……を台なしにしているのです。



**不**道徳の風が不気味なほど周囲に渦巻いている今、わたしは教会の青少年や若い成人一人一人に関心を寄せています。それは彼らが、個人の清さの原則、結婚前に完全な純潔を守る義務、そして結婚後も完璧に貞節を守らなければならない義務などについて、混乱していることがあるかもしれないと危惧しているからです。今、世の中で起きており、彼らが見聞きしている事柄に反旗を翻し、子供たちにより高い標準を教えようとする親たちを擁護したいと願って、わたしは今日、道徳的な清さについてお話ししたいと思います。このテーマに関してはほかのテーマと同様にきわめて神聖なものですから、わたしは聖霊の導きを受け、自分の望み以上に率直にお話しできるよう、真心から祈っています。今わた

しは、『モルモン書』でヤコブが「ひどくあからさまに話さなければならないのは、わたしにとって悲しいことである」と語ったとき、どのように感じたか分かります。

このテーマでお話を進めるに当たって、わたしは社会の様々な病弊を列挙しようとは思いません。統計上の数値は目を覆うばかりのものであり、事例は言うに堪えないものが多いからです。また、ここで、デートや男女の関係について、許可されている、または禁じられている事柄のリストを作成して読み上げるつもりもありません。わたしがここでお話ししたいことは、もっと個人的なことです。つまり、皆さんの質問に答えたいと思っているのです。皆さんの中には、次のようなことを疑問に思っている人もいるでしょう。**なぜ道徳的に清くなければならないのか。なぜ道徳的に清いことが、神にとって大切なことなのか。**教会はその点について、なぜこれほどまでに厳しく**なければならないのか。**社会がこれほどまでに寛容になり、美化しているものが、どうしてそんなに神聖で重大なことなのか、といった疑問です。

まず最初に、文明の長い教訓的な物語から学んでいきたいと思います。ウィル・デュラントとエリエル・デュラントは次のように書いています。「いかに聡明でいかに多くの情報を持っていると、人は……歴史から[学んだ教訓という]……知恵を捨て去って安全でいられることはない。情熱にあおられている若者は、自分の好き勝手に性を

楽しむことがなぜいけないのかと思うであろう。[しかし、]習慣、伝統、法律などにより抑制されなければ、性はまさに流れ出る溶岩の川のように、せき止められ冷やされなければ、自分だけでなく社会をも焼き尽くしてしまうことを理解……する前に、自分の人生を破滅させてしまうだろう。」<sup>2</sup>

箴言の著者は、同じような状態をもっと聖文的な言い回しで次のように言っています。「人は火を、そのふところにいだいてその着物が焼かれないであろうか。また人は、熱い火を踏んで、その足が、焼かれないであろうか。……女と姦淫を行う者は……おのれを滅ぼし、傷と、はずかしめとを受けて、その恥をすすぐことができない。」<sup>3</sup>

この性的な関係が、これほどまでに厳しく描写されるのはなぜでしょうか。火という**比喩**が、ほとんどいつもと言ってよいほど、使われ、情熱は炎という言葉で生々しく描写されています。もしその炎が何の抑制も受けず、その情熱も何ら制限されないままであったとしたら、人の命を、ひいては全世界をも破滅させてしまうかもしれないほどの殺傷力を持つこの熱の中には、何が潜んでいるのでしょうか。アルマが思わず息子のコリアントンに警告して、性的な背きは「主の目から見て忌まわしい行いであること、まことに、罪のない者の血を流すことや聖霊を否定することを除いて、どのような罪よりも非常に忌まわしい行為である」<sup>4</sup>と言わざるを得なかったほどの行為の中には、何が潜んでいるのでしょうか。

広く授けられている肉体的な欲求に対して、そのように重大な位置づけをすることによって、主は、全人類のために定められた計画の中で、それが果たす役割について、わたしたちに何を教えようとしておられるのでしょうか。皆さんに申し上げます。主は、まさに命そのものの計画について明確に述べようとしておられるのです。はっきりしていることは、この死すべき世にあって、人がいかにしてこの世に生を受け、いかにしてこの世を去って行くかが、主の最大の関心事の一つであるということです。そして、この点に関し

て、主は非常に厳しい制限を設けられたのです。

辛いことに、生涯をどう閉じるかという点に関しては、大部分の人々が非常に重い責任を引き受けているように思えます。しかし、命を与えるという重要な部分のことを考えると、時には、犯罪的と思えるほどの無責任さが見受けられる場合が数多くあります。イエス・キリストの福音において、この問題がなぜこれほどまでに重要視されているのか、また重大視されているのか、その理由を3つ提示してみたいと思います。

第1は、人について啓示され回復された教義があるということです。

この神権時代において回復された「分かりやすくて貴い」真理の一つは、「霊と体が人を成」し、霊と体が分離するときには、男も女も「満ちみちる喜びを受けることはできない」ということです。この理由があるからこそ、まず第1に、肉体を得ることが基本的に重要なことになってくるのであり、また、どんな種類の罪であっても非常に重大になってくるわけです。(つまり、最終的に肉体的にも霊的にも死をもたらしものが罪だからです。)さらにまた、肉体の復活がキリストの贖いの偉大なる勝利の中心を成しているのも、この理由からなのです。

**肉体は霊にあってきわめて重要な位置を占めています。**この特筆すべき、また非常に大切な末日聖徒の教義は、性的な罪がなぜそれほど重大な罪なのかを明らかにしています。わたしたちは次のように主張しています。神が授けられたほかの人の肉体を神の承認なくして不当に扱う人は、まさしくその人の霊を傷つけ、人生の中心的な目的と過程、すなわちボイド・K・バッカー長老の言葉を借りれば、人生の「真の鍵」を台なしにしているのです。男性であれ女性であれほかの人の肉体、すなわちほかの人の霊を利用する人は、(人の霊を救い、永遠の命を可能にくださった)キリストの神聖な贖いを汚していることとなります。義の御子を嘲笑する人が、真昼の太陽よりも熱く神聖な栄光の世界に足を踏み入れたとき傷

つかないことがあるでしょうか。

どうぞ決して次のような発言をしないでください。「だれが傷つくというんだ。ほんの少し自由に振る舞ってどこが悪いんだ。今罪を犯しても後で悔い改められるさ。」どうぞそのような愚かで、慈悲のない人物にならないでください。「神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものにする」者は必ずやとがめを受けることになるでしょう。パウロも声を大にして「不品行をさげなさい」と告げています。また『教義と聖約』には「これに類すること」もしてはならないと付け加えています。なぜでしょうか。第1の理由としては、世の救い主が耐えられた想像を絶する霊と肉体二つながらの苦しみをわたしたちが受けることのないようにするためです。わたしたちはこの点で救い主に恩を受けています。正確に言えば、わたしたちはこの点に関してあらゆる面で救い主に恩があるのです。「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである」とパウロは語っています。「あなたがたは代価を払って買いとられたのだ。それだから、**神のものである自分**のからだ**[肉体と霊]**をもって、**神の栄光をあらわしなさい**。」性的な罪を犯すときに、わたしたちの魂、すなわちわたしたちの肉体と霊は危険にさらされるのです。

第2に、人間の性的な交わりは、結婚した男女のために取っておかれているものだということです。なぜならそれが神により定められた欠けるところのない一体化、すなわち完全性と一致の究極的象徴だからです。エデンの園に始まり、結婚は一人の男性と一人の女性が、その心、希望、生活、愛、家族、未来、そのほかあらゆるものに関し完全に合体するということを意味します。アダムはエバを「わたしの骨の骨、わたしの肉の肉」と呼び、二人は「一体」となりともに生活するようになりました。この一致が完全なものだからこそ、永遠に続く約束を表現するために「結び固める」という言葉を使うのです。預言者ジョセフ・スミスはかつて、お互いに「固いつながり」で結ばれる神聖なきずなをわたしたちは生み出す

ことができるだろうと語りました。

しかし、そのような完全な一致、そのような男女間の固いつながりは、結婚の聖約で可能となる親密な関係や永遠性があって初めて生み出されるものなのです。この結婚の聖約には、神聖な約束と夫婦がその所有するすべて、すなわち思いと心そのもの、時間と夢のすべてを差し出すという誓いが伴います。

道徳的な偽善という言葉が理解できるでしょうか。それは、見せかけの一致と、神の御前で神聖な約束を交わすことを**装いながら**、偽りの結びつきにより肉体的象徴と肉体上の交わりだけを分かち合い、義務全体が示すほかのあらゆる側面から逃避し、退き、断ち切ることを意味します。

**肉体的な交わりに関しては、絶対に待たなければなりません。**すべてを与えることができるようになるまで待たなければならず、法律と律法に基づいて結婚するまではすべてを与えることができないのです。自分の所有物ではないもの(「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである」という言葉を思い起こしてください)を与え、自分の全人格という賜物を伴わない形で自分の一部のみを与えることは、情緒的な破壊の危険を冒していることになるのです。もし天の承認を受けることなく肉体的な満足を追い求めることに固執するならば、後になって霊的かつ心理的な損失を被る恐ろしい危険を冒すこととなります。そして、結果的には肉体的な交わりを求める気持ちも、後のより真実の愛に向けられる心からの献身もともに損なってしまうことになるのです。そのような人は、神の良しとされる愛や真の一致によってもたらされる真実の瞬間を知ったときに、蓄えておけばよかったものを失ってしまい、あれほど気楽に少しずつ捨て去ってしまった純潔を回復できるのは神の恵みしかないという事実を知ってがく然とするのです。結婚式の日に永遠の伴侶にささげることのできる最良の贈り物、それは最良の自分自身、すなわち清らかで、純粋な自分、そのような清さを報いとして受けられる自らの

ふさわしさです。

第3に、夫婦間の親しい交わりは、単に心の一致を象徴するのみならず、夫婦と天の御父とが共有する関係をも象徴しているということです。天父は不死不滅であり、完全であります。わたしたちは死すべき存在であり、不完全です。しかし、わたしたちは死すべき体を持ちながらも、天の御父と霊的に一致できる方法を願います。そうすることで、恵みと威厳に満ちた主の御力<sup>みちから</sup>を得る道が開かれるのです。それができるのは、主の宮において結婚の聖壇<sup>おきなご</sup>にひざまずくとき、生まれたばかりの幼子<sup>おきなご</sup>を祝福するとき、新会員<sup>あんにん</sup>にバプテスマと按手を施すとき、主の晩餐<sup>ばんさん</sup>の象徴にあずかるときなど様々です。

このような機会に、わたしたちは文字どおり自分の意志を主の御心<sup>みこころ</sup>と一致させ、自分の霊を主の霊に合わせることによって、わたしたちと主とを隔てる幕を通して真に主と心を通い合わせます。そうしたとき、主の神性を知るだけでなく、まさにその幾分かを自分自身の中に取り入れるのです。その神性の中で、実際あらゆる男性と女性に与えられているのが、主の御力を使って人間の体を創造する力です。人類は驚異中の驚異であり、遺伝学上、あるいは霊的にも地球史上かつてない、ほかに類を見ない生物です。それが複製されることは永遠にありません。子供は、目、耳、手足の指を持ち、語り尽くせないほどすばらしい未来をその手に抱いています。

恐らく、生まれたばかりの幼子<sup>おきなご</sup>をその腕に抱いたことのある親の方々には、わたしの話していることを理解していただけるでしょう。御自身の名として選ばれた中で神が最も好まれるのは御父という名であり、創造の業、特に御自身の形にかたどった人の創造こそ、主が最も心注がれる事柄です。皆さんもわたしも、その神の性質の幾分かを授かっていますが、それには最も重大で神聖な制約があります。わたしたちに課せられた唯一の制約は自制であり、それはこの賜物が持つ神聖な力に対する尊敬の念から生まれる自制心です。

愛する友である皆さん、特に若い友

人の皆さん、個人の清さがなぜそれほど重要な事柄であるか分かるでしょうか。大管長会ならびに十二使徒評議会が発表した宣言の中で「この世に命をもたらす手段は、神によってさだめられたものであり、「生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべき」<sup>15</sup>であるとされた理由が分かるでしょうか。欺かれてはなりません。滅ぼされてはなりません。そのような力を自制し、戒めを守らないかぎり、皆さんの未来は破滅し、皆さんの人生は無惨にも打ち砕かれてしまうでしょう。罪を犯したその日に罰が下されることはないかもしれませんが、罰は必ずや、間違いなく訪れます。そして道徳的に汚れた人は、真の悔い改めと慈悲深い神への従順なしには、ラザロに「その指先を水でぬらし、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの火炎の中で苦しみもだえています」<sup>16</sup>と懇願した金持ちのように、いつかどこかで祈ることになるでしょう。

わたしはここで、霊と肉体とが人の

魂を作り上げているという神聖な啓示の言葉と、キリストの贖いによって肉体は墓から起き出して霊と一体になり、永遠の存在となることを宣言しました。だからこそ、その肉体を清く神聖に保つ必要があるのです。正直な労働で体が汚れるのを心配する必要はありません。真理を擁護し、正義のために戦うことで傷つくのを恐れる必要もありません。しかし、行うべきでないことを行い、行くべきでない所に行くことによって皆さんの霊を傷つけることのないように注意してください。心して、主と反対側での戦いで傷を負うことのないようにしてください。<sup>17</sup>

もしも皆さんの中にそのような傷を負っている人が少しでもいるならば、そのような人には主イエス・キリストの贖いの犠牲を通して平安と悔い改めによる再生の道が開かれています。そのような深刻な問題に関しては、悔い改めの道を歩み始め、進み続けるのは決して容易ではありません。しかし、世の救い主は、自ら足を踏み出そうとするすべての人とともにその救いに至



る道を歩んでくださいます。くじけそうになるとき、力づけてくださいます。最も暗いと思えるときに、あなたの光となってくださいます。すべての希望が失せたと思えるときに、主はあなたの手を取り、あなたの希望となってくださいます。主の思いやりと憐れみ、そしてすべての清めと癒しの力は、完全な赦しを得たいと望み、それに至る階段を一段ずつ上って行くすべての人に惜しみなく与えられているのです。

わたしは偉大な命の計画、神の御力、主イエス・キリストの憐れみと赦しと贖いについて証します。これらはすべて道徳的清さに関して深い意義を持つものです。わたしたちは己の肉体と霊をもって神の栄光を表すべきであることを証します。同様に行っている大勢の若人、またほかの人々にも行うよう助けてくれる若人たちについても、天に感謝しています。すべての人が清く生きることの大切さを尊ばれますように、清き主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

注

1. 『モルモン書』ヤコブ2,3章で純潔に関する説教全体を参照
2. *The Lessons of History* (1968), 35-36.
3. 箴言6:27-28, 32-33
4. アルマ39:5
5. 教義と聖約88:15
6. 教義と聖約93:34
7. ボイド・K・バッカー「なぜ清くあるべきか」『聖徒の道』1973年, 14-16
8. ヘブル6:6参照
9. 1コリント6:18
10. 教義と聖約59:6, 強調付加
11. 特に教義と聖約19:15-20参照
12. 1コリント6:19-20, 強調付加。13-19節も参照
13. 創世2:23-24参照
14. 教義と聖約128:18参照
15. 「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号, 24
16. ルカ16:24
17. See James E. Talmage, in Conference Report, Oct. 1913, 117

# 「あなたがたも……あかしをするのである」

七十人

ロナルド・T・ハルバーソン

地上には真理の証を切望し、救い主が約束された平安と喜びを熱心に探し求めている人々がたくさんいます。



数年前、わたしはある若い女性と神殿推薦状の面接をしました。彼女は自身のエンダウメントを受け、永遠にわたる結び固めを受けようとしていました。面接を終えて神殿推薦状に署名をしていると、彼女の頬を涙が伝っています。わたしは彼女に、「今感じていらっしゃることを話していただけますか」と言いました。すると彼女はこのような話をしてくれました。

彼女はまだ若かったころから真理と人生の指針を探し求めています。心から平安と幸福を求めていましたが、どこを探しても見つけれませんでした。そのような状態が続き、彼女は人生とは本来何の意味もなく満たされないものだと思い込み、とても憤りを感じ

じるようになっていました。そのような精神状態のままある夜、彼女は気心の知れた友人を訪ね、悩みと絶望に満ちた胸の内を打ち明けました。そのときのことを、彼女はわたしにこう語ってくれました。「腰掛けていたソファの後ろの本棚を見たとき、1冊の本が目にとまりました。そして、圧倒されるような強い気持ちを覚えたのです。その本の内容を調べてみる必要があることがはっきり分かりました。」

彼女は本棚からその本を取り出しました。『モルモン書』というタイトルが付いています。彼女は友人にどこで手に入れたのか尋ねました。通りで二人の若い宣教師が話しかけて来て、読む約束をしたらその本をくれたとのことでした。でも実際は読む時間がなくて、本棚に置いたままにしていたのです。

彼女はこう言いました。「読み始めると、やめられませんでした。」かつて感じたことのない思いがわき起こってきました。持ち帰ってもよいと友人が言ってくれたので、彼女は家に帰って夜通しその本を読み続けました。翌日の朝、彼女は通りに出て二人の若い宣教師を探しました。するとすぐに見つかりました。二人は彼女に福音を教えることを了承してくれました。その後数週間で彼女はバプテスマを受け、教会員となったのです。

その日以来、絶対かなえられないと思っていた喜びと心の平安を得ることができていると、彼女は涙ながらに語



ってくれました。

ほんのわずかな教会員しか住んでいない小さな町で暮らし、教会員と結婚する機会自体ほとんどない状態で、彼女はまさかいつか神殿で結婚できるとは期待すらしていませんでした。しかし、外国を旅行中にある男性と知り合いました。それは御霊の導きによるものだと彼女は感じています。彼は神権を尊ぶ教会員でした。二人は愛し合うようになりました。そして彼は「神殿で結婚しよう」と言ってくれました。今や主の家に入って永遠にわたる結び固めを受けられることが現実となり、彼女は心からの喜びと言い尽くせない感謝の念に満たされたのです。

彼女はこう言いました。「わたしは今でもこう問い続けています。なぜわたしに。なぜわたしにこれほどの祝福が来るのだろうか。」

彼女の謙遜で純粋な霊と証に、わたしは深く感動しました。そして面接を終えた彼女がその場を去るときには、わたしも彼女も喜びと感謝の涙でいっぱいでした。

わたしはこの経験を何度も思い出しましたが、その度に感じるのは、救い主御自身と救い主がわたしたちのために行ってくださったことへの感謝の気持ちです。救い主はわたしたち一人一人がこの混乱した世の中にあっても心に平安を得られるように、代価を払っ

てくださったのです。

デビッド・O・マッケイ大管長は次のように述べています。「キリストは40日40夜断食をし、山で悪魔に試みられ、最後に十字架上で『すべてが終わった』と勝利の叫びを上げられました。キリストの生涯は従順と克服の神聖な模範となっています。その最も顕著な例は、救い主がこの世を去るときに使徒に語られた言葉に表れています。『これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。』(ヨハネ16:33)」

救い主が言われる「平安」について、ある作家はこのように定義しています。「真の喜びとは平安と幸福な気持ちが強く心に感じられることである。」<sup>2</sup>

それはパウロが語った「人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安」<sup>3</sup>でしょう。イエス・キリストの福音は心に平安をもたらし、魂を癒し、心の煩いを鎮めてくれます。また、人生の目的について明確な答えを示してくれますし、神が生きておられイエスが贖い主であられることを御霊によって確信させてくれます。

世界中で真理を探究している人々は喜びと心の平安を探し求めています。それは福音を理解しそれに従って生活する人にしか得られないものです。救

い主はこう言われました。「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおると同じである。

わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。」<sup>4</sup>

フランクリン・D・リチャーズ長老は真の喜びを求める人々に対してこのように呼びかけています。「平安、煩いからの解放、幸福、そして進歩と成長をもたらしてくれる人生の計画を求めている人々は、回復されたイエス・キリストの福音の中にそれを見いだすことでしょう。」続けてこう述べています。「わたしたちは皆さんが回復されたイエス・キリストの福音を祈りの気持ちをもって真剣に吟味されるようお勧めします。」<sup>5</sup>

道を踏み外したと感じている人、また福音を通して得られるはずの素晴らしい祝福からはもう遠く離れてしまったと感じている人もいるでしょう。しかし、スペンサー・W・キンボール長老はこう書いています。「赦しの奇跡の神髄は、以前には不安と動揺と焦燥と恐らくは激しい苦痛を味わっていた魂に、平安をもたらすことである。混乱と闘争の世界にあっては、これは実に

貴重な贈り物である。』<sup>6</sup>

救い主は平安を残していくこと、また慰めを与える聖霊を御父のもとから送ることを話した後、弟子たちに向かってこう命じられました。「あなたがたも……あかしをするのである。』そして「あなたがたが実を豊かに結び……それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう』と教えられたのです。

兄弟姉妹の皆さん、地上には真理の証を切望し、救い主が約束された平安と喜びを熱心に探し求めている人々がたくさんいます。しかし彼らは「人々の狡猾な悪巧みによって目をくらまされ、見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにい』<sup>9</sup>るのです。

世の多くの人々は、キリストのことについて耳にするものの、よく理解していません。したがって、わたしたち教会員はそのような人々に証を述べ伝える必要があります。すなわち、へりくだって「イエスは神の御子キリストであられる」と証するのです。人々は、主に対して心を開くだけで福音がもたらす確信と平安と喜びを見いだすでしょう。また、この困難な世の中において人生の難問を解決する力を得ることでしょう。そして主の教えを受け入れて戒めを守ることで、主が約束してくださった祝福を受け継ぐことができるのです。

これらのことをイエス・キリストの御名によりへりくだり証します。アーメン。

注

1. Obert C. Tanner, *Christ's Ideals for Living* (1955), 379.
2. Hoyt W. Brewster Jr., *Doctrine and Covenants Encyclopedia* (1988), 287.
3. ピリピ4:7
4. ヨハネ15:10-11
5. "Justice, Mercy, and Humility" *Improvement Era*, June 1970, 37.
6. 『赦しの奇跡』375
7. ヨハネ15:27
8. ヨハネ15:8
9. 教義と聖約123:12

# 教会を打ち建てる

七十人

アール・M・モンソン

**主の教会を打ち建てるというのはすばらしい責任です。イエス・キリストの福音のメッセージをすべての民に、彼ら自身の言語で純粋なままに伝えなければなりません。**



恵まれています。わたしは自分がこの御業の一端を担えることに感謝の祈りをささげています。多くの預言者や主御自身が何世紀にもわたってこの御業について語ってきました。

主の教会を打ち建てるというのはすばらしい責任です。イエス・キリストの福音のメッセージをすべての民に、彼ら自身の言語で純粋なままに伝えなければなりません。そのために教会は高潔な指導者を輩出する必要があります。正直な人々がどこにいても靈感に満ちた導きを受けられるような指導者たちです。教会はこの地上で過去に生きた人々、現在生きている人々、将来生を受ける人々に対して公平に義務を負っています。また主の方法に従って、正しい律法と儀式を教えなければなりません。従順な信者はこれによって永遠の命を得る資格を与えられます。ほかにもわたしたちがよく知っている務めが多々あり、教会を打ち建てるという仕事は途方もないように思われます。しかしそれが主から課せられた責任なのです。

ではそのような教会を打ち建てるには、どうすればよいのでしょうか。その一端にすぎませんが、美しい神殿を建設するということがどのような意味を持つのかわたしは知っています。それは詳細な図面や見事な資材以上のものです。建設過程のあらゆる段階で有能な働き手が求められ、どの労働者も一致協力して最善の仕事を果たしています。また靈感を受けた預言者の指導力が麗しい神殿建設には欠かせないこ

『モルモン書』には復活された救い主が西半球でニーファイ人に教えられ様が記されています。この中で救い主は今の時代に触れ、こう教えられました。「わたし〔は〕自分の民……を長年の離散した状態から集めて、彼らの中に再びわたしのシオンを設ける……。』<sup>1</sup>

預言者ダニエルは「末日に神の王国が設立され〔る〕のを予見して告げ」ました。<sup>2</sup>また、この神権時代に主は次のように宣言されました。「もしこの時代の人々がその心をかたくなにしなれば、わたしは彼らの間にわたしの教会を設けよう。』<sup>3</sup>

再臨に備えて教会を打ち建てる時期が今であることを確信させる聖句は、数多くあります。わたしたちは神の王国再建に貢献するという特別な機会に

とも承知しています。それはこの偉大な御業のどの部分にも言えます。ヒンクレー大管長を通して靈感と主の御霊が降るのをわたしは見ましたが、その特別な体験が今も忘れられません。ヒンクレー大管長は確かにこの時代に備えられた預言者です。

神殿建設の場合と同じように、献身的な働き手が地上における主の王国建設にも必要です。この御業は、すべての人がその心と思いの中に次のような事柄を確固としたものとして抱いていれば順調に進むでしょう。すなわちイエス・キリストがこの教会の頭であり、主は確かに生きてこの御業を導き、わたしたち全員がその御業の遂行に重要な役目を果たしているという確信です。わたしたちは喜んで福音の原則を学び、実践しなければなりませんし、キリストを信じながら誠心誠意で祈る必要があります。するとそれらの原則が真実であるという確信が訪れます。真の改宗にはこの偉大な御業に加わっているという喜びがあります。

主が御自分の教会を打ち建てる時期は今であると宣言しておられること、しかもわたしたち一人一人が主の教えが真実であることに対する確固とした揺るがぬ証を築いたときにそれは実現することを考え合わせると、興味深いものがあります。教会は神殿を建て、

世界中に宣教師を派遣し、見事な人道的活動を実施することができます。それでもなお教会の堅固な基盤は、わたしたち自身がどのような思いや感情を持ち、行動を取るかにかかっていると一言しなければなりません。福音のよい知らせは隣人に伝えられているでしょうか。新しく改宗した人は温かく迎えられているでしょうか。神殿は亡くなった先祖のために熱心に働く参入者で満ちているでしょうか。家族は日の栄えの標準に従って生活することを学び、すべてが天父とその教えとその子供たちに対する純粋な愛を動機として行われているでしょうか。

キンボール大管長はかつてこう宣言しました。「わたしたちが打ち建てようとしている神の王国は、教会員一人一人が日々一致した努力を重ねることによってのみ可能である。」<sup>4</sup>

そのすばらしい点は、イエス・キリストの末日における教会の確立に献身する人はすべて、永遠の祝福を数え切れないほど受けることです。次のような言葉があります。「わたしたちの現在の姿と可能性との間にある距離ほど、この世に無駄なものはない。」<sup>5</sup> 実は福音こそわたしたちが可能性を実現するための鍵であり、手段なのです。福音の助けがあれば、わたしたちは世にあって自らをおとしめるものと離れて生活

し、この世でさらに優れた民になることができます。

わたしたちのほとんどが清い生活を送り貢献することを願っているが、時には過ちを犯します。ソロモン王の知見に思いを巡らすことは、あるいは役立つかもしれませんが。「ひととなりはその心に思うがままである。」<sup>6</sup> わたしは自らの思いを健全で人生の清い事柄に集中させている大勢の人と知り合う特権を頂いています。彼らは聖文について深く考え、自分に与えられた召しを尊んで大いなるものにしようと努めています。福音は生き方となり、彼らは平安と落ち着きを何度も味わい、周囲の人々を大いに祝福しています。

どのような書物、映画、活動がわたしたちの思いに入って来ようと大きな問題ではないと考えているなら、わたしたちは自分の心が吸収し、記憶する力を甘く見ているかもしれません。まず神の王国を求めなさい、そうすればそのほかの望ましい事柄もわたしたちのものになると、主は賢明な勧告を与えてくださっています。

スターリング・W・シル長老は次のように指摘しています。わたしたちの思いは染物屋の手と同じで、つかむ物の色に染まる。つまり紫の染め物を握れば、手も紫色になるということです。<sup>7</sup> 教会の確立に献身する人は、何が悪か



を知っていて、絶えず良い選択を重ね、清い思いで心を満たしています。この地上に神の王国を築けるかどうかは、個々の教会員が神に授かった選択の自由を用いて、常にイエス・キリストの福音に添った思いを抱き、言葉を出し、行動ができるかどうかにかかっているのです。

あまりにも忙しいとか、問題がありすぎてこの御業に携われないと思っている人々は、健全に従事することで生じる最も大きな利益にあずかる見込みのある人々です。彼らの貴重な奉仕によってほかの人々が大きな祝福を受ける可能性さえあります。

今こそ、自分の心に福音が真実であることの証をしっかりと持ち、神権指導者から求められる務めを果たすことによって、主の教会を打ち建てる時です。そうするときに、わたしたちは偉大な幸福の計画の中にある、個人的な祝福が分かるようになります。そして救い主と、主がわたしたちのために成し遂げてくださったことを知るようになります。主の大きな愛を感じるようになります。真理に対する確信が心の底から喜びとなってあふれ出、わたしたちは自分が永遠の目的の大切な一部であることに気づくようになります。そしてすばらしい預言者をはじめとする偉大な指導者たちの指導力に心からの喜びを覚えるようになります。わたしたちの生活は主の平安で満たされ、この地上に不動のごとく確立された主の教会があることによって得られる祝福でいっぱいになります。そのことを、イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. 3ニーファイ21：1
2. 教義と聖約138：44
3. 教義と聖約10：53
4. 「心の清い者となる」『聖徒の道』1978年10月号、129
5. 作者不明
6. 欽定訳箴言23：7
7. In Conference Report, Oct. 1954, 28.

# 生ける預言者、 純粋な教義の源

七十人

メリル・C・オークス

教会は現在の生ける預言者に与えられる絶えざる啓示を基としています。



**死**のちょうど2年前、預言者ジョセフ・スミスは信仰箇条を世に出しました。信仰箇条第9節にはこう述べられています。「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。」今日わたしはこの節の最後の部分で述べられている、「神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示される」ことについてお話しします。この継続して啓示が与えられるという原則は神の王国にあって必要不可欠なことです。

教義と聖約第21章4節と5節で、主は

預言者の導きに聞き従う責任についてこう言明されました。

「それゆえ、彼がわたしの前を完全に聖く歩み、わたしの言葉と戒めを受けるとき、あなたがたの教会員は、彼があなたがたに与えるそれらのすべてを心に留めなければならない。

あなたがたは忍耐と信仰を尽くして、あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。」(教義と聖約21：4-5)

預言者ジョセフ・スミスは『モルモン書』を翻訳し、回復された教会の基を据える啓示を受けました。彼は自分の死を前もって知らされると、急いですべての神権の鍵を十二使徒定員会に授けました。ウィルフォード・ウッドラフはこう伝えています。「十二使徒定員会に向けてジョセフは言った。『皆さんの肩に王国を築く責任がゆだねられます。皆さんはがっちり肩を組んでその務めを担わなければなりません。これまではわたしが一人で担ってきたのですから。しかし今、その務めは皆さんにゆだねられるのです。』」(Times and Seasons, 5：698)

天からの啓示と導きは、ジョセフの死をもって終わりを告げたりはしませんでした。「神の王国に関する多くの偉大で重要なこと」は、教会の大管長としてジョセフの跡を継いだ人々を通して啓示されてきたのです。このことに関してスペンサー・W・キンボール大管長はこう語っています。

「1820年のあの記念すべき日から、数多くの重要な啓示が、神から地上の預言者に限りなく下され、聖文に追加されている。……

これらの製本された神聖な記録〔である四大標準聖典〕で、『預言者たちは終わり』だとする人々がいる。しかし、啓示は続き、時々刻々ともたらされる啓示が教会の保管庫やファイルに収められているということを、わたしたちはまた世に証する。1830年に末日聖徒イエス・キリスト教会が組織されて以来、過去にも将来にもわたって時が続くかぎり、神とその民に認められる預言者が絶えることなく主の御旨と御心を説き続けることを、わたしたちは証する。』（啓示——主が預言者に伝える御言葉『聖徒の道』1977年10月号、512-513）

初期の指導者の説教をはじめとして、教会歴史に関する多くの記録が残されています。これらを読むと、回復に関する様々な出来事や当時の状況を理解するのに役立つ予備知識が得られます。今年わたしたちは恵まれて、神権や扶助協会で預言者ブリガム・ヤングの教えを学んでいます。彼の教えとその後に続く預言者たちの教えは同じ流れをくみ、見事に合致しています。

教会の方針や手順は絶えざる啓示と靈感によって改善されていきますが、どんな変更に対しても気分を害する人がいます。ある人は初期の教会指導者、あるいは会員が語ったことが、現在わたしたちが理解し行っていることと完全には一致しない状況を、文字どおり目を皿のようにして探そうとします。教会初期の事柄は何であろうと、より正しいという考えに凝り固まっている人もいます。

これに関して以下の考えを申し上げたいと思います。(1) 末日における神権時代の初期において、教会の手順は完全に確立されておらず、その後の預言者たちによって拡充され、明確にされてきました。(2) 生ける預言者から絶えざる啓示が与えられると信じることによって、誤った教義から守られます。

ハロルド・B・リー大管長は、このことに関して一つの経験を話しました。

「昔、わたしが宣教師だったとき、伝道部長とともにノーブーとカーセージを訪れ、ジョセフとハイラムが殺された部屋で宣教師の集会を開いた。伝道部長は暗殺に至るまでの経緯について触れた後、大変意義深い次の事柄を最後に語った。『預言者ジョセフ・スミスが殺されたとき、彼とともに多くの聖徒が靈的に死にました。』プリガム・ヤングが死んだときも同じことが起こり、ジョン・テラーが死んだときも同様だった。ジョン・テラー大管長に与えられた啓示は、現在の大管長であり預言者が語ることよりも大きな権能を持つのだろうか。ウィルフォード・ウッドラフとともに靈的に死んだ会員がいたと同様、ロレンゾ・スノー、ジョセフ・F・スミス、ヒーバー・J・グラント、またジョージ・アルバート・スミスとともに靈的に死んだ人もいた。今日でも、すでにこの世を去った人を信じ、その人の語った言葉を現在生きて権能を持つ人の言葉よりも権能がある言葉として受け入れる人々がいる。』（Stand Ye in Holy Places [1974], 153）

リー大管長はこのことを強調するために、あるときジョセフ・スミスの時代に定められたものとは異なる教会の新しい方針を快く思わない人に自分が

語ったことを引用しています。彼は疑問を持つこの兄弟に対して次のように答えました。

「1840年に天の秩序に反していたことが、1960年にはそうでなくなるということがあると考えたことがありますか、とわたしが尋ねると、彼は考えたことがないと答えた。彼もまた、死んだ預言者に従っていたのだ。そして、今日生ける預言者がいることを忘れていた。『生ける』という言葉を強調する重要性はここにある。』（Stand Ye in Holy Places, 153）

要するに、教会は現在の生ける預言者に与えられる絶えざる啓示を基としています。生ける神の預言者を通して、「神の王国に関する多くの偉大で重要なこと」がこれまで啓示されきました。またこれからもさらに多くのことが啓示されるでしょう。わたしたちは、ジョセフ・スミスから始まって、彼に続く教会の大管長たちを通して継続して与えられる啓示によって福音を完全に理解することができます。現在教会で教えられる福音の教義への理解は、末日の神権時代における過去のいずれの時よりも、さらに完全なものとなっています。これらをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

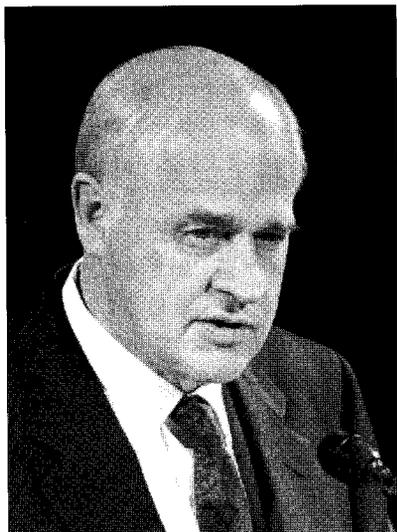


# 感謝

七十人

ゴードン・T・ワッツ

わたしたちがどこまで心を込めて熱心に奉仕できるかは、どれほどの感謝の念を持っているかにかかっています。



**家**族みんなが働く小さな農場で過ごした少年時代の生活は天国のようでした。わたしたちの質素な家は、屋根板が足りなかったり、手洗所が家の外のかかなり離れた所にあったりというような状況が珍しくなく、いろいろ大変なこともありました。着ている服が擦り切れて、ボタンの数より穴の方が多というようなこともありました。土曜日の夜に、暖かなストーブの前でお風呂に入るのはぜいたくなことでした。それは寒暖両極端の温度が体験できる時間でした。(訳注——当時はストーブでお湯を沸かし、そのお湯をたらいに入れて入浴する習慣があった)やがて、ある変化が起こりました。学校へ行くようになってから、世の中にはそれまで自分は知らなかった物がいろいろあるのだということに気づき始めたのです。ほかの生徒たちは立派

な服を着て、文明の利器がなんでもそろった美しい家に住み、新しい自動車に乗っていました。わたしと同じ年ごろの多くの子供たちは、学校へ行く前に早起きして雑用をしたり、学校から帰れば夜もまた家の仕事を手伝ったりするだけというような生活はしていませんでした。彼らは人気があり、自信を持っていましたが、わたしは引込み思案で内気になっていきました。残念なことに、わたしは彼らのまるで尽きることのないかのような豊かさ、自分自身の状況を比較することに気を取られるようになるにつれ、たとえわずかな祝福でも十分幸せだったことを忘れ始めてしまいました。こうして、謙遜さを忘れると、けんそん真実を正しく判断する力が弱まり、忘恩の思いが頭をもたげ始めるようになりました。受けるにふさわしい以上の祝福を望むようになると、今受けている祝福は不十分だと思ふようになります。感謝の思いは様々な面を持ち、多くの形を取って表れます。わたしたちは自分が手にしているすべてのものについて、主の恵みに感謝することを忘れると、程なく利己的な行為に走るようになります。

救い主は、人々に様々な恵みを与えられましたが、感謝されることはあまりありませんでした。

「そして、[キリストは]ある村にはいられると、10人のらい病人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちとどまり、声を張りあげて、『イエスさま、わたしたちをあわれんでください』と言った。

イエスは彼らをごらんになって、『祭司たちのところに行って、からだを見

せなさい』と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。

そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰ってきて、

イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。

イエスは彼にむかって言われた、『きよめられたのは、10人ではなかったか。ほかの9人は、どこにいるのか。』<sup>1</sup>

「ほかの9人は、どこにいるのか」という救い主の問いかけは、わたしたちの心を貫き、深く考えさせます。ヒンクレイ大管長は昨年4月の大会の最初の説教で、次のように言いました。「ですから愛する兄弟姉妹の皆さん、主の業の最も栄光に満ちたこの時期に、主からの賜物としてこのすばらしい教義と儀式が授けられていることに、感謝の心をもってともに喜ぼうではありませんか。……この貴重な賜物と特権にこれからも感謝し続けましょう。そして主を愛する者として、自分の分をよく果たしましょう。」<sup>2</sup>

預言者が述べている「貴重な賜物と特権」を与えられているにもかかわらず、わたしたちは豊かな恵みを忘れてしまうことがよくあります。そして、さらに大切なことですが、感謝の気持ちを示す行いが、主に望まれている水準に達しないという場合もあるのです。「また、すべてのことの中に神の手を認めない者と、神の戒めに従わない者のほかに、人はどのようなことについても神を怒らせることはない、すなわち、ほかのどのような人に向かっても神の激しい怒りは燃えない。」<sup>3</sup>

感謝は態度で示すことから始まりません。ある人々にとってりんごはどれも光り輝いて見えますが、その一方で、磨いた後の傷しか見えないという人々もいます。自分が惨めであるために悪意が生じて、祝福に無感覚になり、感謝することを忘れてしまう人々が増えています。わたしたちは自分自身がそのようにならないように、注意しなければなりません。

喜びと幸福は、感謝がもたらす結果です。最近、ワッツ姉妹とわたしは世界の別の地域で、とても親切で優しい

人々と一緒に3年間過ごしてきました。この世的な富がすなわち幸福というのであれば、この聖徒たちの多くは不幸せということになるでしょう。しかしそれとはまったく逆で、感謝の思いは豊かなものであり、結果として喜びを人々に伝えていきます。恵まれた条件のない困難な環境の中に住んでいますが、彼らが喜びにあふれた生活をしていることは明らかです。その明るさは、イエス・キリストの福音と、自ら学んだ原則の実践によって得られる感謝の念が生み出すものです。ある忠実な地方部長は、自転車に乗って召しを果たせることに感謝していました。彼は自転車のペダルをこげばこぐほど、幸福になるように見えます。ここに学ぶべき教訓があります。わたしたちは自分に感謝の念がないと感じたら、もう少し早くペダルをこぐ必要があるのではないのでしょうか。わたしたちがどこまで心を込めて熱心に奉仕できるかは、どれほどの感謝の念を持っているにかかっています。

ジェームズ・E・タルメージ長老はこう語っています。「感謝の念と謙遜な思いは双子の姉妹であり、高慢はその共通の敵である。」<sup>4</sup> ジェームズ・E・ファウスト副管長はこう話しています。「感謝の気持ちを持つことは、偉大な人物になるための第一歩です。」<sup>5</sup> わたしたちは試練のときにも、来るべき事柄を、感謝の気持ちをもって受け入れることができます。その感謝の気持ちとは、戒めに従い、感謝の念をもって仕える人々のために、主が用意しておられる恵みと賜物に感謝する思いです。永遠の友であり、以前わたしたちの近くに住んでいた人が、最近最愛の伴侶<sup>はんりやう</sup>を亡くして、精練する者の火を強く感じています。彼は昔、わたしたちの家で福音の教えを受け入れた人です。福音、また神殿の聖約、永遠の結婚について彼が最近語った、いわく言い難い感謝の言葉は、わたしの心に強い印象を与えています。最愛の妻に先立たれた状況の中で、これらの知識が教会に入る前には知らなかった慰めを与えているのです。「この偉大な永遠の賜物を、わたしたちの家族に伝えてくれたあなた



にほんとうに感謝しています」という彼の言葉に、天の御父と御子イエス・キリストがすべての人に「貴重な賜物と特権」を与えてくださったことへの、わたし自身の心からの感謝の思いを添えたいと思います。

「すべてのことを感謝して受け入れる者は、栄光を与えられるであろう。また、この世のものも100倍、いやそれ以上、加えられるであろう。」<sup>6</sup> 神は実在し恵み深い御方であられること、また、イエス・キリストは神御自身の愛する御子<sup>みこ</sup>であられることを証<sup>あかし</sup>いたします。イエス・キリストの御名<sup>みな</sup>により、アーメン。

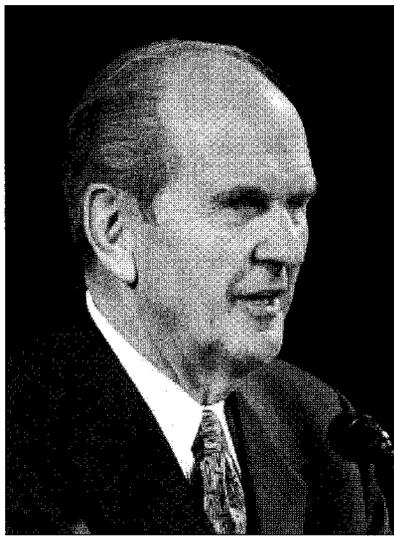
注

1. ルカ17:12-17
2. 「わたしたちは主について証する」『聖徒の道』1998年7月号、5
3. 教義と聖約59:21
4. *Sunday Night Talks*, 2nd ed. (1931), 483
5. 「感謝——救いの原則」『聖徒の道』1990年7月号、94
6. 教義と聖約78:19

# わたしたちは 神の子である

十二使徒定員会会員  
ラッセル・M・ネルソン

わたしたちは何者でしょうか。神の子供です。わたしたちの可能性は無限であり、神聖なものを受け継ぎます。



**最**近わたしは、極端な服装で人目を引いている若者たちを見ました。その中の一人が、意義深い言葉を口にしました。「自分がだれなのか見つけようとしているんだ。」その少し前に出席した教会の集会では、初等協会の子供たちが「神の子です」<sup>1</sup>を歌っていました。この対照的な経験が教えているように、わたしたちが文字どおり神の子であることを知るの、大切なのです。

人は二つの部分、すなわち肉体と霊<sup>2</sup>から成り、どちらも神から出たものです。肉体と霊について明確に理解すれば、善を求めわたしたちの思いと行いに影響を与えるでしょう。

## 肉体

わたしたちは肉体の驚異をしばしば見落としています。体格や外見のせいで、劣等感に悩まされたことのない人がいるでしょうか。多くの人は自分の体をもっとよくしたいと願っています。生まれつきストレートヘアの人が巻き毛を望んだり、巻き毛の人がまっすぐな髪にあこがれたりします。女性の中には、男性は金髪が好きだと信じ込んで、髪を染める人も時折います。

実際には、皆さんの肉体は、どのような賜物<sup>3</sup>を受けていようと、神のすばらしい創造物です。<sup>4</sup>それは肉の幕屋であり、霊のための宮です。<sup>4</sup>肉体を研究すれば、その神聖な目的が明らかになります。

肉体の形成は、父親と母親からそれぞれ来る二つの生殖細胞の結合に始まります。この二つの細胞には、新しい生命のすべての遺伝情報が組み込まれていて、肉眼では見えない小さな組織に保存されています。それぞれの親から来た23の染色体が結合して、新しい細胞になります。この染色体に含まれる無数の遺伝子が、やがて生まれてくる人の体の特質をすべて決めるのです。細胞の結合からおよそ22日後に、小さな心臓が動き始めます。26日目には、血液が循環し始めます。細胞は増殖し、分裂します。そして、ある部分は目に、別の部分は耳になります。

各々の器官は、神のすばらしい賜物です。目には、自動焦点レンズがあります。神経と筋肉が二つの目の動きを調整して、一つの立体画像を生み出します。目とつながっている脳に、その画像が記録されます。コードもバッテリーも必要ありません。

両方の耳は、音波を聞き取れる形に変換する小型の器官に接続しています。鼓膜は振動板として働き、小さな骨がその振動を増幅し、神経を介して信号を脳に送ります。そこで音が知覚され、記憶されるのです。

心臓は、驚くべきポンプで、血液の流れる方向を制御する4つの精巧な弁を備えています。これらの弁は、1日に10万回、1年で3,600万回以上、開閉をします。しかし、病気で変質しないかぎり、いつまでもこの負担に耐えられるのです。現代のいかなる人工素材を用いても、故障なしに、このような働きをすることはできません。

成人の心臓は毎日、2,000ガロン<sup>5</sup>のタンクを満たす血液を送り出します。この仕事量は、成人男性<sup>6</sup>をエンパイアステードビル<sup>7</sup>の頂上まで運ぶのに相当しますが、消費するエネルギーはわずか4ワットです。心臓の上部には発電器があって、特別な経路を通して電気刺激を伝え、無数の筋肉繊維の動きを調整しています。

人体のほかの貴重な器官についても、たくさん話すことができます。それらの驚くべき機能は、わたしに与えられた時間や能力では語り尽くせません。

人体には、さほど顕著ではありませんが、ほかにもすばらしい特性があります。例えば、予備機能があることです。対になっている器官はすべて、緊急時の予備機能を持っていることになります。脳や心臓、肝臓のような単独の器官は、二通りの経路で血液が供給されています。この機能により、一方の経路が絶たれても、器官は守られるのです。

人体の自己防衛機能について考えてみましょう。人体は危害を防ぐために、痛みを感じます。何かに感染すると、抗体を生成します。抗体は当面の敵と戦うだけでなく、将来の感染に対する

抵抗力も高めます。あるとき、排水溝の水を飲んだ3歳の子供たちを診察したことがあります。子供たちは、無数の細菌を飲み込んだに違いないのですが、一人も病気になりませんでした。汚水が小さな胃袋に達すると、直ちに塩酸が作用して、子供の命を守ったのです。

皮膚にも保護作用があります。高温や低温による危害に対して警告します。また、信号を送って、問題のある部分を知らせます。熱があるときは、汗をかきます。恐怖を感じると青ざめ、恥ずかしいときは赤くなります。

人体には修復機能があります。折れた骨は修復し、元のように強くなります。皮膚の傷は、自然に治ります。出血しても、自ら止血できるのです。

人体は、古くなった細胞を再生します。例えば、赤血球の平均寿命は120日で、新しく造られた細胞に置き換えられます。

人体は、重要な成分を自ら調節します。必須の元素や化学成分は、絶えず調整されています。そして、環境の温度変化の幅がどうあれ、体温は狭い範囲内に注意深くコントロールされています。

防衛、修復、再生、調節など、これらの通常の機能が永遠に続くならば、地上の生命に終わりはありません。幸いにも、造り主は、肉体の死をもたらず老化やほかの現象を備えてくださいました。死は悲劇や時ならぬ出来事と見なされることがよくあります。しかし、死は誕生と同じ人生の一部なのです。聖文にこうあります。「そのときすぐに人がこの肉体の死から救われることは、偉大な幸福の計画を損なうことになるので適当ではなかった。」<sup>7</sup> 死という門をくぐって神のみもとに帰るのは、神を愛する人にとって喜びなのです。<sup>8</sup>

人生の最盛期に死が訪れるとき、わたしたちは次の真理を知って慰めを得ます。すなわち、この世で生き続けることを許さないその律法は、肉体が不死不滅になって復活するときに適用される律法でもあるのです。

## 霊

次に、霊についてお話ししましょう。わたしたちは現世に来る前に、神の霊の息子、娘として神とともに住んでいました。霊は永遠の存在であり、前世において罪がなく、<sup>9</sup> 肉体の死の後にも存在します。<sup>10</sup> 霊は肉体を動かし、個性を与えます。<sup>11</sup> 「霊はすべて物質であるが、もっと微細で純粹」なものです。<sup>12</sup>

「人間の霊はその体の形」です。<sup>13</sup> ヤレドの兄弟がイエスの前世の体を見たとき、主はこのように説明されました。

「あなたは、あなたがたがわたし自身の形に造られていることが分かったか。まことに、すべての人は初めにわたし自身の形に造られたのである。

……あなたが今見ているこの体は、わたしの霊の体である。わたしは自分の霊の体で倣って人を造った。わたしは今、霊の状態であなたに現れているように、将来肉にあってわたしの民に現れる。」<sup>14</sup>

霊の成長は、永遠にわたる重大事です。わたしたちは将来、霊の持つ属性によって裁きを受けます。<sup>15</sup> この属性には、高潔、哀れみ、愛、そのほか多くの徳が含まれます。<sup>16</sup> 肉体に宿る霊は、永遠の進歩に欠かせない方法でこれらの属性を伸ばし、表現します。<sup>17</sup>

霊と肉体は、互いに結合して、神聖な価値を備えた生ける人となります。確かにわたしたちは、肉体的にも、霊的にも、神の子供なのです。

## 肉体の障害

わたしたちには分からない理由により、肉体に障害を持って生まれてくる人がいます。体の一部に異常があるかもしれません。調節機能のバランスが崩れているかもしれません。そして、すべての肉体は、病気と死に直面します。しかし、肉体はきわめて貴重な賜物なのです。それなしに、完全な喜びを得ることはできません。<sup>18</sup>

神聖な目的を達成するために、完全な肉体が必要なわけではありません。事実、最もすばらしい霊が、弱い体に宿ることもあります。肉体に障害があ



って日々チャレンジに直面する人が、卓越した霊的な強さをはぐくむ場合がよくあります。そのような人は、神が忠実で従順な人のために用意されたすべての祝福を受ける資格があるのです。<sup>19</sup>

やがてその時が来ると、「霊と体は再び結合して完全な形になり、手足も関節も……その本来の造りに回復されます。」<sup>20</sup> こうしてわたしたちは、イエス・キリストの贖いのおかげで、主によって完全になることができるのです。<sup>21</sup>

## 個人の行い

これらの真理は、個人の行いにどのような影響を与えるのでしょうか。感謝の心をもって、神を造り主として認めます。そうしなければ、飼い主の愛に気づかず水槽の中で泳ぐ金魚のように、恩知らずになってしまうでしょう。主はこう言われました。「与えられる祝福が何であろうと、あなたがたは……神に感謝をしなければならぬ。」<sup>22</sup> わたしたちは、絶えず主の御前で徳高く、聖くなることができます。<sup>23</sup>

わたしたちは肉体を自分自身の宮で



あると考えるでしょう。<sup>24</sup>そして、いかなる方法であれ、それを汚したり、傷つけたりしないでください。<sup>25</sup>また、適切な食事を取り、健康のために運動をするでしょう。

霊の健康にも注意を払うべきではないでしょうか。<sup>26</sup>体力を維持するために運動が必要なように、霊的な強さにも努力が必要です。最も大切な霊的な運動は、祈りです。祈りは神との調和と、戒めに従いたいという気持ちをもたらします。祈りは、知恵と徳と謙遜さの鍵です。

わたしたちは助言を慎重に選ぶ必要があります。多くのいわゆる専門家が、霊のことを考慮せずに体について助言を与えているからです。例えば、知恵の言葉に反する指示を受け入れる人は、肉体と霊の両方に祝福をもたらす律法を捨てているのです。<sup>27</sup>わたしたちの生殖器の扱い方に関する勧めの中には、体の研究だけに基づく、不適切なものがあります。一方に偏った見解に気をつけてください。パウロはこう教えています。「肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬ外はない……。しかし、霊によってからだの働きを殺すなら、

あなたがたは生きるであろう。」<sup>28</sup>

この警告には、習慣性の強いポルノグラフィも含まれます。聖文ははっきりと警告しています。「あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従わせることを」<sup>29</sup>してはなりません。耽溺はやがて、肉体と霊を奴隷にします。この悪習からの完全な悔い改めは、死すべき体を持つ現世にいる間、最も効果的に行えます。

わたしたちは神の子供として、肉体を汚すいかなるものも摂取してはなりません。視覚や聴覚や触覚を通して、脳に汚れた記憶が送り込まれるのを許すのは、神に対する冒瀆です。純潔を大事にして、「人を滅びと破壊とに沈ませる、無分別な恐ろしいさまざまな情欲」<sup>30</sup>を避けて、人を啓発する「義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求め」<sup>31</sup>るのです。

わたしたちは何者でしょうか。神の子供です。<sup>32</sup>わたしたちの可能性は無限であり、神聖なものを受け継ぎます。わたしたちが、思いと行いにおいて、常にこの受け継ぎを尊重できるよう、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

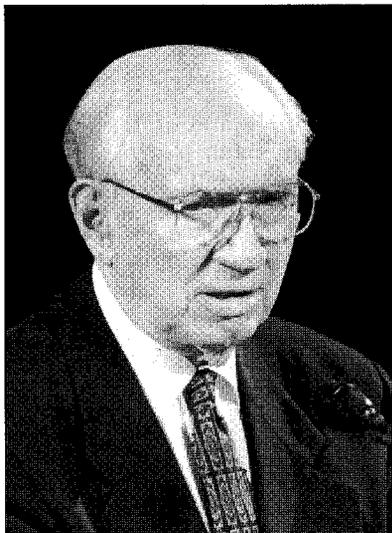
1. 『賛美歌』189番参照
2. 教義と聖約88：15参照
3. See Russell M. Nelson, "The Magnificence of Man", *ENSIGN*, Jan. 1988, 64-69. 詩篇の作者は次のように述べている。「わたしは、あなたの指のわざなる天を見、あなたが設けられた月と星とを見て思います。人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか、……ただ少しく人を神よりも低く造って、栄えと誉とをこうむらせ〔ました。〕」(詩篇8：3-5。ヘブル2：7、9も参照)
4. 1コリント6：19参照
5. 約7,570リットル
6. 重さ150ポンド(68.2キロ)
7. アルマ42：8。アルマ12：24-27も参照
8. 詩篇の作者は神の見地から次のように表現している。「主の聖徒の死はそのみ前において尊い。」(詩篇116：15)
9. 教義と聖約93：38参照
10. アルマ40：11；アブラハム3：18参照
11. ヨブ32：8参照
12. 教義と聖約131：7
13. 教義と聖約77：2
14. エテル3：15-16
15. 人を動かし、人の魂をつかさどるのは肉体ではなく霊である。霊のない体は死んだものである(ヤコブの手紙2：26参照)。そのため、善悪を選択し、最後の裁きのときに、自ら身に付けた長所、短所に関して責任を負うのは霊である(アルマ41：3-7参照)。
16. 「信仰、徳、知識、節制、忍耐、兄弟愛、信心、慈愛、謙遜、勤勉」という特質(教義と聖約4：6)。
17. 2ニーファイ2：11-16、21-26；モロナイ10：33-34参照
18. 教義と聖約138：17参照
19. アブラハム3：25-26参照
20. アルマ11：43。アルマ40：23；伝道12：7；教義と聖約138：17も参照
21. モロナイ10：32参照
22. 教義と聖約46：32
23. 教義と聖約46：33参照

24. 1コリント3：16参照
25. 人の体について、パウロは次のように教えている。「もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」(1コリント3：17)
26. 1コリント9：24-27；ヘブル12：9参照
27. 教義と聖約89：18-21参照。ローマ8：6；2ニーファイ9：38-39；教義と聖約29：34-35も参照
28. ローマ8：13
29. ローマ6：12
30. 1テモテ6：9
31. 1テモテ6：11。続く12節には、次のように述べられている。「信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。」これこそわたしたちの行う選択である。
32. 『聖句ガイド』「創造：創造する」の項（またはその参照項目）から、「人」「男」「女」という言葉が含まれている参照聖句を調べる。神聖な人の創造について立証されている聖句は55か所あり、皆同一のメッセージを伝えているが、以下はその一例である。「神々は協議して言われた。『降って行って、わたしたちの形に、わたしたちにかたどって人を形造ろう。……そこで、神々は降って行って、御自分の形に人を組織し、神々の形に人を形造り、男と女に形造られた。』」（アブラハム4：26-27）人の創造が神によるものであると信じる根拠は、物理的な証拠のみによらず霊的な証拠にも基づかななくてはならない。その理由について次の聖句ではこう述べられている。「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」(1コリント2：14)

# 祝福の言葉

大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

**わたしたちがいと高き御方の聖徒として生きているこの時代は、非常に重要な時です。……子供たちを真理と義の中で育てる働きを続けていきましょう。良き隣人、良き友人となりましょう。**



**最**後に少しお話ししたいと思えます。皆さんには、このタバナクルの固いすに長時間お座りいただいています。新しい建物で大会を開ける時を待ち望んでいます。そのときにはすも座り心地よくなっているでしょう。

今回もすばらしい大会でした。主の祝福が注がれ、わたしたちは心から感謝しています。家路の途中、ここで聞いてきたことについて、深く考えていただきたいと思えます。日々の生活の中で改善の必要な点があれば、そのために正すべきところを正していくことができますように。心を動かされたことについては、御霊によくこたえることができますように。自身の義務を果たせていない部分があれば、よく自己を修めて、備えをし、望まれている事

柄を果たすことができますように。

兄弟姉妹の皆さん、この大会でも何度も採り上げられてきた小規模な神殿の建設プログラムについてご報告できることをうれしく思います。わたしたちは数か月前に、ユタ州モンティセロでこの種の神殿としては初めての神殿を奉獻しました。わたしたちは実際の建設を通して様々なことを学べるだろうと見込んで、この地に神殿を建てました。そしてわたしたちは幾つかのことを学び、この地域の聖徒たちが示した反応、また、彼らが自分たちのただ中に現れたその美しい建物に対して示した大きな喜びを見て、心からの感謝の念を覚えました。

わたしたちは今年を皮切りに、新しいタイプの神殿を数多く奉獻していきます。建物の大小は様々あります。前回の大会で、わたしは、次の2年間に30の新しい神殿を建設したいと発表しました。それをお聞きになって、わたしの単なる願望に過ぎないと思われた方が数多くいらっしゃると思います。まったく非現実的な話にしか見えなかったことでしょう。

うれしいことに、わたしたちの建築スタッフ、設計士、建築技師、デザイナー、内装の専門家たちは、たぶん西暦2000年には100以上の神殿を稼働させることができるとアドバイスしてくれています。現在の約2倍の数です。このすばらしい計画に参与している人々の中には、怠惰にしている人はだれもいません。わたしは、これらの神殿は従来のものよりも小さいと言っています。

しかし、実際は小さくは見えません。大きく見えます。また美しい神殿です。最高の資材と最高の様式で、建設されます。どれも、神聖な目的のために奉獻される主の家となるからです。

しかしそれだけでは終わりません。神殿建設はさらに前進していきます。わたしたちは、教会の忠実な聖徒たちが自身の祝福を受けるために参入し、またその祝福を死の幕のかなたに行った人々にも及ぼすには、非常に多くの地で神殿が必要とされていることを承知しています。わたしたちは、教会員の皆さんが神殿に参入するにふさわしくなれるよう祈っています。もし悔い改めが必要なら、今こそ進路を変え、自分自身を神殿参入に備えるべき時です。

兄弟姉妹、わたしたちがいと高き御方の聖徒として生きているこの時代は、非常に重要な時です。これらのことは、主の惜しみない祝福、また、わたしたちに啓示された御心、全世界の忠実な

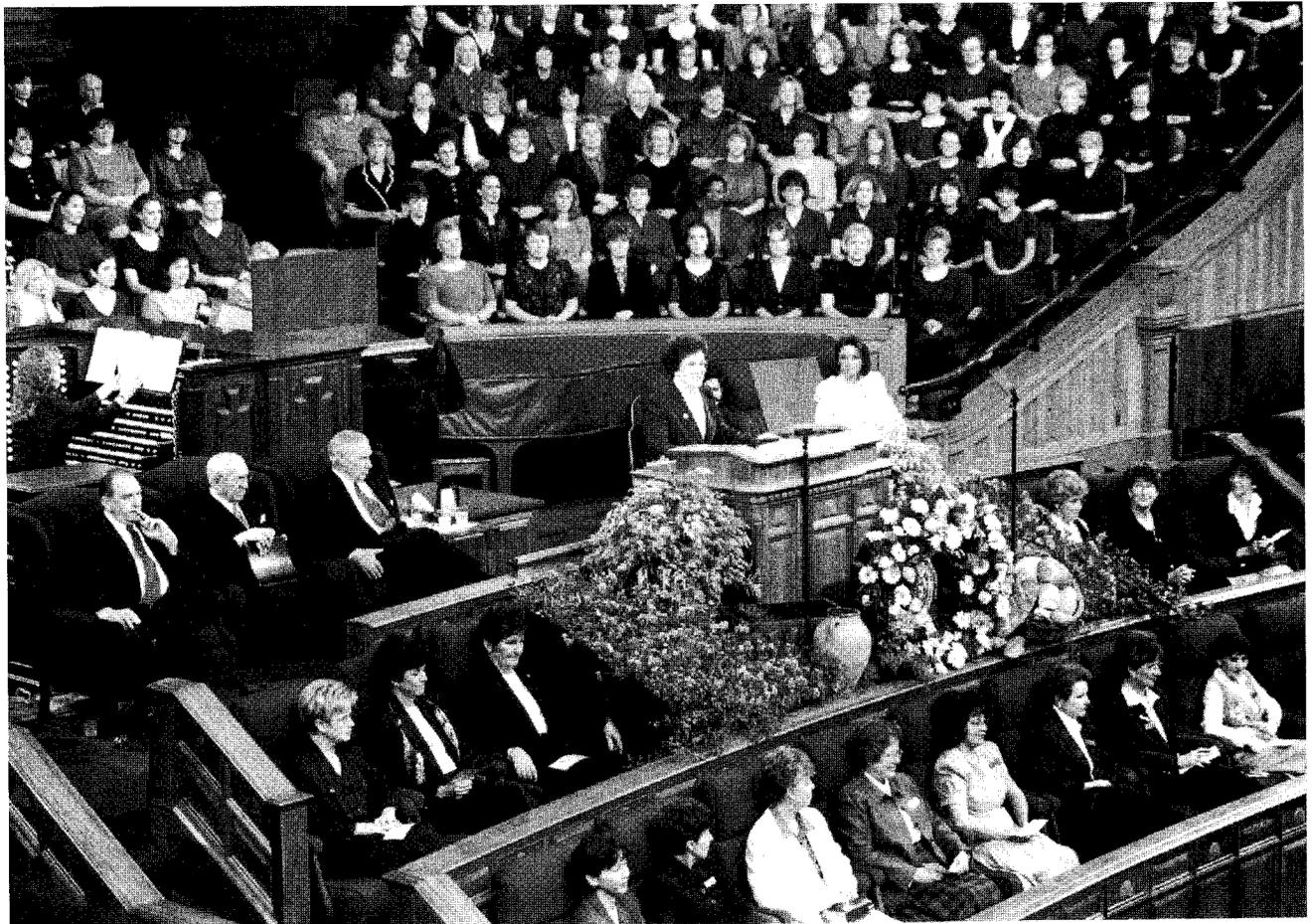
聖徒があって、可能になりました。つい最近まで、不可能と考えられていたことです。

わたしは教会で非常に長い間、役員として働いてきました。時の流れには逆らえない老人です。長年生き、かつ様々な責任を果たしてきて、この神の御業に対する疑いはみじんもありません。わたしたちはほかの教会の人々も尊重しています。彼らと親しく交わり、彼らに有意義な奉仕をしたいと考えています。彼らが皆、善良な行いをしていることを知っています。しかしわたしたちは、この教会は天の御父とその御子、主イエス・キリストの、真実の生ける教会であることを臆することなく宣言します。このように宣言することが、よく批判を招くということは承知しています。

話を終える前に、このすばらしい合唱団に賛辞を呈したいと思います。今日わたしたちは彼らの歌声に耳を傾

けてきました。荘厳な歌声です。彼らの働きは実にすばらしいものです。彼らはこれまでに、日々その歌声に磨きをかけ、その努力はこれからも続けられていきます。今の姿に甘んじることなく、明日に向かって進んでいます。どうかこれからも、努力を続けてください。

子供たちを真理と義の中に育てる働きを続けていきましょう。良き隣人、良き友人となりましょう。そして信仰を同じくする人々だけでなく、そうでない人々にも愛の手を差し伸べていきましょう。わたしと働きを共にされる愛する皆さんのうえに、天のほほえみが注がれるよう、心から祈っています。この広い世界の各地に住む皆さん一人一人に、わたしの証と愛をお伝えします。これらの心からの祈りと祝福の言葉を、イエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。



中央扶助協会集会で司会をする、中央扶助協会会長のメアリー・エレン・スムート姉妹。大管長が左に、右には中央扶助協会の副会長が着席している。また、中央若い女性会長と中央初等協会会長、3つの補助組織の中央管理委員会会員が説教壇の前の席に着いている。

# われわれは 主の光に歩もう

中央扶助協会会長

メアリー・エレン・スムート

主は手を広げておられます。主の計画は明らかで、主の招きは真実です。



**わ**たしは招待状を受けるのが大好きです。皆さんはどうでしょうか。これまでに自分の大切さ、計り知れない価値を再認識できるような素晴らしい行事に招かれる日のことを想像したことはありませんか。そのような期待に胸を膨らませるのは、少なくとも行事に出席するのと同じくらい楽しいものです。招待された行事の準備や計画をするときに、日常茶飯事のことも新たなときめきと意義を感じて行えるものです。今でもわたしは、郵便が届き招待状らしき封筒があると真っ先に開きます。

残念なことに、すべての招待状の内容が同じくらい価値のあるものとは限りません。わたしたちを誘惑し、勧誘

する目的のものも届きます。郵便で届こうと、コンピューターやテレビで届こうと、それらは人を誘い惑わせます。

しかし、ありがたいことにわたしたちが聖文や、預言者、および聖霊を通して受ける招きは信頼することができます。それらはわたしたちが進むべき方向性や、平安、慰め、喜びといったものを与えてくれます。静かで細い声はわたしたちに語りかけ、義にかなった生活をするよう励ましてくれます。したがって、わたしたちは聖霊のささやきによく耳を傾け、自らの霊を吟味する必要があります。そうすれば、うっそうとした黒雲は散り、神の栄光に満ちた光がわたしたちを覆ってくれるのです。

主から出された招きは非常に**重要なもの**です。それはわたしたちを天の御父のもとへ導いてくれるものであり、わたしたちを真理と正義にのっとった方法で導いてくれます。また、それは確かにわたしたちが神の娘として永遠に価値のある者であることを教えてくれます。その招きは天の御父から個人個人に出された愛のこもったものです。天の御父は「わたしのもとに来なさい」「わたしに従いなさい」「来なさい」といった言葉でわたしたちを招かれています。

今晚、わたしたち中央扶助協会会長会は、皆さん一人一人に次のような招きをしたいと思います。「さあ、われわれは主の光に歩もう。」(イザヤ2:5)

そしてどうかその招きの返事を出(RSVP)してください(訳注——RSVPはフランス語で「よろしければお返事ください」という意)。

イザヤは多くの人々が主の宮に行き、神の方法について学んでお互い平和に暮らしている情景を見ました。イザヤはすべての人にこのことを願っていたので、今わたしたちがしているように、「さあ、われわれは主の光に歩もう」と当時の人々に呼びかけたのです(イザヤ2:5)。

わたしの高祖父のイスラエル・スタッダードは、教会に加わるという招きを1842年に受け入れました。そして、聖徒たちと合流する招きを受け入れ、彼の家族はニュージャージーからノーブーに移りました。さらに、ブリガム・ヤング大管長が自分に従って西へ旅するよう招いたときも、それを受け入れました。

ミシシッピ川を渡りながら、家族は振り返って自分たちの家が焼かれるのを見ました。過酷な条件と苦難にさらされたため、母親は亡くなりました。5週間後、赤ちゃんが死に、その後間もなく、父親も息を引き取りました。祖母はこう書いています。「後に残されたスタッダード家の5人の子供たちは、家はなく、お金もほとんどなかったが、友はいた。聖徒たちが彼らにとてもよくしてくれたのだ。」

ヤング大管長の招きは、両親と幼い子供の命を取り去りましたが、家族を永遠に一つにつなげたのです。

今しばらくわたしと一緒に、「主の光に歩む」とはどういう意味か考えてみてください。まず最初に、わたしたちは皆光を持つことができます。それは顔や、姿から発せられるものであって闇の中でも輝きます。すなわち光によってはっきりとした目的と指針を持つ歩むことができるのです。

救い主はこの世の生涯での最後となった週に10人のおとめのたとえ、タラントのたとえ、羊とやぎのたとえを通してその方法を教えておられます。マタイによる福音書第25章に書かれているこれらのたとえを指針として、キリストが教えられた3つの教訓について再

考してみたいと思います。わたしたちはこれらの教えに耳を傾けて従うことによって、光と真理において一致した姉妹となることができます。

最初に、10人のおとめのたとえは**霊的に準備を整えて**主の光に歩むことを教えています。

救い主は10人のおとめがそれぞれ明かりを手にして、花婿を迎えに出て行く様子を天の王国にたとえておられます。おとめのうちの5人は明かりの油を用意していて、花婿が到着したときに出迎える準備ができていました。けれども愚かな5人は急いで油を探しに行っている間に、花婿が到着してしまいました。そして「用意のできていた女たち」だけが「花婿と一緒に婚宴のへやにはいり」ました（マタイ25：1—10参照）。

姉妹の皆さん、わたしたちは用意ができていますでしょうか。わたしたちは個人として全体として、忠実なすべての人に主が約束しておられる豊かな贈り物を受ける準備ができていますでしょうか。主の光を受ける準備ができていますでしょうか。

キンボール大管長はわたしたちの明かりに油をつぎ足すための方法を幾つか示してくれました。「**聖餐**に出席することによって、わたしたちは自分の明かりに一滴ずつ長い年月をかけて油をつぎ足すことができます。断食、家族の祈り、ホームティーチング【および家庭訪問】、肉体的な欲望を抑えること、福音を宣べ伝えること、聖文を研究すること、献身と従順に基づく一つ一つの行いが油を蓄えるのです。親切

ない、献金と什分の一を納めること、清い思いと行い、聖約によって永遠に結婚すること、これらも油をつぎ足してくれます。このようにしてわたしたちは真夜中でも準備を整えていることができます。」<sup>1</sup>

扶助協会がどのようにして霊的な準備を手助けしているか、一人の姉妹のお話を通して紹介したいと思います。わたしは彼女の信仰に深く感動したため、証を書いて送ってくださるようお願いしました。その一部を読ませていただきます。

彼女はこのように書いてくださいました。「わたしは扶助協会からたくさんのお祝福を受けてきました。わたしは離婚を経験し、幼い娘と二人で暮らすようになりました。息子もいたのですが、失いました。救い主と天父に助けを求めて何時間もの間ひざまずきました。幸いにして、わたしの前には扶助協会がありました。わたしは扶助協会が大好きでした。特に教育があるわけではないわたしはわずかな賃金で幼い娘とともに毎日やっとの思いで暮らしていました。日曜日には必ず教会へ行きました。毎週扶助協会に出席することによって、わたしは力強くなり、善い姉妹になっているような気がしていました。もちろんほかの集会にも出席しました。出席したのはそこがわたしのいるべき場所だと分かっていたからです。特に扶助協会で語られる言葉をよく味わいました。扶助協会は安らぎを与えてくれる交わりの場でした。わたしは扶助協会の一員であることを強く感じることができました。レッスンに、

人々への奉仕に、……そして幼い娘のためにわたしは没頭しました。思いと心を集中させていると、過去の痛みを振り返っている時間がなくなること気がきました。……この数年間わたしの心を占めていたいちばん大きなものは、帰属感、すなわちわたしだけでなくすべての姉妹に主と救い主が与えられた組織の一員であるという思いでした。」<sup>2</sup>

花婿が戻っておいでになる日に備えてお互いに助け合うためにわたしたちは扶助協会に集っています。扶助協会でそれぞれが自分の務めを熱心に果たすことによって、明かりに油を蓄えることができます。そしてわたしたちの信仰はますます強められることでしょう。

神が、御自身を熱心に求めるすべての人に約束しておられる賜物の一つは信仰です。ブルース・R・マッコンキー長老はこのように説明しています。「信仰は個人の義にかなう行いの報いとして与えられる神の賜物です。信仰は義が行われるときに必ずもたらされます。神の律法に従順であればあるほど、信仰は豊かに与えられます。」<sup>3</sup>

信仰をはじめとする**すべての**霊的な賜物はそれを受けるにふさわしい生活を送るすべての人に与えられます。わたしたちは単に教会員であることによって主が約束しておられるすべてのものを受けることができると考えることがよくあります。しかし祝福を受けるには従順でなければなりません。主はこのように宣言しておられます。「神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。」（教義と聖約130：21）わたしたちは戒めに従うことによって強さを得ます。

したがって、主の光の中を歩みたいと思うならば、霊的な成長を遂げるための努力を怠ってはなりません。わたしたちは聖文と現代の預言者によって示されている霊的な準備を整えるための道を歩みます。また扶助協会の組織においてお互いにあふれるばかりの愛を示します。神の靈感を通して預言者によって設立され導かれるこの扶助協会は、日曜日に開かれる単なる集会ではありません。それは姉妹たちと家族





をキリストに近づける組織です。

2番目に、わたしたちが神権指導者の指示の下で、彼らと一致し、協力して働くときに、主はわたしたちの能力を増し加えて主の光の中を歩む助けをしてくださいます。救い主がこの世で過ごした最後の週に話された第2のたとえは、タラントのたとえです。物語と言わんとしているところについてはどなたも御存じだと思いますが、もう一度皆さんと一緒に考えてみたいと思います。主は「ある人が旅に出るとき、その僕どもを呼んで、自分の財産を預ける」ことを天の王国にたとえておられます。

「すなわち、それぞれの能力に応じて、ある者には5タラント、ある者には2タラント、ある者には1タラントを与えて、旅に出た。」(マタイ25:14-30)

主人がタラントの報告を求めたとき、5タラントを渡されてほかに5タラントをもうけた僕を主人は喜びました。また、2タラントを渡されてほかに2タラントをもうけた僕をも喜びました。けれども主人は1タラントを渡されて地の中に隠した僕についてはまったく喜びませんでした。主人はこの僕からタラントを取り上げて、ほかの僕に与えました(16-30節参照)。

わたしたちのタラントは奉仕の召しを受けたときに開発されることをわた

しは深く信じています。召しを忠実に受け入れるならば、隠れていた才能を発見することができます。愛、憐れみ、識別力、友達になること、平和をつくり出す人、教師、指導者、主婦、作家、研究者になること、これらは皆、才能です。

10代のとき、わたしは両親とともにステーキ大会に出席しました。ハロルド・B・リー長老が大会を管理し、話しました。

わたしの父は、10エーカーもあるいちご畑に徹夜で水やりをしてきたところでした。必死で睡魔と闘っていましたが、ほとんどの時間を居眠りしていたようでした。しかし、父はリー長老が話されることを知っていたのでステーキ大会を欠席するようなことは考えもしませんでした。

リー長老が立ち上がって、聴衆の中から何人かの若い女性を呼び出し、証をするように依頼し始めたときは皆少しばかり驚きました。勤のいい父は、わたしをつついてこう言いました。「次の話者はきっとおまえだよ。」わたしは思いました。「そんなわけないでしょう。礼拝堂の後ろのホールの最前列に座っているんだから。」そう思いながら通路を見ると、説教壇までどれくらいあるの分かりました。でもわたしは、次に呼ばれてしまったのです。人生で説教壇までの距離があんなに長く感じられたことはありませんでした。

こうして、わたしはリー長老からの招きを受け入れました。自分の席に戻るとき、聞いていた人々はわたしの腕をつかんだり、手を優しくたたいたりしてくれました。わたしがその経験によって心が高められたように、わたしたちは、勇気をもって主とその指導者の招きを受け入れるとき高められます。主とともに歩むという招きは長い道のりです。

420万人の教会の姉妹たちが輪になって才能を発揮するとき、世界は変わります。一人でも変えることができます。皆さんはそれぞれに特有の才能を持っています。どうかその才能を人のために使ってください。

主の光の中を歩みたい人は、自分の

長所を発見して伸ばしましょう。主から頂いた才能を人のために使うとき、大きな喜びが得られます。

3番目に、3つのたとえの最後で、主は**人に仕えること**によって光の中を歩むように招いておられます。羊とやぎのたとえで、主は右にいる羊にこう言われました。

「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。

あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。……

……あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:34-40)

光の中を歩む人は孤独ではありません。兄弟姉妹と一緒にです。わたしたちは家族を教えて強くします。また、ワードの家族を愛し、彼らに奉仕して、各会員に手を差し伸べます。

預言者ジョセフ・スミスはこう招いています。「人に罪を捨てさせるのに、その人の手を取って優しく導く以上に効果的なことはない。しかし不親切な態度を示されると、何とその影響力は大きいことか。わたしの心はすさび、気持ちが悪くなってしまふ。」<sup>4</sup>

わたしたちは皆エライザ・R・スノーの話に力づけられます。「神は見えておられます。天使はあなたの隠れた行いを記録しています。……日々祈り、自らを高めて、子供たちを社会のために役立つ、礼儀正しい立派な子に育てましょう。」

また、こう言っています。「幸せな家庭を築き、子供たちを悪い仲間から遠ざけましょう。子供の身なりを整えるときは、彼らを高め、将来の神の王国で働くための備えとなる原則で身を飾ることを忘れてはなりません。」<sup>5</sup>

主の光の中を歩むという招きを真心から受け入れるとき、わたしたちには霊的な備えができ、才能を磨き、神の

家族に手を差し伸べるのです。

主の光の中を歩むとき、わたしたちは勇気と確信とビジョンと永遠の価値を備えた女性になります。

ともに霊的な強さを身に付け、世に真理を輝かせ、家族をたたえましょう。

わたしたちは世界を結ぶ姉妹の安全と守りの輪、末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会です。

皆さんを愛し、皆さんを必要としている主や姉妹たちと、安らぎを共にしましょう。

イザヤは現代を予見していました。すべての民が主の家に行き、主の光の中を歩むのを見ました。主は皆さんが善への大きな力となり、神権者の力ある伴侶となることを御存じでした。扶助協会は王国の神権者の指示の下に、地上に神の王国を建設します。王国は必ず建てられ、キリスト御自身が統治されます。主の招きを受け入れるすべての人は主に抱かれ、この優しい御言葉<sup>みことば</sup>を耳にするのです。「[わたしの] 良い忠実な僕よ、よくやった。……わたしの父に祝福された人たちよ……あなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。」(マタイ25:23, 34)

世界中の姉妹の皆さんにイエス・キリストの福音が真実であることを証します。主は手を広げておられます。主の計画は明らかで、主の招きは真実です。神権の管理と協調の下、女性とその家族に昇栄をもたらす扶助協会の重要な役割を心に留め、人々の模範となって真理を擁護することができますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. *Faith Precedes the Miracle* (1972), 256.
2. 許可を得て引用。
3. *Mormon Doctrine*, 2nd ed. (1962), 264.
4. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, sel. Joseph Fielding Smith (1976), 240.
5. *Woman's Exponent*, 1 May 1891, 164

# 扶助協会へ おいでください

中央扶助協会第一副会長  
バージニア・U・ジェンセン

**皆さんがどこの出身で、どのような弱点があり、どのような容姿であるかは問題ではありません。皆さんは扶助協会の一員なのです。主は皆さんを一個人として、また全体としても愛しておられます。**



今年4月の総大会で、わたしたち扶助協会会長はボイド・K・パッカー会長代理がこの説教壇に立って語ったことを聞いて喜びました。パッカー会長はこのように述べました。「わたしの目的は、……すべての女性の加入と出席を促し、あらゆるレベルの神権指導者の行動を求めて、扶助協会がさらに繁栄するように助けることです。」<sup>1</sup>

姉妹の皆さん、今晚わたしがお話しする目的もこれと同じです。メアリー・エレン・スムート会長は招きについてお話ししました。わたしも皆さんをお招きしたいと思います。扶助協会へおいでください。

扶助協会は神権の権能によって組織

され、今日同じ権能によって導かれています。預言者ジョセフ・スミスは神権についてこのように述べています。「神権とは神の永遠の権能であって、それにより宇宙は造られ、支配され、もろもろの星が存在するようになって……いるのである。」<sup>2</sup> ジョージ・アルバート・スミス大管長は特別に教会の女性に向かってお話しした折りに、扶助協会についてこのように述べています。「それは主の預言者に啓示された結果であり、それを皆さんに与えたのは神です。」<sup>3</sup> このように預言者が持つ神権の権能によって創設された組織をわたしたちはどのように考えたらよいでしょうか。わたしたち扶助協会の指導者は、神権の一補助組織として女性とその家族をキリストのみもとへ近づけるために働いています。

パッカー会長代理がお話ししましたが、扶助協会はなぜわたしたちに「加入と出席を促し」ているのでしょうか。

扶助協会のプログラムは、女性自分にとってまた家族にとってこの世でどのような意味と目的があるかを見いだせるように助けることを目指しています。スペンサー・W・キンボール大管長によれば、「女性に与えられた約束の中で福音とイエス・キリストの教会を通してもたらされるもの以上に偉大で輝かしい約束はありません。」<sup>4</sup> 現在社会の至る所で、女性と家族が重大な危機に立たされています。結婚生活の

崩壊はその数を増して、危機的な水準に達しています。驚くほど多くの子供たちが虐待を受け、放置されています。安易な方法を選び、政治家が認めることを行っていれば間違いないと勧める耳障りな不協和音が支配する社会の中で、女性たちは義になかった真理を見いだそうと一生懸命に努力しています。420万人の扶助協会会員の中にも傷つき、混乱している人々が大勢います。姉妹の皆さん、わたしたちはどのようなものを手にしているかをはっきりと知っているのでしょうか。わたしたちが何者であるかを理解しているのでしょうか。扶助協会という組織の中には、一人の人に慰めを与え、不安な世の中を癒す手だてと手段があることを十分に理解しているのでしょうか。

扶助協会の第1の目的はイエス・キリストを信じる信仰を築き、互いに神の王国の教義を教え合うことです。扶助協会のレッスン、活動、経験を分かち合うことを通じて、皆さんは証を得ることができます。あるいはすでに持っている証を強めることができます。究極的にはそれが扶助協会で行う唯一の最も大切な事柄と言えるでしょう。なぜならば、教会の女性たちの霊的な力と確固とした証は本人にとっても、家族にとっても、支部やワードそして世界にとっても絶対に不可欠なものだからです。

扶助協会の第2の目的は姉妹たち一人一人が天の御父の愛する霊の娘であること、このため、神の性質と神聖な行く末を受け継いでいる存在であると理解させることです。これには、あらゆる可能性のうちで最も驚くべきもの、つまり神の御前において神の相続人として永遠の命を受けることが含まれています。再びキンボール大管長の言葉を引用したいと思います。「あなたがほんとうはどのような存在であるかについてどこかほかから知ることができるのでしょうか。人生の目的について必要な説明と確かな言葉がほかから得られるのでしょうか。あなた自身の特性や個性についてほかのどこから学べるのでしょうか。』<sup>5</sup>

わたしたちは永遠に有効な権利と特

権を持つ神の娘であること、つまり忠実であることを条件として、神から祝福を受ける権利を持っていることを十分に理解するならば、世界を違った目で眺めるようになります。世界の中でわたしたちが占める立場、世界に対するわたしたちの責任について見方が変わってきます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の言葉に耳を傾けてみましょう。「自分が神の娘であり、神聖な生得権を持った神の子供であることを知ってください。愛され尊ばれていることを知りつつ、また、自分が神の王国の一員であり、そこには他の人に転嫁しえない皆さんの業があることを知りつつ、日の光の中を頭を高く上げて歩いて下さい。』<sup>6</sup>

ヒンクレー大管長が語った「ほかの人に任せることができない」業とは何でしょうか。皆さんが想像するとおり、答えは扶助協会の中に見いだすことができます。扶助協会の第3の目的は、家族、ワード、地域社会の人々に手を差し伸べ、奉仕するよう姉妹たちに勧めることです。わたしたちは姉妹として、主の光の中を歩むよう互いに助け合う能力と責任があります。住む場所や年齢、国籍、既婚か未婚か、教会の召しなどにかかわらず、わたしたちの周囲には愛と奉仕を必要としている人々があります。

先ごろ亡くなったマザー・テレサの生涯と働きについては皆さんもよく御存じだと思います。彼女は人生の大半を世界中の貧しい人々、貧窮している人々の間で過ごし、彼らの悲しみと苦しみを和らげるために貢献しました。マザー・テレサはかつてオーストラリアにいたとき、一人暮らしをしていたアボリジニ人の男性の住まいを掃除してあげることにしました。小屋には美しいランプがありましたが、使われていませんでした。なぜ、ランプをともしないのかと尋ねると、彼はこう答えました。「だれも来ないからです。」マザー・テレサは彼がランプをともしようになることを約束しました。シスターを訪問させることを約束したのです。後にこの人はマザー・テレサを訪れる人に次のような言葉を託しました。「わ

たしの友達に伝えてください。彼女がわたしの生活にともしてくれた光は今も燃えています。』<sup>7</sup>

扶助協会の姉妹たちは奉仕を行う対象となる人々の生活に、手作りのパンや食べ物とともに光をもたらすことができます。わたしたちは希望を与え、人々を高め、鼓舞することができます。キリストについて教え、人々にキリストの光の中に平安と慰めを見いださせることができます。女性であるわたしたちは、愛し養うことがごく自然にできます。女性は子供たちを教え、友達を支え、夫を励まし、落胆した人を元気づけます。女性は命を与え、生きているものを養う役割を担っています。だれにも何か与えるもの、何か分かち合うものがあり、だれか奉仕する対象となる人がいます。扶助協会の第2代会長であったエライザ・R・スノーはこのように宣言しています。「孤立しているという理由から……また、取り囲まれている世界が小さすぎるという理由から、地上に神の王国を確立するために何の貢献もできない姉妹は一人もいません。』<sup>8</sup>

扶助協会の第4の目的は家族を強め、家族を守ることです。歴史を通じてこの強さと守りを現在ほど必要とされている時はありません。家族を退廃から



ジョセフ・スミスとエマ・スミスの像。今日では世界的な組織となった扶助協会の前身であるノーブー夫人扶助協会の1842年の設立を記念して作られた。



守る最強の力は信仰篤く、義にかなう母親にあるとわたしは心から信じています。1993年にヒンクレイ大管長はこのような述べています。「すべての母親に申し上げます。皆さんの召しは神聖なものです。皆さんの代わりを務められる人はだれもいません。自分がこの世に生を与えた子供を、愛と安らぎと誠実さをもって育てることほど大きな責任と義務はありません。」<sup>9</sup>

わたしたちは中央扶助協会会長として、母親であることは女性が携わることのできる最も高貴な業であると改めて断言します。けれども、わたしたちはこのように断言しながらも、教会で最も献身的に働いている女性たちの中に母親を経験する機会をまだ得ていない女性が大量にいることを忘れてはいません。このような女性に対し、ダリン・H・オークス長老はこのような述べています。「わたしたちは、進歩を望んでも現在は理想的な機会と基本的な条件を欠いている、ふさわしくすばらしい末日聖徒が大勢いることを理解しています。独身生活、子供を授からない生活、死、離婚は理想を妨げ、約束された祝福の実現を遅れさせます。さらに、家庭にとどまって母親あるいは主婦としての務めを果たしたいと願っていても、やむなく外に働きに出なければならない女性もいます。しかし、このような苦しみは一時的なものです。戒めに従い、聖約を忠実に守り、正しい望みを抱く神の息子、娘たちには、永遠の世界では何の祝福も拒まれないと、主は約束されました。」<sup>10</sup>

第5の目的は、必要とされ、招き入れられ、尊重され、愛されていることを姉妹たち一人一人が感じられるようにすることです。

わたしたちは扶助協会での互いの愛と天の御父への愛を分かち合います。最近、一人の姉妹が扶助協会の一員であることについてこのように感想を話してくれました。「わたしは姉妹らしさ、女性らしさの持つすばらしい意味を感じることができましたが、〔扶助協会には〕ほかのどこにも見いだすことのできない癒しの力があることに気づきました。」

扶助協会はどなたでも歓迎します。歓迎の対象となる末日聖徒の女性の基準というものは存在しません。皆さんがどこの出身で、どのような弱点があり、どのような容姿であるかは問題ではありません。皆さんは扶助協会の一員なのです。主は皆さんを一個人として、また全体としても愛しておられます。わたしたちは普通の女性ではありません。わたしたちは聖約の女性であり、真理を知り、イエス・キリストの福音を受け入れ、主に従い、主の御心を行うことを聖約した女性です。主は、人の子らの間で主の偉大な末日の御業を推し進めるために一人一人が自分のなすべきことを行うよう望んでおられます。このように、わたしたちは扶助協会を必要としており、扶助協会はわたしたちを必要としているのです。

第6の目的は神権者を支持することの大切さと、聖なる神殿の聖約を交わしそれを守ることによってもたらされる祝福を姉妹たち一人一人が理解するように助けることです。わたしたちは神殿で天の御父と永遠の聖約を交わします。わたしたちが御父に約束すると、御父はその見返りとして驚くほど大きな約束をお与えになります。あなた自身の儀式または亡くなった親族の儀式にかかわらず、今度神殿に参入する際は、神が御自身の娘であるあなたと交わされる約束によく注意してください。神の神聖な殿堂である神殿の隅々に、慰めをもたらす聖約、つまり神の永遠の愛があなた個人に向けられているという確信が満ちあふれています。

教義と聖約第115章でわたしたちは次のように勧告されています。「立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗とな

るためであり、シオンの地とそのステークに集合することが、防御のためとなり、また嵐……の避け所となるためである。」<sup>11</sup> 姉妹の皆さん、わたしたちは扶助協会のプログラムについて考えるときに、プログラムを実施することによって扶助協会がわたしたちとほかの人々にとって嵐からの防御となり、避け所となるようにしようではありませんか。パッカー会長代理はこのように述べています。「強固な扶助協会は、母親と娘、ひとり親や独身の姉妹、お年寄り、病弱な人に力強い守りと癒しをもたらします。」<sup>12</sup>

わたしは扶助協会が神聖な起源を有していることを証します。すべての人を扶助協会にお招きしたいと思います。扶助協会が、天の御父が意図しておられるように、皆さんにとって祝福となるように願っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 「扶助協会」『聖徒の道』1998年7月号、77
2. 「聖約を守り、神権を尊ぶ」『聖徒の道』1994年1月号、43—44、ジームズ・E・ファウスト長老による引用
3. "Address to Members of the Relief Society", *The Relief Society Magazine*, Dec. 1945, 717.
4. *My Beloved Sisters* (1979), 43.
5. *My Beloved Sisters*, 43.
6. 「天父から受け継いだ資質に恥じない生き方」『聖徒の道』1984年1月号、151
7. See *My Life for the Poor: Mother Teresa of Calcutta*, ed. Jose Luis Gonzales-Balado and Janet N. Playfoot (1985), 76.
8. *Woman's Exponent*, 15 Sept. 1873, 62.
9. 「子をその行くべき道に従って教えよ」『聖徒の道』1994年1月号、67
10. 「人に幸福を与える偉大な計画」『聖徒の道』1994年1月号、84
11. 教義と聖約115:5—6
12. 「扶助協会」『聖徒の道』1998年7月号、79

# わたしたちは 独りではない

シェリー・L・デュー  
中央扶助協会第二副会長

わたしたちは、神会の第3位の御方が絶えず<sup>はんりよ</sup>伴侶となり、日々の生活で啓示を受ける特権にあずかることができると約束されています。



3年ほど前のことですが、ある日の朝早くわたしは電話でとても恐ろしい知らせを受けました。弟のスティーブが、夜中にひどい心臓発作を起こして死んでしまったのです。わたしは突然に、何の前触れもなく、最も信頼する友であった弟を失ってしまいました。

それから数日の間に、スティーブを愛する多くの人々と彼の家族が、コロラドにある彼の自宅に集まりました。しかし葬儀を終えてから、わたしは初めて、自分の親友7人が葬儀に参列するためソルトレーク・シティーから600キロも離れたコロラドまで駆けつけてくれたことを知りました。その友人たちは弟に会ったことのない人ばかりでした。彼らはわたしを助けに来てくれた

のです。親友に囲まれ、「ただ、あなたを今日独りにしただけなの」と言われたとき、わたしがどんなふう感じたか、皆さんは想像できることでしょう。彼らは言葉と行いによって、神聖な原則を教えてくださいました。だれにとっても、独りであるのは良いことではありません。また独りぼっちになることを望んでいる人もいません。

孤独は現世で経験しなければならぬ痛みの一つかもしれません。しかし、主はその憐れみによって、わたしたちが現世で試練を経験するだけでなく、喜びをも経験することができるように、道を備えてくださいました。

わたしがこのことについて考え始めたのは、先日出席したある集会で、話者が福音に従って生活するのをひどく重荷に感じている様子を知ったときからでした。集会の終わるころになると、わたしは心が重くなりました。彼は、福音に従って生活するのを、あたかも刑務所で一生岩をハンマーで砕いて暮らす刑を言い渡されたかのようにとらえていたのです。信仰に多くの犠牲が求められることは認めますが、福音に従う生活はそこまで困難なものではありません。難しいのは、聖約に対して妥協したり、価値あるものを汚したりしたときに、**元の生活に戻すことです**。この福音はよきおとずれであり、現世で経験する間違い、心の痛み、失望に対処する方法を教えてくださいます。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であ

ることによってその特権を手にすることができます。ここに集っているのは少数ですが、わたしたちは皆、神の神権を有している人々に導かれています。この神権は、地上で最も堅固で、最も神聖な力です。わたしたちは神の預言者によって女性のために設立された唯一の組織である扶助協会の一員です。そして今晚、わたしたちは**生ける**預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長の説教を伺います。ヒンクレー大管長は、この時代にあつて、主から油注がれた人です。わたしはヒンクレー大管長が、預言者という言葉が持つあらゆる意味での預言者であり、聞く耳を持つすべての人に祝福となる啓示を受けていることを証します。

これらのすばらしい特権にもう一つの事柄を付け加えたいと思います。ニーファイはこのように教えています。「あなたがたが……聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。」(2ニーファイ32:5) 何とすばらしい特権であり、約束でしょうか。ロレンゾ・スノー大管長は、「わたしたちが光を知り、暗闇の世界にとどまることのないよう、……毎日の生活において御霊の現れを受けるのは、末日聖徒全員に与えられている特権」であると述べています (Conference Report, 1899年4月, 52参照)。またスノー大管長の姉であるエライザ・R・スノーは次のように述べています。「あなたがたは〔聖徒たち〕に、この世的な方法の愚かさについて……最後の裁きの日まで語り続けることができるでしょう。けれども、彼らは心に何も感じないでしょう。しかし、……聖霊を受けられる状態に聖徒を導いたら、それはこの世の力に対する確かな守りとなるでしょう。」(Woman's Exponent, 1873年9月15日付, 63) わたしたちは、神会の第3位の御方が絶えず伴侶となり、日々の生活で啓示を受ける特権にあずかることができると約束されています。ですから、わたしたちは独りではないのです。

聖霊はわたしたちの思いと心を広げ、理解力を増し加えてくださいます。また、弱点を克服し、誘惑に立ち向かうとき



に助けを与えてくださいます。謙遜けんそんになり、悔い改めるよう啓発してください。奇跡的な方法により、わたしたちを導き、守ってくださいます。知恵、神からの励まし、心の平安、変わろうという望み、人間の哲学と明らかにされた真理の違いを区別する能力を与えてくださいます。聖霊は、教導者であり、御父と御子の使者であります。そして、御二方の栄光、御二方が全地に住む人々のために存在しておられること、御二方がわたしたちと個人的に交流を図られることを証されます。御霊がおいでにならなければ、わたしたちは自らの使命を理解したり、自分の進む道が正しいと確認したりすることが不可能です。人からのいかなる慰めも、慰め主に取って代わることはできません。ヒンクレー大管長は次のように語っています。「人生でもたらされる祝福で、聖霊を伴侶とする……こと以上に大いなるものはありません。」(マサチューセッツ州ボストン地区大会、1995年4月22日)しかしブリガム・ヤングは次のように嘆いています。「〔わたしたちは、〕……主の御霊を授かり、導きを受けていることでしょうか。しかし、この分野について言えば、わたしたちは、与えられている特権をほとんど生かしていません。」(Deseret News Semi-Weekly, 12:104-5)。

時満ちる神権時代の終盤を迎えている現在、サタンとその軍勢が、欺き、

落胆、絶望によって惑わそうと地上を徘徊はいかいするこの時期なまにあつて、聖霊の賜物という、地上で最も効能のある解毒剤で身を守っているわたしたちが、この賜物を常に活用していないというようなことがあつてよいのでしょうか。最小限の努力で済ませ、手の届くところにある力と守りに頼ろうとしないわたしたちは霊的な罪悪を犯しているのではないのでしょうか。基本的に神と共同で行うべき事柄を自分の力だけで行おうとすることによって、主が与えようとしておられるものを十分受けられずに、わずかな祝福だけで満足してはいないのでしょうか。

この教会は、啓示の教会です。わたしたちにとっての課題は、主がわたしたちに語ってくださるかどうかではありません。問題は、主が語られる事柄に耳を傾けることなのです。主はこのように約束しておられます。「尋ねる度に、わたしの御霊からの教えを受け……る。」(教義と聖約6:14)

扶助協会の姉妹みまごであるわたしたちにとって、主の御声を聞く方法を学ぶことはとても大切です。わたしの心配は、わたしたちが御霊の導きを求めようとしていないことです。その方法が分からず、また、それを真っ先に学ぼうともしないのかもしれませんが。あるいは、自分の弱点に気づいているために自分がふさわしくないと考え、主がほんとうにわたしたちに語りかけてく

ださると信じることができず、そのために啓示を求めようとしなないのかもしれませんが。それとも、生活の中で、御霊に関する事柄を求める時間もないほど多くの物事に忙殺されているのでしょうか。そうだとしたら、何と悲しいことでしょうか。チャレンジに囲まれているときにわたしたちが自力で絞り出すことができない楽観的な考え方や知恵を聖霊は祝福してください。義にかなう末日聖徒の女性の間で敵対者が好んで使う策略の一つに、ただ忙しくさせるという手段があります。慌ただしい毎日にかまけて、イエス・キリストの福音を熱心に研究しようとしていない状態です。姉妹の皆さん、わたしたちは御霊にかかわる事柄を求めないまま生活することはできないのです。これは非常に重要な問題です。わたしたちを母親、姉妹、指導者、友人として頼って来る人々が大勢います。主に導かれている女性は、答えと平安をどこに求めたらよいかを知っています。そのような女性は御霊に助言を仰ぎ、御霊に導かれている指導者に助言を求めているため、決して易しくない決断を下し、自信をもって問題に対処することができます。

このように、わたしたちには主の御声を聞く方法を学ぶという責任があります。わたしはある日、ニーファイが船を作る方法を示している箇所を読んでいたとき、「ニーファイはどのように

して主がおっしゃることをはっきりと理解したのだろう」と考えている自分に気がつきました。その間いをきっかけに、わたしは神と人が直接対話している箇所を聖文の中からすべて探してみようと思立ったのです。そして、見つけたページの片隅に赤で小さくX印を付けました。それから長い年月を経た現在、わたしの聖典は小さなX印でいっぱいになっています。一つ一つのX印は主が確かに主の民とお話しになるという証拠です。

これはわたしの経験です。わたしはあることでがっかりして、世間から見放されたかのように寂しい気持ちでいました。そんなある日、心に慰めを得ようと聖典をひもといていると、ある箇所を読む必要があると強く感じました。その聖句からさらに多くの聖句を読むことになり、しばらくの間聖句探しに熱中しました。しかしそれから3年もしないうちに、以前とは別の聖句が暗闇に光るネオンのようにわたしの目に留まりました。わたしはそのときに初めて、主がその期間に教えようとしておられたこと、贖いの効力がわたしたちの重荷を軽くしてくれることを理解したのです。わたしが今まで受けた中でも、幾つかの最もはっきりとした御霊の促しは、聖文を熱心に調べていたときに訪れたのです。聖文を調べることは啓示を受けるための手段であり、わたしたちに御霊の言葉を教えてくれます。

霊的な事柄に耳を傾ける能力は、わたしたちがどれだけ進んでそれを学ぼうとするかということと密接にかかわっています。ヒンクレイ大管長はよくこのように語っています。「あることを成し遂げるために自分が知っている唯一の方法は、ひざまずいて神に助けを求め、それから立ち上がって働くことです。」御霊の言葉を学ぶ究極の方法は、信仰を持ち、同時に熱心に努力することです。救い主はこのように教えられました。「義に飢え渴いている人々は皆、幸いである。彼らは聖霊に満たされるからである。」(3ネーファイ12:6) 飢え渴くとは霊的な努力をするということにほかなりません。神殿における礼拝、

いっそう聖くなるために悔い改めること、人の過ちを赦し自分の過ちの赦しを請うこと、心からの断食と祈り、これらはすべて、わたしたちに御霊を受けやすい状態をもたらしてくれます。霊的な努力は**効果があり**、主の御声を聞くための鍵となります。

ブルース・R・マッコンキー長老はこのように述べています。「その結果としてわたしたちが……聖霊の賜物を享受できるのであれば、どれほど高価な代価であっても……どれほど大きな犠牲であっても、払いすぎることではない。」(A New Witness for the Articles of Faith [1984], 253) わたしたちの盾となり導きとなる聖霊を常に伴侶とするために、わたしたちは何を進んで行い、どんな弱点あるいは欲を捨てることができるでしょうか。

これは重要な質問であり、わたしたちがはっきりと理解しておくべきことです。敵対する者はわたしたち教会の女性を御霊から遠ざけることを**喜びと**しています。サタンは末日における神の王国の中でわたしたちが与える影響やわたしたちの存在がどれほど大きいかを知っています。

この世の人々はどこに高潔で正直な女性、すなわちキリストの光に照らされて輝くばかりの表情によって徳のかがり火をともしている女性を探すことができるでしょうか。わたしたち、扶助協会の姉妹たちです。これは誇張ではなく、わたしたちがそうあるべきだと命じられている指令なのです。地球上のどの女性組織も、わたしたちほど主から期待されている女性たちはいません。わたしたちは、主の御声を聞き、それに従うことのできる女性です。主はこの教会の女性たちを愛しておられ、世界中でわたしたちにしかできない変化を生じさせることを期待しておられます。

この春、わたしはシベリアで一日を過ごす機会がありました。地元の姉妹たちに会うため貸しホールに入って行くときに、わたしは圧倒されるほどの御霊を感じました。わたしは主が愛しておられる女性、ロシアの開拓者である姉妹たちを前にしていることをはっ

きりと知りました。ノーブーでエマ・スミスやエライザ・スノーに会ったとしたら、やはりここで感じたと同じような印象を持つのではないかと思いました。そこでそのように感じたのはわたしだけではありませんでした。集会が終わろうとしていたとき、伝道部長夫人のエフィモフ姉妹がわたしに寄り添い、彼女が知っているありったけの英語で「とても聖霊」と言いました。ほんとうにそのとおりでした。最善を尽くしている義にかなった女性の中で御霊はあふれ出さずにはいられないのです。

今世紀中、中央扶助協会の集会はあと1度しか開かれませんが、世界史上非常に大切なこの時期に主はわたしたちを信頼して、地上に遣わしてくださいました。わたしたちは、前世での長い歳月をかけた訓練で準備してきたとおりの女性にならなければなりません。わたしたちは能力以下のことを行って満足していることはできません。また、うわべだけで御霊の賜物を探し求めているではありません。

わたしたちには試練に立ち向かう力が与えられています。今夜わたしたちは、主の御霊を得るために障害となるものは何もないことを確認できたと思います。わたしたちが霊的に成長することを改めて決意し、生活の中で天よりの導きが得られるようにもう少し努力しようではありませんか。わたしたちを主に導き、主と結びつけ、主に対する証を解くことのできない封印で結び固めてくださるのは聖霊にほかなりません。

わたしは、神がわたしたちの御父であられ、イエス・キリストが贖い主であられること、また御二方は、わたしたちが決して取り残されないようにその道を備えておられることを知っています。わたしが心から必要としたときに友人が助けてくれたように、わたしたちが聖霊という伴侶によって強められ導かれますように。わたしたちが地上に遣わされている使命を果たすために、全力を尽くして主の御声を聞きそれを心に留めることができるよう願っています。聖なるイエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 主の光の中を歩む

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

**皆さんへのメッセージとチャレンジ、そしてわたしの心の内の願いは、皆さんが御自分の家庭を強めることを改めて確認してこのことに献身していただきたいということです。**



**愛**する姉妹の皆さん、まず最初にわたしがどれだけ教会の女性たちに感謝しているかを伝えたいと思います。皆さんは教会にとって不可欠で最も大切な存在です。教会は皆さんがいなければ、正常に機能していきなないでしょう。

皆さんは靈感を与え、調和を図り、信仰と善い行いの大きな源となっています。また、献身と忠実さと達成の基となる存在です。世界中で前進を続けるこの御業の中で、皆さんの果たす偉大な役割を否定できる人などいないでしょう。皆さんは、様々な組織の中で非常にうまく教えています。皆さんがよく備えている姿はすべての人にとっての模範です。皆さん一人一人は扶助協会というこの壮大な組織、400万人以上の姉妹たちから成る大きな家族の一員

です。全世界に広がる姉妹たちは、計り知れないほど多くの善を行う力を秘めています。

皆さんは家庭の守り手であり、夫に励ましを与え、信仰の中で子供を教え養います。困難でつらい生活を送っている方もいますが、ほとんど不平を漏らさずに頑張っています。わたしたちは皆さんから大きな恩恵を受けています。

かつてジョセフ・F・スミス大管長は扶助協会についてこう言いました。

「この組織は、神によってつくられました。人の魂の救いに携わるために、神によって承認され、設立され、聖別されています。したがってこれに匹敵する組織は存在しません。……扶助協会と同じ位置を占め、同じ主義を唱える組織はほかにありません。……」

〔扶助協会〕を最優先し、世のいかなる組織よりも気高く、最も好ましく誠実な組織としましょう。皆さんは、善を行い、最も気高く、清く、大いなる者となり、義に献身するよう、神の預言者から召されているのです。……」(Minutes of the General Board of the Relief Society, 17 Mar. 1914, Historical Department Archives, The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 54-56)

大変なことですね。我が家の娘や孫が結婚するとき、妻はある特別な贈り物をします。それは、掃除機や皿などの実用品ではありません。きれいな額に収めた、妻の母方の7代にわたる系図表なのです。高祖母から始まり、曾祖母、祖母、母親、そして妻自身、娘、そして新たに結婚した孫娘の写真で構

成されたものです。

7代にわたるその写真の女性たちは、だれもが扶助協会の働き手です。このすてきな系図表は、若い世代に彼らの担う偉大な責任を思い起こさせるまたとない贈り物となります。またそれは、扶助協会でも奉仕をしてきた母親や祖母たちが培ってきた伝統を継承していく義務をも思い起こさせてくれます。

皆さんと皆さんの祖先は、主の光の中を歩んできました。扶助協会の創設以来、姉妹たちの最も大切な責任は、空腹な人、衣服に不自由する人、住む所のない人が一人もいないようにすることでした。そして、姉妹たちがいる所には必ず訪問し、必要な励ましを与え、愛と関心、思いやりを示すことでしたし、今でもそうです。また、読み書きができないことによって立ち足はかかる様々な問題や能力の限界を克服するために、読み書きのできない人々の生活に物事を理解できるという望みをもたらし、読み書きを教えることも皆さんの責任の中に含まれています。

さらに、互いに敬い、愛し合う姉妹として皆さんが交わって、皆さんがいなければ寂しい境涯に一人寂しく残されてしまう無数の人々の生活に、喜びの場を提供するという祝福をもたらすことも含まれるのです。

数日前の夜、わたしは本棚から1冊の本を手に取りました。そして、ハイラム・スミスの伴侶であり、ジョセフ・スミスの義理の姉、後に大管長となった人物の母親と祖母であるメアリー・フィールディング・スミスの生涯について書かれたその本を再度読みました。彼女はイギリス生まれの改宗者で、後にカナダに移住し、30代の後半にカートランドにやってきました。そこで彼女はハイラム・スミスと出会い結婚したわけですが、当時彼には先立たれた最初の奥さんとの間に6人の子供がいました。

メアリーは夫を愛し、彼の人生はより満ち足りたものとなりました。最初のころはメアリーも幸せを感じていましたが、彼女には計り知れない悲しみを経験する出来事が待ち受けていました。彼女はぞっとするほど恐ろしい責任を背負わなければならなかったのです。

その責任とは、ノーブーを去ってアイオワを横断し、ウィンタークォーターズに行き、1848年にソルトレイク盆地に到着するまでの長い旅を終えることでした。彼女は51歳にして疲れ果て、多くの艱難に遭って弱り切ってしまい、ついに1852年9月21日にこの世を去りました。

彼女がたどった人生は当時の扶助協会の女性の代表的な例です。つまり、1842年の扶助協会の設立以前に、扶助協会の女性としてふさわしい行いがなされていたわけです。

メアリーの息子ジョセフは、暴徒から成る軍隊が彼女の夫を連れ去り、ファーウェストを威嚇していたときに生まれました。ハイラムと預言者ジョセフはミズーリ州リパティエの監獄に連れて行かれ、そこで監禁されました。ミズーリ州知事リルバーン・W・ボッグズによって発布されたモルモン撲滅令によって、彼女は世話をしていた6人の義理の子供たちと自分の息子連れてミズーリを離れました。彼女の妹マーシーは、重病のメアリーとそばに横たわる赤ん坊を幌馬車の後ろに備え付けられたベットに寝かせました。

1839年2月、まだ冬の寒さが厳しいときに、彼女たちはミズーリ州を東へ旅し、それからミシシッピ州を通過し、イリノイ州クインシーへたどり着きました。彼女たちの乗った幌馬車には衝撃を和らげてくれるスプリングはなく、でこぼこ道を通る度に痛みを感じました。

メアリーの夫と預言者がリパティエの監獄を逃れてクインシーに来てから、彼女の生活は再びよくなりました。聖徒らは後にノーブーと呼ばれる場所に移住し、ミシシッピ川付近に美しい町を設立しました。しかし、平和は長続きしませんでした。彼女の幼い子供がまだ6歳にならないころのことです。ある夜、一人の男性が家の窓をたたき「スミス姉妹、あなたのご主人が殺されました」と言いました。

ジョセフ・F・スミスは彼の母がその夜一晩中むせび泣いていたことを決して忘れませんでした。

彼女の世界は粉々に崩れ去り、今や一人で大家族の世話をしなければならなくなったのです。1846年の夏、メア

リーの家族は住み慣れた家に別れを告げ、渡し船に乗り、ミシシッピ川を渡りました。彼女は、様々な事柄を自ら整えました。牛と幌馬車を手に入れるために私財を売買したり、人から物を借りたり、あるいは物品を交換したりしました。

ウィンタークォーターズにいたとき、メアリーと彼女の兄弟はミズーリ川を下った所で食糧と衣類を調達しました。彼らには、2頭ずつの牛が繋がれた幌馬車2台がありました。ある日、野営をして朝になると、彼らの牛が2頭いなくなっていることに気づきました。幼いジョセフと彼のおじは午前中ずっといなくなった牛を探しましたが、見つかりませんでした。がっかりしたジョセフは見つからなかったことを母親に告げに戻って来ました。彼らが置かれた状況はほんとうに絶望的でした。しかし彼がお母さんの方に近寄り、目にしたのは、彼女がひざまずいて熱心に祈り、直面している問題について主と話している姿でした。祈り終えた彼女が立ち上がると、顔には笑みを浮かべていました。そして、彼女は息子と自分の兄弟に朝食を取るよう言い、自分は辺りを探して来ると言いました。彼女は小川に沿って進み、ある人が「自分はその辺りに今までいた」と言うのも聞かずに、その川の土手に沿ってまっすぐ進んで行きました。

しばらくして戻って来た彼女は、息子と彼女の兄弟を呼び寄せると、深く切り立った峡谷の底のうっそうとした柳につながれている牛を指さしました。彼女を別の方へ行かせようとした泥棒は牛を手に入れられず、牛は無事彼らのもとに戻ったのでした。

メアリーの信仰は息子の心に深い印象を残しました。彼はそのことを決して忘れはしなかったでしょうし、母親が主と近く交わっていることを信じて疑いませんでした。

彼女の牛の1頭が西部の盆地に行く途中疲れ果て弱り切ってしまい、倒れて死にそうになったとき彼女が取った行動を皆さんもよく御存じだと思います。絶望の淵に立たされた彼女は純粋な信仰を持って、聖別された油を手に入れ、



彼女の兄弟ともう一人の兄弟とでその牛に癒しの儀式を施すように頼んだのです。儀式が終わると、その牛は立ち上がり、再び活力を得て、彼らを乗せて長い旅の残りの行程を進みました。

彼女の信仰はさわやかで、純粋で、美しく、彼女の生涯はそのような信仰によって彩られていました。メアリー・フィールディング・スミスは主の光の中を歩み、彼女はその光によって生きました。すべてのことにおいて彼女はその光に導かれ、光は彼女の人生にとって道しるべとなる星となりました。メアリー・フィールディング・スミスはこの教会の女性たち、すなわち今日、世界の至る所でこのすばらしい組織の働きを引き継いでいる扶助協会の姉妹たちに対してすばらしい信仰の模範を示しました。

今日の姉妹たちは、かつての時代にはなかったチャレンジに直面しています。今日ほど悪の力が露骨に現れ、世の中にまかり通り、攻撃的である時代は少なくともわたしたちの世代にはありませんでした。かつてわたしたちにとってあえて口にするのを避けていたものが、今や時間を選ばずにわたしたちの家庭の居間で映し出されています。レポーターや専門家らは、物事をあからさまに語ることによって人々の好奇心をあおり、人々を悪に導くという事態に至らせ、感受性などというものはどこかに吹き飛ばされてしまいました。

わたしたちはわたしたちが指導者で

あると考えていた一部の人々に裏切られました。わたしたちは彼らに失望し、幻滅を感じています。しかも明るみに出た彼らの行動は氷山の一角にすぎません。その下には低俗と腐敗、ふしだらで不正直な行いという大きな塊が隠されています。

これには原因があります。それは簡単に説明できると思います。ほとんどすべての問題は人々の家庭から生まれるとわたしは信じています。変化をもたらす改革を行い、かつての神聖な物事への価値観を取り戻そうとするならば、それは家庭から始めなければなりません。家庭こそ真理を学び、高潔さを養い、しつけをし、愛をはぐくむ場所です。

現在、家庭は攻撃にさらされており、非常に多くの家族が崩壊しています。これらの家庭を愛によって治めるはずの父親はどこへ行ってしまったのでしょうか。善良な男性と結婚して、夫に愛され、夫を愛している女性は実に幸せです。子供たちを愛し、養い、教え導き、幼いときから成人するまでの間、世の嵐の中を歩む子供たちを育て守る男性と結婚した女性は幸せです。

わたしたちは家庭で人生の指針となる価値観を身に付けます。それはごく普通の家庭の中で行われます。貧しい環境に置かれている家庭であったとしても、善良な父親と母親がいればすばらしい教育が行われる場となりえます。わたしの妻はサム・レベンソンをよく引き合いに出します。彼は自分がニューヨークの住宅密集地で成長したことについて述べています。そこには何一つ良いものがなく、悪の巣窟そうくつのような所でした。このスラム街で彼の母親は8人の非常に聡明な子供たちを育てました。サム・レベンソンはこのように述べています。「家庭の道德水準は街の道德水準よりも高くなければなりませんでした。」彼の母親は子供たちが街でしているのと同じように家でも振る舞うと、このように言ったものです。「あなたたちは外で遊んでいるんじゃないのよ。あなたたちは家にいるのよ。ここは穴蔵でも、玉突き場でもないわ。ここでは誇りをもって振る舞うのよ。」

世の中が向かおうとしているこの悲惨な状況を変えることができる人がいるとしたら、それはあなたです。立ち上がりましょう。シオンの女性である皆さん、あなたを待ち受ける大きなチャレンジに立ち向かってください。

あなたを取り囲んでいる低俗で腐敗したものや誘惑に打ち勝ってください。

社会に出て働いている独身の女性と一部の既婚女性に警告の言葉をお伝えたいと思います。あなたがたは男性たちと一緒に働いています。仕事の打ち合わせと称して一緒に昼食に出かける機会が増えてきます。一緒に出張することもあり、同じホテルに宿泊することもあるでしょう。このようにしてあなたがたは男性と一緒に働きます。

このような状況をどうしても避けられないかもしれませんが、あなたは身に累を及ぼすような状況は避けられるはずで、自分に与えられた仕事をするには差し支えありません。けれども男性との間に距離を置いてください。ほかの女性の家庭を崩壊させるようなことをしてはなりません。あなたがたは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です。あなたは末日聖徒としてどのようなことを期待されているかを知っているはずで、誘惑から遠ざかってください。悪が見え隠れするような状況からは遠ざかってください。

妻であり母親である皆さんは家族にとって船の錨いかりのようなものです。皆さんは子供を産みます。それは何と偉大で神聖な責任でしょうか。1972年から1990年の間に行われた墮胎はアメリカ合衆国だけで2,700万に上るという話を聞いています。人の命の尊厳についてわたしたちの理解はどうなってしまったのでしょうか。墮胎は、紛れもなくれっきとした不快な悪であって、全世界に蔓延しつづきます。わたしはこの教会の女性たちに訴えたいと思います。この悪を避け、この悪を退けて、かりにそのときは望ましく見えてもあなたを窮地に陥れるこれらの状況に近づかないでください。墮胎を行うことが望ましい状況がまったくないわけはありません。しかし、そのようなこ

とは非常にまれであり、ほとんどあり得ないのです。皆さんは神の息子と娘たちの母親です。彼らの命は神聖です。わたしたちは彼らを守る責任を神から与えられており、この責任を軽々しく放棄することはできません。

結婚生活を実り豊かなものとし、愛を深めてください。それを大切にし、堅固で美しい関係を保つように努力してください。離婚が非常に多くなり流行とさえいえる中、様々な調査によると数年のうちに現在結婚している人々の半数が離婚するだろうと言われていきます。残念なことですが、主の家で結び固められた人々の間でもそのような事態が起こりつつあります。結婚は一つの契約であり約束です。それは全能者の計画の下に、男と女が一つになることです。結婚は壊れやすい場合もあります。したがって常に努力して夫婦愛を保つ必要があります。わたしは、夫たちの中に汚い言葉でののしる人、思いやりがなく自分勝手な人、また中には邪悪な行いに走る人がいることを聞いて非常に悲しく思います。彼らはポルノグラフィーにうつつを抜かし、自分自身、家族、さらには最も神聖な関係をも台なしにしてしまう状況を引き起こしています。

わたしは、かつては主の家で美しい若い女性の目を見詰め、祭壇を挟んで向かい合いその手を取って神聖かつ永遠の約束を交わしたものの、自制心に欠け、自分を磨くことを怠ったために、不道德と邪悪の中に墮落し主から頂いた夫婦のきずなを壊してしまう男性を哀れに思います。

姉妹たち、どうか子供たちを守ってください。彼らは邪悪な世の中に住んでおり、様々な力が子供たちを取り囲んでいます。わたしは、皆さんの子供たちの多くが正しい生活をしていることを心から誇りに思っています。しかし、その一方で、少しずつこの世的な生き方に傾いている多くの子供たちのことをとても心配しています。母親である皆さんにとって、子供たち以上に大切なものは絶対ありません。子供たちは、皆さんがこの世と永遠の世において授けられるものの中で最も貴い存

在です。皆さんは、これから年を重ねていく中で自分がこの世に招いた子供たちが正しい生活をし、徳を備え、高潔な行いをするのを目の当たりにするときに、心から幸せに思うことでしょう。

子供を養い教育する仕事は、片手間でできる責任ではないと思います。女性たちの中にはどうしても働かなければならない人々がいることは承知しています。しかし、もう少しぜいたくをしたり、もうちょっといいおもちゃを与えたいために働いている人々があまにも多いことを心配しています。

どうしても働かなければならないとすると、それによって皆さんの負担が大きくなります。子供たちの世話をおろそかにすることはできません。子供たちは、勉強、家の内外での仕事、また愛、祝福、励まし、子と母親との密接な関係といった通常母親にしかできない子供の養育において皆さんの監督が必要です。

至る所で家族が引き裂かれています。女性たちがフルタイムで二つの難しい仕事をしていこうとする中で、家族関

係にきしみが生じています。

わたしは、街の中の暴力集団や、子供による児童殺害、子供たちが刑務所での生活か死にしかつながらないことに没頭していることに憤りを感じている指導者たちと話をする機会が多くあります。わたしたちは、父親がいない状態で生まれてくる子供の激増という事態に直面しています。そのような子供たちの将来は、ほとんど例外なく、彼らが生まれた日から暗い陰が立ち込めています。したがって、どの家庭にも善い両親が必要です。

この国では、犯罪の増加に刑務所の建設が追いつかない状態です。

わたしは、母親以外にこのような状況を変えることができる人々はいないとためらうことなく言うことができます。これらの問題の根源はすべて家庭の中にあります。社会の崩壊の原因となるのは、家庭の崩壊です。

今晚、わたしが愛する姉妹の皆さんにお伝えしたいメッセージとチャレンジ、そしてわたしの心の内の願いは、皆さんが御自分の家庭を強めることを

改めて確認してこのことに献身していただきたいということです。

3年前、この集会において、わたしは大管長会と十二使徒評議会による家族に関する宣言を初めて公の場で発表いたしました。皆さんがそのコピーを持ち、時々、注意深く祈りをもって読んでいただきたいと思います。それは、結婚と家族、また全能者の永遠の計画の下に神聖なきずなで結ばれた男性と女性に関してのすばらしい教えを説いています。

最後に、教会の女性と、世に出てそれぞれの責任を果たせるように教え、訓練し、助けを得ている皆さんのすばらしい子供たちに対する心からの感謝と称賛の言葉を再度申し上げたいと思います。しかし、その責任には終わりではなく、決して完了することはありません。皆さんのうえに主の光が降り注ぎ、偉大で神聖な働きをする皆さんのうえに主の祝福がありますように。

皆さんにわたしからの祝福、証、愛をお伝えしたいと思います。イエス・キリストの御名により、アーメン。



デンプルスクウェアを見下ろすようにそびえるソルトレーク神殿。

# 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

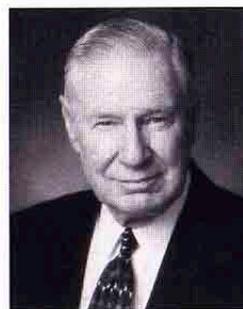
## 大管長会



第一副管長  
トーマス・S・モンソン



大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

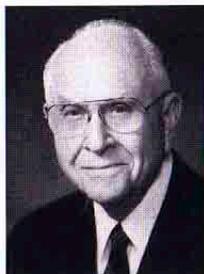
## 十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



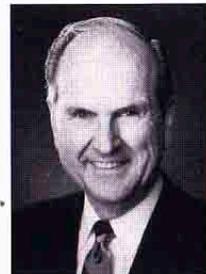
L・トム・ペリー



デビッド・B・ヘイト



ニール・A・マックスウェル



ラッセル・M・ネルソン



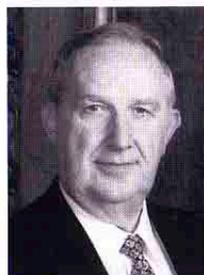
ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

## 七十人会長会



L・アルヴィン・ポーター



ジョー・J・クリステンセン



ハロルド・G・ヒラム



アール・C・ティンギー



D・トッド・クリストファーソン



マーリン・K・ジェンセン



デビッド・E・ゾルンセン

七十人第一定員会



アンヘル・アフレア    カロス・H・アマゾー    ニール・L・アンダーセン    ダラス・N・アーチボルド    ベン・B・バンクス    メリル・J・ペイトマン    ウィリアム・R・ブラッドフォード



モンティ・J・ブラフ    F・エンツィオ・ブッシュ    ジョン・K・カーマック    シェルドン・F・チャイルド    ゲーリー・J・コールマン    スペンサー・J・コンディー    ジーン・R・クック



クエンティン・L・クック    ロバート・K・デレンバック    ジョン・B・ディクソン    チャールズ・ディティエ    ローレン・C・ダン    ボーン・J・フェザーストン    ジョン・H・グローバーク



ブルース・C・ヘーフェン    F・メルビン・ハモンド    F・ハートン・ハワード    ジェイ・E・ジェンセン    ケネス・ジョンソン    L・ライオネル・ケンドリック    ウィリアム・ロルフ・カー



菊地良彦    クリー・L・コッフォード    ジョン・M・マドセン    リン・A・ミケルセン    アレクサンダー・B・モリソン    デニス・B・ノイエンシュバンダー    グレン・L・ペイス



アンドリュー・W・ピーターソン    レックス・D・ピネガー    ヒュー・W・ピノック    カール・B・プラット    セシル・O・サミュエルソン・ジュニア    ディーター・F・ウークトドルフ    フランシスコ・J・ビーナス



ランス・B・ウィックマン    リチャード・B・ワースリン    レイ・H・ウッド



W・クレイク・スウィック

七十人第二定員会



リチャード・D・オールレッド    アドス・A・アモリム    E・レイ・ペイトマン    L・エドワード・ブラウン    エラン・A・コール    J・R・クリステンセン



リチャード・E・クック    クラウディオ・R・M・コスタ    デュエイン・B・ジェラード    ロナルド・T・ハルバーソン    ウェイン・M・ハンコック    J・ケント・ジョリー



W・ドン・ラッド    ジェームズ・O・メーソン    リチャード・J・メイズ    デール・E・ミラー    アール・M・モンソン    メリル・C・オークス



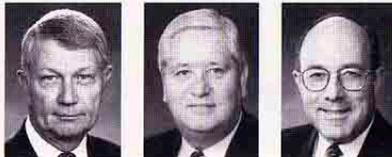
ブルース・D・ポーター    H・ブライアン・リチャーズ    リン・G・ロビンズ    ネット・B・ルーシェ    デニス・E・シモンズ    ドナルド・L・ステアリー



ジェラルド・L・テラー    D・リー・トブラー    リチャード・E・ターラー・シニア    ゴードン・T・ワッツ    スティーブン・A・ウェスト    ロバート・J・ホエットン



管理監督会



第一副監督 リチャード・C・エッジリー    管理監督 H・デビッド・バートン    第二副監督 キース・B・マクマリン

(1998年10月4日現在)

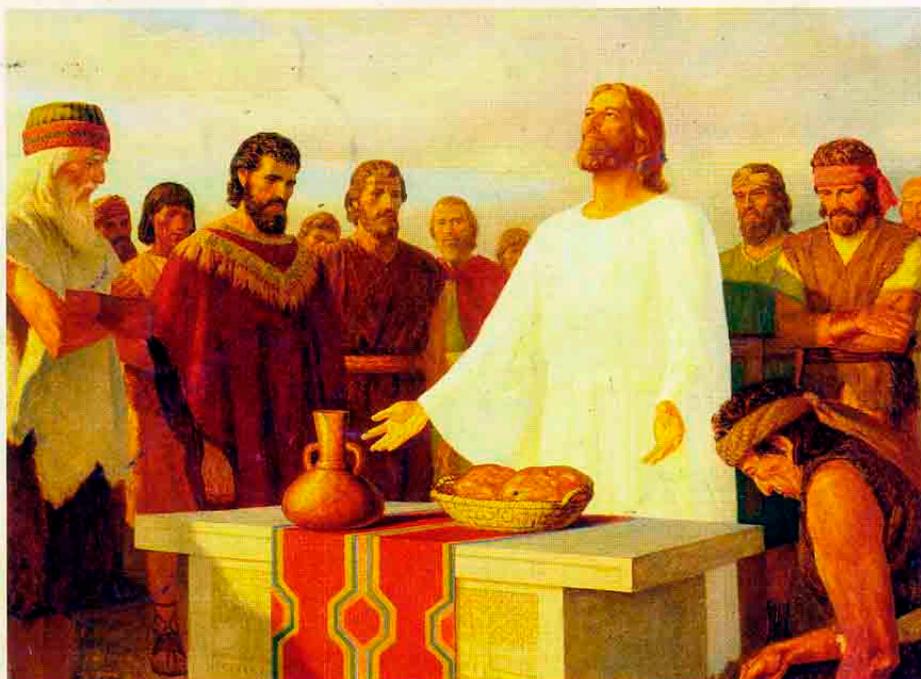


「命の木」 ジェーミー・T・メンデーム画

リーハイはこう語っている。「1本の木が見えたが、その実は人を幸せにする好ましいものであった。……そしてその木の実を食べると、わたしの心は非常に大きな喜びに満たされた。(1ニーファイ8：10、12)

「それでわたしも辺りを見回すと、水の流れている川の向こう側に、一つの大きく広々とした建物が見えた。」(26節)

そこに入った大勢の人々は、「わたしやほかにもその実を食べていた人々を指さしてあざけり笑った。しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった。」(33節)



**イ**エス・キリストは、旧世界と同様に、新世界でも弟子たちの間で<sup>せいさんしき</sup>聖餐式を執り行うようお定めになった。聖餐の儀式について復活されたイエス・キリストはこのようにおっしゃっている。「それは、あなたがたがいつもわたしを覚えているということ<sup>あかし</sup>を、父に示す証となるであろう。そして、あなたがたは、いつもわたしを覚えているならば、わたしの<sup>みたま</sup>御霊を受けるであろう。」(3ニーファイ18:7)

第168回半期総大会報告  
1998年10月3、4日



2902999813006  
99981 300

# 指導者の言葉

1998年10月3日、4日に開かれた総大会のお話から

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちはキリストを信じ、キリストを礼拝しています。わたしたちはまた、神聖な聖約の下に、キリストの聖なる御名を自分の身に受けています。わたしたちの所属する教会は、キリストの御名を頂いています。キリストは、わたしたちの主であり、わたしたちの救い主であり、わたしたちのあがない主です。そのあがないによって、救いや永遠の命とともに、贖罪がもたらされたのです。

第一副管長 トーマス・S・モンソン

グラスias、ダンケ、メルシーなど、言葉はちがっても、「ありがとう」をよく使えば、自分のれいは高まり、友情の輪が広がり、みなさんが完成に向かって旅する時、より高い道を歩むことができます。「ありがとう」と言う時、そこには気取りもうそもありません。

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

親の言葉に耳をかたむけてください。同意するかないかにかかわらず、親のすすめに聞き従ってください。かれらはほかのだれよりもみなさんを愛し、みなさんのためを思っています。

十二使徒定員会 L・トム・ペリー

みなさんは自分自身を、栄えとほまれをあたえられた天使の子供のような存在として考えたことがあるでしょうか。天の御父の子供たちの価値は、神の目に大いなるものです。主がみなさんを大いなる者として見ていらっしゃる

たら、みなさんは自分自身をどのように見るべきでしょうか。

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン

わたしたちは何者でしょうか。神の子供です。わたしたちの可能性は無限であり、神聖なものを受けます。わたしたちが、思いと行いにおいて、いつもこの受けつぎを尊重できますように。

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット

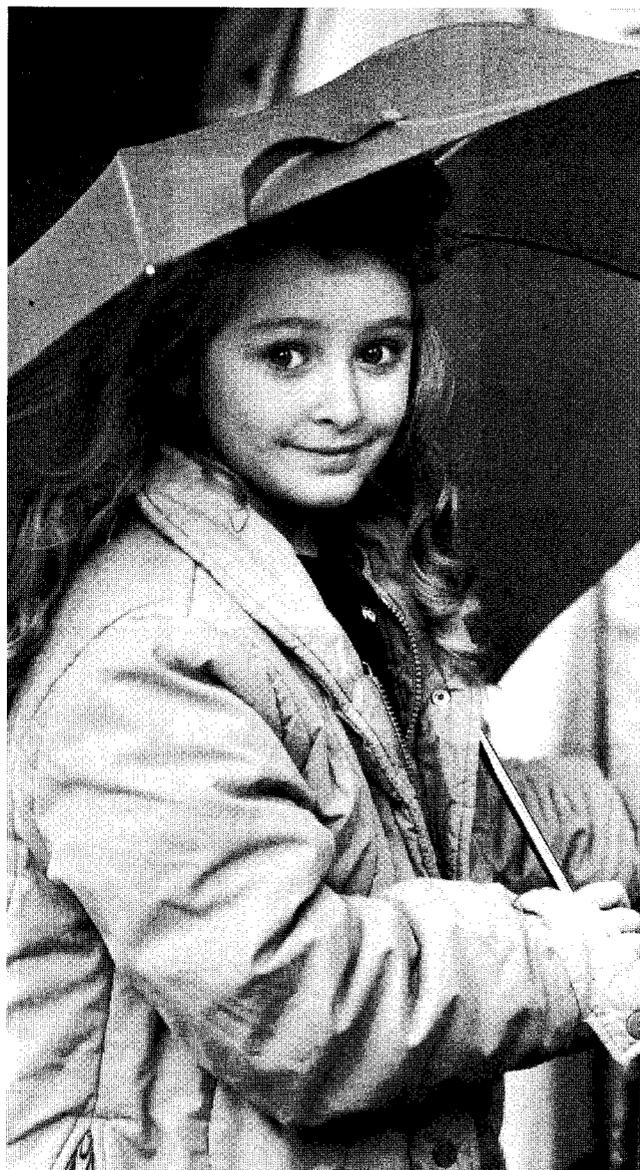
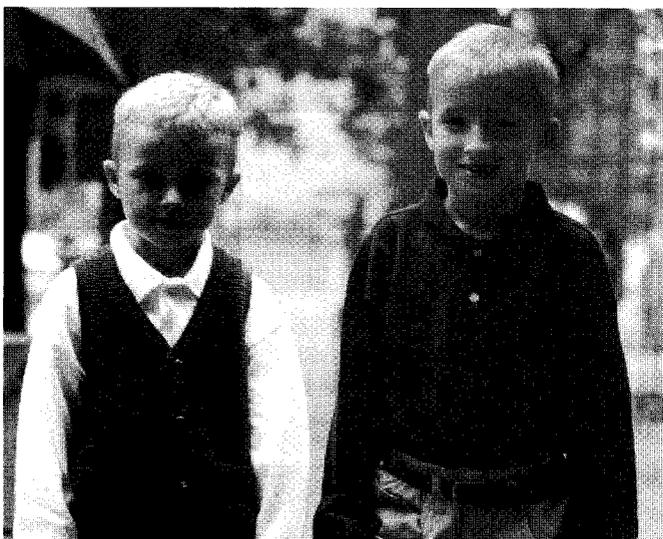
わたしは救い主が生きておられることをあかしします。救い主はみなさんを愛しておられます。わたしはみなさんが常に正しいことを選択するならば、主が聖霊を通して将来、夢にも思わなかったかがやかしい栄光に向かってみなさんを導いてくださることを知っています。

十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング

『モルモン書』が真実であることを知るには、実際に読んで、モロナイのすすめに従い、真実かどうかの必要があります。それを行ってれば、自分の経験からあかしを述べられるので、友達もその選択をして同じ真理を知ることができるでしょう。

七十人 ロナルド・T・ハルバーソン

世界中で真理を探究している人々は喜びと心の平安を探し求めています。それは福音を理解しそれに従って生活する人にしか得られないものです。



**管理監督 H・デビッド・バートン**

多くの人びとは、「安息日」と「休日」を同じ意味の言葉と感じるようになってきています。……しかし、安息日をきよく過ごすのは、わたしたちがみたまのささやきを感じられるように備えるための最も大切ないましめの一つであることも、わたしは知っています。

**中央扶助協会第一副会長 バージニア・U・ジェンセン**

わたしたちは世の聲に耳をかたむけると道を誤ります。しかし、生ける預言者を通して語ら

れる主の御声に耳をかたむけ、その勧告に従えば、決して道を誤ることはないのです。

**中央初等協会第二副会長 スーザン・L・ワーナー**

天の御父は、わたしたちが御父について知り、御父の愛を感じられるように、御自身と御子イエス・キリストをあかしするすばらしい創造物で地を満たすよう計画されました。みなさんは救い主をあかしするものをすべて数え上げたことがあるでしょうか。夕焼け、貝がら、ライラックの花、湖、昆虫、動物、不思議な朝の光景や星がきらめく夜空など、数多くあります。

## 七十人定員会内の移動

**総**大会において、新しい七十人会  
長が会員の支持を受けた。D・  
トッド・クリストファーソン長老、マ  
ーリン・K・ジェンセン長老、デビッド  
・E・ソレンセン長老の3人である。  
同じく大会でモンティ・J・ブラフ長老  
が七十人会長会から解任され、現在ジョ  
ージア州アトランタにおいて北アメ  
リカ南東地域会長会会長の任に就いて  
いる。W・ユージン・ハンセン長老と  
ジャック・H・ゴーズリンド長老は名  
誉幹部の称号を受け、七十人会長会か  
ら解任された。L・アルディン・ポー  
ター長老、ジョー・J・クリステンセン  
長老、ハロルド・G・ヒラム長老、ア  
ール・C・ティンギー長老は、七十人  
会長会の責任を継続して務める。

大会中、ハンセン長老、ゴーズリン  
ド長老と同様、ロナルド・E・ポール  
マン長老とジェームズ・M・パラモア  
長老も名誉幹部の称号を受けた。パラ  
モア長老は1977年七十人第一定員会に  
召され、1987年から1993年の間七十人  
会長会で奉仕した。ゴーズリンド長老  
は1978年に七十人第一定員会に召され、  
最近では七十人会長会、また中央若い  
男性会長として働いた。ポールマン長  
老は1978年に七十人第一定員会に召さ  
れ、これまで2度にわたって中央日曜学  
校会長会で責任を果たした。ハンセン  
長老は1989年七十人第一定員会に召さ  
れ、最近では七十人会長会で奉仕した。

大会では、新しい中央日曜学校会長  
会も支持の挙手を受けた。中央日曜学

校会長ハロルド・G・ヒラム長老は引  
き続きその任に当たり、これまで第二  
副会長であったニール・L・アンダー  
セン長老が第一副会長として、ジョン・  
H・グローバーク長老が新たに第二副  
会長として支持された。これまで第一  
副会長として働いていたグレン・L・  
ペイス長老は、現在アフリカ西地域会  
長会で奉仕している。

中央若い男性会長のジャック・H・  
ゴーズリンド長老の解任に当たり、こ  
れまで第一副会長であったロバート・  
K・デレンバック長老が中央若い男性  
会長に召された。これまで第二副会長  
であったF・メルビン・ハモンド長老  
は第一副会長に、ジョン・M・マドセン  
長老が新たに第二副会長に召された。□

## 国際機関誌のタイトル、『聖徒の道』から『リアホナ』に

**お**気づきのように、『聖徒の道』は  
『リアホナ』という新しいタイトル  
になった。

『モルモン書』の読者なら、『リアホナ』  
という言葉はなじみ深いことだろう。  
—アルマは息子ヒラマンにこう語っ  
ている。「リアホナ……は、羅針盤という  
意味である。主が用意してくださった  
のである。……それは、先祖に荒れ野の  
中で旅をする進路を教えるために用意  
されたものであった。」(アルマ37:38-39)

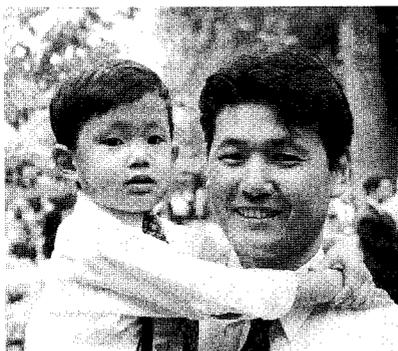
アルマはリアホナを象徴として用い  
ている。「この指示器がその示す道をた

どる先祖を約束の地に導いたように、  
確かにキリストの御言葉は、わたした  
ちがキリストの御言葉の示す道をたど  
るならば、この悲しみの谷を越えては  
るかに良い約束の地へわたしたちを導  
き入れてくれるのである。」(45節)

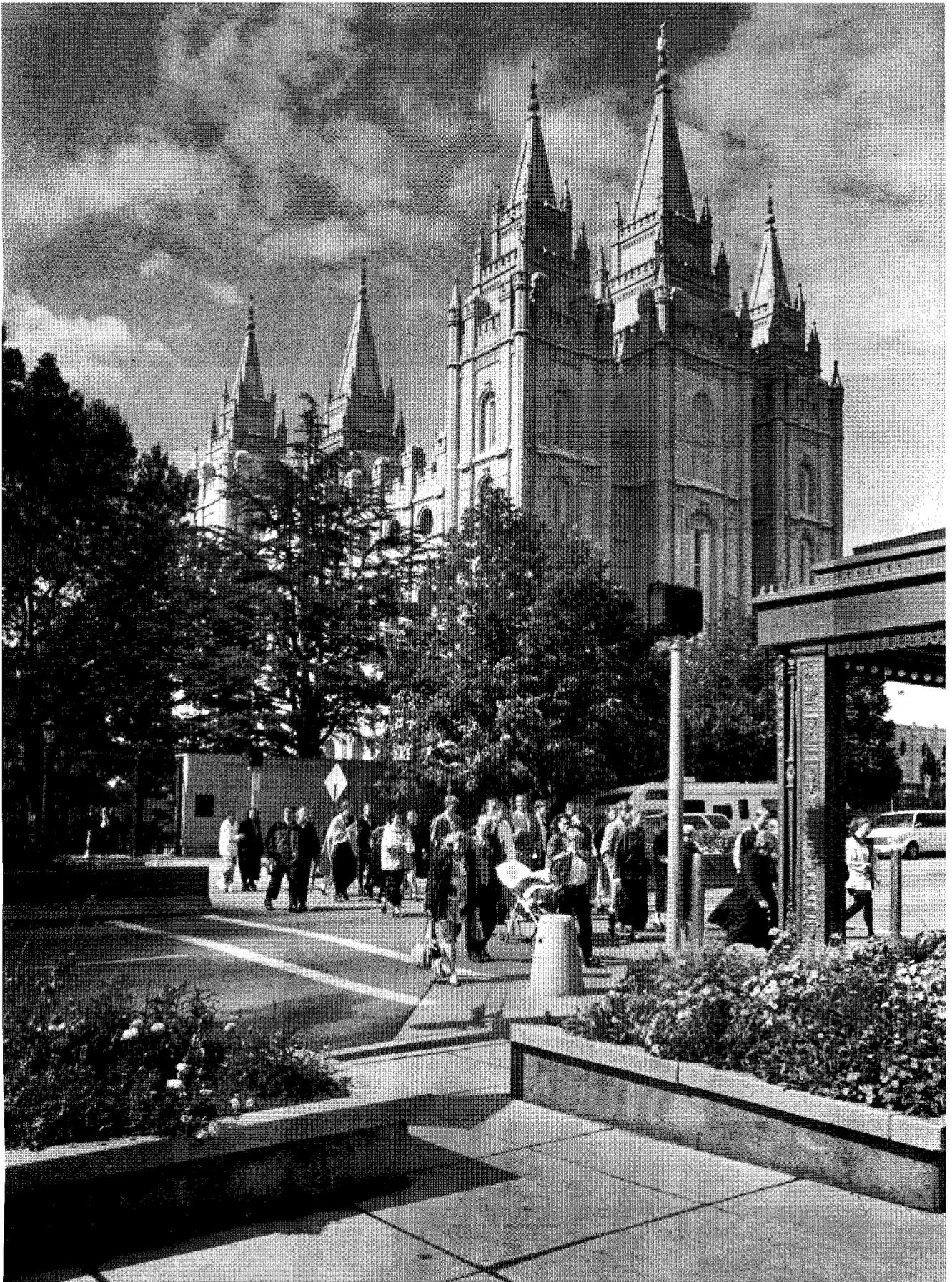
キリストの言葉、永遠の命に至る道を  
示す羅針盤。これらのイメージを念頭  
に置いて、神権指導者たちは、生ける  
預言者を通して与えられる生けるキリ  
ストの言葉を掲載する本機関誌のタイ  
トルとして『リアホナ』が適切である、  
と考えた。

七十人のヤコブ・ディヤガー長老はか  
つて、リアホナが象徴していることを用  
いて、わたしたちに教会機関誌を読む  
よう勧めている。

「わたしがリアホナによって人生を見  
いだしたように、皆さんは教会機関誌  
からこの時満ちる神権時代における主  
の方法について読むことができます。  
そうするならば、皆さんやわたしたち  
の家族はさらに良い家族になるでしょ  
う。」(in Conference Report, April  
1976, 61) □



大会部会后、テンプルスクウェアの東門から退場する大会出席者たち。背景はソルトレーク神殿。



# 専任宣教師

1998年11月(230期生), 海外2人 ●上から氏名, 任地(伝道地), 出身ユニット



**石井フミヒロ**  
仙台伝道部  
岡崎ステーキ  
豊橋ワード



**大石恵子**  
岡山伝道部  
富山地方部  
呉羽支部



**大須賀寛子**  
岡山伝道部  
岡崎ステーキ  
豊橋ワード



**京谷 慈**  
大阪堺ステーキ  
河内長野ワード



**坂本小恵美**  
東京北伝道部  
大阪ステーキ  
関日ワード



**菅原千穂**  
東京北伝道部  
大阪北ステーキ  
川西第1ワード



**瀬戸口ひとみ**  
名古屋伝道部  
長崎地方部  
諫早支部



**円谷総子**  
福岡伝道部  
高崎ステーキ  
高崎東ワード



**那知武敏**  
福岡伝道部  
町田ステーキ  
藤沢ワード



**糸数ゆうか**  
札幌伝道部  
東京ステーキ  
ひばりヶ丘ワード



**佐田隆一**  
ハワイ・ホノルル伝道部  
札幌西ステーキ  
琴似ワード



**高橋こずえ**  
ソルトレーク・シティー  
デンブルスクウェア伝道部  
秋田地方部・酒田支部

## ユニットの変更

- 1998年9月13日付けで、大阪ステーキ阿倍野ワードから、平野ワード(新設)が分割されました。
- 1998年9月13日付けで、旧仙台ステーキ古川支部が泉ワードに合併されました。
- 1998年9月20日付けで、札幌ステーキと札幌西ステーキ、釧路地方部の境界が変更され、新たに旭川ステーキが組織されました。
- 日本旭川ステーキ：旭川第1ワード、旭川第2ワード、札幌東ワード、新琴似ワード、篠路ワード(旧篠路支部)、岩見沢支部、滝川支部、士別支部、稚内支部
- 日本札幌ステーキ：厚別ワード、豊平ワード、白石ワード、帯広ワード(旧帯広支部)、江別ワード(旧江別支部)、千歳恵庭支部、苫小牧支部、浦河支部

■1998年10月4日付けで、東京ステーキ内の境界が変更され、新たに狭山ワードと杉並ワードが組織されました。

■1998年11月1日付けで、仙台ステーキの旧塩釜支部が多賀城ワードとなりました。

■1998年11月8日付けで、福岡ステーキの旧久留米支部が久留米ワードとなりました。

■1998年11月8日付けで、名古屋ステーキと名古屋西ステーキの境界が変更され、新たに岡崎ステーキが組織されました。

- 日本岡崎ステーキ：豊橋ワード、刈谷ワード、岡崎第1ワード(旧岡崎ワード)、岡崎第2ワード(新設)、豊田ワード(旧豊田支部)、野並支部
- 日本名古屋ステーキ：高畑ワード、名東第1ワード(旧名東北ワード)、名東第2ワード(旧名東南ワード)、御器所ワード、春日井ワード(旧春日井支部)、瀬戸支部、中津川支部
- 日本名古屋西ステーキ：福德ワード、一宮ワード、岐阜ワード、犬山ワード(旧犬山支部)、大垣支部

■1998年11月29日付けで、神戸伝道部御坊地方部の田辺支部から、新宮支部(新設)が分割されました。

## 役員の変動

1998年11月6日から12月1日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 御坊地方部御坊支部  
支部長：木下文夫
- 御坊地方部新宮支部  
支部長：榎本雅友
- 東京南ステーキ東京第1ワード  
監督：BUTLER, Kenneth R
- 大阪ステーキ東大阪ワード  
監督：餅田隆男
- 仙台ステーキ多賀城ワード  
監督：川村真市
- 東京東ステーキ木更津支部  
支部長：多喜 誠
- 日本岡崎ステーキ  
ステーキ会長：塚原俊英  
第一副会長：小宮泰夫  
第二副会長：河内 守
- 岡崎ステーキ岡崎第2ワード  
監督：岡田隆二
- 日本名古屋ステーキ  
ステーキ会長：伊藤博康  
第一副会長：日坂 忍  
第二副会長：鏡 秋雄
- 名古屋ステーキ豊田ワード  
監督：松本響一郎
- 名古屋ステーキ春日井ワード  
監督：加藤 元
- 日本名古屋西ステーキ  
ステーキ会長：後藤康夫  
第一副会長：堀口朋彦  
第二副会長：松井利幸
- 名古屋西ステーキ犬山ワード  
監督：津田清春
- 広島ステーキ高須ワード  
監督：神田智晴
- 福岡ステーキ久留米ワード  
監督：新原一男
- 日本熊本ステーキ  
ステーキ会長：田代浩三  
第一副会長：友松悦郎  
第二副会長：ROGERS, Jerald J. Jr

## 皆さんの原稿を募集しています

◎あて先：〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『リアホナ』編集室  
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275